

東松山市の生き物

散歩道で出会える動植物



東松山市教育委員会

刊行によせて

埼玉県東松山市は、関東山地と関東平野の間に位置し、丘陵、台地、沖積地と地形変化に富む自然豊かな地域です。そこに住む多様な生き物たちは、私たちの住む地域にとってかけがえのないものであり、次世代へと伝えていかなければならない貴重なものです。しかし、近年では市内の開発も進み、環境も大きく変化してきました。

一方で、これまで自然の生き物に関して、まとまった当市の調査などの記録はほとんどなく、基礎資料となるものはありませんでした。

そこで、東松山市教育委員会では、内田博文化財保護委員のご協力を賜り、16年にわたる動植物実態調査を実施いたしました。本書はその成果報告となります。調査結果において、外来種の侵入も加わって、以前にはどこにでもいた生き物たちが見られなくなっている状況もわかってきました。

本書に詳述されている野生生物たちは、緑と清流をかかげる東松山市にとって、貴重な財産です。本書が、東松山市の自然を見つめ直す契機となり、今に残る自然への興味・関心を抱くひとつのきっかけとなりましたら幸いです。

ご協力いただいた方々、ご指導・ご支援をいただきました関係者の皆様に対しまして、厚く御礼申し上げます。

令和2年3月

東松山市教育委員会
教育長 中村 幸一

目次

1) はじめに	1
2) 調査方法	2
3) 各調査地の調査ルート図	3
4) 各調査地の環境と結果概要	4
調査1 巡目の調査状況	
大谷瓦窯跡調査地（2003年）	4
比丘尼山調査地（2004年）	5
東松山市民の森調査地（2005年）	9
都幾川・神戸大橋～鞍掛橋間調査地（2006年）	11
都幾川・唐子橋～東松山橋間調査地（2007年）	14
市野川・市松橋～境橋間調査地（2008年）	16
滑川・野田、中橋～東平、松平橋調査地（2009年）	18
高坂地区宮鼻調査地（2010年）	20
調査2 巡目の変化状況	
大谷瓦窯跡調査地（2011年）	21
比丘尼山調査地（2012年）	23
東松山市民の森調査地（2013年）	24
都幾川・神戸大橋～鞍掛橋間調査地（2014年）	26
都幾川・唐子橋～東松山橋間調査地（2015年）	28
市野川・市松橋～境橋間調査地（2016年）	29
滑川・野田、中橋～東平、松平橋調査地（2017年）	30
高坂地区宮鼻調査地（2018年）	31
5) 調査地全体での代表的な種の図と説明	32
鳥類・・代表種説明＋センサス結果の分析概要	35
哺乳類・・代表種説明	52
爬虫類・・代表種説明	55
両生類・・代表種説明	59
魚類・・代表種説明＋過去のデータとの比較	64
昆虫類・・代表種説明	73

クモ類・・代表種説明 155

ザトウムシ類・・代表種説明 169

甲殻類・・代表種説明 170

多足類・・代表種説明 172

軟体動物（陸生および淡水産貝類）・代表種説明 174

植物・・概要・代表種説明+過去の調査結果との比較検討... 179

菌類・・概要・代表種説明 244

6) 資料

生物調査全体確認種..... 256

(年ごとの類・科・種確認数リスト)

調査地別出現種リスト..... 260

(各調査地・年度における各生物の出現状況)

各調査地の鳥類センサス..... 332

(各調査地・年度における鳥類の出現数状況)

7) 参考文献 374

謝辞

本報告をまとめるにあたって、柳沢裕（植物）・村田紀彦（菌類）・沖浩志（両生・爬虫・哺乳類）・大沼 尚（昆虫類全般）・奥田恭介（半翅目）・伊賀雄一（水生昆虫類）・川村 敦・島村あかね（魚類）・菊池亮（植物）の各氏には種同定などのアドバイスを頂いた。この場を借りて感謝いたします。

はじめに

近年、国や県では動植物について調査を行い、どのような種が生息し、どのような種が絶滅の危機にあるのかの評価を行い、レッドデータとして公表している。また、東松山市近隣の町村でも動植物の生息状況に関する調査も行われ、詳しいデータも公表されている。過去の市史編纂の際に行われたまとめでは、市内の自然に関する記述は植物しかなく、市内の生息する動物種については記録が無い。近年は市内の環境変化が進み生息動植物の変化も大きいと考えられる。しかし、市内の動植物に関しては未調査、未記載であるため、どのような変化があるのかも分からず、現在の状況も判ってはいない。地表面に生息する動植物は環境の変化に敏感に反応する。数多く普通に生息していた種でも、気づかない内にいつの間にか居なくなっている。しかも、記録がされていないものは比較することさえも不可能である。自然環境の良し悪しを知るには生物種の多様性が物差しになることもある。また、特定の環境にはその環境に適応してきた生物種がいる。そのような事を知るには精密な調査をする以外にはない。

東松山市教育委員会では、動植物の現在の生息状況をつかむための調査を、市内に8ヶ所の調査地を設定して、年に1ヶ所、月1回の調査を行った。調査は2003年から2010年までに第1回目の調査を行い、1回目で行った同じ場所、同じルートで2011年から2018年まで第2回目（2巡目）の調査を行った。

この調査では回数も時間も限られ、不完全な結果しか得ることができなかったと思えるが、東松山市の自然環境の現状を知ることでは意味のある調査であると考えている。できれば、このような調査が各生物の専門家方々の協力を得られ、さらに綿密に行えるような環境が整えられる事を望むものである。

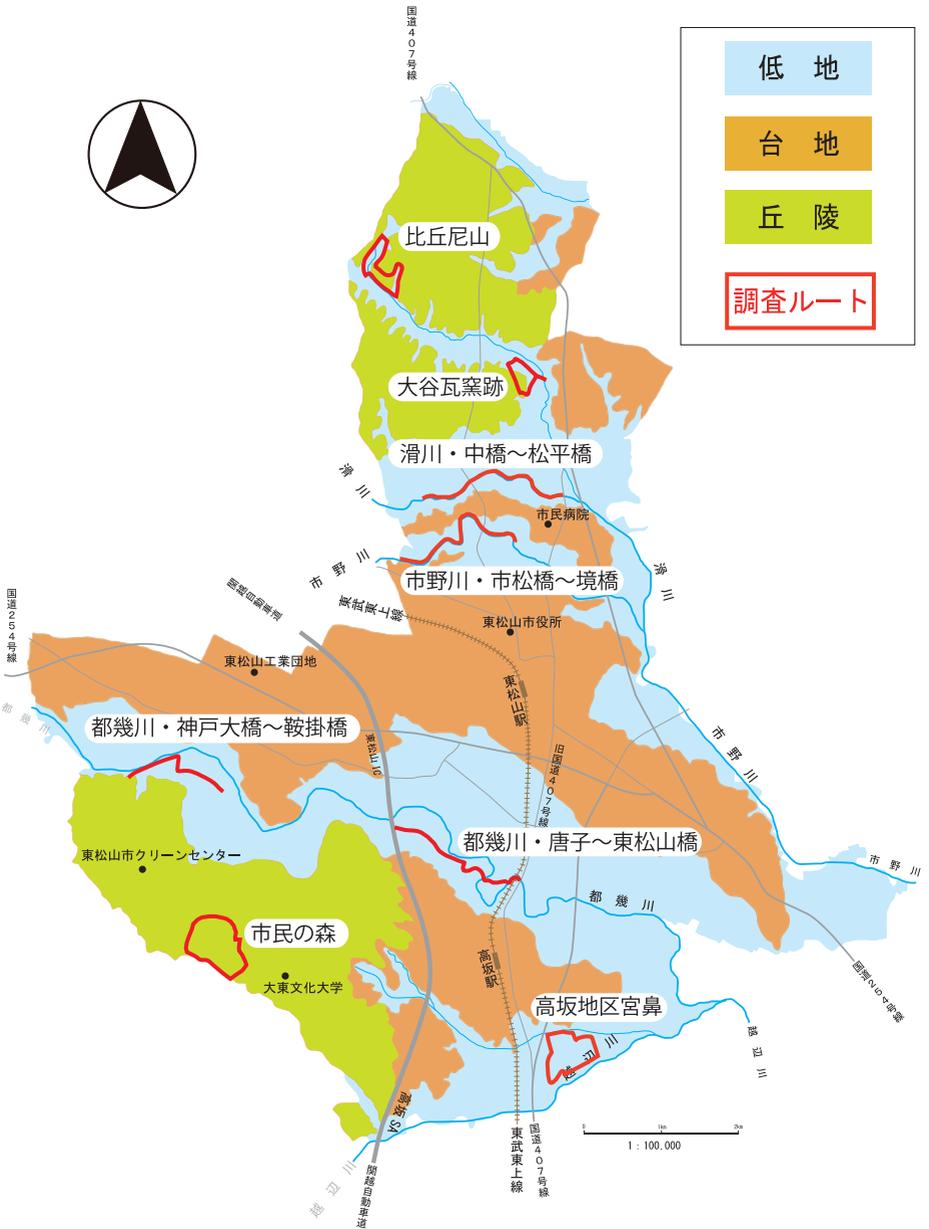
なお、最近の生物種の分類は、分子系統学が進歩し遺伝子解析によって、新しい分類に変わったものが数多くある。この調査の種の同定も鳥類や昆虫類の中のいくつかのものは新分類に従ったが、多くのものが旧分類に従っている。そのため種名は混乱があるが、巻末に参考文献の一覧をつけるので、ご推察いただきたい。

調査方法

調査は 2003 年には大谷地区の大谷瓦窯跡周辺（調査路 1400 m）、2004 年大谷地区の比丘尼山周辺（調査路 2040 m）、2005 年岩殿地区の市民の森周辺（調査路 2500 m）、2006 年唐子地区の都幾川の神戸大橋から鞍掛橋までの区間（調査路 1750 m）、2007 年高坂地区に隣接する都幾川の唐子橋から東松山橋の区間（調査路 1920 m）、2008 年市ノ川地区の市野川の境橋から市松橋までの区間（調査路 2150 m）、2009 年野田地区の滑川の野田中橋から松平橋までの区間（調査路 2150 m）、2010 年高坂地区の宮鼻の越辺川の左岸周辺農耕地（調査路 2350 m）を調査地を選び、4 月から翌年の 3 月に月に 1 回（場合により魚類調査などで 1 回を追加した）生物の現況の把握をするために調査を行った。各調査地では、鳥類のロードサイドセンサス（道路上を一定の速度で歩き、コースの両側 50m 以内に出現する鳥類を全て記録する定量的調査方法）と、その間に出現する昆虫類、クモ類、爬虫類、魚類、哺乳類、植物など生物全般を網羅するように調査し記録した。動物種および植物、菌類などは種同定のみの定性調査を行った。確認方法は、魚類や昆虫類は網（捕中網、すくい網など）による採集、写真による記録あるいはその場で同定を行い記録した。その場で同定ができなかったものは写真、あるいは一部は標本にして持ち帰り、同定を行った。鞘翅目昆虫にたいしては 2004 年から 2006 年の 3 年間はベイトトラップ（腐肉採集法）を行った。しかしトラップの半数以上を哺乳類に捕食されてしまい、調査の結果が出ないため、2007 年以降は行わなかった。このような調査方法の性格上、道端の攪乱されている環境の生物が出現することが多く、市内に生息するであろう全生物種を網羅して把握することはできず、結果はかなり偏ったものになっていると考えられる。

また 1 回目の調査を行った場所は、2011 年から同じ場所、同じ順で 8 年後に 2 回目の調査を、同じ調査路、行程で行った。調査は内田 1 名だけで行い、種同定も内田が専門家の助言を受けながら行ったが、少なからず誤同定も含まれている可能性もあり、自信のもてない同定種には（?）を種名の後に付けた。また、写真での同定の困難な種などは sp 種にするか、科 sp、あるいは属 sp とした。sp は Species の略称で、～科の一種、～属であることを示す。そのため科 sp などには数種の同定困難種が含まれている。

各調査地の調査ルート図



各調査地の環境と結果概要

調査1 巡目の調査状況

大谷瓦窯跡調査地（2003年）

大谷地区の大谷瓦窯跡は低い丘陵地にあり、国の文化財に指定されている。周囲には水田、畑、人家が散在する。史跡内の山林は落葉広葉樹、スギ、ヒノキの小規模な植林地、南西部には畑と人家がある。山林内の林床は一部が草刈されて管理されているが、他の部分はアズマネザサが優占するブッシュ状になっている。周辺の水田は水管理がされていて、冬期は乾田になっているが、夏期は水稲が栽培されている。また水田の周囲の水路は素掘りであるが、道路に面している場所では両面がコンクリート護岸になっている。また、北側に流れる角川は川岸の両面がコンクリート護岸になっている。調査路は瓦窯跡の周囲 1400 m の道路の周辺で行った。

ここでの 2003 年 4 月から 2004 年 3 月の調査では哺乳類 1 科 1 種、鳥類 28 科 44 種、両棲類 3 科 3 種、爬虫類 1 科 2 種、水生・陸生貝類 3 科 4 種、甲殻類 2 科 2 種、魚類 3 科 4 種、昆虫類は鱗翅目 12 科 39 種（蝶類 5 科 28 種、蛾類 7 科 11 種）、膜翅目 6 科 10 種、半翅目 5 科 13 種、鞘翅目 11 科 22 種、双翅目 7 科 14 種、シリアゲムシ目 1 科 1 種、直翅目 5 科 13 種、網翅目 1 科 1 種、トンボ目 3 科 9 種、クモ類 7 科 19 種、ザトウムシ類 1 科 1 種、植物 36 科 76 種、菌類 10 科 24 種を確認した。

大谷瓦窯跡では鳥類の生息密度は冬に高く、8～9月にかけて薄くなる。また、見られる種も一年を通し見られる留鳥がほとんどで、冬鳥は数種が渡来しているが、夏鳥はツバメのみであった。両生類は史跡の周囲は水田が広がりカエル類が多数生息する環境であるにもかかわらず、確認できた種はアマガエル、シュレーケルアオガエル、ウシガエルの3種と少なく、個体数も少なかった。また関東地方での水田の代表種であるトウキョウダルマガエルは確認できなかった。貝類は3科4種を確認した。この内1科2種は陸生の貝類で、2科



大谷瓦窯跡のある山林

2種が水生の貝類である。全ての種が巻貝類で、水路内に生息していた水生の巻貝であるヒメタニシは個体数も多かった。数十年前には水田内に普通に見られたマルタニシは確認できなかった。魚類は3科4種を確認した。ギンブナ、モツゴ、ヨシノボリ属 sp の3種は水路の水量が多くなる夏季に下流の川から遡上してきた。ドジョウは水路内に広く見られ、冬期にも見られた。爬虫類はアオダイショウとヤマカガシを目撃したが、個体数は少なかった。多分、単に遭遇しなかっただけであろうが、調査中に不思議に感じたのは普通種であるカナヘビがまったく確認できなかったことである。哺乳類はモグラ sp (アズマモグラと思われるが、塚の確認だけである) だけの記録である。哺乳類は夜行性の種がほとんどで、調査域内にも確認できなかった種はネズミ類を含め多く生息すると思える。小型哺乳類の確認は罠などを使用しなければならず、今回のような目視を主にする調査では確認漏れになる種が多いであろう。バイトトラップを行ったときに、トラップの餌の肉が半数の場所で食べられてしまった。タヌキが採食したと思われたが、確認はできなかった。

昆虫類では、鱗翅目の蝶類は5科28種を確認したが、蛾類は7科11種だけであった。調査は日中に行われているので、昼行性である蝶類は多く確認できたが、夜行性の蛾類は確認できたものは少数だった。他の昆虫は、膜翅目、半翅目、鞘翅目、双翅目、シリアゲムシ目、直翅目、膜翅目、トンボ目など多くの種を確認した。ただ今年は天候が不順で、昆虫類は多く発生する5～9月までの間に気温が上がらない日が多かった。特に7～8月にかけては稲の生育に影響がたほど雨や曇りの日が多く、昆虫類の確認には不向きな天候であった。調査日は天候が良い日を選び行ったが、昆虫類の個体数は少なかった。クモ類は7科19種を確認した。ただし、数多くの種の確認漏れがある。その他の節足動物類は身体は5mmほどと小さいが、各脚は5cmと長いモエギザトウムシ1種を確認した。

植物は樹木、草本類の52科125種を確認した。植物は他にも多数生息している種もあるが、全ての種を網羅するような調査は行わなかった。菌類はハラタケ類、腹菌類、ヒダナシタケ類、変形菌類を含め、10科24種を確認した。ただ菌類の分類は難しく、確認種以外にも同定できなかった種も沢山ある。今回の大谷瓦窯跡周辺の調査では、以上のような種の確認ができたが、調査地で生息する種全てが記録できたわけではない。

比丘尼山調査地（2004年）

比丘尼山は標高約70mで、比企丘陵の一端に位置する。北側はゴルフ場が隣接しているが、南側あるいは西、東には山を取り巻くように谷戸地形が残されている。谷戸の奥には溜池があり、そこからは素掘りの水路が水田を挟むように伸びていた。また、この水路の水は冬期にも枯れることは無かった。南側には県道が通り、交通量もある。

比丘尼山自体はクヌギやコナラが主になる落葉広葉樹林で、林床にはアズマネザサが優占していて、繁茂しブッシュ状になっている。文化財である横穴群を見るためには、ブッシュ内に立ち入らねばならず物理的に制限されている。また、山林の周囲には舗装された歩道が整備されて、散歩に訪れてくる人もある。調査は比丘尼山の西の農耕地から、比丘尼山を取り巻く遊歩道に沿って東へ向い、一巡する2040mの調査路を設定して行った。

2004年4月から2005年3月までの調査では哺乳類2科2種、鳥類24科43種、両棲類3科5種、爬虫類2科2種、水生・陸生貝類6科8種、甲殻類3科3種、魚類4科9種、昆虫類は鱗翅目12科31種（蝶類5科24種、蛾類7科7種）、膜翅目5科7種、半翅目10科16種、鞘翅目17科51種、双翅目5科4種、直翅目7科17種、網翅目1科2種、トンボ目5科14種、脈翅目1科1種、クモ類6科9種、植物55科145種、菌類7科8種、環形動物1科1種を確認した。鳥類は中で注目すべきものは、ワシタカ類のサシバの繁殖を確認したことである。この種は夏鳥として4月初旬に渡来し、谷戸のある丘陵に多く生息し、ヘビやカエル・ネズミなどの生物種を主に捕食する。近年、埼玉県では激減していて、全国的にも減少の傾向にある種である。サシバの繁殖は、5月に比丘尼山林内のアカマツに営巣し、抱卵を確認したが、その後、繁殖は失敗し、以降のサシバの生息確認はできなくなってしまった。他の鳥類は、比丘尼山の環境に適した種が



中央部にある比丘尼山案内板



秋の比丘尼山（左側山林）

生息し、アズマネザサのブッシュを繁殖場所にできるウグイスや最近の移入種であるガビチョウが多かった。また、ウグイスに托卵を行うホトトギスも繁殖期である6月には出現した。また、水田や水路などにサギ類が飛来していることも多く見られた。

両生類の確認種はシュレーケルアオガエル、ニホンアカガエル、ウシガエル、トウキョウダルマガエル、アマガエルの5種である。現在カエル類は環境の変化の影響を多大に受けていて、埼玉県ではこの2種、ニホンアカガエル、トウキョウダルマガエルは準絶滅危惧種となっている。上記の2種は水田の水路が整備されてコンクリート水路に変わると、両種には手足に吸盤が無いいため、コンクリート水路に落ちると、上がれず、下流に流されてしまう。そのため水田での繁殖ができなくなり、数年のうちには絶滅してしまう。東松山市あるいは周辺町村の水田も耕地整理が行われ、水路がコンクリート化されている。さらに水管理が行われるので、冬期には水田が乾き、カエル類の生存には劣悪な環境になっている。比丘尼山をとりまく水田には少数であるが、いまだにこの両種が生息していることは、比丘尼山周辺の環境の良好な自然度を示しているといえる。甲殻類はアメリカザリガニ、スジエビ、ホウネンエビの3種を記録した。前2種は水路中に生息し、ホウネンエビは水田に夏季に一時的に出現した。貝類は6科9種を確認した。そのうち4科5種が水生であり、2科4種が陸棲の貝類である。陸棲の貝類については全種とも普通種である。魚類は季節的な変化があり、一年を通してはメダカ、ドジョウ、タイリクバラタナゴ、トウヨシノボリが見られ、水量の多くなる夏にはコイ、ギンブナ、ヌマムツ、タモロコ、モツゴが確認できた。水路は一年を通し、水が枯れることは無い。個体数は季節によって変化し、冬期は少なく、夏期から秋期にかけて最大になる。生息した魚種のうち、メダカは環境省の指定した絶滅危惧種であり、他の種も最近では激減しているものがほとんどである。魚類は水路や河川、溜池などの整備で多大な影響を受ける。さらに現在では、外来の移入されたオオクチバスやブルーギルによって食害され、在来種は激減している。また、在来種や生態系の保護を目的にオオクチバスやブルーギルの放流などに環境省が禁止の答申を出したことが話題になっている。タイリクバラタナゴは昔からの移入種であるが、最近では激減している。この種はドブガイやイシガイなど二枚貝に産卵をする習性を持ち、共生している。水路では二枚貝はマジミしか確認できず、どのような貝に産卵しているのか不明であった。哺乳類は2種の確認で、イタチとモグラ科spである。モグラ科spは畑に塚があったが、姿

は見えていない。種はアズマモグラと思われる。たぶん、中型の哺乳類、たとえばタヌキやキツネなど、あるいは小型のネズミ類などが生息している可能性があるが、哺乳類は夜行性のものが多く、目撃はできなかった。

昆虫類の鱗翅目(蝶類)は5科24種で、いずれも普通種であるが、最近丘陵地などで減少が指摘されている、ミヤマセセリやジャノメチョウなども出現した。鱗翅目(蛾類)では7科7種を確認したにすぎない。微小な蛾類は初めから確認対象にはしていないことと、夜間の調査、あるいは蛾類に適した調査を実施していないのでの確認種は異常に少なくなっている。トンボ目も5科14種を目撃し、その大部分が普通種であるが、比丘尼山西側の谷戸奥の溜池ではチョウトンボを確認した。個体数は4頭程度の少数であった。他にも、イトトンボ類の2種、東側谷戸奥ではショウジョウトンボを確認した。これらの種は最近減少の著しいものである。直翅目は環境の多様度があり、キリギリス科やバッタ科の種は多く確認できた。夜間の調査は行っていないので、記録洩れになる種も多いと思えるが、以前には市内に普通に生息していたウマオイやクツワムシなどの確認はできなかった。また、この目の小型の種、特にコオロギ類については捕獲できず、鳴き声からの種同定ができなかったため、確認もれになった種が多いと思われる。半翅目の陸棲の代表的なものはセミ類やカメムシ類で、水棲の代表的なものはアメンボ類やタイコウチなどである。陸棲の種、特にセミ類についてはなじみがあり、個体数もある程度確認できた。ただし、確認洩れになっている種もある。水棲の種では、アメンボを除いて減少の言われている種が多く、ここでもタイコウチ1頭を確認したにすぎない。鞘翅目は科数や種数も多く、カブトムシや、クワガタムシ、テントウムシなどなじみのある昆虫を含む目である。確認種数も多かったが、捕獲や同定できずに確認洩れになっている種も多くある。オサムシ類については9月に腐肉採集法で1回だけ採集を行った。この調査では、普段は見られないミイデラゴミムシ(へっぴり虫として知られる)が多く採集できた。

植物は53科143種を記録した。ただし、記録洩れになった種も多くあると思える。高木の優占種はクヌギであり、他にはコナラ、エゴ、スギ、アカマツなどが見られ、大きなポプラが1本だけあった。林床はアズマネザサが優占した。アズマネザサはブッシュ状になり山林への立ち入りができないほどであった。一部にはクマザサの優占する場所もあった。比丘尼山を取り巻く谷戸は水田として耕作されていて、イネが栽培されていた。また、谷戸奥には溜池があり、溜池内にはアシやガマの類も見られた。

調査結果でも魚類や貝類などの水棲生物相が豊富で、陸棲の昆虫類なども種類が多い。鳥類では、タカ類のサシバが繁殖している。カエルやヘビなどを捕食するタカで、優良な自然環境が残っていないと生息できない種で、里山での食物連鎖の頂点に立つ種といわれている。この鳥がいるということはその場所が優良な自然環境を保っていると考えても良い。比丘尼山自体はコナラ、クヌギを主にする落葉樹とスギ、アカマツなどの混じる針広混交林である。林床にはアズマネザサがブッシュ状となって優占している。そのため里山で普通に見られるような植物相は貧弱であった。しかも、谷津田の奥にはゴルフ場があって、手放しで環境が良いとは言えないが、水田脇にある水路は自然堀で、冬期にも水が残り、水路の奥には溜池がある典型的な埼玉の里山景観を示している。このような水路には、魚類では多数のメダカが生息し、タイリクバラタナゴ、またニホンアカガエルやトウキョウダルマガエルも少数の個体が生息している。また谷津奥の溜池では少数のチョウトンボが確認でき、イトトンボ類も生息している。このように比丘尼山周辺の生物相は豊富で、東松山市の中でも優良な自然環境が残っていると云えるだろう。

東松山市市民の森調査地（2005年）

市民の森の環境の特徴は、急傾斜の斜面を持つ丘陵地で、マツ類を主にした植生が成熟しつつある森林のように見える。森林内は下草が刈られ、林内に歩道が整備され、見通しのよい状態になっている。森の北側には入り込むような谷戸があり、放置された耕地もあるが、現在も水田や畑として耕作されている部分が多い。また、谷戸の奥には小さな溜池がある。森を構成する樹種は、針葉樹と落葉広葉樹であるが、針葉樹はアカマツと共に、北アメリカ産のテーダマツが優占している。この移入種のマツは、以前この地が国有林であった名残りである。この移入種のマツは松枯れ病に強く、周辺のアカマツが大被害を受け、大部分が枯れ死しているのにもかかわらず、多くの木が健全である。この他、落葉広葉樹の多くの種が見られるが、優占種はコナラである。林床はアズマネザサが優占するが、手入れが行われているので矮小化している。このため、市民の森の林層構造は高木と林床の草本とで構成される人手の入っている二次林であり、このような環境での生息する植生や動物種に特有な特徴が見られる。

2005年4月から2006年3月の調査で哺乳類2科2種、鳥類20科40種、両棲類5科6種、爬虫類3科5種、水生・陸生貝類2科2種、甲殻類2科2種、

魚類 4 科 4 種、昆虫類は鱗翅目（蝶類） 5 科 23 種、鱗翅目（蛾類） 5 科 8 種、膜翅目 4 科 6 種、半翅目 9 科 14 種、鞘翅目 8 科 24 種、双翅目 3 科 5 種、直翅目 6 科 17 種、網翅目 1 科 3 種、トンボ目 4 科 10 種、シリアゲムシ目 1 科 2 種、ナナフシ目 1 科 1 種、トビケラ目 1 科 1 種、環形動物 1 科 1 種、クモ類 7 科 9 種、植物 52 科 131 種、菌類 14 科 43 種を確認した。

市民の森の代表的な植物は移入種のテーダマツが高木の優占種になっていることである。また、最近枯れて少なくなったアカマツも残っている。林床にはウマノスズクサ科のタマノカンアオイが数多く見られている。鳥類では国の特殊鳥類に指定されているオオタカの繁殖が確認でき、また丘陵下の溜池ではオシドリが見られた。林内では森林性のイカル、キツツキ類、シジュウカラ類、ヒタキ類などの種が多く記録できたが、個体数は少なかった。全国的に減少しているサシバは、10 年前まで生息していたが、今回の調査では見られなくなっていた。また、最近の移入種であるガビチョウが年間を通して数カ所で確認された。

両生類は、森の谷戸奥の水路内でトウキョウサンショウウオの繁殖が確認できた。また現在減少中のトウキョウダルマガエルの幼生も水田内に多く確認でき、溜池内ではヒキガエルの幼生を多数確認できた。しかし、丘陵地でよく見られるニホンアカガエルは見られなかった。爬虫類はヤマカガシなど 4 種のナミヘビ科の蛇を確認し、ニホントカゲやカナヘビも比較的多く目撃できた。このヘビ類の個体数は、先の大谷瓦窯跡や比丘尼山での調査の結果より明らかに多かった。

魚類は水路内に小数のメダカが生息していた。ただし以前に調査を行った時には生息を確認できなかったこともあった。その他にはドジョウとヨシノボリだけであった。水路は九十九川の源流部に当たるが、水田より下流は 3 面コンクリートで覆われていた。また、源流部までは落差のある堰が設けられ、魚類の遡上を妨げていた。水路内は土



春の市民の森北側の谷津と山林



林内には落葉樹も多い

砂が積もり、生物の生息が可能になっていたが、種数は少なかった。また、谷津奥の溜池ではオオクチバスが見られた。しかし、溜池は深く十分な調査は行わなかったため、魚類の生息状況調査は不十分である。

昆虫類は蝶類のムラサキシジミ、膜翅目のクマバチ、半翅目のコセアカアメンボなど山地性の種が見られた。セミ類は6種を確認したが、以前は松林に多かったハルゼミがほとんど見られなかった。確認したが1度だけ声らしきものを聞いた程度で、個体数は稀と考えられた。ただし、ハルゼミの出現時期は限られ、天候の影響も多いため時期が適当ではなかった可能性も有る。



テータマツ（左右）とアカマツ（中央）の外観

市民の森では、森林内の管理が行われているので、林内の低木層の発達は妨げられ、ブッシュになるような植生は、市民の森の周辺に見られるだけである。このため、ブッシュ内で生活する動物種は少なく、個体数も少ない。鳥類のセンサスでは、前に調査を行った大谷瓦窯跡 $n/12\text{km}=456.4$ 、種数 44 種、比丘尼山 $n/12\text{km}=309.3$ 、種数 43 種に比べると市民の森 $n/12\text{km}=218.4$ 、種数 40 種であり、個体数は少なく、種数も一番少なかった。また、林内での昆虫を含めた小動物の確認も少ない。その代わりに林内は落ち葉で覆われた地表を残すので、菌類の発生あるいは発見には適していて、大型の菌類（キノコ類）が種数、個体数共に多く見られた。ただし、菌類の発生は発生時期の天候、主に湿度に大きく影響を受けるので、年あるいは発生時期での個体数、あるいは種数の変動が大きいものと予想できる。調査結果の動物種では、単純な森林構成の影響か、出現記録種は少なかった。しかし、林床が管理されていることにより、菌類の発生はよく分かり、見つけることが可能であったが、種数はさほど多くなく、個体数も多いというほどでもなかった。ただし、雨の多い年には菌類の発生が多いので観察を楽しむことができるであろう。

都幾川・神戸大橋～鞍掛橋間調査地（2006年）

東松山市下唐子の神戸大橋から、上唐子の鞍掛橋の上流までの約 1.75 km で調査を行った。調査地の都幾川は水の流れている川幅は広いところで 40 m、狭い場所では 5 m 程度と極端に変化する。水深は最大で 1.2 m 程度で浅く、100～200 m 毎に瀬と淵が現れる。河川敷幅は 100～250 m、河川両岸には中流域特

有の砂礫のある河原が 10～50 m 程度ある所もある。その外側には小規模なクヌギ、コナラを主にする林、畑、桑畑が放置された荒地などがある。林や、荒地の林床にはアズマネザサがブッシュ状になっている場所が多い。河川の砂州上にはツルヨシ、オオイヌタデが群落を造り、その隣接地には最近に移入したオオブタクサやアレチウリなどの外来種が優占している。また、右岸の堤防上にはオオブタクサが繁茂している。河川敷の外側には右岸には神戸の集落と水田を主にした耕地が広がり、左岸には上唐子の集落と河川に沿ったスギや落葉広葉樹を主にした河畔林と、畑地を主にする耕地と、平地林がある。

出現確認種は鳥類 32 科 64 種、両生類 3 科 4 種、甲殻類 3 科 3 種、水生・陸生貝類 4 科 5 種、魚類 4 科 9 種、爬虫類 1 科 1 種、哺乳類 4 科 4 種、昆虫類は 13 目で、鱗翅目 11 科 30 種（蛾類 6 科 7 種・蝶類 5 科 23 種）、膜翅目 7 科 12 種、半翅目 11 科 17 種、鞘翅目 14 科 30 種、シリアゲムシ目 1 科 2 種、ハサミムシ目 1 科 1 種、ゴキブリ亜目 1 科 1 種、双翅目 6 科 11 種、直翅目 6 科 17 種、網翅目 1 科 2 種、トンボ目 5 科 16 種、トビケラ目 3 科 6 種、カゲロウ目 7 科 14 種、カワゲラ目 2 科 3 種、扁形動物ウズムシ類 1 科 1 種、クモ類 8 科 14 種、植物類 43 科 118 種、菌類 3 科 3 種を確認した。

河川内の水生生物は、都幾川の水質が比較的良好なので、魚類、甲殻類、水生昆虫類など比較的多くの種が確認できた。魚類は河川内でオイカワが優占していて、シマドジョウ、ギバチ、カマツカナなどが確認できた。ただし、4月、5月の時期には水がよどみ、水底には水垢が多く、魚類もほとんど見られないような状態であった。その他、甲殻類では移入種のミナミヌマエビ属 sp 種が優占していた。

両生類ではカジカガエルの生息が確認できた。また、水生昆虫類ではハグロトンボ、コオニヤンマ、シロタニガワカゲロウ、チャバネヒゲナガカワトビケラなど

が見られている。ただし、魚類や水生昆虫類については、自分の記憶からであるが、20年くらい前よりは、大幅に個体数は少なくなっている。以前この場所には魚類はウグイやスナヤツメが個体数は少ないがみられた。近年では春にはニゴイの産卵行動なども見られたが、今回の調査ではそれらの種の確認はできなかった。



鞍掛橋周辺の都幾川河川敷の景観、下流から・正面は鞍掛山

鳥類は64種が確認できた。また、河川敷内の砂礫地ではイカルチドリの繁殖を確認している。また、河川敷内のブッシュではウグイスの個体数が多く、ウグイスを宿主とするホトトギスも夏季には多く見られた。また、特定外来種であるガビチョウの個体数も多く、カオグロガビチョウの生息も確認された。川の中流域を代表する種はセグロセキレイ、イカルチドリやカワセミであるが、いずれの種も減少傾向にあるようだった。また、以前にはコサギが見られていたが、現在ではアオサギとダイサギが多く見られるようになっている。今年の冬期にはウソ、ツグミ、カシラダカ、シメなどが多く見られた。特に、カシラダカは近年では比較的多くの個体数が渡来していた。また12～2月までシメの200羽程度の群れが常駐していた。

陸生動物の昆虫類では今までに行ってきた大谷瓦窯跡、比丘尼山、市民の森などより多くの昆虫類が記録できた。出現確認種ではトンボ目はサナエトンボ科の種が見られ、アオハダトンボやハグロトンボなど都幾川の河原でなければ見られない種も多かった。またクモ類も多く見られている。

河川敷内の植物はたえず攪乱を受ける河川環境の特色として、河川に近い場所には、外来種のおオブタクサ、アレチウリ、セリバヒエンソウなどの種が優占種として見られた。また、今回同定が出来なかった外来種も多く見つかった。それに、園芸種や、作物などの種も見られた。また、河川から離れた場所には、放置された耕地の跡などにアズマネザサが優占しブッシュになっている場所も多く、人が踏み込めないほど密に生息していた。調査計画段階では、河川敷内を河川の流れに沿って上流へ調査を行おうと思っていたが、流れの両岸はブッシュ状になっていて、歩行が困難であり、以前には耕地になっていた場所も放置が進み荒れはて、作業道などもブッシュになってしまい踏査ができなくなっていた。

また都幾川の河川敷内では、河川に接した場所では、土砂の堆積が進み、砂礫地が減少し、堆積した土砂上にはヤナギ類が繁り、外来種のおオブタクサなどが繁茂する状況になっている。また、河川敷内の耕地が放棄され、その場所が荒れてアズマネザサの優占するブッシュや、外来種のアレチウリが一面に覆うような状況が出現している。都幾川の以前の状況は河川中流域の礫のある河原が特徴であったが、現在はこのような状況なので、河川敷内の自然環境が良好とは言えないと思えた。しかしながら、調査で確認した動物種は、他の場所より豊富であり、多様性に富んでいた。都幾川の流域、特に調査地を含む上下流域は市内の中でも、豊かな動植物相を維持していると考えられた。

都幾川・唐子橋～東松山橋間調査地（2007年）

東松山市葛袋の唐子橋から、上押垂の東松山橋までの約 1.92 km 間である。調査地の都幾川は水の流れている川幅は広いところで 30 m、狭い場所では 10 m 程度と極端に変化する。水深は最大で 2 m 程度で、時々瀬と淵が現れるが、幾つかの堰があり、そこから農業用水用に水路が河川両側の水田に延びる。河川敷幅は 400 m くらいあり、河川両岸には小さい砂礫のある河原が所々にある。以前はこの流域の河川は曲がりくねっていたが、現在では河川改修によって河川は直線化している。そして、曲がりくねっていた元の川は旧川として、水は流れていないが水路が残され、水の残っている場所もある。河川の外側には小規模なクヌギ、エノキを主にする林、畑、竹林、耕地が放置された荒地などがある。林や、荒地の林床にはアズマネザサがブッシュ状になっているところもある。河川の砂州上にはツルヨシが群落を造り、その隣接地には最近に移入したセイタカアワダチソウ、オオブタクサ、アレチウリなどの外来種が優占している。また、右岸の堤防上には春はカラシナの群落が優占し、夏から秋にはオオブタクサが繁茂している。河川敷の外側には右岸には西本宿の集落と水田を主にした耕地が広がり、左岸には下青鳥の集落と水田を主にする耕地がある。

今回の調査で確認できた生息種は、鳥類は 30 科 64 種、両生類は 3 科 5 種、甲殻類は 5 科 6 種、水生・陸生貝類は 5 科 7 種、魚類は 7 科 17 種、爬虫類は 1 科 1 種、哺乳類は 2 科 2 種、昆虫類は 9 目で、鱗翅目 7 科 26 種（蛾類 2 科 3 種、蝶類 5 科 23 種）、カゲロウ目 1 科 1 種、膜翅目 5 科 12 種、半翅目 11 科 17 種、鞘翅目 12 科 20 種、双翅目 6 科 11 種、直翅目 8 科 21 種、網翅目 1 科 2 種、トンボ目 5 科 15 種、クモ類は 7 科 14 種、環形動物 1 科 1 種、植物類は 56 科 157 種、菌類は 3 科 3 種であった。



調査地中央部の旧川・水は澄んでいるが、バスやブルーギルがいる



調査地最下流部の東松山橋から上流を眺望する・橋は東上線鉄橋

河川内の水生生物は、2006年の上流部での調査に比べ、魚類、甲殻類、水生昆虫類など確認できた種は少なかった。魚類は河川内でオイカワが優占していて、アユ、ギンブナ、ジュズカケハゼ、コイなどが確認できた。ただし、4月、5月の時期には水がよどみ、水底には水垢が多く、魚類もほとんど見られないような状態であった。水田にある水路では、甲殻類はミナミヌマエビ属 sp、テナガエビ、両生類ではトウキョウダルマガエルの生息が確認できた。ただし水生昆虫類は少なく、右岸の水田でショウジョウトンボが多く見られた。この流域でも、上流と同じで魚類や水生昆虫類は20年くらい前よりは、大幅に個体数は少なくなっている。鳥類では2007年4月から2008年2月までに64種が確認できた。また、河川敷内の砂礫地ではイカルチドリ、コチドリの繁殖を確認していた。また、河川敷内のブッシュではウグイスの個体数が多く、特定外来種であるガビチョウの個体数も多かった。また右岸の休耕地ではオオヨシキリやセッカが見られた。陸生動物は出現確認種ではトンボ目、チョウ類などの昆虫類が多く見られている。

河川敷内の植物はたえず攪乱を受ける河川環境の特色として、河川に近い場所には、外来種のおオブタクサ、アレチウリ、セイタカアワダチソウ、アカバナユウゲショウなどの種が優占種として見られた。また、今回同定が出来なかった外来種も多く見つかった。それに、園芸種や、野生化した作物などの種も見られた。都幾川の河川敷では、河川に接した場所では、最近の河川改修によって直線化したため、両岸には砂礫地が減少している。工事後に残された旧川では水の循環が断たれているため、濁り、水底は見えない。東松山橋上流の旧川ではかつては多くの釣り人が見られたが、今回の調査では少なかった。釣り人の話では、旧川内の魚も減少して釣れなくなっているという。川の両岸の耕地は、右岸の耕地では稲が作られ、自然掘りの水路が残っている。この水路には魚類が多く見られ、メダカが多く見られヌマムツも生息していた。左岸も水路や池もあるが、水路はコンクリート護岸部分が多く、池も釣堀になっていて生物相は貧弱であった。



調査地の都幾川上流部、唐子橋と関越道堤防の景観・4月は堤にはセイヨウカラシナの花畑が現れる（唐子橋の右岸を下流から）

ゴミムシ類の採集のために河原にしかけたバイトラップは、10個の罠全てを夜間のうちに哺乳類（タヌキあ

るいはアライグマなどと思われた。)に食べられてしまって成果をあげることはできなかった。この哺乳類の増加は最近のことで、50年前には中型、あるいは大型の哺乳類は人里には少なかったが、明らかに増加しているようだ。埼玉県レッドデータブック 1996年版に記載されている、台地・丘陵地帯での危急種や希少種としては、鳥類ではオオタカ、ハイタカ、ベニマシコ、魚類ではメダカ、昆虫類の直翅目でキリギリス、クモ類ではコガネグモ、シロオビトリノフンダマシなどがあった。調査地右岸にある耕地内の小水路は、素掘りの水路でメダカが多数生息し、水田などへの行き来もあり、繁殖状態も良好に見られた。

市野川・市松橋～境橋間調査地 (2008年)

東松山市加美町の市松橋から、上流の滑川町との境にある松山町境橋までの約2.15 km間が調査である。調査地の市野川は水の流れている川幅は広いところで10 m、狭い場所では5 m程度である。水深は最大で1.5 m程度で、時々瀬と淵が現れるが顕著なものではない。河川は近年に河川改修を受け、蛇行していた流れはより緩やかなカーブになり、河床も削られてより平になってしまっている。調査域内の堤防はすべて整備され、流れに面する部分はコンクリートで護岸されている部分が多い。改修が行われる前には、礫のある河床もあったが、現在は無く、大きく変化している。調査した最上流の境橋から最下流の市松橋まで、市野川の河床は堆積した石灰岩系の岩盤になっていて、以前には露出した河床の沈降木の石化したものが見られていたが、現在は流れの下で見えない。ただし、調査地の中央部付近の河岸に褶曲する地層の露出している場所もある。このため河川の中流域で見られる砂礫の砂州は発達していない。水質は汚れが見えるが魚の住めないような状態ではない。

市の川小学校の上流では丘陵地が河川の左岸に迫り、その他の場所の河川の外側には小規模な林、畑、竹林、耕地、荒地などがあるが、河岸のすぐ近くまで人家が迫っている場所が多い。河川の堤防内の植生はヤナギ類が見られ、最近に移入したオオブタクサ、アレチウリなどの外来種が優占繁茂している。また、河川敷の外側にある人家から逃げ出した園芸種の植物が河川敷内に時々見られる。

河川内の水生生物は、魚類は河川内で春期から秋期にかけてはオイカワが優占していて、コイ、フナ類などが確認できた。ただし、冬期には極端に魚の姿が減少した。

出現確認種は鳥類 28 科 53 種、クモ類 12 科 20 種、両生類 3 科 5 種、水生・

陸生貝類3科4種、魚類5科11種、甲殻類2科2種、爬虫類2科2種、菌類2科2種、昆虫類9目で、鱗翅目17科43種（蛾類12科15種、蝶類5科28種）、膜翅目6科16種、半翅目13科21種、鞘翅目9科36種、双翅目7科14種、直翅目7科28種、膜翅目9科18種、トンボ目6科11種、シリアゲムシ目1科1種、網翅目1科2種、植物類68科238種を確認した。ただし昆虫類の膜翅目、双翅目などいくつかの目では同定できず除外した種が多くある。

両生類ではアカガエルが生息していたが、カゲロウなどの水生昆虫類は稀で、シオカラトンボやオオシオカラトンボ、ハグロトンボなどが見られた。鳥類は53種が確認でき、河川敷内ではカルガモとサギ類が多く見られたが、他の小鳥などの種類、個体数ともに少なかった。よく出現したサギ類は市の川小学校近くの市野川に隣接する左岸の山林に集団営巣地があり、そこに繁殖に来ているアオサギやゴイサギなどが川に出現していた。この集団営巣地はアオサギとゴイサギの個体数が多く、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギなどの白サギ類が混じる構成になっていた。定量を調査する鳥類センサスの結果ではスズメ、ヒヨドリ、カルガモ、セグロセキレイ、シジュウカラ、ツグミなどが出現個体数の多かった種であった。陸生動物の昆虫類は鱗翅目、鞘翅目、直翅目などの昆虫類が多く見られたが、種数は多くはなかった。

河川敷内の春の植物はハナウド、クサフジやイネ科の種が優占し、6月以降には外来種のセイバンモロコシ、アレチウリ、コセンダングサなどの種が優占種になり、全般的に外来種が多く園芸種も見られた。

川の両岸は、人家が迫っている場所も多いが、調査地の中央部付近には耕地の残る場所もある。この耕地とそれに接する林地にはアカガエルや、ホウチャクソウなどの種も見られ、この付近の動物相や植物相の数十年前の姿を示すような場所もあった。確認した種は現在では住宅地では消えてしまった種も多くあり、こ



市野川調査最上流の境橋付近



調査中央部の市野川の岸の露出地層

の調査地は人為攪乱が多く行われ、外来種が多く侵入し、動物や植物がその攪乱によって大きく変化し、あるいは変化しつつあるような場所であると考えられた。

滑川・野田、中橋～東平、松平橋間調査地（2009年）

大字野田の中橋から、大字東平の松平橋までの約2150m間が調査地である。

調査地の滑川は水の流れている川幅は広いところで10m、狭い場所では5m程度である。水深は最大で1.5m程度で、時々瀬と淵が現れる。河川は近年には川改修をあまり受けず、蛇行している部分も多く、農業用水用の堰がいくつもある。河床は堆積岩の岩盤が露出しているところも多い。調査域内の左岸の堤防はすべて整備されているが、右岸は丘陵の斜面になっている部分もあるし、護岸の整備されている部分もある。流れに面する部分はコンクリートで護岸されている部分は少なく、礫のある河床もある。滑川の河床は市野川の河床と同じように堆積した石灰岩系の岩盤になっている。河川の外側には小規模な林、畑、竹林、耕地、荒地などがあるが、河岸のすぐ近くまで人家などがある場所もある。

河川の堤防内にはアカメヤナギやネコヤナギなどヤナギ類が見られ、夏以降には最近に移入したセイバンモロコシ、オオブタクサなどの外来種が優占繁茂した。

出現確認種は、鳥類30科51種、哺乳類2科2種、両生類3科5種、爬虫類2科2種、魚類3科7種、水生・陸生貝類5科6種、甲殻類2科2種、多足類1科1種、昆虫類241種、直翅目9科28種、鞘翅目13科48種、膜翅目10科25種、鱗翅目蛾類14科25種、蝶類5科33種、双翅目7科17種、半翅目19科41種、トンボ目3科11種、シリアゲムシ目1科2種、網翅目1科3種、ゴキブリ亜目1科1種、トビケラ目1科1種、カゲロウ目3科3種、クモ類12科26種、植物類69科282種、菌類3科10種を記録した。

河川内の水生生物は、魚類はオイカワ、コイ、タモロコなど3科7種が確認



滑川の河床・岩盤が露出している場所が多い



野田地区の下橋・風情ある古橋

できた。しかし、以前の優先種であったオイカワ、タモロコ、モツゴなどは数が少なく、外来種で環境省の特定外来種に指定されているオオクチバスや、ブルーギルが見られ、特にオオクチバスは比較的数も多く、20cm 前後の個体が出て、同河川の小型魚類に大きな影響を与えていると考えられた。両生類ではアカガエルを含む3科5種の生息を確認したが多くはなかった。水生昆虫類は少なくカゲロウ類、トビケラ類の数種を見つただけであった。トンボ類もあまり多くはなくシオカラトンボやオオシオカラトンボ、ハグロトンボなどが見られた。

鳥類は30科51種が確認できた。河川敷内ではカルガモとアオサギ、クサシギやセグロセキレイ、カワセミが見られた。定量調査であるセンサス調査の結果では個体数ではスズメ、ヒヨドリ、カワラヒワの順に優占した。また河川の両岸に発達しているアズマネザサのブッシュなどではウグイスやガビチョウがよく出現した。サギ類は市の川小学校近くの市野川に隣接する左岸の山林と、今年新たに北中学校の南にある山林に白サギの集団営巣地ができた。市の川小学校の北西の集団営巣地はアオサギだけとなり、コロニー規模も小さくなったが、新たにできた北中学校の南のコロニーはアオサギとゴイサギの個体数が多く、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、などの白サギ類が混じる構成で、市の川小学校の北西のコロニー構成個体が移動したようであった。

陸生動物は出現確認種ではチョウ類、甲虫類などの昆虫類が多く見られた。特に7月の調査時にアカメヤナギに集合した多数のカブトムシには驚かされた。またコガネムシ類や、カメムシ類などで種類が多く見られた。

植物は72科288種を記録した。河川敷内の春はセイヨウカラシナやイネ科の種が優占し、6月以降には外来種のオオブタクサ、アレチウリなどの種が優占種になったが、河川の両岸の環境が多様なためか全般的に種数も多く、また市野川と同じように外来種も多く園芸種も見られた。

魚類は河川内は堰がいくつもあり、下流からの魚の遡上を阻んでいると考えられた。しかし、淵になって場所ではマコモなどの水辺の植物が茂っていた。河川内を見る限りでは20数年前の記憶とあまり変化はないのだが、橋上から河川内に見える魚類の個体数は減少していた。投網を使用した調査でも種数、個体数に減少が見られた。滑川の流域は人為攪乱が入り、外来種が多く見られ、動物や植物がその攪乱によって変化し、あるいは変化しつつあるが比較的良好な環境の保たれている場所であると考えられた。

高坂地区宮鼻調査地（2010年）

調査地の宮鼻は南側に越辺川、北側に九十九川があり、その両河川にはさまれた耕地である。耕地は水田が主で稲が栽培され、その他は畑と休耕地が混在している。休耕地はイネ科の植物が生えた丈の短い草原状態の場所と、ヨシ原になっている場所がある。耕地の中央部にある道路沿いの水路はコンクリート護岸になっているが、他の大部分は素堀水路になっている。越辺川は中流域の下部にあたり、河川内にできた洲は小さな砂礫と泥で形成されている。河川敷内の両岸は荒地状態で、コゴメヤナギなどが大きく成長して林状になり、林の無い部分はノイバラ、あるいはセイタカアワダチソウやオオブタクサなどの帰化植物などが繁茂している。北側の九十九川では、スゲやヨシなどの丈の高い草が繁茂して、水面が見えないくらい覆われていた。調査を始めた4～6月には、越辺川と九十九川との合流点では河川敷で工事が行われていて、調査ルートになっていた越辺川の堤防上も道路の整備工事が行われていた。また九十九川でも12月に河川内の整備が行われ、調査地内ではヨシやマコモなどの湿地性植物は取り除かれ、水面が見えるようになった。

調査は各月1回で、調査は午前中に行った。調査場所は、九十九川畔から越辺川の左岸堤を通り、耕地内を通過して、元の場所に戻るまでのルート行程2.35kmを設定した。

出現確認種は、鳥類27科41種、哺乳類2科2種、爬虫類2科2種、両生類3科4種、クモ類10科24種、植物55科206種、菌類2科2種、魚類7科12種、甲殻類4科4種、水生・陸生貝類6科8種、扁形動物1科1種、等脚類1科1種、昆虫類10目でカゲロウ目5科12種、鞘翅目14科41種、双翅目16科30種、網翅目1科1種、シリアゲムシ目1科1種、直翅目6科16種、トンボ目4科8種、半翅目12科19種、膜翅目6科9種、鱗翅目13科33種（蛾類8科12種、蝶類5科21種）、トビケラ目2科4種を確認した。

調査地内での確認種は、河川内および水路内は、魚類はカムルチー、コイ、メダカなど7科12種が、両生類はトウキョウダルマガエルを含む3科4種の生息を確認した。水生昆虫類は少なくカゲロウ類、トビケラ類他の数種を確認した。トンボ類はあまり多くはなくシオカラトンボやハグロトンボなどが見られた。越辺川内ではオナガサナエの幼虫（ヤゴ）も見られた。また九十九川では春にコイの産卵行動や、外来種のミシシピーアカミミガメが多数見られ、繁殖していると考えられた。



調査地の宮鼻耕地の4月



九十九川の河床にはマコモやヨシが茂る

鳥類は27科41種が確認でき、河川敷内ではオオヨシキリやヨシゴイが見られた。越辺川の河川敷内にはブッシュがあるのでウグイスや外来種のガビチョウがよく出現した。耕地内では草原性のホオアカが数番、セッカなどが繁殖期を通して見られ、休耕地のヨシ原ではオオヨシキリが見られ繁殖しているようであった。また埼玉県では珍しくなったカッコウの1羽の雄が繁殖期に見られた。

陸生動物は出現種ではチョウ類、甲虫類などの昆虫類も多く見られた。昆虫類は農耕地が多くの面積を占めるためか種数は少なかった。

植物は55科209種を確認した。河川敷の春の植物はセイヨウカラシナやセイヨウアブラナなどや、イネ科の種が優占し、6月以降には外来種のオオブタクサやセイトカアワダチソウなどの種が優占種になった。また秋にはヒガンバナが多く咲き、晩秋にはユウガギクなどの野菊類が多く咲いた。耕地内ではイネ科やカヤツリグサ科の種が多く、少数だがタコノアシやヒルムシロなどの湿地性の植物が見られた。今回行っている調査地は、耕地や河川敷の環境なので、耕作や河川管理作業などの人為攪乱が多く、セイトカアワダチソウ、オオブタクサ、アカバナユウゲショウなどの外来種も多かった。

調査地内で確認した種のうち、国内のレッドリストにある種は、チュウサギ、ヨシゴイ、オオタカの3種がNT（準絶滅危惧）、魚類はメダカ（絶滅危惧Ⅱ類）、ジュズカケハゼ（絶滅のおそれがある地域個体群）、に、両生類はトウキョウダルマガエル（準絶滅危惧）、植物ではカワジシャ（準絶滅危惧）、タコノアシ（絶滅危惧Ⅱ類）が掲載されていた。

調査2巡目の変化状況

大谷瓦窯跡調査地（2011年・2巡目）

調査地の窯跡周辺では前回の調査時の大きな変化はないが、遺跡のある丘陵に隣接した東側に個人の住宅が2軒増加した。

2011年度の調査では、鳥類29科47種、魚類4科8種、両生類3科5種、昆虫類11目77科174種（鞘翅目15科36種、双翅目16科30種、トビケラ目1科1種、シリアゲムシ目1科1種、網翅目1科2種、直翅目8科26種、ゴキブリ亜目1科2種、トンボ目5科10種、鱗翅目蛾類8科11種、蝶類5科29種、膜翅目7科22種、ナナフシ目1科1種、半翅目12科18種）、クモ類16科36種、ザトウムシ類1科1種、甲殻類3科3種、水生・陸生貝類6科7種、環形動物貧毛類1科2種、爬虫類4科4種、哺乳類2科2種、植物66科221種、菌類13科46種を記録した。

河川内および水路内の水生生物は、魚類ではタモロコ、メダカなど4科8種が確認できた。両生類ではトウキョウダルマガエルを含む3科5種の生息を確認した。注視する種は、鱗翅目蝶類のアカボシゴマダラを2頭確認した。この種は奄美大島などの南島に生息する種であるが、近年は埼玉での記録が報告されている。しかし、インターネット等で調べてみると、国内産のものとは形態に差があり、中国などの大陸産の個体が国内に持ち込まれて増殖をしているとのことであった。市内での確認は初めてであったが、嵐山町、滑川町、熊谷市などでも目撃した。また国内移入種である南方系のツマグロヒョウモンはしばらく前から埼玉県でも普通種のようにになっている。

2003年度に行った調査との比較では、鳥類の出現確認種数は2003年度44種で、2011年度47種であった。種構成は少しの変化があったが、大きくは変わっていない。鳥類センサスではカワラヒワ、ツグミ、スズメ、カシラダカ、ホオジロの個体数が2003年度に比べ減少した。これらの種はスズメを除き、冬に渡来する種で、今年の冬鳥の渡来個体数が例年より少ないのではと言われていたが、センサス結果でも減少傾向が見えた。スズメは最近、減少しているとトピックになっているが、この調査地でも減少しているようであった。ただし、スズメの生態では出現時の群れを記録できるか、できないかで大きく変わってしまうので、この1例からはまだ確定はできない。植物、菌類、昆虫類などの種確認は2003年度に比べ、2011年度は増加している。しかし、この増加は、調査精度が増したことや、月1回で行う調査のため、天候などにより大きく種確認数に影響が出てしまう。特に菌類などでは湿度が大きく影響するため、今回2011年度調査と、2003年度調査では出現種が一変している。

比丘尼山調査地（2012年・2巡目）

調査地の比丘尼山周辺の生物相は今回調査でも豊富で、東松山市の中でも優良な自然環境が今回も残っていることであった。ただし、前回2004年時の調査で見られた種のうち、いくつもの種が消えてしまい、いくつかの変化が起きていた。比丘尼山自体はコナラ、クヌギを主にする林であるが、林床にはアズマネザサがブッシュとなって優占している。今回もそのような植生の環境は前回の調査と変化はなかった。

確認種は哺乳類2科2種、鳥類24科31種、爬虫類4科4種、両生類3科6種、クモ類15科65種、甲殻類5科5種、多足類3科3種、環形動物貧毛類1科2種、軟体動物水生・陸生貝類7科9種、魚類4科8種、ザトウムシ類1科1種、昆虫類は11目で、鱗翅目13科37種（蝶類5科26種、蛾類8科11種）、双翅目13科27種、網翅目1科4種、ナナフシ目1科1種、シリアゲムシ目1科2種、鞘翅目19科59種、直翅目7科25種、トンボ目4科12種、半翅目17科30種、膜翅目7科36種、脈翅目1科1種、植物類54科211種、菌類13科22種であった。このなかには同定できていないものも多くあり、特に膜翅目や双翅目などでは欠落した種が多くあると思える。植物に関しては花期のものを優先して記載したため、樹木類の多くが抜け落ちている。

比丘尼山も2004年に調査を実施した場所で、同じルート行程（2040m）に沿って同様な方法で行っている。ただし今回は甲虫類を対象にした腐肉採集は、タヌキ、アライグマなどの哺乳類が増加し、トラップが荒らされ、成果が期待できなくなっているので行わなかった。哺乳類は、今回の調査でも2科2種だけの記録であるが、少ない確認に留まっている。ただし、水田などに残った足跡から多くの個体が夜間には活動していると考えられた。また、外来種であるアライグマの足跡も残り、今後の生態系への影響が懸念される。鳥類では、サシバの繁殖が2004年には確認できたが、今回の調査では生息も確認できなかった。また鳥類の出現種数も減少し、サギ類は顕著で、コサギ、アマサギなどの1990年代には普通種であった種がいなくなった。

比丘尼山の自然環境で重要なのは、水田脇にある水路と西の谷津奥にある溜池で、そこから延びる水路には、多数のメダカが生息していた。しかし前回の調査で個体数も多かったタイリクバラタナゴは12月に1尾を採集しただけで激減し、ほとんど見られなくなった。両生類ではニホンアカガエルやトウキョウダルマガエルが見られ後者は個体数も多かった。2000年代になると、西日本系のヌマガ

エルが埼玉県にも侵入し、荒川流域では多く見られるようになり、隣町である熊谷市には畑や水田で多く見られ、トウキョウダルマガエルに置き換わるように勢力を広げているような状態が見られ、比丘尼山の水路でもヌマガエルの侵入を確認した。昆虫類のトンボ目は谷津奥の溜池では2004年には少数のチョウトンボ、コシアキトンボ、イトトンボ類も多く生息していたが、今回の調査では溜池では見られず、他の場所で小数目撃しただけであった。近隣の町村にある溜池では、最近コシアキトンボが非常に少なくなっている現象がある。トンボ類に影響を与えているのは、オオクチバスやブルーギルなどの外来種の食害が考えられる。近隣のほとんどの溜池では、魚類や他の在来種の存続が脅かされている。調査地の溜池も同じ状況なのかもしれない。ただし水路ではこの外来2種は確認できなかった。また水生昆虫のタイコウチも見つからず、水域内も多様性が失われつつあるようであった。今回はクモ類で多くの種の確認ができた。前回の調査ではクモ類の調査はあまり行わなかったが、今回はできるだけ写真に収めて確認をした。

今回の調査でも、比丘尼山周囲の自然環境は、東松山市内では貴重な場所であると考えられた。生息確認種では、前回の調査時より多くの種を確認しているが、調査精度が上がったことによる結果と考えられ、前回より環境が良くなり種が自然的に増加し、多様になったわけではなく、正確には逆に生態系の多様性が失われつつあるのが現状のようだ。

東松山市市民の森調査地（2013年・2巡目）

市民の森周辺の生物相は豊富で、東松山市の中でも優良な自然環境が今回も残っている。林相は、植林された成熟した外来種のテーダマツ（北米原産）の大きな木が優占し、他にアカマツやコナラなどの在来種の高木が混じるような林である。下刈りも行われ管理されている場所も多く、林床には矮小化したアズマネザサが茂っているが、低木類は少ない。このような林相をもつ環境なので、生息する動植物種は、在来種で構成されている林とは、少し差があるのかもしれない。

確認種は、哺乳類1科1種、鳥類20科41種、爬虫類4科5種、両生類4科4種、クモ類17科59種、甲殻類5科5種、多足類2科2種、軟体動物（水生貝類および陸生貝類）6科7種、魚類3科3種、ザトウムシ類1科1種、環形動物3科4種、トビムシ目1科1種、昆虫類は11目で、鱗翅目9科33種（蝶類5科30種、蛾類8科12種）、双翅目11科20種、網翅目1科3種、シリアゲムシ目1科1種、鞘翅目22科53種、直翅目9科22種、トンボ目3科9種、トビケラ目2科2種、

ハサミムシ目 1 科 1 種、半翅目 17 科 26 種、膜翅目 9 科 39 種で、植物類は 70 科 238 種、菌類 19 科 91 種であった。ただし、これらの確認種の他に、現在はまだ同定できていないものも多くある。また、昆虫類の双翅目、膜翅目、半翅目などに多くの同定できなかった種もあり、それらは除外してある。

鳥類はタカ類のノスリ、ツミを記録した。ノスリは、以前は山地に生息、繁殖する種であるが、最近になって丘陵地への進出が記録されるようになり、繁殖記録もされるようになっている。ここでの記録も繁殖期の出現なので、近辺、あるいは市民の森内で繁殖している可能性もある。未確認であるがオオタカの繁殖も同林内で行われている情報もある。前回 2005 年の調査時と比べると、確認した種数は 2005 年の 37 種から 41 種と増加したが、確認個体数は 546 羽と 534 羽で変化はない。

市民の森の谷部の沼に続く水路では、少数のトウキョウサンショウウオの卵塊があり、現在でも生息しているのを再確認した。魚類は谷津奥の溜池ではオオクチバスの姿を見た。水路ではドジョウもいたが、あまり種数は豊富ではない。トンボ類は前回 2005 年の調査よりは減少していた。コシアキトンボも少数の飛翔を見たが、他のトンボ類は少なかった。コシアキトンボのような止水の池に生息する種は、オオクチバスのような外来生物の食害の影響を受けているのであろう。両生類は前回と同じようにトウキョウダルマガエルは水田に残っていた。クモ類でも多くの種をできるだけ写真に収めて確認をした。市民の森のクモ類の特徴は、地上徘徊性の種が多く、林内で網を張るコガネグモ類は種数、個体数共に非常に少なかった。これは林の管理によって低木層が無くなり、成熟した高木だけになり、林間が開けすぎている影響なのかもしれない。今回の調査でも菌類が多く見られた。今回は雨の後の調査もあったので、多くの菌類（キノコ類）が発生していたが、多くの菌類は種同定ができずに不明種になったものが多かった。市民の森の中は遊歩道が整備されているので、7～10月の菌類の観察には好適な場所であるだろう。

植物相は森の規模からすると、貧弱なような感触があった。東松山市の他の場所では見られない、タマノカンアオイ、キッコウハグマなどもあったが、前回の調査に比べ減少しているような感じであった。今回、市民の森を回っていて気がついたのは、外来種のテーダマツの林に在来種のアカマツがある程度数が混じって元気に生息していた。アカマツは埼玉県では 1980 年代に大量に枯れ、現在でも残っている個体も徐々に枯れ続けている。この丘陵地でも以前はテーダマ

ツの無い鳩山町側の林にも、数多くのアカマツがあったが、現在は稀になっている。それに比べ、市民の森内のアカマツはまだ個体数も多く、外来種と混生することによって、生残率に差が出ているように見えた。何か生存に有利なことが、外来種との共生であるのかもしれない。今回の調査でも、市民の森と周囲の谷津田を含む自然環境は、東松山市内では貴重な場所で、8年前の調査時に比べてあまり変化はないと考えられた。生息確認種では、前回の調査時より多くの種を確認しているが、前回の調査結果より種が自然的に増加し、多様になったわけではない。

都幾川・神戸大橋～鞍掛橋間調査地（2014年・2巡目）

調査地の都幾川は、中流域にあり、小石と砂の混じる洲のある瀬と、流れの緩やかな淵が200mくらいで交互に現れる。河川内には魚類、水生昆虫類も多く、今回の調査でも水質は良好であった。ただし、河川敷内にある林や畑などの利用度は少なくなり、小道の多くは草に埋もれ、中流域を代表である景観の洲もツルヨシや外来種のセイヨウカラシナ、アレチウリなどに覆われる場所も多くなっている。特に今年はアレチウリの繁茂が目立つ。また、堤防はオオブタクサが繁茂して9月の調査では堤上は歩けない状態であった。河川の利用は、釣り人が時々見られ、鞍掛橋の河原はレジャーで訪れる人に開放されて、休日には多くの人を訪れていた。ただし、鞍掛橋付近を除いては河原が草に埋もれている場所が多く、20年前の礫地の多かった河川敷から景観は大きく変貌している。

確認種は、哺乳類4科5種、鳥類29科55種、爬虫類2科2種、両生類3科5種、クモ類20科77種、甲殻類2科2種、多足類1科1種、軟体動物(水生・陸生貝類)6科10種、魚類4科9種、トビムシ目1科1種、扁形動物1科1種、昆虫類は13目で、鱗翅目13科48種(蛾類8科10種、蝶類5科38種)、双翅目17科27種、網翅目1科2種、シリアゲムシ目1科2種、鞘翅目20科74種、直翅目7科25種、トンボ目5科18種、カワゲラ目2科5種、カゲロウ目6科18種、トビケラ目4科8種、半翅目24科37種、膜翅目13科38種、脈翅目1科1種で、植物類は66科245種、菌類5科6種を記録した。これらの確認種の中には目、科、あるいは属までで、種名の同定できていない種も含まれている。

今回の調査では哺乳類は大型のニホンジカも含まれている。2006年度の調査ではこのような大型の哺乳類は生息していなかったが、大型哺乳類の分布拡大は最近の大きな傾向である。鳥類ではイカルチドリの繁殖を今回も確認した。この

鳥は河原の礫地に巣を造り繁殖する。生息適地の礫のある河原が減少したために、個体数は激減している。またセグロセキレイも生息しているが、採食場所の瀬が草に覆われる場所が多くなり、同じように個体数は減少している。河川敷内にはアズマネザサが多く繁茂しているため、ウグイスが繁殖していて、ウグイスを宿主にするホトトギスも生息している。またブッシュのような環境を好む外来種であるガビチョウも繁殖し、カオグロガビチョウも見られた。ただし、カオグロガビチョウは今年の確認例は少なくなり、この地域では減少しているようである。出現した鳥類種では少し確認数は減ったが前回（2006年度）の調査とあまり変化はない。

河川内ではオイカワが優占している。春先にはコイの産卵があちこちで見られた。しかし、魚類の個体数は前回の調査と比べ、回復しているように感じたが、それでも20年前の水準からは、とても少なく感じる。特に冬期には遊泳する姿はほとんど見えなくなっている。稚魚の数も少なく、また岸辺の草の中に隠れている個体も稀に確認できるだけで、以前の状態には戻っていない。

水生昆虫類は数種のカゲロウ類、カワゲラ類、トビケラ類が見られる。これらの水生昆虫は河川の水質の汚濁を示す指標にもなっている。都幾川で水生昆虫が生息していることは、まだ川の水質がきれいであることを示しているが、さらにきれいな水質を好むヘビトンボや、ナベブタムシ、コカクツツトビケラなどは消えてしまい、水生昆虫類から推測すると、水質の悪化はあるようだ。他にも水生昆虫であるトンボ類はサナエトンボ類が数種見られ、アオハダトンボ、ハグロトンボ、ミヤマカワトンボやイトトンボ類も数種が生息していて、春から夏にはトンボの撮影に訪れる人も多かった。

他の昆虫類では鱗翅目の蝶類が比較的多く見られた。出現種は平地での普通種であるが、ほとんどの種が網羅されている。また最近の外来種や分布を拡大してきた（人為的な導入もある）種である、ホソオチョウ、アカボシゴマダラ、ナガサキアゲハ、ツマグロヒョウモンなどもみられ、驚きの連続である。その反面、在来のシジミチョウなどの種は見つからない。ここでも環境の変化が現れているのかもしれない。

植物相は河川敷という特殊な環境であるため、外来種が多く、オオブタクサ、アレチウリ、セリバヒエンソウ、セイヨウカラシナなどが優占して生息するようになっている。また、土木工事で土留めに利用されるシナダレスズメガヤも少数が侵入し、河川中流域の景観を下流域と同じような景観に変化させている。その

ため、在来の種は減少しているように感じている。河川内にはツルヨシが優占しているが、河岸には先に挙げた外来種が優占するようになっている。こんなところも環境の変化がよく見て取れる。

都幾川・唐子橋～東松山橋間調査地（2015年・2巡目）

この場所は2007年に調査を実施した場所で、同じルートに沿って同様な方法で行った。ただし、調査場所の下流部、全体の30%の場所では、前回調査路とした遊歩道は草に埋もれ、踏査が困難になったため、耕地内を迂回して行った。

確認種は哺乳類5科5種、鳥類31科61種、爬虫類2科3種、両生類3科4種、クモ類15科35種、甲殻類5科5種、軟体動物（水生・陸生貝類）7科9種、魚類6科14種、環形動物ミズ類1科2種、昆虫類は12目で、鱗翅目15科47種（蛾類10科13種、蝶類5科34種）、双翅目9科22種を含む、網翅目1科2種、シリアゲムシ目1科2種、鞘翅目17科50種、直翅目6科20種、トンボ目4科12種、半翅目15科26種、膜翅目8科24種で、トビケラ目1科1種、カゲロウ目3科3種、カワゲラ目1科1種、ハサミムシ目1科1種、植物類は54科237種、菌類1科2種であった。

調査地の都幾川は、中流域にあるが、近年に河川改修によって流路が換えられ、直線化されている。一部には小石と砂の混じる洲のある瀬と、流れの緩やかな淵があるが、河川敷内には草が繁り、流路を見るには長い距離を歩かなければできない。上流部にある唐子橋付近の河川敷は一部に砂礫地が残るが、草地化していて、以前とは景観の変貌の激しさを感じさせる。この調査地の区間内には、河川改修によって残された旧川が2ヶ所に分かれてある。下流部の東松山橋に近い旧川は釣り人が頻繁に来ている。ここの旧川は濁っていて今年ホテイアオイが繁茂していた。調査場所の中央部に残る旧川は水面が見える状態で残り、あまり釣り人は来ていない。両方の旧川にはコイ、オオクチバス、ブルーギル、ミシシッピーアカミミガメなどが遊泳するのが見えた。都幾川本流にはオイカワ、コイ、シマドジョウなどが見えたが、ブルーギルなどの外来種もいた。この旧川を含む広い河川敷は、唐子橋に近い部分ではオニグルミ、クヌギ、ミズキ、ニワウルシなどの高木が散在している。多くの部分は荒地化して、アズマネザサ、オオブタクサ、オギやクズが優占し、以前にあった遊歩道は草に覆われているが、一部は農耕地として利用されている。調査は河川の右岸で行ったが、河川敷に接して水田があり、小さい水路がある。水田の一部は休耕状態で、ヨシやオギのある場所ではオ

オヨシキリが、セイタカアワダチソウ、コガマなどがある場所ではホオアカがさえずり、繁殖をしているようだった。

鳥類はイカルチドリの繁殖を確認した。前年行った上唐子の河川敷と違って、平地で耕地が多い環境であるため種構成には差があり、林にいる鳥は少なくなり、草地にいる鳥が増加している。しかし、種数、個体数ともに前年の調査場所より少なくなっている。唐子橋付近ではイノシシの足跡が河原に残り、数頭が河川敷内に生息しているようであった。昆虫類では、トンボ類は少なかったが旧川内ではチョウトンボが少数見られた。他の昆虫類では鱗翅目の蝶類が比較的多く見られた。出現種は平地での普通種であるが、ほとんどの種が網羅され、ヒオドシチョウやアサマイチモンジも出現した。また最近の外来種や分布を拡大してきた種である、アカボシゴマダラ、ツマグロヒョウモンなどもみられた。植物相は河川敷および農耕地の環境であるため、上流の上唐子地区と同じように外来種が多く、オオバタクサ、アレチウリ、セリバヒエンソウ、セイヨウカラシナなどが優占している。ただ荒地化した場所ではオギの群落が優占し、河川敷の景観は下流域と同じ様相であった。

市野川・市松橋～境橋間調査地（2016年・2巡目）

今年度の調査では、市野川の魚類はオイカワ、ニゴイが10月の魚類調査では優占していた。年間では、大きなコイ、ナマズ、ヌマムツ、シマドジョウ、メダカなども確認した。1990年代より魚種は増加し、前回2008年に行った調査よりもさらに増加しているようであった。この復活は市野川の水質が都幾川には劣るものの1990年代より良くなっているようで、その結果と思われる。生物種で今回気になったのは、両生類ではヌマガエルが見られるようになった。この種は関西系のカエルで、最近に熊谷や滑川町まで分布してきたが、ついに市内でも分布が始まった。爬虫類は外来種であるミシシippアカミミガメが増加し、あちこちで体長が30cmくらいある個体が河川内に見られ外来種が増加している。哺乳類は目撃が無かったが、タヌキ、アライグマの足跡などの生息痕が畑や水際の地上に見られるようになっている。

確認種は、哺乳類4科4種、鳥類26科46種、爬虫類2科3種、両生類3科5種、クモ類12科27種、甲殻類3科3種、軟体動物（水生・陸生貝類）6科8種、魚類6科14種、昆虫類は9目で、鱗翅目12科41種（蝶類5科29種・ガ類7科12種）、双翅目10科21種、網翅目1科1種、シリアゲムシ目1科2種、

鞘翅目 14 科 35 種、直翅目 5 科 14 種、トンボ目 5 科 12 種、半翅目 16 科 25 種、膜翅目 9 科 25 種、トビケラ目 1 科 1 種、カゲロウ目 2 科 2 種で、植物類は 68 科 228 種、菌類 5 科 6 種、環形動物 1 科 1 種であった。鳥類のセンサスによる定量調査では、1 年で 1143 羽を目撃し、3 月が一番多くの出現数で、8 月が一番少なかった。月平均では 95.3 ± 48.8 羽(範囲 40-208 羽 N=12)が見られ、出現数が多い順からヒヨドリ 153 羽、スズメ 151 羽、カシラダカ 114 羽、セグロセキレイ 59 羽、ハシブトガラス 56 羽などであった。クモ類は 12 科 27 種の確認であったが、希少種に分類されるものは無かった。甲殻類では外来種のアメリカザリガニは減少しているようであった。以前はヌカエビが分布していたが、最近ではミナミヌマエビ属が分布するようになり、ヌカエビが駆逐されているとの報告もある。市野川でもミナミヌマエビ属 sp に変化していた。

植物相は河川敷および農耕地環境のため、他の河川の調査地と同じように外来種が多く、セイバンモロコシ、オオブタクサ、アレチウリ、セイヨウカラシナなどが優占して生息するようになっていた。68 科 223 種の記録であるが、注目するような種は見られなかった。

滑川・野田、中橋～東平、松平橋間調査地 (2017 年・2 巡目)

2017 年の滑川の調査で目立ったのは、河川内に外来種のミシシッピーアカミミガメの姿が異常に多くなったと感じた。また夏に行った魚類の調査では、2009 年の調査で多く見られたオオクチバスの捕獲は無く、コイ、ギンブナやモツゴ、オイカワなど由来の種が獲れた。ただ、降雨が少なかったためか、2009 年時よりも川の水は汚れていて、河床の水垢が多かった。

確認種は、哺乳類 3 科 3 種、鳥類 26 科 44 種、爬虫類 2 科 3 種、両生類 3 科 5 種、クモ類 16 科 44 種、甲殻類 4 科 4 種、軟体動物(水生・陸生貝類) 6 科 8 種、魚類 5 科 8 種、昆虫類は 11 目で、鱗翅目 19 科 57 種(蝶類 5 科 35 種・ガ類 14 科 22 種)、双翅目 12 科 21 種、網翅目 1 科 3 種、シリアゲムシ目 1 科 2 種、鞘翅目 13 科 48 種、直翅目 6 科 22 種、トンボ目 5 科 11 種、半翅目 24 科 43 種、膜翅目 10 科 26 種、カゲロウ目 1 科 1 種、多足類 1 科 1 種で、植物類は 66 科 221 種、菌類 4 科 4 種、環形動物 1 科 1 種を記録した。

今回の調査での自然環境の変化は、野田橋下流の右岸のスギ林が太陽光発電施設になったが、他の場所は 2009 年と大きな変化はなかった。河川の堤防内にはヤナギ類が見られ、移入したセイバンモロコシ、オオブタクサ、アレチウリなど

の外来種が今回の調査でも優占繁茂していた。河川内の水生生物は、魚類はコイの産卵行動が見られた。両生類ではアカガエルを含む3科5種の生息を確認した。爬虫類はミシシピーアカミミガメが河川内に多数生息していて、確定はできなかったがクサガメと思われる20cmを越える亀も見られた。これらの亀類は繁殖しているようで、小さい個体も生息していた。トンボ類はあまり多くはなくシオカラトンボやオオシオカラトンボ、ハグロトンボなどが少数見られた。

鳥類では26科44種が確認でき、河川ではカルガモとアオサギが見られカワセミも出現した。また河川の両岸に発達しているアズマネザサのブッシュなどではウグイスやガビチョウがよく出現した。サギ類は2009年の調査時には北中学校の南にある山林に白サギの集団営巣地があったが、その場所は林が伐採されてサギ類のコロニーは無くなった。

河原の春の植物はセイヨウカラシナやイネ科の種が優占し、6月以降には外来種のオオバタクサ、アレチウリ、クズなどの種が優占種になったが、河川の両岸の環境が多様なためか全般的に種数も多く、また市野川と同じように外来種や園芸種も見られた。

河川内は堰がいくつもあり、淵になっている場所ではマコモなどの水辺の植物が茂っていた。10月4日に魚類調査を行ったが、水質が悪く、水底には汚れがあり、5種の魚種を確認しただけであった。同じ日に市野川でも調査を行ったが、市野川のほうが汚れが少なく、魚種は同数程度であったが個体数が豊富であった。この調査地は、人為攪乱が入り、外来種が多く見られ、動物や植物がその攪乱によって変化し、あるいは変化しつつあるが比較的良好な自然環境の保たれている場所であると考えられた。

高坂地区宮鼻調査地（2018年・2巡目）

2018年の高坂地区宮鼻では、前回2010年の調査時と比べると、環境変化はあまりなかったが、越辺川の堤の上が舗装され遊歩道として整備された。また九十九川の左岸の荒地や耕地だった場所に大きな太陽光発電施設が造られている。河川内も前回の調査時には草取りが行われ、ヨシやマコモなどが取り払われたが、今年の調査では以前と同じように復活している。農耕地では休耕地が若干減少したものの、大きな変化はない。生物相ではミシシピーアカミミガメが九十九川に多数生息しているのを確認した。両生類では前回と同様な種が見られたが、ヌマガエルが新たに加わった。

確認種は、哺乳類 4 科 4 種、鳥類 27 科 43 種、爬虫類 3 科 3 種、両生類 3 科 5 種、クモ類 12 科 28 種、甲殻類 6 科 6 種、軟体動物（水生・陸生貝類）6 科 9 種、魚類 5 科 9 種、昆虫類は 13 目で、鱗翅目 14 科 39 種（蝶類 5 科 23 種・蛾類 9 科 16 種）、双翅目 6 科 11 種、網翅目 1 科 1 種、シリアゲムシ目 1 科 2 種、鞘翅目 13 科 29 種、直翅目 7 科 17 種、トンボ目 3 科 9 種、半翅目 11 科 26 種、膜翅目 10 科 31 種、カゲロウ目 2 科 3 種、カワゲラ目 2 科 2 種、トビケラ目 4 科 4 種、脈翅目 1 科 1 種で、植物類は 54 科 201 種、菌類 4 科 4 種を記録した。

今回の調査では、調査地の環境は 2010 年度の調査時をほとんど変化していない。魚類はカムルチー、コイ、メダカなどを確認した。両生類ではトウキョウダルマガエルを含む 3 科 5 種の生息、水生昆虫類は種類数が少なくカゲロウ類、トビケラ類他の数種を確認した。トンボ類は 9 月にイトトンボ類 2 種が見られ、シオカラトンボやハグロトンボなど 3 科 9 種が見られた。九十九川では春にコイの産卵行動や、ミシシピーアカミミガメが前回 2010 年の調査と同様に多数見られ、甲長 30cm くらいあるような大型の個体や、10cm 以下の個体も見られ、繁殖していると考えられた。

鳥類は九十九川や休耕した水田のヨシ原ではオオヨシキリが見られた。越辺川の河川敷内にはブッシュがあるのでウグイスやガビチョウがよく見られた。農耕地の休耕されている場所では草原性のホオアカが^{つがい}数番、セッカなどが繁殖期を通して見られたが前回の調査より個体数は少なかった。また冬期 12 月の調査では渡り鳥のミヤマガラスが 10 数羽見られた。昆虫類は外来種のホソオチョウが出現し、甲虫ではナガヒラタムシなどが見られた。植物は河川敷の春はセイヨウカラシナやセイヨウアブラナなどや、イネ科の種が優占し、6 月以降には外来種のおオブタクサやセイバンモロコシなどの種が優占種になった。休耕している農耕地内ではイネ科やカヤツリグサ科の種が多く、コナギ、ミゾカクシ、イボクサなどの湿地性の植物が多く見られた。また耕作や河川管理作業などの人為攪乱が多いので、セイトカアワダチソウ、おオブタクサ、アカバナユウゲショウなどの外来種が多く見られた。

調査地全体での代表的な種の図と説明

この調査全体での確認種は、哺乳類 9 科 11 種、鳥類 34 科 93 種、両棲類 5 科 9 種、爬虫類 5 科 9 種、軟体動物 8 科 15 種（水生・陸生貝類）、甲殻類 9 科

10種、魚類9科24種、昆虫類は鱗翅目27科153種（蝶類5科65種、蛾類25科88種）、膜翅目18科100種、半翅目39科98種、鞘翅目38科239種、双翅目34科94種、直翅目10科47種、網翅目1科4種、トンボ目7科35種、シリアゲムシ目1科2種、脈翅目3科3種、ナナフシ目1科1種、ゴキブリ亜目1科3種、トビケラ目6科15種、カゲロウ目8科30種、カワゲラ目4科7種、ハサミムシ目3科3種、クモ類23科140種、ザトウムシ類1科1種、植物110科587種、菌類31科176種、環形動物5科6種、多足類5科6種、等脚類1科1種、トビムシ類2科2種、扁形動物1科1種を記録した。

各生息種のカテゴリーについての市内の状況や感じたことを簡単に述べる。

1) 哺乳類・・・1970年代には中型から大型の哺乳類は少なかったが、最近ではシカ、イノシシ、アライグマ、タヌキ、キツネ、ハクビシンなどの生息痕があちこちで見られるようになってきている。アライグマやハクビシンは外来種で最近では農作物の食害などが問題になっている。

2) 鳥類・・・多くの種が個体数の減少傾向にあり、市内で見ることの出来る種も減っている。夏鳥ではサンコウチョウやサンショウクイなど、冬鳥ではタゲリやカシラダカなど、また留鳥で市内のあちこちで繁殖していたホオジロも極端に減少している。スズメやコサギなどの普通種も少なくなっている。

3) 両生類・・・以前には市内の水田にはトウキョウダルマガエルやアカガエルが数多く生息していたが、現在は少ない。ヒキガエルもほとんど姿を消し絶滅状態になっている。トウキョウサンショウウオもアライグマなどの捕食によってほとんど見られなくなっている。そんなこととは逆に、最近では関西系のヌマガエルが侵入し、この調査を始めた頃に居なかった場所にも、2度目の調査で生息を確認し、すごい勢いで分布を拡大、現在では市内全域に分布している。

4) 爬虫類・・・ヘビ類は全体として減少、特にシマヘビ、ジムグリなどの種はまったく見かけなくなった。カメ類は市内の川にはミシシッピーアカミミガメが多数生息するようになり、川の生態系は一変している。

5) 軟体動物・・・市内のタニシ類はヒメタニシだけで、以前にいたマルタニシは絶滅している。30年ほど前には上唐子の池でオオタニシを採取したことがあったが、今は見られない。シジミも局所的にいるだけで少ない。陸生の貝類（カタツムリ類）はミスジマイマイが見られるものの、より大型なヒダリマキマイマイはほとんど見られなくなった。

6) 甲殻類・・・水域に住むエビ類は全体的に個体数が減少し、以前には旺盛に繁

殖していた外来種のアメリカザリガニも減っている。ただし河川ではヌカエビに置き換わるように外来種のミナミヌマエビ属 sp が沢山いる。

7) 魚類・・・市内の都幾川、市野川、滑川などの河川には過去には多くの魚がいたが、現在は少ない。特に冬になると、コイなどの大型の魚を除けば、魚影を見つけることも難しい。1990年代にカワウが分布するようになると、急激に魚は減ってしまった。最近、夏にはオイカワなどは個体数が少し回復してきたが、30年前の水準にとても及ばない。

8) 昆虫類・・・調査では多くの目や種を確認したが、あまりに専門性が高い分類群で、何が減っているのか正確には分からない。ただし、過去から馴染みのあるクワガタムシやカブトムシなど個体数は減っている。同じように全体的に減少しているのは確かだろう。またこの分類群では外来種や国内移入種などの情報もあり、市内で分布が広がったものや、絶滅して消えてしまった種も多くあると考えられる。水生昆虫類は川の水質の汚れを反映する。市野川や滑川では種数も個体数も数えるほどしか生息していないが、都幾川にはまだ多くの種が生息していて、水質が良いことを示していて、こんな環境を汚さずにおきたいものである。

9) クモ類・・・身近な生物であるのにもかかわらず、人気はあまりない。この調査で自分も初めて興味をもって眺め、記録したが、とても面白い。過去の記録は無いが、記憶では大きなオニグモが家々の高い軒下に網を張っていて、セミや時にはコウモリまでが捕えられていた。また林にはジグモも多く見られたが、最近はなかなか出会うこともなくなっている。

10) 植物・・・この調査でも多くの種を記録したが、外来種の多さに驚いている。調査が道端の種を記録しているので、どうしても攪乱された場所での種に偏向してしまうが、それでも外来種は多い。さらに二次林の林などでは、攪乱は小さいものの、放置されていた結果、アズマネザサが繁茂して、林床を覆い、多くの日当たりの良い場所を好む植物を駆逐してしまっていた。市内の林でも過去にはキキョウ、オミナエシ、ジュウニヒトエ、フデリンドウなどもあったが、みんな消えている。

11) 菌類・・・湿度に敏感なので、雨の後などは多種が観察できるが、数十年前と比較すれば、種数、個体数共に減少している。昔の記録では市内の神戸山はシャカシメジ（通称センボン）、ウラベニホテイシメジ（通称イッポン）、ホウキタケ（通称ネズミキノコ）などの種も発生していたが、現在では見られない。ただし、7月～9月頃の雨上がり、市民の森などで多数のイグチ類のキノコが観察できる。

鳥類

鳥類は調査期間中に全体で 14 目 35 科 96 種が確認できた。スズメ目が種数で一番多く、その中の幾つかの種は市内で繁殖もしている。各調査地でのセンサス結果から、個体数の一番多く観察できたのはスズメで、次にヒヨドリ、カシラダカ、カワラヒワ、ムクドリ、ウグイス、ホオジロ、ハシボソガラス、シジュウカラ、キジバトと続く。さらに 11 位からガビチョウ、ハシボソガラス、シメと続き、これらの中のカシラダカとシメは冬鳥であるが、他の種は留鳥と言われる一年を通して生息している種である。今回の市内での出現確認種は 96 種で、生息種数としては、あまり多くもなく、少なくもないという数字であり、市内の自然環境が農耕地、住宅地、丘陵地、河川などと多様性に富んでいることを反映している。鳥類は最近、多くの種が個体数の減少傾向にあり、今回の調査では鳥類相や個体数の変化も念頭において、定量的な調査も行ってみた。8 年で調査場所が一巡する設定である。しかし、8 年間での鳥類相や個体数の変化はあまり顕著には現れていなかった。しかし、ラインセンサスによる個体数の把握は、一昔前の鳥類相と現在が大きく変化してきていることがよくわかり、35 年も前の 1984 年に市内の 6 か所で行った調査記録と比較すると大きく変化している。増加した種はハシボソガラス、ガビチョウ（外来種）、キビタキ、カワウなどがあったが、個体数の減少が顕著であった種は、カシラダカ、ホオジロ、ハシボソガラス、セグロセキレイなど多くの種で個体数の減少、あるいはタゲリ、コサギなどまったく見られなくなっている鳥もある。鳥類の個体数の減少は、世界的な傾向であるが、国内でも多くの種の個体数が減少している。特に最近の減少傾向は著しく、身近だった鳥も気がつく姿を消している。この報告は、そんな鳥の市内での状況を記したものである。

No	目名	科名	種名	No	目名	科名	種名
1	キジ目	キジ科	キジ	13	ペリカン目	サギ科	アマサギ
2			コジュケイ	14			コサギ
3			オシドリ	15			チュウサギ
4	カモ目	カモ科	カルガモ	16			ダイサギ
5			コガモ	17			ヨシゴイ
6			マガモ	18			ツツドリ
7	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	19	カッコウ目	カッコウ科	カッコウ
8	ハト目	ハト科	キジバト	20	ツル目	クイナ科	ホトトギス
9			ドバト	21			クイナ
10	カツオドリ目	ウ科	カワウ	22			オオバン
11	ペリカン目	サギ科	アオサギ	23	バン		
12			ゴイサギ	24	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ

No	目名	科名	種名	
25	チドリ目	チドリ科	コチドリ	
26			タゲリ	
27		シギ科	イソシギ	
28			キアシシギ	
29			クサシギ	
30			タシギ	
31	オオタカ			
32	タカ目	タカ科	ツミ	
33			ハイタカ	
34			トビ	
35			サシバ	
36			ノスリ	
37	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	
38	キツツキ目	キツツキ科	アリスイ	
39			アオゲラ	
40			アカゲラ	
41			コゲラ	
42	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	
43			コチョウゲンボウ	
44			ハヤブサ	
45	スズメ目	カササギヒタキ科	サンコウチョウ	
46		モズ科	モズ	
47		カラス科	オナガ	
48			カケス	
49			ハシブトガラス	
50			ハシボンガラス	
51			ミヤマガラス	
52		シジュウカラ科	シジュウカラ	
53			ヤマガラ	
54			ヒガラ	
55			ヒバリ科	ヒバリ
56			ツバメ科	ツバメ
57			ヒヨドリ科	ヒヨドリ
58			ウグイス科	ウグイス
59			ヤブサメ	
60	エナガ科		エナガ	

No	目名	科名	種名
61	スズメ目	ムシクイ科	メボソムシクイ
62		メジロ科	メジロ
63		ヨシキリ科	オオヨシキリ
64		セッカ科	セッカ
65		ミンサザイ科	ミンサザイ
66		ムクドリ科	ムクドリ
67			コムクドリ
68		ヒタキ科	ジョウビタキ
69			アカハラ
70			シロハラ
71			ツグミ
72			クロツグミ
74			トラツグミ
76			ルリビタキ
77			オオルリ
78	キビタキ		
79	スズメ科		スズメ
80	セキレイ科	キセキレイ	
81		セグロセキレイ	
82		タヒバリ	
83	アトリ科	ハクセキレイ	
84		ピンズイ	
85		カワラヒワ	
86	アトリ科	シメ	
87		イカル	
88		ベニマシコ	
89		アトリ	
90		ウソ	
91	ホオジロ科	アオジ	
92		クロジ	
93		ホオジロ	
94		ホオアカ	
95		オオジュリン	
96		カシラダカ	
97	チメドリ科	ガビチョウ	
98		カオグロガビチョウ	

サギ科 アオサギ

90年代になってから市内では普通に見られるようになった。70年代に初めて見たときには鶴が飛んでいると勘違いするほど大きな色彩豊かなサギである。サギ類とツル類との違いは、飛んでいるときに首を折りたたみ短くするのがサギ類、首をまっすぐに伸ばして飛ぶのがツル類である。サギ類は一般的にグエーと鳴くだけで、声が悪い。他のサギ類と混じって集団繁殖（コロニー）を形成するが、単独でも繁殖する。現在でも東平で繁殖している場所がある。



アオサギ

サギ科 ダイサギ

アオサギに次ぐ大きなサギで、全身が白い、シラサギと呼ばれる仲間では一番の大きさである。嘴は黄色、繁殖期には黒く変わるが、背中に生える蓑羽くちばしを立てると美しい。以前には個体数は少なかったが、最近河原、水田に見かける白いサギはほとんど、このダイサギである。魚類やカエル類を捕食する。



ダイサギ

サギ科 コサギ

全身の白いサギの仲間は、ダイサギ、チュウサギ、コサギがいる。この3種の内では一番小さいのがコサギで、ダイサギの半分くらいの大きさしかない。足指の黄色が特徴である。市内では1年を通して普通に見られた種であったが、最近ほとんど見られなくなった。



コサギ



ゴイサギ

サギ科 ゴイサギ

夜、クワツ、クワツと鳴きながら飛ぶ声を聞く。闇に紛れているので、姿を見ることも無かったが、名前だけは覚えていた。最近では白サギの集団繁殖地内に多くの個体が混じり繁殖している。写真は成鳥で頭には白い冠羽が2本あり、意外に美しい。その姿から宮廷で五位の位をもらったという故事があり、名前になっている。ただし幼鳥は茶色で斑点のある目立たない色をしている。夜行性なのだが繁殖期は昼間も餌採りに忙しく活動する。



ササゴイ

サギ科 ササゴイ

子供の頃、上沼や市野川に魚釣りに行くとき、岸辺からキョーと一声鳴いて飛び逃げていったのがこの鳥。ゴイサギだと思っていたが、この鳥はササゴイであり、別種と分かった。市内では松山神社や箭弓稲荷神社など大きなスギの森がある場所で繁殖していた。この鳥は魚食をするが、時に疑似餌を使った漁をすることが知られている。現在は埼玉県内では生息は稀になり、見ることは難しくなった。今回の調査でも一度も見られていない。



カッコウ

カッコウ科 カッコウ

もっともポピュラーな名前で、鳴き声のとおりであるが、最近では個体数が減少して、見かけることは稀になった。調査では宮鼻地区で記録があった。他種の巣に自分の卵を預け、子供を育ててもらおう托卵行動が有名である。托卵は個体毎に宿主(托卵する

相手)が決まっています、オオヨシキリ、モズ、オナガ、ホオジロなどに托卵する。托卵方法は自分の卵を1個だけ宿主の産卵中の巣に産み込み（右写真・下側中央1個がカッコウ卵、他5個はオオヨシキリ卵）、宿主卵より早く孵化して、雛は宿主の卵を自分の背中に載せて、巣の外に落として、巣を



カッコウの卵（下中央）

独占し仮親に育ててもらふ。しかし、宿主の親はカッコウの卵を自分の卵と見分けて排除する個体もいて、カッコウの卵は生き残るために仮親の卵に似た卵になり、仮親は見分ける能力を向上させている。この盾と矛の関係を軍拡競争と呼び、共進化の手本になり、研究者も多い。しかし、仮親は雛が孵化して巣を独占した後は、どんなに自分の子供と似ていなくても排除する能力は獲得していない。

ところが、最近の研究ではオーストラリアなどの南半球では、卵は見分けないが、孵化した雛を見分けて排除する鳥もあることが判り、カッコウ類の研究は新たな段階に入っていることが報告されている。

カッコウ科 ホトトギス

5月中旬過ぎになると渡来してくる夏鳥で、平安時代から和歌にも詠まれている。トッキョ、キョカキョクと聞こえる声で、雄は盛んにさえず囀る。夜間にも鳴いて移動する個体もいて明け方暗い内に鳴き始める。雌は雄のように鳴かず、ピッピッピッと鳴くだけある。ウグイスに托卵をして、宿主のウグイス卵に非常に良く似た赤い卵を産む（右写真・上側左1個がホトトギス卵、他3個はウグイス卵）。雛は宿主の卵を棄て、巣を独占して仮親に育てられる。



ホトトギス



ウグイス卵とホトトギス卵



アオゲラ



コゲラ



イカルチドリ

キツキ科 アオゲラ

分布は北海道を除く日本国内だけで、北海道には良く似たヤマゲラが分布する。サクラやクリなどの生木や枯れ木などに穴を開けて繁殖する。ピョーピョー、ケツケツケツ・・・と鳴く。年間を通して生息し市内でも繁殖しているが、最近は少し個体数が減少している。

キツキ科 コゲラ

小型のキツキでスズメくらいの大きさ、ギー、ギーキツキツと鳴き、木を登っていくのをよく見る。1970年代以降に山林に枯れ木が多くなった頃に、個体数も増加し、庭や公園などでも普通に見られたが、現在は、また個体数が少なくなり、目撃例も少なくなった。

チドリ科 イカルチドリ

都幾川の河原では以前には多くの個体が繁殖していたが、最近は少なくなった。河原の小石や砂の混じった地上に巣を造り、子育てをする。卵は保護色をしていて、周りの石と非常に良く似た色をしている。また、親鳥も羽色も隠蔽色で、抱卵中の親鳥を遠くから見つけるのは難しい。抱卵期の親鳥は外敵が近づくと、静かに巣を離れ、遠くから見守っている。都幾川では河原に草の繁る場所が増え、繁殖場所が少なくなり、さらに川遊びに来る人や車に巣を潰され、繁殖成功率は良くない。

タカ科 オオタカ

オオタカは1970年代には東松山市周辺には生息していなかったが、1980年代から増加して、あちこちで目撃できるようになっている。雄はカラスと同じ大きさで、雌は少し大きい。鳥類や小型の哺乳類などの生きた獲物を捕り、食べる。成鳥はお腹が白く、背はスレート色をしていて、黄色い虹彩を持つ、精悍な鳥である。オオタカの名前は大きい鷹ではなく、背中の青みがかったスレート色からきていて、漢字名では蒼鷹と書く。



イカルチドリ巣と卵



オオタカ雄成鳥

タカ科 サシバ

市内の丘陵地などで、1970年代には優占していた、カラスより少し小さめのタカ類で、夏鳥として4月に渡来し、ピククイー、ピククイーと盛んに鳴く姿を目撃したが、最近、市内ではほとんど見ることはできなくなった。全国的にも減少中で、環境省の絶滅危惧Ⅱ類にも指定されている。カエルやヘビ、昆虫などを捕食している。



オオタカ



サシバ



サシバ雄成鳥



カルガモ

カモ科 カルガモ

国内で一年中見られるカモ類で、個体数も多く、河川や池などに生息する。ゲュー・・・と濁った声で鳴き、黒い^{くちばし}嘴の先端の黄色が特徴。都会では巣場所から池へ引っ越す光景が話題になるが、市内でも繁殖していて、池の周りや、水辺から離れた林の開けた林縁にも巣を造る。



カワセミ

カワセミ科 カワセミ

市内の河川に生息している。ツイーと鳴いて、水面上を直線的に飛んで行く青い背中が見える。以前より個体数は減少しているものの、川岸の道を注意深く歩いていれば、出会うこともできる。魚食で、小さい魚を捕食し、小さな垂直の崖に横穴を掘って繁殖する。



ヨタカ

ヨタカ科 ヨタカ

以前には市内の森に居たが、今回の調査では目撃できていない。50年前には滑川町の月の輪から市内に暗くなってから戻ってくる道で数個体を数えたくらい普通にいた。キョキョキョ・・・と鳴く。現在は国内でも個体数が激減して、ほとんど出会うことも無くなった。森林の伐開した裸地の地上に巣材も敷かず、卵を2個産む。以前に観察したペアは雌が一日の内の80%以上を抱卵していた。雄は10%程度で、昼間は雌が暑さに耐えて、動かず抱卵を続けていたのには驚嘆した。写真は雌個体で、木の枝に沿って止まり、静止している。

ハト科 キジバト

山バトと称される。デッデッポー・・・と鳴き、ハト類のなかで最も普通の種である。市街地でもよく見かけ、庭などでも繁殖している。秋に翼を広げ滑空して、なわばり誇示飛翔をする姿をよく目撃する。繁殖期は長く春から晩秋まで巣が見られる。



キジバト

キジ科 キジ

日本の国鳥であるが、狩猟の対象になっている。雄は春には開けた場所に出て少し濁った声で羽ばたきホケー、ホケーと力強く鳴き、なわばりを主張する。この時期が一番目立つ時で、繁殖が始まると静かになり、姿もあまり目立たなくなってしまう。一夫多妻の繁殖システムをもっていて、雄は複数の雌を従えている。



キジ

ウグイス科 ウグイス

有名な鳥であるが、意外に姿は知られていない。藪の中に棲んでいて見かけることは少なく、目立つ場所に出るのは繁殖期の始まり頃だけである。体色はウグイス館の色とはまったく違っている。この鳥も一夫多妻の繁殖システムをもっていて、雄はさえず囀り、なわばり防衛、外敵などからの警戒などをして、谷渡りと呼ばれるケキョケキョ・・・という鳴き声は警戒している声である。雄はスズメより小さい鳥で、雌はさらに小さい。抱卵から子育ては雌だけで



ウグイス

行かう。アズマネザサの繁茂と共に個体数は増えたが、雛が巣立つ繁殖成功率は驚くほど低く、20%以下である。冬も山林に残り、チャチャチャ・・・と鳴く。



エナガ

エナガ科 エナガ

国内に住んでいる鳥の中でも小さい部類に入る。夏の終わりから春までシジュウカラ類と共に混群をつくり、群になって林を移動するのを目撃する。またこの種だけでも10羽前後の群をつくり、生活していて、群のなかの個体間の結びつきは強い。春には雌雄のペアとなって、苔や植物をクモの糸で巣をつくり、中には鳥の羽を多量に運び入れる。羽毛布団のようで暖かい。



オオヨシキリ

ヨシキリ科 オオヨシキリ

水田や河川の水辺のヨシ原でギョッギョッシ、ギョッギョッシと賑やかな声で鳴いている。大きく開けた口の中は赤い。夏鳥で5月に渡来し、ヨシ原内に巣をつくり繁殖する。一夫多妻で繁殖するが、数羽の雌を獲得するもの、1羽だけの雌しか獲得できないものもいる。



ホオジロ

ホオジロ科 ホオジロ

開けた草原や林縁に生息し、市内でも繁殖している。以前、市内では多い鳥であったが、最近は少なくなった。冬、多くの個体が北から渡ってくるので、草原でも良く見かける。50年以上前にはカッコウに頻繁に托卵を受けた記録もあるが、最近はほとんど無い。この小さい鳥は、自分の卵と托卵されたカッコウ卵を見分けて、托卵された卵を排除してしまうことも実験的に確かめられている。どこにこの小さい鳥にすごい能力があるのか、驚嘆する。

セキレイ科 セグロセキレイ

中流域の河川に生息する代表的なセキレイの仲間であり、市内の川でも普通に見られる。川の瀬が採食場所で、強いなわばりをもち、雌雄の2羽で餌を採っている。隣の個体とは目に見えないがなわばりの境で、鳴き合いながら争う。時には体が触れ合う直接攻撃もある。しかし、なわばり防衛行動が強い彼らも、夜には数十羽の集団になり、街路樹などに^{ねぐら}峙をとる。夜間は餌資源を守るよりも、フクロウなどの捕食者から自分の身を守ることが優先し、互いの利害関係が合致し、一時休戦である。夜が明ければ、またなわばりに戻り生活する。



セグロセキレイ

セキレイ科 ハクセキレイ

今では繁殖している姿をよく見かけるが、30年くらい前には冬にしか目撃できない鳥であった。セグロセキレイのよく見られる河川敷には、あまり姿を見せない。農耕地など開けた地面のある場所で採食している。この鳥も夜間には集団で^{ねぐら}峙をとるが、1000羽を超える大きな集団になり、明るい、交通量の多い交差点の電柱や電線に並んで眠っている。



ハクセキレイ

ヒタキ科 キビタキ

夏鳥で4月下旬には東南アジアから渡来する。広葉樹の林に住み、良い声で複雑な^{さえず}囀りを行う。スズメより小さい鳥で、写真は雄で、雌は茶色で目立たない。繁殖は一夫一妻で、強いなわばりを持っている。国内に渡来する夏鳥のほとんどは個体数が減少しているが、この鳥は近年になって、市内の林や、周辺の町の林でも生息確認が増えている。



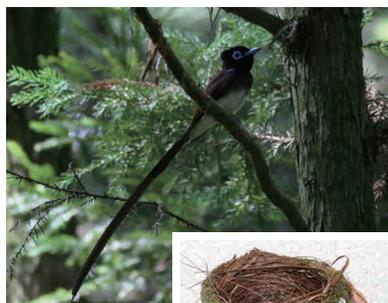
キビタキ



ジョウビタキ

ヒタキ科 ジョウビタキ

ヒッ、カチカチと尾を振りながら鳴く。秋10月下旬には冬鳥として渡来する。写真は雄で、雌は褐色で地味な色をしているが、翼の中央にある白い斑点が目立つ。鳴き声通りヒッカチとか、紋付鳥とかよばれることがある。人も恐れず庭にもやってきて、ウメモドキなど小さい木の実やミミズなどの動物を捕食する。



サンコウチョウ



サンコウチョウの巣

カササギヒタキ科 サンコウチョウ

ツキヒーホヒ、ホイホイと聞こえる声で鳴く。5月に渡来して、薄暗い林に生息する。身体はスズメくらいだが、雄は30cmもある長い尾をもつ。50年も前には市内のあちこちの林に生息、繁殖していた。最近は何体数が減少して、見ることは難しくなった。インドネシアのスマトラ島で越冬していると言われるが、越冬地では森林が大規模に減少し、その影響もあると考えられる。



シジュウカラ

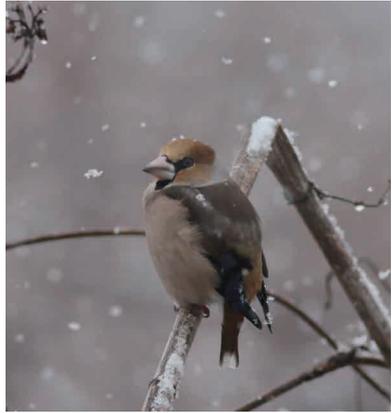
シジュウカラ科 シジュウカラ

シジュウカラ科の中で一番ポピュラーな鳥で、庭などにもやって来る。胸から腹にかけて黒い羽が帯になっている。巣箱などもよく利用して繁殖する。庭の巣箱での繁殖成功率は高いようだが、林での繁殖はアオダイショウの捕食が多く、成功率はかなり低い。最近の研究で音声(言葉)による複雑な伝達をすることが分かり、例えば雛が大きくなった頃にはへビが捕食者であれ

ば、一斉に巣箱から飛び出して逃げることを、捕食者がカラスであれば静かにして、親鳥の合図で逃げるタイミングを決めることが分かってきた。

アトリ科 シメ

冬にやってくるスズメより一回り大きな小鳥であり、植物の大きな種を割り食べるために頑丈で太い嘴くちばしを持っている。鳥類標識調査で捕えた時に噛まれる事があるが、ペンチで挟まれたように痛い。普通、単独や小さい群で動いているが、オオブタクサの種が落ちている堤防などでは200羽を超えるような群になる。春になると嘴は青い色を帯び、北海道やさらに北の繁殖地へ戻っていく。



シメ

スズメ科 スズメ

住宅地に住む、もっとも身近な鳥であるが、人への警戒心は強くもっている。最近では全国的に個体数が減少していると言われている。屋根の穴などで繁殖するこの鳥には、現代の家の作りは巣場所である隙間が無くなっているため、住宅難から減っているとも考えられている。繁殖期に親の嘴くちばしは黒く、雛は嘴の根元が黄色い。嘴の黄色は若輩の代名詞になるが、実はスズメは冬には成鳥も嘴の根元が黄色くなる。スズメの年齢を見分けるのも難しいものだ。繁殖期はペアで住宅地に住むが、夏の終りから農耕地で集団になっている。



スズメの親子



ツバメ

ツバメ科 ツバメ

この鳥も身近な鳥であるが、個体数は減少している。家の軒下に巣を造り繁殖する。ヨーロッパの近縁種の研究では、尾の長い雄は雌にもてて、早く繁殖に入れるという。尾が長いと飛翔時に空気抵抗を受けるので生存にマイナスだが、それでも生き残っているのは優秀な雄というわけで、優秀な個体と番^{つがい}になり、優秀な子孫を残そうと雌が選択するという。一夫一妻で繁殖するものの、劣位の雄と番^{つがい}になった雌は、積極的に優秀な雄と交尾して、優れた子孫を残そうともするという。浮気をされた雄は、自分の子供か分からないので、子育てにあまり熱心にならないのも。なんとシビアーな世界だろうか。



ヒバリ

ヒバリ科 ヒバリ

農耕地や河原などに生息している。最近では、個体数は減少しているが、早春の晴れた日に囀^{さえず}る声を聞くと、春になったと強く感じる。春から夏には、囀^{さえず}る声が賑やかだが、夏の終りと共に、何処にいるのか判らなくなる。少数の個体は残っているが、他の個体は移動しているようだ。ただし、何処へ行っているのか不明だ。名前の良く知られた鳥でも、生態は未だに良くわからないことが多い。



ヒヨドリ



ムクドリ



メジロ

ヒヨドリ科 ヒヨドリ

森にも市街地にも現れ、ヒーヨ、ヒーヨと高い声で鳴く、どこでも見られ、庭の木の実などを食べ、嫌われることも多い。さらに、数十羽の群で移動しながらブロッコリーや野菜類を食べ、さらに嫌われる。春や秋には100羽以上の群になり、渡りをする。秋、愛知県の伊良子崎では半島の突端から群で飛び出すと、海の上でハヤブサに襲われ、犠牲者をだしながら岬に戻ってくる。一見に値する光景である。渡りは命懸けのイベントのようだ。

ムクドリ科 ムクドリ

樹洞や屋根、戸袋の隙間などに巣を造るので、電線や屋根やアンテナなどに止まっているのをよく見かける。繁殖期はペアだが、他の時期には群になる。夜の^{ねぐら}時は数千から数万羽になることもあり、鳴き声の騒音、落ちる糞で問題になり嫌われる。そんなことが無ければ、^{ねぐら}時に入る頃のマスゲームのような飛翔行動はすばらしい光景だ。それと、もう一つ、彼らの産む卵は水色をしていて美しい。

メジロ科 メジロ

目の周りに白い帯、名前の通りだが、おとなしく可愛い鳥である。繁殖期が終わった後には小さい群をつくることもあるが、ふだんは雌雄のペアで行動している。雌雄の判別が難しく、この鳥を研究していて有名な鳥類学者の橘川先生も、初めはどのように雌雄を鳥が判断しているのかわからなかったと言っていた。ところが、市内の昔の子供は雌雄を見分けた。地鳴き（^{さえず}囀りではない冬の鳴き方）が雌雄で異なるのである。それと、ウグイス餡の色はこの頭部の色。



モズ♂



オナガ



ハシボソガラス

モズ科 モズ

秋になるとけたたましく鳴く声が良く知られている。秋から冬には雌雄共に単独でなわばりを持って生活している。畑の梅の木の枝には、コオロギの頭が首狩り族のよう^{はやにえ}に刺してあるのを見かける。そんな早贄は秋の風物詩だ。

嘴が強く、捕えたバツタなどを木の尖った枝に引っ掛けて、分解しながら食べる。食べきれない獲物は枝に刺したまま貯食する。早春には繁殖を始めるが、市内では、ほとんどの個体が1回目の繁殖が終わると、5月中旬には移動する。高地や北へ向い、再繁殖する。9月に入ると戻ってくる。

カラス科 オナガ

体羽はパステルカラーできれいだが、鳴き声はゲー、ゲーと濁る。20羽くらいの群で生活するが、市内ではずいぶん個体数が減少し、群のサイズも小さくなった。国内では関東から東北地方にかけて分布する。世界的に見れば、中国とポルトガルにも亜種がいて、珍しい分布を示している。そのため、外国人のバードウォッチャーには人気があるようだ。

カラス科 ハシボソガラス

農耕地に生息するカラスで、ガァー、ガァーと濁った声で鳴く。市内では以前はほとんどこの種であったが、最近は少し減っているように感じる。カラスは一夫一妻で繁殖する。強いなわばりを構え、同じ

カラス類のハシブトガラスとも種間でも争い、雛が巣立つと家族群をなつて、雛が独立するまで世話をする。繁殖が終わる秋になると、群になり、夜には大きな集団ねぐらをつくる。時入りは、日没前に小集団ねぐらになり、日没時にはねぐらへ集団で向かう。

カラス科 ハシブトガラス

森林や都会に多く生息する。以前はあまり見かけなかったが、現在は市内でも街の中に住んでいるのはこのカラスがほとんどである。くちばし嘴が太く、カーカーと鳴く。ハシボソカラスより少し身体が大きいが、警戒心は強い。集団でゴミなどを漁り、繁殖期には巣立った雛を守るために人に攻撃をすることもあつた。夜は集団でねぐらをとり、ハシボソカラスと混じることもある。



ハシブトガラス

チメドリ科 ガビチョウ

中国原産で、市内では20年前頃に侵入した。環境省から特定外来種に指定され、同じ環境に住む在来種への影響が心配されている。今では市内の全域で見られ、個体数も多く、庭にも現れる。ムクドリくらいさえずの大きさで、地上や低木内を移動し、春から秋までの長い期間、さえず囀りが聞こえる。色々な他種の鳴き真似が得意で、どれが本来のさえず囀りなのか分からなくなる。藪の中に巣を造り、水色のきれいな卵を産む。



ガビチョウ

哺乳類

国内のほとんどの哺乳類は夜行性のため、人の活動時間と重複しない。この昼間の目視調査では哺乳類を確認することは難しく、足跡、糞痕、あるいは事故物件などから生息確認をすることがほとんどで、活動する個体を目撃できることは少なかった。

以前は中型から大型の哺乳類は以前には人里にはほとんど現れなかったが、最近ではタヌキやキツネ、イノシシやシカなどの生息痕が頻繁に見られるようになっている。また、外来の哺乳類も増加して、アライグマ、ハクビシンなどが農作物の食害や人家などへの侵入が問題を起している。この調査でもゴミムシ類を捕獲するための腐肉を使ったトラップが、タヌキなどによって食べられてしまい、調査が行えなくなっている。

調査時に確認できたのは以下の9科10種であるが、調査時以外に多くの種が確認できている。都幾川ではニホンイノシシ、アナグマ、ヒミズ、トガリネズミ、休耕地ではカヤネズミ、住宅地ではクマネズミ、ハツカネズミが見られている。

夕方にはコウモリの飛翔を見ることもあり、自宅の庭にはアブラコウモリを拾得したことがあった。コウモリ類は他の種の目撃もあるが判別できていない。また、隣接している滑川町羽尾でホンドテンの交通事故個体を見たことがある。

調査での出現種			
群No	分類群	科名	種名
1	哺乳類	アライグマ科	アライグマ (足跡)
2		イタチ科	ニホンイタチ (種同定未確認)
3		イヌ科	ホンドキツネ
4			ホンダタヌキ
5		イノシシ科	ニホンイノシシ (足跡)
6		ウサギ科	ノウサギ
7		シカ科	ニホンジカ
8		ジャコウネコ科	ハクビシン
9		ネズミ科	アカネズミ
10			カヤネズミ
11	モグラ科	モグラ科 sp (アズマモグラ未確認)	

シカ科 ニホンジカ

最近では都幾川の河原では足跡がよく見られる。多くはないが、複数頭がいるようだった。河川に沿って下流まで行っているらしく、川島町でも河川敷で畑を作っていた人も目撃したという。



ニホンジカ



シカの足跡

ウサギ科 ノウサギ

山林内で時々出会うが、走り逃げていく音だけで、姿はあまり見えない。ところが、林に囲まれたような静かな空地には昼間から出てきて草を食べている。でも警戒心は忘れず、耳をたてて周囲を気にしている。



ノウサギ

ネズミ科 アカネズミ

山林に住む小型のネズミで、普段は見ることも難しい。



アカネズミ



ホンドキツネ

イヌ科 ホンドキツネ

昼間は姿を見ることがあまりないが、薄暗くなった頃には活動しているのを見る。畑に足跡が続くのを見ることが多い。



ホンドタヌキ

イヌ科 ホンドタヌキ

夜行性なので昼間見ることは少ないが、時々、活動している個体を目撃することもある。個体数は多いようで、河原や畑などで足跡はよく見かける。冬にはふさふさした毛と模様の無い尾が特徴。本種と同じ大きさのアライグマは尾に輪状の模様がある。昼間活動している個体は、疥癬かいせんにかかり、毛が抜け落ちて痛々しい姿のことがある。痒くて休んでもいられないのかもしれない。



ニホンイタチ

イタチ科 ニホンイタチ

川岸に沿って獲物を探している姿を見かける。時には水の中にも平気で入る。石の上に目立つように糞をして、なわばりを示している。

爬虫類

爬虫類はヘビ類2科4種、トカゲ類2科2種、カメ類2科2種を確認した。

ヘビ類はマムシ、アオダイショウ、ヤマカガシ、ヒバカリの4種であるが、いずれも個体数は少ない。中でも一番よく見られたのはアオダイショウで、各調査地で確認できている。ヘビ類は高次捕食者に分類されるが、最近の個体数の減少は著しい。筆者はかつてこの4種の他に、シマヘビ、ジムグリ、シロマダラを市内で確認している。ヘビ類の減少は最近、イノシシ、アライグマ、ホンドタヌキなど大型哺乳類が里地で増殖して、捕食による圧力が大きいと考えられる。

トカゲ類は2科2種でニホンカナヘビ、ホンドトカゲである。カメ類は外来種のクサガメとミシシッピーアカミミガメを確認した。調査外では都幾川でスッポンも目撃している。

クサリヘビ科 ニホンマムシ

国内に分布する代表的な毒ヘビであるが、性質はおとなしく、近くを通っても攻撃してくることは稀である。地上にいて保護色をしているので、見逃してしまいそうになる。近くに居ると、まったく動かずにいるが、その場を離れるとすぐに移動してすぐに隠れる。身体は短く、成体になっても40～50cm程度の大きさ、銭形模様の斑紋は美しい。林地で時には出会うが、あまり多くはない。

調査での出現種			
群No	分類群	科名	種名
1	爬虫類	カナヘビ科	ニホンカナヘビ
2		クサリヘビ科	ニホンマムシ
3		スキング科	ホンドトカゲ
4		ナビヘビ科	アオダイショウ
5			ヤマカガシ
6			シロマダラ
7			ヒバカリ
8		ヌマガメ科	クサガメ
9			ミシシッピー アカミミガメ



ニホンマムシ



ニホンマムシ頭部



アオダイショウ



ナミヘビ科 アオダイショウ

市内に生息するヘビ類の中で、一番普通に見られる。大きい個体では150cmにも達する。敏捷に活動し、地上から樹上まで多くの環境に見られる。ネズミ類や鳥類の巣や親を襲って捕食する。水にも潜るので、ウナギのようだが、川で出会うと異様でびっくりする。



ヤマカガシ



ナミヘビ科 ヤマカガシ

市内では以前には多く見られたが、最近は個体数が減少し、あまり見かけなくなった。臆病で人が近寄るとすぐに逃げて隠れる。大きいものでは100cmに達するが、そんな大きな個体に最近は出会ったことはない。近年になって知られてきたが、奥にある牙歯に強力なコブラと同じ出血毒を持っている。

ナミヘビ科 シロマダラ

山地に住む小型の種で 50cm くらいになる。個体数は少ないのと、夜行性のため目撃例は限られる。横縞模様が美しく、おとなしく、攻撃的ではない。2017 年の 9 月 3 日に市民の森で、水抜きのパイプ穴に隠れていたのを発見した。



シロマダラ

カナヘビ科 ニホンカナヘビ

普通種で市内の各地に分布し、住居地内の庭などでも見られる。成体でも 20cm くらいのおおきさで褐色をしている。素早く敏捷に活動し、昆虫などを捕食している。



ニホンカナヘビ

スキク科 ホンドトカゲ

成体では 20cm くらいになり、雌は光沢のある赤茶色をしているが、雄は青色の混じった光沢のある綺麗な体色をしている。林地から農耕地、住宅地まで広く分布している。



ホンドトカゲ



ニホンヤモリ

(参考)

ヤモリ科 ニホンヤモリ

調査では記録は無かったが、市内の民家には生息している。昼間は物陰に隠れているが、夜になると活動を始め、窓や玄関の明かりに集まる虫を食べにやってくる。なんか愛嬌があって飼ってみたいくなるような気持ちになる。夜は昼間と違って、素早く動き、近寄るとすぐに逃げてしまう。



クサガメ

ヌマガメ科 クサガメ

かなり前に帰化した種で、平地の湿地に生息する。市内での自然分布はよくわからない。滑川で生息が確認できた。昔は夜店でも売られていたこともある。荒川の下流部の浦和市（現さいたま市）秋ヶ瀬の湿地では1990年代に自然繁殖をした多くの個体が見られたのを記憶している。甲羅にある亀甲模様は黄色で目立つ。体からの分泌液が臭いことから名前がついている。



ミシシippアカミミガメ

ヌマガメ科 ミシシippアカミミガメ

外来種で、名前の通り北アメリカの原産である。頭の耳の部分が赤く、よく目立つ。以前は夜店などでミドリガメとして大量に売られていた。成体では30cmくらいになり、飼いきれなくなった個体が川に放されたようで、現在は市野川、滑川、市内各地の溜め池などでよく見られる。自然状態で繁殖しているようで、特定外来種に指定されているものの、個体数は増加している。

両生類

市内では両生類はカエル類が8種、サンショウウオ類が1種を確認した。

調査での出現種			
群No	分類群	科名	種名
1	両生類	アオガエル科	カジカガエル
2			シュレーケルアオガエル
3		アカガエル科	ウシガエル
4			トウキョウダルマガエル
5			ニホンアカガエル
6			ヌマガエル
7		アマガエル科	ニホンアマガエル
8		サンショウウオ科	トウキョウ サンショウウオ
9		ヒキガエル科	ヒキガエル

ヒキガエル科 アズマヒキガエル

幼生は黒いオタマジャクシ、池にうようよと湧いて泳いでいたことや、庭でのそのそと動いて、踏みそうになってびっくりした経験はちょっと年配の人はあるだろう。山の池でゲコゲコ・・・とカエル合戦を目撃したこともあるだろう。鏡のなかで脂汗を出して万能薬になったという口上、これはさらに昔のはなしだけれど。こんな逸話の絶えない生物がヒキガエル（和名はアズマヒキガエル、別名はガマガエル）である。ところがこんな何処にも居た人気者が、もうまったく見られない。この調査では2005年市民の森で1匹目撃しただけで、他の場所での記録はない。もう、市内では絶滅したかもしれない。

黒いオタマジャクシが妙に懐かしいのだが、何処かにいないのだろうか？



アズマヒキガエル



ヒキガエル幼生



トウキョウダルマガエル

アカガエル科 トウキョウダルマガエル

トノサマガエルと称されていたが、市内に分布するのはトウキョウダルマガエルである。水田などの湿地に生息するが、数十年前は市内全域で見られていたが、指に吸盤は無く、コンクリートで垂直になった水路では壁を登ることができず、下流に流され失われてしまう。現在での生息地は限られ、個体数も少数になっている。



ヌマガエル

アカガエル科 ヌマガエル

最近になり関東地方へ分布を拡大している。関西系の種で、10年以上前から荒川やその北部では生息確認があったが、2015年には滑川町、2016年には市内の滑川町に隣接している地域で確認した。身体には小さいいぼがあり、薄いクリーム色の体中線のある個体もいる。本庄市などでは水田で見られる種は本種だけになり、個体数も比較的多い。市内でも水田に分布を拡大すると考えられる。畑地でも見られ、乾燥に強いようだ。



ニホンアマガエル

アマガエル科 ニホンアマガエル

雨の降りそうな時になると、ケツケツケと盛んに鳴き出すのが本種で、水田で見られるオタマジャクシの大半も本種である。指には吸盤があり、垂直のコンクリートの障害物も登れ、水路のコンクリート化でも影響を受けずに生息数を維持している。庭の樹木にも登り葉陰に隠れている個体も見かける。植物の上にいるときには緑色、土

の上では緑に褐色が混じった色など、周りの環境色に合わせた多様な体色になる。

アカガエル科 ニホンアカガエル

褐色の赤みがある種で、少しスマートな体型をしている。以前には普通種であり、個体数は多くないが、ときどき見られる種である。しかし最近では個体数が減少、市内では上唐子の都幾川で2017年3月初旬に卵塊を3個確認したが、稀に見られるような種になっている。近隣の山に近い場所にはヤマアカガエルがいるが、市内では見られていない。



ニホンアカガエル

アカガエル科 カジカガエル

4月になると唐子から高坂までの都幾川で鳴き声が聞こえる。近寄ると鳴き止み、姿を見るのは難しい。体長5cmくらいの小さいカエルで河原の石に似た体色をしていて、すぐに水に潜ってしまう。清流に生息する種で、市内では市野川や滑川には分布しない。都幾川が清流である証であるが、個体数は減り気味に感じる。この種がいつまでも存続してくれることを願っている。



カジカガエル

アカガエル科 ウシガエル

沼や池に棲む大型の種で、ボーボーと大きな声で鳴くのはご存知であるだろう。外来種で1918年にアメリカから持ち込まれた。オタマジャクシも大型で体長10cmもある個体もいる。



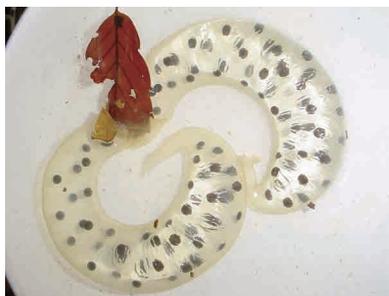
ウシガエル



シュレーケルアオガエル

アオガエル科 シュレーケルアオガエル

谷津などの水田に春先にケツケツケ・・・と鳴いているが、近寄ると声を潜め、姿を見ることは難しい。アマガエルと同じような薄緑色の体色をしていて、水田に水が張られると、産卵を行い、泡の塊になった卵塊を見ることができる。しかし、市内での個体数は減少していて、多くは見られない。



トウキョウサンショウウオ卵

サンショウウオ科 トウキョウサンショウウオ

成体は 15cm くらいだが、ほとんど見ることではない。よく出会うのは林の中の小さな水溜りに産まれた、三日月型で対になった卵囊^{らんのお}だけ。市民の森では 2005 年と 2013 年にも確認できている。絶滅危惧になって久しいが、それでも市内で見つけることができた。しかし、最近は何処を探しても、見つからない。本当に市内では絶滅してしまったかもしれない。本種は外来種であるアライグマが捕食すると聞く、またイノシシも食べていると聞く。この雑食性の中型から大型の哺乳類は 2000 年を過ぎた頃から生息数が急激に増加している。このような大型の哺乳類の出現により、浅い水辺に生息していた小さな生物が、深刻な絶滅危機を迎えている。



トウキョウサンショウウオ

(参考)

アカガエル科 ヤマアカガエル

山地に分布するアカガエルの仲間で、市内では見たことが無い。都幾川の上流部の堰堤内の溜り水の中で、多数の個体が集まり、産卵をしていたのを見たことがあるが、鳴き声が賑やかで、何事?と思った記憶がある。



ヤマアカガエル

アカガエル科 ツチガエル

以前には都幾川などに分布していたが、今では自然環境の良好な山地に近い沢などでは見られるものの、現在は市内では見られない。この種にヌマガエルは良く似ているので注意が必要である。



ツチガエル

魚類

魚類は 11 科 24 種を確認した。

市内には都幾川、越辺川、市野川、滑川の河川と、その支川となる小水路、多くの溜池などがある。魚種は川によって生息種に違いがあり、川と溜池でも生息種に違いが見られる。河川にはオイカワ（通称ハヤ、ヤマベ）が優占種であり、溜池などの止水域ではモツゴ（通称クチボソ）、ギンプナ（通称フナ）が優占種であった。市内の河川は水が一番澄んでいるのは都幾川で、越辺川、市野川、滑川と続く。都幾川ではオイカワが現在でも優占しているが、1990 年頃と比較すると魚類の個体数は激減していて、見かけの推定では 10 分の 1 以下になっている。個体数の減少も大きい、生息種の変化も大きく、上唐子から元宿までの流域には、50 年も前の 1970 年代以前にはオイカワが優占していたが、ウグイも多く、現在は絶滅危惧種になっているスナヤツメも普通に見られた。この時代にはアユは放流もされ、ギンプナやギバチなども多く生息していた。ただし、コイやニゴイ（通称バカサイ）は居なかった。その後、ニゴイが 1980 年代になると多く見られるようになった。しかし、現在 2016 年ではニゴイは都幾川には少数しか見られず、大きなコイが見られる。都幾川では以前は釣りや投網による漁獲が行われていたが、現在は釣り人も少なく、投網漁を行う人もほとんどいない。越辺川は下流部の一部が坂戸市との境界流域になるが、越辺川も都幾川と同じような魚種が見られる。

市野川は滑川と比べると水の透明度は高いが、都幾川には及ばない。1960 年代の市野川にはギンプナ、ギバチ、スナヤツメ、ツチフキ、オイカワ、ヤリタナゴ、タイリクバラタナゴなどが分布していた都幾川との差違は砂礫底を好むウグイがほとんど見られず、ツチフキやタイリクバラタナゴなど少し泥底を好むような魚種がいる。ただし、現在ではツチフキはいなくなり、タナゴ類もほとんどいなくなった。滑川は吉見百穴前で市野川と合流する。市野川より少し濁りのある水で透明度は低い。現在は大きなコイが見られるが、以前も今も市野川と同じような魚種が見られる。この他にも川に流れ込む小さな堀では、ホトケドジョウがいたが、市内での過去の生息地にはいなくなり、現在の市内に生息しているのか分からない（P70 表）。なおこの種分類は、旧分類に従っていて、最新のものではない。

調査での出現種				
群No	分類群	科名	種名	
1	魚類	ギギ科	ギバチ	
2		キュウリウオ科	アユ	
3		コイ科	アブラハヤ	
4			ウグイ	
5			オイカワ	
6			ヌマムツ	
7			キンブナ	
8			ギンブナ	
9			ゲンゴロウブナ	
10			コイ	
11			タイリクバラタナゴ	
12			タモロコ	



オイカワ（雄）

コイ科 オイカワ

市内の河川、都幾川、越辺川、市野川、滑川で優占する種で、ハヤ、ヤマベなどと地元では呼ばれている。夏には瀬に集合して産卵をする。写真左側は婚姻色をもった雄で、右側は雌で全体銀色である。

調査での出現種			
群No	分類群	科名	種名
13	魚類	コイ科	ニゴイ
14			モツゴ
15		タイワンドジョウ科	カムルチー
16		ドジョウ科	ヒガシシマドジョウ
17			ドジョウ
18		ナマズ科	マナマズ
19		バス科	オオクチバス
20			ブルーギル
21		ハゼ科	カマツカ
22			ジュズカケハゼ類 sp
23		メダカ科	メダカ
24		ヨシノボリ科	ヨシノボリ属 sp



オイカワ（雌）



ギンブナ

コイ科 ギンブナ

子供の頃から、慣れ親しんだ魚である。数種が国内にいるが、市内ではフナの種類にはギンブナ、キンブナ（この2種は通称マブナと呼ばれる）、ゲンゴロウブナ（通称ヘラブナ）など3種が生息している。生息場所は川や沼などだが、近年はオオクチバス（通称ブラックバス）やブルーギルなど外来魚の放流によって数が減り、止水である沼などでは全滅してしまったところもある。

魚類



コイ

コイ科 コイ

かなり昔に大陸から入った外来魚であるが、釣りの対象として親しまれてきた。以前には大きな個体はすぐに釣り人に獲られて、すぐに居なくなったが、最近では都幾川、越辺川、市野川、滑川などには60cmくらいの大きな個体が残り、春には産卵が頻繁にみられるようになった。写真の個体も、春の産卵からの幼魚である。口の下側に短いヒゲがあり、フナ類との形態的な違いが、識別ポイントになっている。



モツゴ



タモロコ

コイ科 モツゴ

沼などで一番親しんだ魚で、クチボソと呼ばれていた。釣りをしていると盛んに餌を持っていくのだが、口は小さく、餌を呑み込まないので、なかなか釣れない。ところが、最近では沼にはほとんど居なくなってしまっている。バスやブルーギルの食害で姿が消えてしまった。今では流のある市野川などでは生息しているが、昔のようにごく普通の種ではなく、珍しい部類になっている。

コイ科 タモロコ

流の緩い川や小水路にも生息する。地元では身体の中央を横にはしる側線の模様から、スギツパヤと呼ばれていた。成魚になっても10cmを超えないような小魚である。



ヌママツ

コイ科 ヌママツ

1970年代にいきなり現れた。関西系の魚で、アユの放流と共に関東にも分布を広げた。

カワムツB型と呼ばれていたが、最近になって緩い流れや堀など住むこの種をヌママツとされ、関西の流のある川に住むカワムツと別種として区別するようになっている。繁殖期には口元にザラザラの突起、追星が出て、体色も赤いストライプが入り変わる。最大でも20cm程度の大きさ。



タイリクバラタナゴ (雌)

タナゴ科 タイリクバラタナゴ

外来種であるが、50年も前から市野川や滑川、あるいは小水路、溜池などの少し濁った流れの緩い場所で見られた。個体数も多く、地元ではタナゴ、アカンベタなどと呼んでいた。雄の体表は虹色のように見える。流れのある都幾川などでは少なかった。



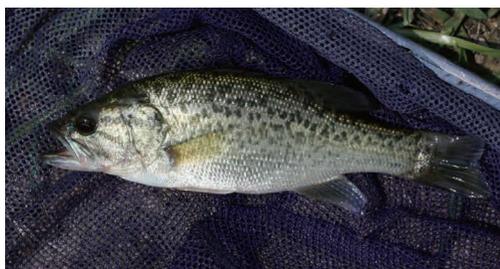
メダカ (雄)



メダカ (雌)

メダカ科 メダカ

在来の種で、最近は個体数が減少し、環境省から絶滅危惧種に指定されている。都幾川の本流にはほとんど居ないが、水田や小さな川や水路には生息している。雌雄の違いは写真のように背びれや尻びれに顕著に表れる。



オオクチバス



オオクチバス

バス科 オオクチバス

近年、人為放流によって沼や池に多く生息している。他の魚を捕食するので、この魚や同じ外来種のブルーギルが入り込むと数年で在来魚は絶滅してしまう。また魚類だけでなく、エビ類や水生昆虫類も捕食するので、生態系に非常に深刻な影響を及ぼす。環境省から特定外来種に指定され、人為放流や移動が禁止されている。



ブルーギル



カジカ

バス科 ブルーギル

この外来魚も近年、人為放流によって池や沼に多数が生息し、環境省から特定外来種に指定されている。背の高い平たい魚で10数cmになる。他種の卵を食べ、昔からいる在来魚に深刻な影響を与えている。ある池で釣りをしてみたが、すぐに釣れ、針を吞んでしまう。よほど空腹なのだろう。池には以前はスジエビやヨシノボリが見えたが、まったく居なくなっている。チョウトンボもコシアキトンボなどのトンボ類も見えない。大きな池だが、食べ尽くされているようだった。

カジカ科 カジカ

きれいな水に棲み、50年前には高坂鉄橋下にもいた。子供の頃は魚獲りに行っても、この魚だけが動かないので、鉈で突くことができる唯一の魚であった。写真の個体は唐子の都幾川で2017年8月に捕えたが、増水したので下ってきたようだ。20年前にした調査では都幾川町の本郷付近から上流には生息していた。



トウヨシノボリ

ハゼ科 トウヨシノボリ

現在はヨシノボリ属 sp とされる。川や池、沼などに生息する。小さな堀などにも幼魚が多数生息している。地元ではダブッカと呼ばれている。成魚で6 cm 程度にしかならない。



ジュズカケハゼ

ハゼ科 ジュズカケハゼ

都幾川に生息しているのを確認した。数十年前にはいなかったが、都幾川ではヨシノボリ類よりも個体数は多い。岸近くに棲んでいるので、静かにしていれば観察できる。



カムルチー

タイワンドジョウ科 カムルチー

ライギョと呼ばれ、60cm にもなる大型の魚で、カエルや他の魚を捕食する。藻を集めて巣を作り、親は卵を守り、孵化後は幼魚を守る。以前は市野川などの旧川にもいたが、オオクチバスなどに駆逐されたのか、藻のあるような川では見られるものの、池や沼では見られなくなった。

表 市内の3河川での魚類生息種の変遷

群 No	科	種名	都幾川		
			60～70年	90年代	03～17年
1	ウナギ科	ニホンウナギ	○	?	?
2	ギギ科	ギバチ	○	○	○
3	キュウリウオ科	アユ	○	○	○
4	コイ科	アブラハヤ	×	○	○
5		ウグイ	○	○	×
6		オイカワ	○	○	○
7		ヌマムツ	×	○	?
8		キンブナ	?	?	?
9		ギンブナ	○	○	○
10		ゲンゴロウブナ	?	?	×
11		コイ	?	○	○
12		タイリクバラタナゴ	○	×	×
13		タモロコ	○	○	○
14		ニゴイ	×	○	×
15		モツゴ	○	○	○
16		ヤリタナゴ	×	×	×
17		ヒガイ類 sp	?	×	○
18	タイワンドジョウ科	カムルチー	○	○	?
19	ドジョウ科	ヒガシマドジョウ	○	○	○
20		ドジョウ	○	○	○
21	ナマズ科	ナマズ	○	○	?
22	バス科	オオクチバス	×	×	○
23		ブルーギル	×	×	○
24	カジカ科	カジカ	○	?	○
25	ハゼ科	カマツカ	○	○	○
26		ヨシノボリ属 sp	○	○	○
27		ジュズカケハゼ類 sp	×	○	?
28		ツチフキ	×	×	×
29	メダカ科	メダカ	×	×	×
30	ヤツメウナギ科	スナヤツメ類 sp	○	△	×

凡例 ○・・・生息確認 △・・・少し上流での確認 ?・・・生息していた可能性有り ×・・・生息確認なし

市野川			滑川		
60～70年	90年代	03～17年	60～70年	90年代	03～17年
○	?	?	○	?	?
○	○	×	○	?	×
×	×	×	×	×	×
×	×	×	×	×	×
×	×	×	×	×	×
○	○	○	○	○	○
×	○	○	×	×	○
○	○	?	○	○	○
○	○	○	○	○	○
×	?	○	○	×	×
×	○	○	×	○	×
○	○	×	○	○	×
○	○	○	○	○	×
×	○	○	×	×	○
○	○	○	○	○	○
○	○	×	○	○	○
○	○	×	○	○	○
○	○	×	×	×	×
○	○	?	×	?	×
○	○	○	○	?	×
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
×	○	○	×	○	○
×	○	×	×	?	○
×	×	×	×	×	×
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
×	×	×	×	×	×
○	×	×	○	○	×
○	○	○	○	○	○
○	×	×	×	×	×

魚類



ナマズ

ナマズ科 ナマズ

泥のある水底を好む。市内の河川に生息しているが、市野川や滑川では何度も目撃した。個体数は多くはないが、40cmもある個体が浅い場所で静かにしているのを見た。以前には市野川の支流の新江川にも多数の個体があった。今はどうなんだろう？。最近の確認できない。



ドジョウ

ドジョウ科 ドジョウ

川や溜池に棲んでいるが、夏には水田に入り繁殖する。今でも小さな水路などでも見られるが、大きな川や沼には少ない。大きいものでは20cm近くに達する。皮膚呼吸もするので、体表が濡れていれば、水から出てもしばらくは元気である。



ヒガシシマドジョウ

ドジョウ科 ヒガシシマドジョウ

最近までシマドジョウと呼ばれていたが、東日本と西日本に生息する個体は別種に分けられた。水の澄んだ川に生息する。都幾川ではよく見られ、市野川にも生息する。

昆虫類 トンボ目

市内には川や堀、沼などが多く多くのトンボ類が生息する。特に都幾川はサナエトンボ類が多いので、県外からもトンボ類の写真を撮る人も訪れる。調査では下表の7科36種を確認した。

調査での出現種			
群No	目名	科名	種名
1	トンボ目	アオイトトンボ科	アオイトトンボ
2			オオアオイトトンボ
3		イトトンボ科	イトトンボ科 sp
4			オオイトトンボ
5			クロイトトンボ
6			セスジイトトンボ
7			アジアイイトトンボ
8			ホソミイトトンボ?
9		オニヤンマ科	オニヤンマ
10		カワトンボ科	アオハダトンボ
11			ハグロトンボ
12			ミヤマカワトンボ
13		サナエトンボ科	アオサナエ
14			オナガサナエ
15			コオニヤンマ
16			サナエトンボ科 sp
17			ダビドサナエ
18			ヒメサナエ

調査での出現種			
群No	目名	科名	種名
20	トンボ目	サナエトンボ科	ホンサナエ
21		イトトンボ科	アキアカネ
22			ウスバキトンボ
23			オオシオカラトンボ
24			コシアキトンボ
25			シオカラトンボ
26			ショウジョウトンボ
27			チョウトンボ
28			ナツアカネ
29			ノシメトンボ
30			ハラビロトンボ
31		マユタテアカネ	
32		ミヤマアカネ	
33		リスアカネ	
34		ヤンマ科	ウチワヤンマ
35			カトリヤンマ
36			ギンヤンマ



アオイトトンボ



クロイトトンボ

イトトンボの仲間は8種が見られた。小さいトンボなので見逃してしまうことも多いが、水草のある水面近くや、水路などの近くの林縁にいることが多い。身体は蛍光色を持っているものも多く、美しい種類が多い。



ハグロトンボ



ハグロトンボ幼虫

ハグロトンボ

河原や川に近い林に見られる。6月以降に出現し、9月下旬まで個体数も多く生息する。雄は写真のように腹部が緑色の金属光沢を持っているが、雌は黒い色をしている。都幾川には幼虫も多く、水中の草などに隠れているが、成虫とは形態が大きく違う。都幾川の鞍掛付近では5月中旬から、この種によく似たアオハダトンボが出現する。アオハダトンボは身体の緑色の鮮やかで、雌には羽の外弁の上部に白斑がある。ハグロトンボに比べ個体数が少ない。

カワトンボ科 ミヤマカワトンボ

上流の山地に近い河原に生息するが、都幾川では時には鞍掛付近まで稀に出現する。ハグロトンボに似るが、羽が茶色で見分けるのも簡単である。



ミヤマカワトンボ

サナエトンボ科

サナエトンボ科の種は、名前のようにイネ苗の出る季節、5月に多く発生する。中型の種で成虫は黒と緑の斑模様が特徴である。サナエトンボ科の幼虫は頭の前にある触覚がへら状になっている。



オナガサナエ



オナガサナエ幼虫 (ヤゴ)



ホンサナエ



ホンサナエ幼虫

サナエトンボ科 コオニヤンマ

都幾川では6月から7月に川の流れの上を飛翔する姿がよく見られる。サナエトンボの仲間であるが、大型でヤンマ類のようだ。川の淀んだゴミの中に隠れている幼虫は腹部が平たく丸い、特異的な形をしている。



コオニヤンマ



コオニヤンマ幼虫

オニヤンマ科 オニヤンマ

国内で最大のトンボで体長は10cm以上になる。山間の細い流れの近くになわばりをもって居ることが多いが、開けた場所にも飛来する。飛翔する姿はスマートで見事だ。セミなどを捕えることもあり、ムシャムシャと食べている音も聴くと、小さいものにとっては恐ろしい捕食者であるだろう。幼虫は水底に泥が有るような細い流れの中に潜んでいる。



オニヤンマ



コシアキトンボ



シオカラトンボ



オオシオカラトンボ



ショウジョウトンボ

トンボ科 コシアキトンボ

溜池などに多く見られる。水面上でなわばり飛行を繰り返し、枝などに止まることは少ない。ところが、最近は溜池で見る姿は少なくなった。市内あるいは周辺の町の溜め池はオオクチバスやブルーギルだけが生息するようになり、トンボ類の幼虫も食べられてしまったようだ。

トンボ科 シオカラトンボ

市内で見ると一番ポピュラーなトンボで、腰の水色なのが雄、汚れた黄色なのが雌でムギワラトンボとも呼ばれている。雄は老齢になるとさらに水色から塩を噴いたような白色も混じる。まさに塩辛とんぼだ。子供の頃にはハエを糸で縛り、止まったトンボの前に出して振ると、釣れた。トンボ釣りであるが、餌釣りで、ギンヤンマを釣るトンボ釣りとは方法が違い、原始的な遊びであった。

トンボ科 オオシオカラトンボ

シオカラトンボに似るが胴の部分が黒く、身体全体がくすんだ水色をしている。水田のあるような谷津や林縁に見られる。

トンボ科 ショウジョウトンボ

溜池や水田などに見られる。真っ赤な体が特徴的で、赤とんぼとも言われるが、アキアカネなどより大きく、真夏に出現する。

トンボ科 ウスバキトンボ

夏から秋にかけて多数の個体が、谷津などの林に近い出現する。移動時、ときには何千、何万もの個体が谷津の水田の上に出現することもある。そんな光景に遭遇すれば幸運だ。



ウスバキトンボ

トンボ科 ノシメトンボ

夏から林間の空間に来ている。羽の先端が黒く、アキアカネより少し大きい。枝などによく止まる。のしめとは、格子縞や横縞、羽の先端の文様を見立てているのだろうか？



ノシメトンボ

トンボ科 アキアカネ

夏から秋に出現するアカトンボ。4 cm くらいで小さい。林縁の枝などによく止まっている。秋が深まるにつれて赤くなる。雌雄で体色には差があり、雄のほうが赤い。



アキアカネ

トンボ科 ナツアカネ

夏には見えないが、秋になると出現する。水田などで繁殖するのだが、暑い季節は高地に避暑に出ている。涼しくなる10月になると平地に戻ってくる。最近は農薬の影響で個体数が減っているとされる。この調査でも2004年の大谷瓦窯跡では沢山出現していたが、8年後の調査ではとても少なくなっていた。



ナツアカネ



リスアカネ

トンボ科 リスアカネ

市内で確認したのは都幾川の唐子橋の下流の堤防脇の林で1回目撃しただけであった。個体数は少なく、珍しいようだ。アキアカネなどと同じ程度の大きさで、林の日陰にいた。



マユタテアカネ

トンボ科 マユタテアカネ

夏から出現するアカトンボで、羽の先端が透明なもの、黒いものがある。個体数は多くはないが、夏の間はこの種が良く見られる。



チョウトンボ

トンボ科 チョウトンボ

真夏の溜池や水田に出現する。羽は特徴的で広く、飛び方もゆっくりで蝶のようにも見える。調査では数ヶ所しか見られなかったが、マコモなどある沼などでは個体数も多い。

水棲昆虫類 カゲロウ目、カワゲラ目、トビケラ目

水生昆虫であるカゲロウ類、カワゲラ類、トビケラ類は水質のきれいな川などに生息している。ほとんどの種は流のある瀬に生息し、水底の石の脇や下などに隠れ、藻類などを食べる。また水際の中にある草陰、落ち葉などの中、砂底の中に隠れているものもいる。市内の都幾川では、上唐子地区の流域で生息種数や個体数が多く、下流部の高坂の早俣付近では個体数は少なくなる。越辺川では早俣と同じような下流部で、個体数も少ない。また市野川、滑川では数種の生息が見られるだけで、個体数も少ない。

調査での出現種				調査での出現種			
群No	分類群	科名	種名	群No	分類群	科名	種名
1	カゲロウ目	カワカゲロウ科	キイロカワカゲロウ	29	カゲロウ目	マダラカゲロウ科	マダラカゲロウ属 sp
2		コカゲロウ科	コカゲロウ科 sp	30		ヨシノマダラカゲロウ	
3			フタバコカゲロウ	31		モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ
4			シロタニガワカゲロウ	32			モンカゲロウ
5		タニガワカゲロウ科	セスジミヤマタニガワカゲロウ?	1	カワゲラ目	アミメカワゲラ科	アミメカワゲラ科 sp
6			タニガワカゲロウ科 sp	2		コグサミドリカワゲラモドキ属?	
7			タニガワカゲロウ属 sp	3		ヤマトヒロノアミメカワゲラ	
8		チラカゲロウ科	チラカゲロウ	4		フタツメカワゲラ科	フタツメカワゲラ属 sp
9		ヒラタカゲロウ科	ウエノヒラタカゲロウ	5		クロカワゲラ科	クロカワゲラ科 sp
10			エルモンヒラタカゲロウ sp	6		ミドリカワゲラモドキ科	ミドリカワゲラモドキ属 sp
11			タニヒラタカゲロウ sp	7		エグリトビケラ科	アツバエグリトビケラ属 sp 巢
12			ナミヒラタカゲロウ	1	エグリトビケラ科	エグリトビケラ科 sp	
13			キハダヒラタカゲロウ	2		グマガトビケラ属 sp	
14			キョウキハダヒラタカゲロウ?	3		コエグリトビケラ	
15			サツキヒメヒラタカゲロウ?	4		ニンギョウトビケラ	
16		ヒメヒラタカゲロウ sp?	5	ホタルトビケラ属 sp			
17		フタオカゲロウ科	オオフタオカゲロウ	6	シマトビケラ科	ウルマーシマトビケラ	
18			オオフタオカゲロウ属 sp	7		コガタシマトビケラ	
19			ヒメフタオカゲロウ属 sp	8	トビケラ科	トビケラ科 sp	
20			フタオカゲロウ科 sp	10	ナガレトビケラ科	ヒロアタマナガレトビケラ	
21		マダラカゲロウ科	アカマダラカゲロウ	11		ムナグロナガレトビケラ	
22			イマニシマダラカゲロウ	12		チャバネヒゲナガカフトビケラ	
23			エラブタマダラカゲロウ	13	ヒゲナガカフトビケラ		
24			オオマダラカゲロウ	14	ヒゲナガトビケラ科	コヤマトビケラ?	
25			クロマダラカゲロウ	15		セトトビケラ属 sp	
26			チエルノバマダラカゲロウ				
28			フタマタマダラカゲロウ				

カゲロウ目

水生昆虫であるカゲロウ目の種は、水質のきれいな流のある川に生息し、より水質のきれいな上流部や溪流部に多く生息している。市内の河川は中流域であるが、都幾川と越辺川に種数は少ないが多数の個体が生息し、市野川、滑川には限られた種類の少数個体が生息するだけである。カゲロウ類は河川の瀬などの流のある石の下などに隠れていて、春から初夏の頃に羽化して繁殖のために空中を飛翔する。



シロタニガワカゲロウ

タニガワカゲロウ科 シロタニガワカゲロウ

流れのある瀬の石の間に生息する。都幾川では普通種で個体数も多い。市野川でも少数の個体が見られる。尾は3本で、この写真より若干長い。チョロ虫などと称され魚釣りの餌として使った記憶のある人も多いだろう。



エルモンヒラタカゲロウ

ヒラタカゲロウ科 エルモンヒラタカゲロウ

このカゲロウも流のある瀬に生息する。酸素量の多い河川の礫の間に隠れて、石に付く有機物を餌にしている。体にある大きな鳃盤とその点々のある模様、2本の長い尾が特徴。ヒラタカゲロウ類は種類が多いが、市内では都幾川では見られるが、市野川や滑川にはいない。



ヒメヒラタカゲロウ科 sp

ヒメヒラタカゲロウ科 ヒメヒラタカゲロウ科 sp

小さいカゲロウ類で石の間に生息する。この個体は越辺川で確認した。市内では都幾川にも生息するが、市野川や滑川にはいない。

コカゲロウ科 コカゲロウ科 sp

コカゲロウ類は多くの種が見られるが、顕微鏡的な同定が必要で、種の同定ができていない。カゲロウ類は早春から夏にかけて羽化が行われるが、残念ながら筆者には幼虫と成虫がどうつながっているのかも理解できていない。ただし、この幼虫の面構えは映画のエイリアンを想起させるものや、宇宙人のような形態のものも見られる。



コカゲロウ科 sp



クロマダラカゲロウ



ヨシノマダラカゲロウ

マダラカゲロウ科

マダラカゲロウ類は水底の石の下などに棲んでいる。すこし華奢に見えるクロマダラカゲロウなどの仲間や、二の腕が盛り上がり力持ちで、角がある鬼のようにも見えるオオマダラカゲロウやヨシノマダラカゲロウなどの仲間がいる。いずれも一癖ありそうな面々であるが、1 cm 以下の虫で、水の中、食性も植物質でおとなしい。もし、巨大で肉食だったら、さぞかし恐ろしいことだろう。

カワカゲロウ科 キイロカワカゲロウ

流のある瀬の砂の中などで捕獲できる。1 cm を超える程度の体長で、お腹の脇には毛上の鰓^{えら}がある。



フタマタマダラカゲロウ



キイロカワカゲロウ



チラカゲロウ

チラカゲロウ科 チラカゲロウ

体長は18mmくらいと大きく、身体全体がチョコレート色で活発に動く。瀬に生息していて年2回、初夏と秋に羽化をする。

カワゲラ目

カワゲラの仲間の名前は、虫の顔つきにちなみ、たとえば、東郷、上村、大山など明治時代の軍人の大将の名前がつけられている。残念ながら市内の調査場所では、強そうな名前の種類は出現しなかったが、都幾川のの上流には生息している。カワゲラ類は肉食で活発に動きカゲロウなどを捕食する。種数、個体数共に、水生昆虫類のなかでは少数である。川の瀬などの流のある水底に生息している。以下の種は調査での確認種である。



フタツメカワゲラ科の個体



アミメカワゲラ科 sp



アミメカワゲラ科 sp
(ヤマトヒロバネアミメカワゲラ?)

トビケラ目

トビケラ類も川の流れのある瀬に多く生息する。身体は柔らかく、外敵の攻撃に弱いので、石の下に網を張って棲み、流れてくる植物質の餌を食べるもの、植物質や、小石、砂粒で見事な筒状の外壁を作り、水底や石の裏を移動して採食するものがある。蛹までは水生だが、羽化すると空中に出て繁殖行動に入る。信州ではこのヒゲナガカワトビケラの仲間をザザムシと呼んで佃煮風にして食べる。食べてみたが、少し泥のような食味だった。



ヒゲナガカワトビケラ



ヒゲナガカワトビケラの成虫

ナガレトビケラ科

ムナグロナガレトビケラ

ナガレトビケラの仲間はトビケラ類のなかでも網を張らずに水中を動き回る。

トビケラ類のなかには、小石や砂粒を自分で吐き出す粘液で固め、外壁を作り、柔らかい体を保護しながら、動き回る種も多く見られる。種毎に体を包む外壁の形や材質の選び方には違いがあり、どの種も精巧で見事な仕事をしている。例えば都幾川にも多いニンギョウトビケラは小さい砂粒の本体に大きめの砂粒を筒の両側に3個ずつ付けている。グマガトビケラは1 cm を超える程度の大きさで、径は2 mm 程度の筒を造るが外壁は緻密である。またヨツメトビケラは砂粒で2 cm を超える長さ、径5 mm くらいもある美しい筒を造る。植物で筒を造る種では四角形の筒を造るコカクツツトビケラや2 cm を超える長さの筒を造るオオカクツツトビケラなど多様な形態がある。30 年前には上唐子付近の都幾川ではコカクツツトビケラは見られていたが、現在はいないようだ。また多くの種は上流や山間の小さな流の中に生息しているものが多い。



ムナグロナガレトビケラ



コガタシマトビケラ



グマガトビケラ



オングダトビケラ?



コヤマトビケラ

鞘翅目の水生昆虫

鞘翅目にはゲンゴロウ類やドロムシ類、ガムシ類など幼虫期や成虫になってからも水の中に生息する種類もいる。形は様々で、ゲンゴロウやガムシの幼虫はアニメの「風の中のナウシカ」に出てくるモチーフに近い形をしている。



ヒラタドロムシ幼虫



マメゲンゴロウ科 sp の幼虫



ヒメガムシの幼虫



ヒメガムシの成虫

昆虫類 ハサミムシ目

地面の石や倒木などの下に見られる。以前には庭に積んだ落ち葉などの腐葉土の中によく見られたが、最近はあまり見かけない。この調査では下表の3種が見られた。

調査での出現種			
群No	分類群	科名	種名
1	ハサミムシ目	オオハサミムシ科	オオハサミムシ
2		クヌギハサミムシ科	クヌギハサミムシ科 sp (エゾハサミムシに似る)
3		マルムネハサミムシ科	ヒゲジロハサミムシ



オオハサミムシ



ヒゲジロハサミムシ

昆虫類 ナナフシ目

ナナフシ科 ナナフシ (ナナフシモドキ)

ナナフシの仲間には国内には数種いるが、市内ではこの1種が見られるだけである。名前はナナフシだが、体節は幾つあるのだろうか？ 調査では市民の森や比丘尼山などで記録があった。森林に生息し、擬態するように木の枝のように静止したままのことが多く、動くときも緩慢である。



ナナフシ

調査での出現種			
群No	分類群	科名	種名
1	ナナフシ目	ナナフシ科	ナナフシモドキ

昆虫類 直翅目

この分類群は、コオロギ、バッタ、キリギリス類などが含まれる。春、夏から秋、さらに初冬の頃にかけて、様々な音を奏でる様々な種がいる。羽をすり合わせ音を出す、市内では以前はクツワムシ（地元ではガシャガシャと呼ばれた）や上唐子の飛行場跡（現在の東松山工業団地）にはマツムシなどもいたが、今では声も無い。秋の虫のシンフォニーは年々、微妙に変化している。

調査では下表の種が出現した。

調査での出現種			
群No	科名	種名	
1	カネタタキ科	カネタタキ	
2	カマドウマ科	マダラカマドウマ	
3		ウスイロササキリ	
4		オナガササキリ	
5		ヒガシキリギリス	
6		クサキリ	
7		クビキリギス	
8		キリギリス科	コバネササキリ
9		ササキリ	
10		ハタケノウマオイ	
11		ヒメギス	
12		ホシササキリ	
13		ヤブキリ	
14		コオロギ科	エンマコオロギ
15			クマコオロギ
16			クマズムシ
17	ツツレサセコオロギ		
18	ハラオカメコオロギ		
19	ミツカドコオロギ		
20	モリオカメコオロギ		
21	ツユムシ科	サトクダマキモドキ	
22		アシグロツユムシ	
23		セスジツユムシ	
24		ツユムシ	

調査での出現種			
群No	科名	種名	
25	ノミバッタ科	ノミバッタ	
26		イボバッタ	
27		オンブバッタ	
28		クルマバッタ	
29		クルマバッタモドキ	
30		コバネイナゴ	
31		バッタ科	ショウリョウバッタ
32		ツチイナゴ	
33	ヒシバッタ科	ツマグロイナゴモドキ	
34		トノサマバッタ	
35		ヤマトフキバッタ	
36		フキバッタの仲間 sp	
37		トゲヒシバッタ	
38		ハネナガヒシバッタ	
39		ハラヒシバッタ	
40	ヒシバッタ科 sp		
41	ヒバリモドキ科	ウスグモズ	
42		クサヒバリ	
43		シバスズ	
44		マダラスズ	
45	マツムシ科	アオマツムシ	
46		カンタン	
47		スズムシ	

カマドウマ科 マダラカマドウマ

林内の樹洞や古い物置などに住んでいる。急に飛び出してびっくりするが、噛む事もないので人畜無害。



マダラカマドウマ

キリギリス科 クビキリギリス

春から草むらでジーと耳が痛くなるような鳴き声を立てているのが、この虫である。首切りとは名前が踊るが、口が赤いので、命名者が想像した結果なのか？緑色と茶色の二型の個体がいる。



クビキリギリス

キリギリス科 クサキリ

夏から秋まで草むらでジーと鳴く。クビキリギリスより声は小さく、身体は少し丸い。



クサキリ

キリギリス科 キリギリス

夏の草むらの代表種でチョン、ギースと鳴く。山間の谷津や、河原の草むらなど多くの場所で見られる。最近の分類ではキリギリスは東日本のヒガシキリギリスと西日本に分布するニシキリギリスと分けられている。



キリギリス



ハタケノウマオイ

キリギリス科 ハタケノウマオイ

スイチョン、スイチョンと鳴く声は良く知られているが、最近では声を聞かない。調査でも都幾川の高坂地区にある堤で目撃しただけで、あまり姿は見かけず、減少しているようだ。



アオマツムシ

マツムシ科 アオマツムシ

街路樹などで夏から秋まで鳴き声が続く。大きな音でリーリーと鳴くのが、今では夏の風物詩のようになっている。中国原産の外来種で国内には明治時代頃に入ったが、今のように個体数が増えたのはそんなに昔ではなかったような。



クサヒバリ

ヒバリモドキ科 クサヒバリ

フィリリリ・・・と林縁の茂みの中で美しく鳴く。近寄ると鳴き止んでしまうので、姿を見つけるのが難しい。褐色の2cmに満たない小さな身体で、長い触角がある。



マダラスズ

ヒバリモドキ科 マダラスズ

庭や畑、丈の低い草のある場所に見られる。体長は1cm以下で、ちょっと低めな音でジーツ、ジーツ、と鳴く。



セスジツユムシ

コオロギ科 エンマコオロギ

ヒョロリー、ヒョロヒョロリーと聴こえるような鳴き声、庭から路傍の草むらまで幅広い環境に生息している。コオロギの中では大型で、個体数も多い。どの調査地でも住んでいる。8月下旬になると鳴き始め秋を感じる。写真はお尻から長い産卵管が突き出しているので雌。



エンマコオロギ♀

コオロギ科 ミツカドコオロギ

ギツギツ、と鋭く鳴く。庭から、路傍、河原の草地などに生息している。雄は写真のように顔の左右に角が突き出したような独特な顔をしている。雌にはこの角は無い。



ミツカドコオロギ

コオロギ科 クマスズムシ

湿った河原などの草地に生息する。周波数の高いキーンとした音で鳴く。高齢者には聴きづらい。1 cm くらいの黒い体で、スズムシに似るところもあるが、鳴きかたは別物。



クマスズムシ

バッタ科 イボバッタ

あまり草の無い裸地の多い場所に生息する。3 cm くらいの中型の大きさと、体にはイボイボがあり、砂利のあるような場所では保護色をしている。



イボバッタ



オンブバッタ

バッタ科 オンブバッタ

畑や草むらに普通に見られる。写真の下は雌、上は雄で、よくこのように交尾している姿をよく見かける。



コバネイナゴ

バッタ科 コバネイナゴ

昔からイナゴとして親しんでいる。強い農薬を使っていた頃には、ほとんど姿が消えていたが、最近をよく見かけるようになった。イネの害虫だが、実りの秋にはイナゴ捕りに来ている人を見かける。捕えようとすると、草の裏側にスッと回り隠れる。捕えた後は、布袋に入れて数日置き、糞を出してから茹で、大きな後脚を取り、炒ってから味を着ける。美味しいかって?・・むむ・・珍味。



ツマガロイナゴモドキ

バッタ科 ツマガロイナゴモドキ

イナゴに似るが別種、高坂地区の都幾川で河原に多く見られた。羽の先端が黒く、後脚の関節部の黒いのも特徴である。



ツチイナゴ

バッタ科 ツチイナゴ

一年に2回も発生し、越冬もしている。草むらや林縁に見られ、個体数も多い。複眼の下にある楔形の涙が落ちて痕をつけたような黒い模様が特徴。



シヨウリヨウバッタ



シヨウリヨウバッタ隠蔽色（中央右にいる）

バッタ科 シヨウリヨウバッタ

大きい個体では10cmに達するものもある。草むらを歩いていると飛んで逃げ、草に止まると、非常に見つけづらい。動かなければ簡単には見つからないような隠蔽色をしている。茶色の個体が枯れ草の中にあると、まったく見つからない。

バッタ科 トノサマバッタ

大きなバッタで、まさに殿様。農耕地や空地の草原、河原などに多く見られ、近寄ると巧みに飛翔して10mも移動して逃げる。体が緑や茶色の個体がいる。雌は大きく、雄は小さい。



トノサマバッタ

バッタ科 ヤマトフキバッタ

森林内に生息するバッタで、市民の森で見かけたが、個体数は少ない。東秩父などの低山に行くと、道端で他のよく似た種も見かける。あまり活動的ではない。



ヤマトフキバッタ

ヒシバッタ科

ヒシバッタ科の種は1～2cmくらいで、小さく褐色から黒褐色の地味な隠蔽色で、庭や畑などの開けた地上にすることが多く、動いて逃げなければ見つけることも難しい。ハラヒシバッタが一番多いが、^{さやぼね}鞘翅の長い下記2種も混じる。



ハラヒシバッタ

ヒシバッタ科 ハラヒシバッタ

畑や路傍にいる1cm程度の小さいバッタで、茶色の体色、背に黒い斑紋がある。体の形がちょうど菱形になる。



ハネナガヒシバッタ

ヒシバッタ科 ハネナガヒシバッタ

ヒシバッタに似るが^{さやぼね}鞘翅が長く突き出ている。



トゲヒシバッタ

ヒシバッタ科 トゲヒシバッタ

胸部体節の中央部に棘上の突起がある。

登場直翅目の一部の顔ぶれ

直翅目の虫はどことなく一癖ある面白い顔をしている。こんな顔役たちが身近に住んでいるのだから、自然は楽しい。



クビキリギス



セスジツユムシ



ウスイロササキリ



トノサマバッタ



ツチイナゴ



オンブバッタ



エンマコオロギ



コバネイナゴ

昆虫類 網翅目

調査ではオオカマキリ、コカマキリ、ハラビロカマキリの3種の成虫を確認した。また2個だけであるがチョウセンカマキリの^{らんろう}卵囊を見たが、チョウセンカマキリの生息は稀なようだ。

機嫌が悪いのか、怒らせると前脚を持ち上げ、翅を開き、捕食者を威嚇する種もある。調査では下表の種が出現した。

調査での出現種			
群No	目名	科名	種名
1	網翅目	カマキリ科	オオカマキリ
3			コカマキリ
4			ハラビロカマキリ
5			チョウセンカマキリ卵囊?

カマキリ科 オオカマキリ

体長8cm前後で国内のカマキリ類の中で一番大きい。前脚で獲物を捕える。小さい逆三角の頭にある口でムシャムシャと音をさせながら食べる。卵囊は褐色の泡状で、灌木などに産み付けられ、春、幼虫が糸を引きながら^{らんろう}卵囊から降りてくる。私はほとんどの虫を平気でつかむが、カマキリは何故だか苦手だ。



オオカマキリ



コカマキリ

カマキリ科 コカマキリ

体長 5 cm 前後の小さなカマキリで、身体は灰褐色、前脚裏側の付け根と、腕の部分に青い斑紋がある。



ハラビロカマキリ

カマキリ科 ハラビロカマキリ

ずんぐりとした体型のカマキリで、体長は 6 cm 前後になる。前翅中央の端にある白紋が目立つ。

網翅目 ゴキブリ亜目 ゴキブリ科

ちょっと敬遠したくなる仲間だが、家の中に居るゴキブリとは別の小型のゴキブリ類も野外の落ち葉に隠れている。調査では下表の種が出現した。

調査での出現種			
群No	目名	科名	種名
1	ゴキブリ亜目	ゴキブリ科	ヤマトゴキブリ
2			ゴキブリ科 sp
3			モリチャバネゴキブリ



モリチャバネゴキブリ

チャバネゴキブリ科 モリチャバネゴキブリ

林の落ち葉の中に隠れている。体長 15mm 程度のゴキブリ。

昆虫類 半翅目

この分類群はカメムシ類、セミ類、ヨコバイ類、水生昆虫のアメンボなどを含んでいる。触覚は4～5節で、複眼が左右に突出して、単眼が2個、無いものもある。植物の汁や動物の体液を、口吻を突き刺して吸う。カメムシ類やヨコバイ類など植物食のものは農業の大害虫であるものが多い。調査では下表の種が出現した。

調査での出現種				調査での出現種				
群No	類分	科名	種名	群No	類分	科名	種名	
1	アブラムシ類	アブラムシ科	アブラムシ科 sp	26	ナガカメムシ科	ナガカメムシ科	サレヒョウタンナガカメムシ	
2			コウゾリナヒゲナガアブラムシ	27			ジュウジナガカメムシ	
3			ハリエンジュアブラムシ	28			チャモンシロナガカメムシ	
アワフキムシ類	アワフキムシ科	アワフキムシ科 sp	アワフキムシ科 sp	29			ヒメジュウジナガカメムシ	
				30			ヒメナガカメムシ	
				31			モンクロナガカメムシ	
				32			メダカナガカメムシ	
ウンカ類	グンバイウンカ科	ミドリグンバイウンカ	ミドリグンバイウンカ	33			ノコギリカメムシ科	ノコギリカメムシ
				34			クロスヒゲナガカメムシ	
カメムシ類	オオホシカメムシ科	オオホシカメムシ	オオホシカメムシ	35			ヒゲナガカメムシ科	ヒゲナガカメムシ
				36	エチゴヒゲナガカメムシ			
	オオメナガカメムシ科	ヒメオオメナガカメムシ	オオメナガカメムシ	オオメナガカメムシ	37	ヒメヘリカメムシ科	アカヘリヒメカメムシ	
					38	ヒョウタンナガカメムシ科	オオモンシロナガカメムシ	
	39	ヒョウタンナガカメムシ						
	40	モンシロナガカメムシ						
	カメムシ類	カメムシ科	カメムシ科	アオクサカメムシ ウズラカメムシ クサギカメムシ クチブトカメムシ シラホシカメムシ シロヘリクチブトカメムシ チャバネアオカメムシ ナガメ ヒメナガメ ブチヒゲカメムシ フタテンカメムシ	41	カメムシ類	ヘリカメムシ科	ヨツボシヒョウタンナガカメムシ
					42			キバラヘリカメムシ
					43			ツマキヘリカメムシ
					44			ハラビロヘリカメムシ
45					ハリカメムシ			
46					ホオズキカメムシ			
47					ホシハラビロヘリカメムシ			
48					ホソハリカメムシ			
49					ホソヘリカメムシ			
50					ミナミアオヘリカメムシ			
51	ヒメハリカメムシ							
21	クヌギカメムシ科	ヘラクヌギカメムシ	52	ホソヘリカメムシ科	ホソヘリカメムシ科	クモヘリカメムシ		
22	グンバイムシ科	アワダチソウグンバイ	53			ホソヘリカメムシ		
23	ツチカメムシ科	ツチカメムシ	54	マルカメムシ科	マルカメムシ科	ヒメマルカメムシ		
24	ミツボシツチカメムシ	55	マルカメムシ					
25	ツノカメムシ科	エサキモンギツノカメムシ						

調査での出現種			
群No	類分	科名	種名
56	カメムシ類	マルカメムシ科	クズマルカメムシ
57			ナガクロカスミカメムシ
58		カスミカメムシ科	フタモンカスミカメムシ
59			モンキカスミカメムシ
60			モンキクロカスミカメムシ
61	サシガメ類	メダカナガカメムシ科	メダカナガカメムシ
62		サシガメ科	アカサシガメ
63			オオトビサシガメ
64			シマサシガメ
65			ピロウドサシガメ
66			アカシマサシガメ
67			ヤニサシガメ
68			ヨコヅナサシガメ
69			アシボントビロサシガメ
70	水生昆虫	アメンボ科	アメンボ
72			コセアカアメンボ
73			ヒメアメンボ
74		イトアメンボ科	ヒメイトアメンボ
74		シマアメンボ科	シマアメンボ
75	タイコウチ科	タイコウチ	
76	マツモムシ科	マツモムシ	
77	セミ類	セミ科	アブラゼミ
78			クマゼミ

調査での出現種			
群No	類分	科名	種名
79	セミ類	セミ科	ツクツクホウシ
80			ニイニイゼミ
81			ハルゼミ
82			ヒグラシ
83			ミンミンゼミ
84	テングスケバ科	テングスケバ	
85		ツマグロスケバ	
86	ハゴロモ類	アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ
87		ハゴロモ科	ベッコウハゴロモ
88			スケバハゴロモ
89		ウンカ科	タテスジウンカ
90		オオヨコバイ科	オオヨコバイ
91			ツマグロオオヨコバイ
92		キジラミ科	キジラミ科 sp
93	ヨコバイ類	クロヒラタヨコバイ科	クロヒラタヨコバイ
		の仲間 sp	
94	コガシラアワフキ科	コガシラアワフキ	
95	トゲアワフキムシ科	ムネアカアワフキ	
96	ハネナガウンカ科	アカハネナガウンカ	
97	ミミズク科	コミミズク	
98	ヨコバイ科	ツマグロヨコバイの仲間 sp	



ヒメアメンボ

アメンボ科 ヒメアメンボ

河川や小さな水路など水の淀んだ場所などに棲むアメンボで、個体数も多い。細かい毛のある足先で表面張力を作り、水の面上に浮く。小昆虫などが水面に落ちると、集まってきて口吻で体液を吸って食べる。



コセアカアメンボ

アメンボ科 コセアカアメンボ

水路や小さい林に面した水溜りに生息する。背中が赤く、ヒメアメンボより少し小さい。



アカハネナガウンカ

ハネナガウンカ科 アカハネナガウンカ

10mm 足らずの小さな虫だが、拡大した写真は綺麗な生物である。家庭菜園のトウモロコシ畑で茎に多数のこの虫が付き、吸液していた。



オオヨコバイ

オオヨコバイ科 オオヨコバイ

ヨコバイ類の代表種のように、個体数も多い。10mm 程度の大きさ。草の液を吸って生活している。草の中を歩くと、沢山の個体が飛び出す。

オオヨコバイ科 ツマダグロオオヨコバイ

全長 13mm 前後、緑色で翅端に黒い模様、ヨコバイ類の中では大きく、庭、畑、林地など多くの場所で普通に見られる。写真を撮ろうとすると、ツツツ・・・と横に動き、茎の裏側へ隠れる。



ツマダグロオオヨコバイ

クロヒラタヨコバイ科 クロヒラタヨコバイ

5 mm 前後の体長、体は丸く黒く光沢がある。クヌギなどの広葉樹の葉上で見られ、4月から5月に成虫は出現する。



クロヒラタヨコバイ

ゲンバイウンカ科 タテスジウンカ

全長は 9 mm くらい、淡緑色の体と翅に入る縦線のコントラストが美しい。



タテスジウンカ

テングスケバ科 ツマダグロスケバ

全長は 14mm くらいで、暗褐色の体。小さなセミを思わせる。アカメガシワなど多くの樹上で見られる。



ツマダグロスケバ



テングスケバ

テングスケバ科 テングスケバ

20mm くらいもある大きなスケバ類で、顔の前面が鼻のように伸びている。滑川の堤の木にいたが、後にも先にも見たのはこの1回のみ。この姿、魅力的だと思うのだが。



コミミズク

ミミズク科 コミミズク

鳥のフクロウ類にも同じ名前を持っている種がいる。この虫は同じ名前だがとにかく形が変わっている。枝に平行に止まり、擬態しているが、カモの嘴のような部分の中ほどの目は警戒している。この虫は比丘尼山で見た1回だけ。そんなに個体数は多くない。

昆虫類 カメムシ類

カメムシ類にはサシガメの仲間とカメムシの仲間がある。多くの種が農業害虫であるが、蛾の幼虫を食べるような益虫と呼べるような種類もいる。興味をもってみると、美しい種が多い。臭い匂いを出すものもあるので、少し敬遠気味だが、この仲間が昆虫類で一番好きだと言っている変人もいる。自分も変人だが、人の興味は様々だ。群生するものはいろいろな年齢の個体が混じり群生していることも多い。成虫と弱齢虫の体色や形態は大きく違う。

サシガメ科 アカサシガメ

草むらに住み、小さい鱗翅目の幼虫を捕える。全長 15mm くらい、普通に見られ、全身が赤い。サシガメ類は頭が小さく、口吻が長いのが特徴。



アカサシガメ

サシガメ科 シマサシガメ

体長は 15mm 前後、樹上や草の上で見つかる。小型の甲虫類のハムシの仲間、鱗翅目の幼虫などを捕え、口吻を突き刺し、体液を吸って食べる。



シマサシガメ

サシガメ科 ヨコヅナサシガメ

名前のように大型のサシガメで、里地のサクラやエノキの樹幹に集団でいるのをよく見かける。昆虫やクモ類などを捕食する。分布は本州中部以西だったが、調査を始めた時からかなりの個体を目撃したが、さらに北へ分布を広げているようだ。



ヨコヅナサシガメ



ヒョウタンナガカメムシ

ナガカメムシ科 ヒョウタンナガカメムシ

体長は8mm、クマイチゴやキイチゴなどに寄生する。図鑑では山地性とあるが、里山でも生息している。



ホオヅキカメムシ

ヘリカメムシ科 ホオヅキカメムシ

全長は12mm前後、黒くて無骨な体型をしている。ナス科のナス、トマト、ホオズキ、サツマイモなどの作物の害虫。成虫で越冬する。



ホシハラビロヘリカメムシ

ヘリカメムシ科 ホシハラビロヘリカメムシ

13mm前後の体長で、黄褐色の背に黒い点がある。この体色の似たような種も多く、同定が面倒だ。クズやフジなどのマメ科の植物に寄生して害を与える。



ホソヘリカメムシ

ホソヘリカメムシ科 ホソヘリカメムシ

15mm前後の体長で、細身の体と、よく飛んで観察者の体にも来る。ブーンと羽音を立てるので蜂と間違うくらいだ。大豆や小豆などのマメ科、稲や稗などのイネ科の植物の害虫だが、弱齢の個体は別種のように見える。

ヘリカメムシ科 クモヘリカメムシ

16mm 前後の体長で、ほっそりとした体型、イヌビエやエノコログサなどのイネ科の植物に寄生する。イネの穂を吸液して斑点米を出すこともある。でも私はこのカメムシがなんとなく好きだ。



クモヘリカメムシ

マルカメムシ科 マルカメムシ

体長は 5 mm 前後、丸い体型で、クズ、フジなどのマメ科の植物に寄生している。群生しているところをよく見かける。臭い匂いを出すので、ちょっと敬遠。



マルカメムシ

カメムシ科 ウズラカメムシ

体長は 10mm 未満、頭部が下に突き出している。イネ科の植物に寄生するので、イヌムギなどの葉に着いている。冬も成虫で越冬している。



ウズラカメムシ

カメムシ科 クサギカメムシ

体長は 15mm 前後、大豆などのマメ科、ミカンやカキ、ウメ、モモなど、いろいろな果実を吸液する。悪臭も出すので、出会いはうれしくないが、けっこう沢山いる。



クサギカメムシ



ブチヒゲカメムシ

カメムシ科 ブチヒゲカメムシ

体長 12mm 前後、体の中央の少し下に白い斑紋がある。マメ科、キク科などの植物に寄生、その他の植物にも広くついて吸液し食害する。家庭菜園でもエダマメに沢山ついていた。



シラホシカメムシ

カメムシ科 シラホシカメムシ

体長は 6 mm 前後と小さいカメムシで、後翅上部に白い斑紋が 2 個。イネ科、マメ科の植物に多く付く。イネの穂を吸液して害を成す。



ナガメ

カメムシ科 ナガメ

体長は 8 mm 前後、オレンジの隈取模様が美しく、普通に見られる。アブラナ科の植物に寄生する。最近では川の堤防ではアブラナ科のカラシナも繁茂しているので、繁殖には好都合なのだろう。



ヒメナガメ

カメムシ科 ヒメナガメ

体長 7 mm 前後でナガメに似るが、模様はもっと複雑である。アブラナ科の植物に付き、食害する。

カメムシ科 チャバネアオカメムシ

体長11mm前後、緑の体に茶色の羽がある。サクラ、クワ、ミカン、ブドウ、ウメなどいろいろな植物に付き食害する。成虫で越冬もする。作ったエダマメにも沢山付いていた。



チャバネアオカメムシ

ツノカメムシ科 エサキモンツノカメムシ

体長12mm前後、体の真ん中にハート型の紋様があり、肩には張り出した角のような突起がある。ミズキ、ウド、ハゼノキなどで見られる。雌は幼虫を保護する習性がある。このツノカメムシ科の仲間には美しい種が多い。



エサキモンカメムシ

ナガカメムシ科 ジュウジナガカメムシ

体長10mm前後、細長い体で黒と橙色の模様、ガガイモやカモメヅルなどガガイモ科の植物に付く。群生しているのもよく見かける。



ジュウジナガカメムシ

ヘリカメムシ科 キバラヘリカメムシ

体長15mm前後、背面は黒褐色で、腹面は黄色、脚も赤や、白、黒の部分とカラフルで美しい。ニシキギやマユミ、ツルウメモドキなどの植物にいる。いろいろな年齢の個体が混じり群生していたのを見たことがある。弱齢虫はオレンジ色。



キバラヘリカメムシ

ゲンバウムシ科 アワダチソウゲンバイ

3mm程度の体長で、小さい半翅目類。市内の調査でも多くの植物の葉上で観察できた。群生しているの、よく目に付くのだが、自分の持っている図鑑には載っていないが、専門家から教えてもらった。奇妙な体型に魅かれる。



アワダチソウゲンバイ

セミ科

とても身近な昆虫で、子供の頃から親しんでいるが、最近では個体数が減ったようで、街の中では鳴く声が減り、季節感が薄れている。市内では初夏、ハルゼミの鳴き声から始まり、ニイニイゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、そしてツクツクホウシと続いて秋になり終わる。最近はまだ稀ではあるがクマゼミが参加し始めた。でも、私の住む場所ではニイニイゼミとアブラゼミくらいしか鳴かない。少し寂しい。セミの生活史は産卵されてから成虫になるまでは数年はかかる。成虫での生存期間は短い、幼虫期のそのほとんどは地中での生活である。

セミ科 アブラゼミ

夏の到来をつげるようにジージーと大きな声で鳴く。鳴き声は暑さをさらに増している。ぐらぐら油が煮立ってくるような気分だ。茶色の羽はあまりにもありふれたセミで、子供の頃は捕ってもあまり嬉しくはなかったが、この不透明な羽は外国では少なく珍しいという。所変わればだ。



アブラゼミ

セミ科 ニイニイゼミ

ニーと高い音で鳴く声は、夏のバックミュージックだ。小さい体でよくあれだけの音が出せると感心する。年寄りになった私の耳の中では冬になっても鳴き止まない。



ニイニイゼミ

セミ科 ミンミンゼミ

ミーン、ミンミンミンミーと鳴く。関東から北では個体数は多い。緑の黒の斑の体と、透けた羽、大きな体、夏休みの昆虫採集では王様であった。今では市街地ではほとんど見かけないが、郊外には多い。



ミンミンゼミ

セミ科 ツクツクボウシ

アブラゼミやニイニイゼミより少し遅れ8月になってから出現する。10月になっても小数が生き残って鳴いている。体長は30mm 前後だが、翅端までは45mmくらい。幼虫の脱殻は泥も付いてなく、ほっそりとして小さい。ニイニイゼミの幼虫の脱殻は泥が付いていてずんぐりしている。



ツクツクボウシ



アオバハゴロモ

ハゴロモ類

アオバハゴロモ科 アオバハゴロモ

成虫は夏に出現し、群生して多くの広葉樹やつる植物に寄生し、液を吸う。体長は10mm未満で、淡緑色で美しい。秋の終りまで見られる。



スケバハゴロモ

ハゴロモ科 スケバハゴロモ

全長は10mm前後で、小さいセミを思わせるような翅が透明で美しい。都幾川の河川敷ではよく見られた。



ベッコウハゴロモ

ハゴロモ科 ベッコウハゴロモ

全長は10mm前後、夏から秋にかけて成虫は出現する。クワやチャなどの多くの広葉樹に見られる。多くの調査地で普通に出現した。



マツモムシ

マツモムシ

水中に棲む半翅目の虫で、腹側を水面にする逆の姿勢で、水面のすぐ下にいる。口吻で水面に落ちてくる虫の体液を吸う。この虫の口吻で刺されると非常に痛いという。取り扱いには注意！

昆虫類 膜翅目

ハチ類の分類群であるが、ハチの仲間であるアリ類も含む。

調査での出現種			調査での出現種		
No	科名	種名	No	科名	種名
1	アナバチ科	アナバチ科 sp	36	アリ科	ムネアカオオアリ
2		キゴシジガバチ	37		ムネボソアリ
3		ジガバチ	38		ヨツボシオオアリ
4		サトジガバチ	39		ルリアリ?
5	アリ科	アズマオオズアリ	40		アリバチ科
6		アシジロヒラフシアリ	41	クモバチ科	オオモンクロクモバチ
7		アミメアリ	42	クモバチ科	ベッコウクモバチ
8		アメイロアリ	43		クモバチ科 sp
9		アリ科 sp	44		モンクモバチ
10		ウメマツオオアリ	45		ナミヒメクモバチ
11		オオハリアリ	46		フタモンクモバチ
12		カワラケアリ?	47		キオビクモバチ
13		クサオオアリ	48	ケアシハナバチ科	シロスジフデアシハナバチ
14		クロオオアリ	49	ケアシハナバチ科 sp	
15		クロクサアリ	50	シフトハナバチ科	クマバチ
16		クロヒメアリ?	51	コツチバチ科	ツヤアリバチ
17		クロヤマアリ	52	コマユバチ科	スズメヤドリコマユバチ
18		クボミシリアゲアリ	53	スズメバチ科	オオスズメバチ
19		ケブカツヤオオアリ	54		キアシナガバチ
20		コツノアリ	55		キイロスズメバチ
21		コヌカアリ?	56		キボシアシナガバチ
22		シベリアカタアリ	57		クロアナバチ
23		シリアゲアリ sp	58		コアシナガバチ
24		テラニシシリアゲアリ	59		コガタスズメバチ
25		トビイロケアリ	60		コスズメバチ
26		トビイロシワアリ	61		セグロアシナガバチ
27		ナワヨツボシオオアリ?	62		チャイロスズメバチ
28		ハヤシクロヤマアリ	63		トックリバチ
29		ハリナガムネボソアリ	64		ヒメスズメバチ
30		ハヤシケアリ	65		フタモンアシナガ
31		ヒメアリ	66		ムモンホソアシナガバチ
32		ヒメオオズアリ?	67	モンスズメバチ	
33		ヒメクロアリ	68	セイボウ科	オオセイボウ
34		ヒラフシアリ	69	ツチバチ科	オオハラナガツチバチ
35		ミカドオオアリ	70		オオモンツチバチ

調査での出現種		
No	科名	種名
71		キオビツチバチ
72	ツチバチ科	ツチバチ科 sp
73		ヒメハラナガツチバチ
74		サムライトックリバチ
75		スズバチ
76	ドロバチ科	ドロバチ科 sp
77		キアシトックリバチ
78		オオフタオビドロバチ
79		ミカドトックリバチ
80		オオハキリバチ
81	ハキリバチ科	ヤノトガリハナバチ
82		マメコバチ
83		ハキリバチ科 sp
84		シロスジヒゲナガハバチ
85	ハバチ科	ニホンカブラハバチ
86		セグロカブラハバチ
87		ハグロハバチ

調査での出現種		
No	科名	種名
88	ハバチ科	ハバチ科 sp
89	ヒメバチ科	ヒメバチ科 sp
90	フシダカバチ科	フシダカバチ科 sp (ツチスガリ?)
91		トラマルハナバチ
92		セイヨウミツバチ
93		ニホンミツバチ
94		マルハナバチの仲間 sp
95	ミツバチ科	シロスジヒゲナガ ハナバチ
96		ダイミョウキマダラ ハナバチ
97		ミツバチ科 sp
98		アカスジチュウ レンジバチ
99	ミフシハバチ科	ルリチュウレンジバチ
100		ミフシハバチ科 sp

アナバチ科 サトジガバチ

2 cm を超える程度の細長い黒い体、腹の前半は赤い色、地上近くを飛んでヤガ科やシャクガ科のイモムシを捕える。地上に穴を掘り、獲物を子供のために生かしたまま麻痺させて貯蔵する。ハチ類の繁殖は種毎に独特な生態を持っている。



サトジガバチ

アリ科

アリの仲間のほとんどは 1 cm 以下で小さい。調査では 18 種を確認し、種同定が不確かな sp あるいは属までしか分からなかったものが 10 種あった。また、調査を始めた頃には記録や調査器具、図鑑の不備で、記録のできていない期間があり、市内で生息するアリ科の種数をもっと多いと考えられる。最近では外来種が多く記録され、またヒアリなど刺されると非常に重症になるような種もいる。この調査では市内ではヒアリなどの分布は幸いにもなかった。生態は真社会性昆虫でカーストがあり、単数あるいは複数の女王アリ、兵アリ、働きアリ、雄アリなどに分かれている。肉食から植物や種まで広く利用する雑食性のものが多い。

アリ科 オオハラアリ

体長 3.5mm で中型のアリ。林縁部に住み、調査では市民の森で 1 回だけ出現した。あまり多くはないようだ。



オオハラアリ

アリ科 アズマオオズアリ

働きアリと兵アリには体の大きさに違いがあり、写真は 2.5mm の働きアリ、兵アリは 3.5mm で不似合いに頭部が大きく大顎も大きい。林内から公園のような場所でも見られる。かつては庭でもいた。赤アリとよんでいたが、よく見ると腹部には黒い模様がある。



アズマオオズアリ

アリ科 ムネボソアリ

体長は 3 mm 程度での小型のアリで、樹上性で枯れ枝中に巣をつくり、葉の上などで見られる。



ムネボソアリ

アリ科 トビイロシワアリ

体長 2.5mm と小型、草地などの開けた地上に棲み、最も普通種。多数の個体が虫の死体に集まり、食べているのを道路上などでよく見かける。



トビイロシワアリ



アミメアリ

アリ科 アミメアリ

森林や林縁に生息し、非常に沢山の個体が行列をつくり、移動するのをよく見かける。行列が20mもの距離になっていたのも見かけたことがある。樹木にも登り降りする行列もよく観察できる。2.5mmと小型で、とにかくせわしい。



テラニシリアゲアリ

アリ科 テラニシリアゲアリ

樹木の葉の上にいるのを見かけることが多い。柿のへたの中に入りこんでいることがよくある。2～4mmの大きさ。腹部は後端が尖り、すこし上に向く。



シベリアカタアリ

アリ科 シベリアカタアリ

体長は3mmと小型、樹上性で木の幹などを登っているのを見かける。朽木や枯れ枝中に巣を造るが、1つの巣にいる個体数はあまり多くはない。



トビイロケアリ

アリ科 トビイロケアリ

体長は2.5～3mm、草地でよく見かけ、アブラムシを保護しながら、アブラムシの出す液を舐める。普通に見られ個体数も多い。

アリ科 クロクサアリ

体長は4～5mmで艶のある黒色をしている。樹木の根付近に巣を造り、1つの巣に数千匹もの個体がいる。行列を作り移動するのをよく見かける。



クロクサアリ

アリ科 クロヤマアリ

最も普通に見られる種で、庭から畑まで広く分布する。4.5～6mmくらいの体長ですばやく動く。地上の石や土中に巣を造り、巣入り口には土を盛り、クレーター状になる。



クロヤマアリ

アリ科 ハヤシクロヤマアリ

林に生息する種で、クロヤマアリに非常によく似ているが、顔が細い。樹木によく登り、木の葉の上などにもいる。4.5～6mmくらいの体長。



ハヤシクロヤマアリ

アリ科 ムネアカオオアリ

林内に生息する山地性の種で10mm前後あり、大きい。胸から腹部の前面が赤く、同じような種はいないので、よくわかる。地上で生活し、市内では市民の森だけで目撃した。



ムネアカオオアリ



ミカドオオアリ

アリ科 ミカドオオアリ

体長は10mm前後で大型の種である。林内の暗い場所に生息し、枯れた竹や朽木に巣をつくる。調査では比丘尼山だけで目撃できた。



オオモンクロクモバチ

クモバチ科

この科のハチはクモ類を獲物にしている。獲物は針を刺し麻酔をして、巣に運び卵を産みつける。

クモバチ科 オオモンクロクモバチ

徘徊性の大型のクモ類を狩る。獲物は土中のモグラなどの坑道を利用して巣を造り繁殖する。



ナミヒメクモバチ

クモバチ科 ナミヒメクモバチ

木の葉に土で巣を造り、フクログモやササグモなどを狩る。捕えた獲物は巣に運び、保管した後に穴の入り口を泥で塞ぐ。

スズメバチ科

大形の強力な顎と強い毒を持つスズメバチや、身近にいるアシナガバチなどを含む仲間、人家周辺や山林に住み、スズメバチ類は大きな巣を造り、アシナガバチ類は10cm以下の小さな巣を造って繁殖する。市内でも多くの種類が生息している。

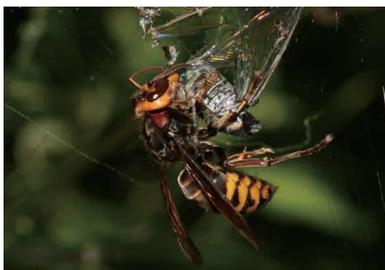


オオスズメバチ

スズメバチ科 オオスズメバチ

スズメバチの中でも最も大型で強い。大きな顎と強い毒のある針は強力、5cm

に近い体の羽音も迫力がある。よくミツバチの巣箱を襲い、全滅させることもあり嫌われる。地上の穴に巣を造り、知らずに近くを通ると、すぐに威嚇して来て、刺すこともあり、毒も強く非常に危険だ。



モンズズメバチ

スズメバチ科 モンズズメバチ

体長3 cm くらいで、腹部の文様が識別点になる。樹木の根元の穴によく巣を造る。気性は荒く、攻撃性が高い。



チャイロスズメバチ

スズメバチ科 チャイロスズメバチ

中型のスズメバチの仲間の中では体色が独特な褐色をしている。キロスズメバチやモンズズメバチの巣を乗っ取り、社会寄生を行う。女王蜂は殺し、働き蜂は労働力として使うという。ハチ類の生態は驚異に満ちている。



キアシナガバチ

スズメバチ科 キアシナガバチ

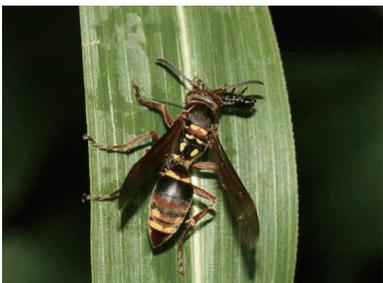
軒下などに巣を造り、人家周辺によくいるので足吊るしなどと呼ばれ、親しみのある種である。市内の各場所で目撃でき、個体数も多い。

スズメバチ科 キボシアシナガバチ

巣は木の枝などに作り、林のあるような場所で見られる。小型で2 cm 未満。



キボシアシナガバチ



コアシナガバチ

スズメバチ科 コアシナガバチ

市街地でよく見られる2cmに満たないアシナガバチで、堀、ひさしや石垣などに巣を造る。このハチだったか定かでは無いが、家の窓枠に巣があった。ある日スズメバチ（ヒメスズメバチ？）が巣に飛来して、巣筒の中の幼虫を捕らえ始めた。反撃でもするかと思ったが、このハチは巣の片隅にかたまり、スズメバチが巣を荒らすのを、なすがままにしていた。幼虫は何度も訪れるスズメバチに食われ、ほどなく巣は駄目になった。なんと不甲斐ないと思ったが、これも生存競争の正しい選択だったのだろう。



セグロアシナガバチ

スズメバチ科 セグロアシナガバチ

キアシナガバチに大きさや体色も似ている。巣は枝や軒下に造られ、小さなイモムシなどを狩って食べる。



ムモンホソアシナガバチ

スズメバチ科 ムモンホソアシナガバチ

林のある場所に住み、巣は薄くて平たい丈夫なものを作る。巣上に沢山の個体がうごめいているが、秋に巣から離れた樹木に数百匹のハチが集まっていたのを見たことがある。

ツチバチ科 キオビツチバチ

つる性の植物の蜜を舐めに来るが、繁殖には小型のクワガタムシの幼虫を狩る。地中に穴を掘り、幼虫の体に卵を産みつける。孵化したハチの幼虫、甲虫を食べながら大きくなる。



キオビツチバチ

ツチバチ科 ヒメハラナガツチバチ

普通に見られるツチバチで、スジコガネ科の幼虫を狩るといわれる。地中に穴を掘り、幼虫を仰向けにして卵を産みつける。



ヒメハラナガツチバチ

コツチバチ科 sp

雄は有翅だが、雌は無翅でアリのような形態をしている。1 cm くらいで小さく、地上を徘徊している。



コツチバチ科 sp

ハキリバチ科 ヤノトガリハナバチ

この属のハチは巣を作らず、ほかのハキリバチが獲物を貯食した巣に卵を産みつけ、労働寄生を行い、2 齢になった幼虫は、宿主の幼虫をかみ殺すという。ハチの世界も驚異と残酷に満ち溢れている。



ヤノトガリハナバチ



エゾオナガバチ？

ヒメバチ科 エゾオナガバチ？ ヒメバチ科 sp A

このヒメバチの仲間は、種によって決まった寄生種を選び、キバチ類やスズメガ類の幼虫などに卵を産みつけ、内部寄生をする。寄主が蛹化すると成長を始め、身体を食い尽くして大きくなる。鳥の研究者としては、ここまでやるのか！と驚嘆してしまう。ハチ類の生態は私には理解に余るくらいだ！



ヒメバチ科 sp

ハバチ科 ハグロハバチ ハバチ科 sp B

これらのハバチの仲間は、いずれも植物の葉を食べて成長する。幼虫はイモムシに似て、ガの幼虫のようだ。種ごとに好みの植物があり、カブラハバチはダイコンなどの十字花植物、ハグロハバチはイタドリやスイバを食する。



ミフシハバチ科 sp



ニホンカブラハバチ



ハグロハバチ



ハバチ科 sp B

ミツバチ科 シロスジヒゲナガハナバチ

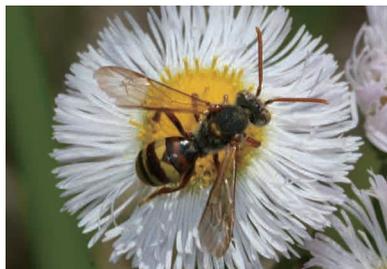
ハナバチの仲間は花の蜜を求めて訪花する。この種はムラサキツメクサやカラスノエンドウを好むという。嗜好があり、顕花植物はハチ類によって共進化をしてきた。



シロスジヒゲナガハナバチ

ミツバチ科 ダイミョウキマダラハナバチ

腹部に独特な模様があり1cmを超す、一見するとミツバチとは見えない。キマダラハナバチ属でハナバチの巣に入り卵を産み、労働寄生をする。



ダイミョウキマダラハナバチ

ミツバチ科 セイヨウミツバチ

真社会性のハチで、ヨーロッパから養蜂目的で輸入された。養蜂で使われているハチはこの種である。腹の前半は橙色で、先端は黒いのが特徴。性質はおとなしく、春に水辺に給水にきているのをよく見かける。分封した数千匹の個体が塊になって林縁の枝に集まっていることもある。養蜂家の方は女王蜂を見つけて巣箱に誘導するようだ。巣箱がスズメバチに襲われると、巣箱入り口でかみ殺された個体が山のようになり、全滅させられる。ニホンミツバチのように天敵に対する防御は無く、野生化はできないようだ。



セイヨウミツバチ



ニホンミツバチ

ミツバチ科 ニホンミツバチ

日本の在来種で木の洞、社の隙間などに巣を造る。腹部は全体に黒い縞模様がある。スズメバチなどに巣が襲われることがあるが、立ち向かいスズメバチを多くの個体で包み、体温を上げて殺すような防御行動も発達している。

昆虫類 脈翅目

陸生のカゲロウ類で、ヨツボシクサカゲロウの卵はウドンゲ(優曇華)と言われ、梵語 udumbara(優曇波羅)の略で、^{しょうずい}祥瑞の意味だという。3000年に一度花が咲く、極めて珍しいことだという。吉兆とする人や、凶兆と教えられた人もいる。でも、この卵は、時々には目にすることがある。調査では下表の種が出現した。

調査での出現種

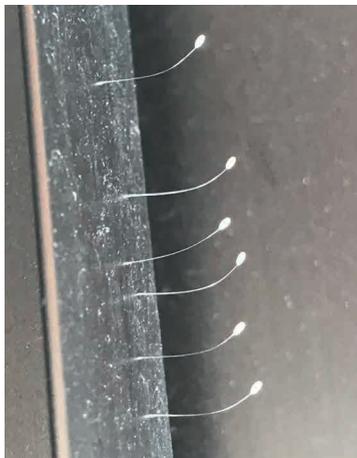
群No	分類群	科名	種名
1	脈翅目	ウスバカゲロウ科	ホシウスバカゲロウ (アリジゴク)
2		ヒロバカゲロウ科	ヒロバカゲロウ科 sp
3		クサカゲロウ科	クサカゲロウ科 sp

ウスバカゲロウの仲間？

草の上や枝などに背中に綿のようなものを着けて歩いているのをよく見かけるが、ホシウスバカゲロウ (アリジゴク) のような乾いた地表に噴火口のような罌は造らない。



クサカゲロウの仲間の幼虫？



(参考) 優曇華の花

昆虫類 鞘翅目

調査では一番多くの科が出現する昆虫の分類群である。この中には昆虫でも子供に人気のあるカブトムシやクワガタムシも含まれる。下記の表の 40 科 239 種が出現し、オサムシ科、カミキリムシ科、コガネムシ科、ハムシ科などの種数が多く、種同定は難しい。

調査での出現種		
群No	科名	種名
1	アカハネムシ科	ヒメアカハネムシ
2	エンマムシ科	エンマムシ科 sp
3		コエンマムシ
4	オオクスイ科	ヨツボシオオクスイ
5	オオキノコムシ科	ミヤマオビオオキノコムシ
6	オサムシ科	ウスケゴミムシ
7		コガシラナガゴミムシ
8		セアカヒラタゴミムシ
9		オオマルガタゴミムシ
10		オオマルナガゴミムシ
11		オサムシ科 sp
12		キボシアオゴミムシ
13		クビアカツヤゴミムシ
14		クロナガオサムシ
15		スジアオゴミムシ
16		ツヤアオゴモイクムシ
17		ナガクロツヤヒラタゴミムシ
18		ナガヒョウタンゴミムシ
19		ヒメツヤマルガタゴミムシ
20		ミイデラゴミムシ
21		マルガタゴミムシ
22		アオオサムシ
23		アカガネオオゴミムシ
24		アトモンアオゴミムシ
25		エサキオサムシ
26		オオホソクビゴミムシ
27		オオヨツボシゴミムシ
28		キアシマルガタゴミムシ
29		キンナガゴミムシ
30		クビボソゴミムシ
31		クロオサムシ

調査での出現種		
群No	科名	種名
32	オサムシ科	セアカゴミムシ
33		ノグチアオゴミムシ
34		ハネアカクビナガゴミムシ
35		ヒメマイマイカブリ
36		マルガタナガゴミムシ
37		マルヒメゴモクムシ
38	オトシブミ科	ハイイロチョッキリ
39		ヒメクロオトシブミ
40		ルリオトシブミ?
41	カツオブシムシ科	ヒメマルカツオブシムシ
42	カミキリムシ科	アトジロサビカミキリ
43		オオヨツボシハナカミキリ
44		カミキリムシ科 sp
45		キスジトラカミキリ
46		キボシカミキリ
47		キマダラカミキリ
48		クワカミキリ
49		ゴマダラカミキリ
50		シラホシカミキリ
51		トラカミキリの仲間 sp
52		ナガゴマフカミキリ
53		ノコギリカミキリ
54		ヒメクロトラカミキリ
55		ヒメトラカミキリ
56	ホソカミキリ	
57	ヤツメカミキリ	
58	ヨスジハナカミキリ	
59	ラミーカミキリ	
60	カミキリモドキ科	モモフトカミキリモドキ
61		アオカミキリモドキ
62		カミキリモドキ科 sp
63		クロカミキリモドキ?

調査での出現種		
群No	科名	種名
64	カミキリモドキ科	キアシカミキリモドキ
65		ルリカミキリモドキ
66	ガムシ科	コガムシ
67		ヒメガムシ
68	キノコムシ科	キノコムシ科 sp
69	クチキムシ科	カツオガタクチキムシ
70	クロヒラタヨコバイ科	クロヒラタヨコバイ
71	クワガタムシ科	コクワガタ
72		ノコギリクワガタ
73	ケシキスイ科	ヨツボシケシキスイ
74		アカマダラケシキスイ
75		ケシキスイ科 sp
76		ツツオニケシキスイ
77	ゲンゴロウ科	ヒョウモンケシキスイ
78		コシマゲンゴロウ
79		ハイイロゲンゴロウ
80		キベリマメゲンゴロウ
81	ゲンゴロウ科	ゲンゴロウ科 sp
82		クロマメゲンゴロウ
83	コガネムシ科	コアオハナムグリ
84		センチコガネ
85		マメコガネ
86		カナブン
87		カブトムシ
88		クロカナブン
89		マルエンマコガネ
90		アオハナムグリ
91		アオカナブン
92		カタモンコガネ
93		クロコガネ
94		クロハナムグリ
95		コガネムシ
96		シロテンハナムグリ
97	セマダラコガネ	
98	ツヤコガネ	
99	トゲヒラタハナムグリ	
100	ヒメサクラコガネ	
101	ヒメトラハナムグリ	
102	ヒメビロードコガネ	
103	ヒラタアオコガネ	
104	ビロードコガネ	

調査での出現種		
群No	科名	種名
105	ゴミムシダマシ科	コスナゴミムシダマシ
106		キマワリ
107		ゴミムシダマシ科 sp
108	コメツキムシ科	サビキコリ
109		ヒメサビキコリ
110		ベニコメツキ
111		アオドウガネ
112		アカアシオオクシコメツキ
113	コメツキムシ科	オオクロクシコメツキ
114		キアシクロムナボンコメツキ
115		クシコメツキ?
116		クロツヤハダコメツキ
117		クロクシコメツキ?
118	コメツキムシ科	コメツキムシ科 sp
119		ヒメクロコメツキ
120		ホソキコメツキ?
121		ホソサビキコリ
122	シデムシ科	ヒメヒラタシデムシ
123		ヒラタシデムシ
124		ヨツボシモンシデムシ
125	ジョウカイボン科	オオヒラタシデムシ
126		ジョウカイボン
127		クビアカジョウカイ
128		マルクビジョウカイ
129		ウスイロクビジョウカイ
130		キンイロジョウカイ
131		クロジョウカイ
132		ジョウカイボン科 sp
133		セボシジョウカイ
134	ヒメジョウカイ	
135	ジョウカイモドキ科	ツマキアオジョウカイモドキ
136	ゾウムシ科	コフキゾウムシ
137		コナラシギゾウムシ
138		マダラアシナガゾウムシ
139		オジロアシナガゾウムシ
140		カシワクチブトゾウムシ?
141		カツオゾウムシ
142	コシジロアシナガゾウムシ	

調査での出現種		
群No	科名	種名
143		シロコブゾウムシ
144		ゾウムシ科 sp
145	ゾウムシ科	トホシオサゾウムシ
146		ハスジカツオゾウムシ
147		ヒメシロコブゾウムシ
148		ホソアナアキゾウムシ?
149		クズノチビタマムシ
150		ウグイスナガタマムシ
151		クリタマムシ
152	タマムシ科	チビタマムシの仲間 sp
153		トゲフタオタマムシ?
154		ヒシモンナガタマムシ
155		ホソアシナガタマムシ
156		ムネアカナガタマムシ
157	ツチハンミョウ科	マメハンミョウ
158	テントウダマシ科	ヨツボシテントウダマシ
159		ナナホシテントウ
160		テントウムシ
161		ウスキホシテントウ
162		オオニジュウヤホシテントウ
163		カメノコテントウ
164		キイロテントウ
165	テントウムシ科	コカメノコテントウ
166		シロジュウゴホシテントウ
167		ジュウシホシテントウ
168		テントウムシ科 sp
169		トホシテントウ
170		ニジュウヤホシテントウ
171		マクガタテントウ
172		ヒメカメノコテントウ
173		ムーアシロホシテントウ
174	ナガヒラタムシ科	ナガヒラタムシ
175	ハナノミ科	クロハナノミ
176		ハネカクシ科 sp
177	ハネカクシ科	アマガタハネカクシ (アオハ)
178		キンボシハネカクシ
179	ハムシ科	イチモンジカメノコハムシ

調査での出現種		
群No	科名	種名
180		ウリハムシ
181		オオヨモギハムシ
182		コガタリリハムシ
183		ジンガサハムシ
184		ハムシ科 sp
185		クロウリハムシ
186		クロバヒゲナガハムシ
187		アトボシハムシ
188		アカイロマルノミハムシ
189		イタドリハムシ
190		オオアカマルノミハムシ
191		オオルリハムシ
192		カタビロハムシ?
193		カミナリハムシ
194		キバラヒメハムシ
195		クビボソハムシ
196		クロボシツツハムシ
197		クワハムシ
198		ジュウシホシツツハムシ
199		スギナハムシ
200	ハムシ科	ズグロアカハムシ
201		ダイコンハムシ
202		チャイロサルハムシ?
203		チャバナツヤハムシ
204		ツマキクビボソハムシ
205		トビサルハムシ
206		ドウガネサルハムシ
207		トホシクビボソハムシ
208		ナガハムシ
209		ネギオオアラメハムシ
210	ノミハムシの仲間 sp	
211		ハッカハムシ
212		バラルリツツハムシ
213		ヒメジンガサハムシ
214		ヒゲナガルリマルノミハムシ
215		フジハムシ
216		ブタクサハムシ
217		フタホシオオノミハムシ
218		ムナキルリハムシ
219		ムネピロアカハネムシ
220		ヤナギルリハムシ

昆虫類

調査での出現種		
群No	科名	種名
221		ヤマイモハムシ
222		ヨモギハムシ
223		ルリクビボソハムシ?
224		ルリバナナガハムシ
225	ハムシ科	ルリハムシ
226		ルリヒゲナガハムシ?
227		ルリマルノミハムシ
228		ルリマルハムシ
229		ルリミノハムシ
230	ハムシダマシ科	ハムシダマシ

調査での出現種		
群No	科名	種名
231		コハンミョウ
232	ハンミョウ科	トウキョウヒメハンミョウ
233	ヒゲナガゾウムシ科	ヒゲナガゾウムシ科 sp
234	ヒメゲンゴロウ科	ヒメゲンゴロウ亜科 sp
235	ヒラタドロムシ科	ヒラタドロムシ
236	ベニボタル科	ベニボタル科 sp
237		オバボタル
238	ホタル科	クロマドボタル
239		ムネクリイロボタル



コハンミョウ

ハンミョウ科 コハンミョウ

開けた地面のある場所に生息する。この調査でも水田の間にある道幅2mの地上にいた。ハンミョウ類は人が歩く前を飛んで逃げ、道を教えているような行動で、道教えとも言われている。体色のカラフルで美しいハンミョウとは違い、地味で目立たない。幼虫は地上の穴に潜み、近くを通る虫を素早く捕え、穴へ引き込む。幼虫は鬼虫と呼ばれる。



トウキョウフメハンミョウ

ハンミョウ科 トウキョウヒメハンミョウ

市内で見られたのは前述のコハンミョウと、この種だけであり、前者より少し小さい。生息場所は暗い林の中の道で、居るのが気づかないほどである。地上や木の葉の上に止まり、静止している。肉食なので、小さくても顔は精悍だ。

オサムシ科 エサキオサムシ

夜行性で林内の地上を徘徊して、ミミズやカタツムリなどを食べる。体長は3cm、時には昼間も活動し、動きも活発で早い。紫色がかった身体は美しく輝く。



エサキオサムシ

オサムシ科 ヒメマイマイカブリ

名前のごとく、カタツムリを食べる。4cm くらいの大きさで、首から前胸にかけて細長く、カタツムリの殻の中に頭を突っ込んで、殻の奥まで残さず食べてしまう。



ヒメマイマイカブリ

オサムシ科 アトモンアオゴミムシ

地上を徘徊するが動きは早く、すぐに草やゴミの下に隠れてしまう。体長は2cm くらい、同じような模様の種も多く、名前を知るのが困難だ。



アトモンアオゴミムシ

オサムシ科 マルガタナガゴミムシ

ゴミムシの仲間には沢山の種類がいて、同じような形をしているものも多い。夜行性のものが多く、普通は食肉性で、土の中に隠れていることも多い。調査では瓶の底に腐った肉を少量入れて、地面に埋めるベイトトラップなどで採集するが、現在ではタヌキなどが増加して、トラップを掘り出され、折角入った虫ごと中身を食べられてしまい、この方法では調査ができなくなってしまった。



マルガタナガゴミムシ

シテムシ科 オオヒラタシテムシ

シテムシの仲間是国内には 35 種程度いる。このオオヒラタシテムシはごく普通に見かける種で、ミミズや小動物の死骸などに来て腐肉を食べる。



オオヒラタシテムシ

クワガタムシ科

子供には人気のある仲間で、この調査では大型のノコギリクワガタと、小型の普通種であるコクワガタが見られた。両種ともに樹液なので樹木に来ていた。樹液はクヌギやコナラなどのブナ科の樹木から出ていることが多いが、河原ではアカメヤナギの木が樹液を出すので、そこで目撃することも多い。



ノコギリクワガタ



コクワガタ

コガネムシ科

コガネムシの仲間は光沢のあるものが多い。多くの種が植物食で葉を食べる。コガネムシは童謡にもなっているが、翅が光る由か。逆の外来種になるがアメリカに侵入して植物を食べ荒らし大被害を与えたマメコガネが害虫としてとても有名である。

これらコガネムシ類は幼虫の時期には土の中で植物質を食べて育つ。カブトムシもコガネムシの仲間です。子供には人気者である。最近はカブトムシも減ってしまったが、農地で腐葉土を作らなくなってしまっているためかもしれない。この調査では2009年の滑川調査区の東平の堤防脇のヤナギ類の林で、数百匹のカブトムシがいるのを見た。枝に数十匹が着いていて、子供の頃から今までの60年間で一番多くのカブトムシのいる光景で驚嘆した。調査中に会った小学生2人も虫かごに入りきれないほどのカブトムシを持っていたが、とても嬉しそうだった。それから8年後、2017年の調査ではカブトムシは1匹も見られなかった。



コガネムシ



マメコガネ



ビロードコガネ



カブトムシ

タマムシ科

輝き虹色をしている美しい中型のタマムシが有名だが、地味な色をした種や、数ミリの小さい種など多様な種がいる。成虫は暖かい時期に活発に動くが、幼虫時は樹木の幹の中や枝などに材を食べながら成長する。小型のチビタマムシの仲間の幼虫は葉の中に潜み、葉肉を食べる。



タマムシ (体長3～4cm)



クズノチビタマムシ (体長0.3～0.4cm)



ムネアカナガタマムシ (体長1cm前後)

コメツキムシ科

小型の虫で、多くの似た種を含み、名前がなかなか見つけられない。林縁の植物の葉の上や、地上などで見られる。時には家の中にも灯りに誘引され飛来する。葉の上にいる虫を触ると、足をたたみ動かなくなり、地上に落ちて逃げる。身体を引っくり返しておくと、パチッと頭と胴を使って弾き飛び、起き上がり動き出す。ただし、そんなことができない種類もいる。



サビキコリ



アカアシオオクシコメツキ?

ホタル科

ホタルの仲間はゲンジボタルなど発光器をもち光るものから、オバボタルのように光らない種もいる。ホタル類の羽は柔らかく軟鞘類と呼ばれる。今回の調査ではゲンジボタルやヘイケボタルは記録できなかったが、市内の地元の人への聞き取りでは、いくつか場所で発生がある。7月の夜に市民の森の北側にある谷津では発生をしているのを見たが、個体数は多くないようだった。

ホタルの仲間だが、オバボタルとムネクリイロボタルは光らない。市民の森や高坂の宮鼻地区で確認したが、個体数は多くはなかった。



オバボタル



ムネクリイロボタル

ゲンジボタルは体長 15mm 前後だが、ヘイケボタルは体長 8 mm 前後で前種の半分程度の大きさである。発光器の大きさも差がありゲンジボタルは大きく強く光るが、ヘイケボタルは小さく弱い。市内では6月下旬にはゲンジボタルの成虫の発生が始まり、7月初めには両種が見られる。胸部の赤い部分の黒い模様に違いがある。



ゲンジボタル



ヘイケボタル



ジョウカイボン

ジョウカイボン科 ジョウカイボン

ジョウカイボンの仲間もホタル類と同じように柔らかい外骨格を持つ。ジョウカイボンは普通種で個体数も多く、体長は15mm前後、春から夏にかけて出現する。食肉性で他の昆虫類を捕えて食べる。

ケシキスイ科 ヨツボシケシキスイ

樹木の樹液の出ている場所に見られる。体長は1cm前後で鞘翅^{さやばね}の赤い模様が目立つ。まったく違った科でキノコ類を食べるキノコムシも同じような模様をしていて、類似に驚く。



ヨツボシケシキスイ



ミヤマオビオオキノコムシ

テントウムシ科

テントウムシの仲間には1cm前後の体長のあるカメノコテントウから3~4mmのヒメカメノコテントウまで大きさに差がある。身近な昆虫で普通に見られ、太陽の光が充分にある昼間に活発に活動する。アブラムシ類を食べるナナホシテントウやジャガイモなどのナス科の作物の葉を食べる害虫のニジュウヤホシテントウ、ウドンコ病菌をたべるキイロテントウなど様々な食性をもっている。この調査では11種ものテントウムシが見られ、鞘翅^{さやばね}の模様もいろいろである。またテントウムシ(ナミテントウ)のように鞘翅^{さやばね}の色と黒または赤い点に変異幅があり、別種のように見えるものもある。



カメノコテントウ



ナナホシテントウ



ヒメカメノコテントウ



テントウムシ



ニジュウヤホシテントウ



キイロテントウ



トホシテントウ



シロジュウゴホシテントウ



ヨツボシテントウダマシ

テントウダマシ科 ヨツボシテントウダマシ

体長は5mmくらいで小さく、畑の腐った野菜の下によく見られる。テントウムシに似るが別の科で、幼虫は土の中で菌類を食べて成長する。



キマワリ

ゴミムシダマシ科 キマワリ

体長は16～20mm、朽木など樹木の樹皮上でよく見つかる。朽木を食べるおとなしい虫である。

カミキリムシ科

カミキリムシの仲間は樹木の幹や枝の内部に住み、樹木に被害を与える種類が多い。しかし、その形態は多様性に富み、50mmを超えるシロスジカミキリのような大型のものから10mm以下の小型の種もある。また触覚の長い種や体色の地味なサビカミキリ類から、綺麗なハナカミキリの類、蜂によく似たトラカミキリの仲間まで、多種多様で虫好きの人には人気が高い。



アトジロサビカミキリ

カミキリムシ科 アトジロサビカミキリ

サビカミキリの仲間は、枯木や伐採された木に卵を産み、幼虫は材を食べて大きくなる。成虫の出現は5月から6月、写真の種は2cm以下と小さい。

カミキリムシ科 キボシカミキリ

幼虫はイチジクやクワなどの生木に侵入して食害する。温暖な地方に生息していたが、分布域が北上している。



キボシカミキリ

カミキリムシ科 ゴマダラカミキリ

ミカンの木に産卵して幼虫は大きくなる。ミカン農家にとって大害虫で、賞金もかかり捕獲もされると聞いた。光沢のある黒い鞘翅さやばねに白い斑点が入る。



ゴマダラカミキリ

カミキリムシ科 シラホシカミキリ

1 cm 前後の小さなカミキリムシで、大谷瓦窯跡の林の広葉樹の葉の裏に着いていた。市内の調査で出会ったのはこの1回だけ。リョウブやアジサイなどの生葉の葉脈部を食べる。



シラホシカミキリ

カミキリムシ科 ヤツメカミキリ

1.5cm 前後の華奢な種で、市民の森の道路沿いの葉の上にいた。ヤマザクラやウメなどの老木や枯木に集まる。



ヤツメカミキリ

カミキリムシ科 ヨスジハナカミキリ

いきなりブーンと飛来してくると、スズメバチのようで身を引いてしまうが、止まればカミキリムシ。ハナカミキリの仲間でもズキなどの花の上に見られることも多い。体長は 20mm 前後。



ヨスジハナカミキリ

ハムシ科

植物につく 1 cm 以下の小さな甲虫の仲間、種ごとに食べる植物が決まっている。形や色が多様で、光沢をもっている種が多く、宝石のような虫だが、作物を害する種もいる。

アトボシハムシはアマチャヅルやカラスウリなどを食べる。ウリハムシは、ウリ科の植物に来て葉を食害する。キュウリ、カボチャ、メロンなどの農業害虫。近寄ると飛んで逃げ足が早い。ヤマイモハムシは体長は 5.5mm 前後、ヤマノイモの葉を食べ、茎に卵を産む。



アトボシハムシ



ウリハムシ



ヤマイモハムシ



ノミハムシ亜科 sp

ハムシ科 イチモンジカメノコハムシ

初めて見たときには亀のような変な虫と驚いた。外郭は透明で、中央部の身体は金色に輝いている。ムラサキシキブなどクマツヅラ科の植物を食べる。



イチモンジカメノコハムシ

ゾウムシ科

ゾウムシの仲間は日本に 1000 種を超える種がいるという。しかし、道端の調査路の多かったこの調査では 10 種 + 名前不明の数種が目撃されただけだった。口吻が長く伸び、象を思わせるような形態、鞘翅^{さやばね}も硬く堅固で、まさに 6 本の脚を持つ小さな象である。頻繁に見られたのはクズの葉や茎についていたコフキゾウムシと、オジロアシナガゾウムシ、ヒメシロコブゾウムシの 3 種であった。これらの虫は触ると脚をたたみ、食事をしていた場所から地上へポロッと落ちてしまい、見つからなくなる。捕食者に対しての有効な行動であるのだろう。



ヒメシロコブゾウムシ



コフキゾウムシ



ヒメクロオトシブミ



ヒメクロオトシブミの巣

オトシブミ科 ヒメクロオトシブミ

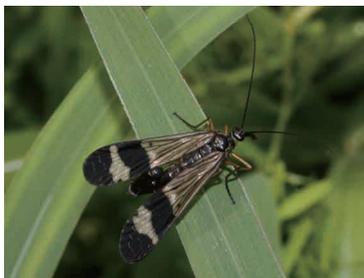
オトシブミと優雅な名前をもつ虫で、5月に出現して新緑の葉を巻いて、地上に落とす。落としたものは文ではなく、卵を産みこんだ揺籃ようらんで、幼虫がその籠の葉を食べ、地上に落とす種類から、枝に吊るしておく種もある。また、枝に穴を開けて卵を産みこむチョッキリのような仲間もある。国内には85種がいるが、この調査ではヒメクロオトシブミが確認できただけだった。

昆虫類 シリアゲムシ目

今回の調査では下表の2種を確認した。市内ではこの2種だけが見られ、他の種は分布していないようだ。シリアゲムシは求愛するときには、雄は雌に獲物の贈り物を用意する。ヤマトシリアゲが先に出現し、夏以降にベッコウシリアゲが見られた。

調査での出現種

群No	目名	科名	種名
1	シリアゲムシ目	シリアゲムシ科	ヤマトシリアゲ
2			ベッコウシリアゲ



ヤマトシリアゲ



ベッコウシリアゲ

昆虫類 双翅目

アブ類、ハエ類、ガガンボ類、カ類などを含む分類群である。種数も多く、図鑑類も整っていないので、分類は専門家でないとなし。しかし、ハエ類やカ類は衛生昆虫であり、人間の生活に合わせるように生活しているものも多く、身近であるが、ちょっとやっかいな昆虫である。またアブの仲間は蜂によく似ているが、双翅目の仲間は前翅の2枚だけで、後翅は小さく変形してほとんど見えない。ちなみにハチの仲間、膜翅目は前翅2枚、後翅2枚の4枚の大きな羽を持っている。調査では下表の種が出現した。

調査での出現種		
群No	科名	種名
1	アシナガバエ科	アシナガバエ科 sp
2		マダラアシナガバエの仲間 sp
3	アシナガヤセバエ科	ホシアシナガヤセバエ
4	アブ科	ウシアブ?
5		ゴマフアブ?
6		キンイロアブの仲間 sp
7	イエバエ科	イエバエ科 sp
8		フタスジイエバエ
9	カ科	カ科 sp
10		ヒトスジシマカ
11	ガガンボ類	ガガンボ(類) sp
12		ガガンボ科 sp
13		クリウジガガンボ?
14		クロクリウジガガンボ?
15		ハスオビガガンボ?
16		ベッコウガガンボ?
17		ミカドガガンボ?
18		Eriocera sp. EB ?
19		Tipula sp ?
21	クロバエ科	キンバエ?
22		キンバエの仲間 sp
23		ケブカクロバエ?
24		トウキョウキンバエ?
25		オオクロバエ?
26		オビキンバエ?
27		キンバエ属 sp

調査での出現種		
群No	科名	種名
28	クロバエ科	クロバエ科 sp
29		シマアブバエ?
30		ツマグロキンバエ?
31	ケヨソイカ科	アカケヨソイカ
32	コシボソガガンボ科	コシボソガガンボ科 sp
33	シギアブ科	クロシギアブ
34		シギアブ科 sp
36		ヤマトシギアブ?
37	シマバエ科	シモフリシマバエ
38	ショウジョウバエ科	ショウジョウバエ科 sp
39	チョウカ科	イシハラクロチョウカ
40		イシハラチョウカ
41		チョウカ科 sp
42	ツヤバエ科?	クロツヤバエ?
35	ツリアブ科	ビロードツリアブ
43		コウヤツリアブ
44		クロバネツリアブ
45	トゲハネバエ科	トゲハネバエ科 sp
46	ニクバエ科	シリアカニクバエ?
48		ニクバエ科 sp
49		シリグロニクバエ?
50		センチニクバエ
51	ハナアブ科	オオハナアブ
52		ハナアブ
53		ヒメヒラタアブの仲間 sp
54		ヒラタアブの仲間 sp

調査での出現種		
群No	科名	種名
55		ホソヒラタアブの仲間 sp
56		シマハナアブ
57		シマアシトハナアブ
58		エゾコヒラタアブ
59		オオハナアブ
60	ハナアブ科	オオヒラタアブ
61		キンアリスアブの仲間 sp
62		シマアシトハナアブ?
63		ハナアブ科 sp
64		スジキフタモンハナアブ?
65	ハネオレバエ科	クロハネオレバエ
66	ヒゲブトコバエ科	クロメマトイ
67	ブユ科	ブユ科 sp
68	フルカ科	ヒメセアカフルカ
69	ベッコウバエ科	ベッコウバエ
70	ホソカ科	ホソカ科 sp
71		クロツヤホソバエ?
72	ホソバエ科	ホソバエ sp
73	マダラバエ科	マダラバエ科 sp
74		コガタノミズアブ?
75	ミズアブ科	コウカアブ

調査での出現種		
群No	科名	種名
76		コガタノミズアブ
77	ミズアブ科	ミズアブ科 sp
78	ミバエ科	ミバエ科 sp
79		アオメムシヒキ
80		オオイシアブ
81		シオヤムシヒキ
82	ムシヒキアブ科	トラフムシヒキ
83		マカリケムシヒキの仲間 sp
84		ムシヒキアブ科 sp
85	ヤチバエ科?	ヒゲナガヤチバエ?
86		アシナガハリバエ?
87		コガネオオハリバエ?
88		コンボウハリバエ?
89	ヤドリバエ科	シロオビハリバエ?
90		ブランコヤドリバエ?
91		マダラアシナガバエ?
92		ヨコジマオオハリバエ?
93		ヤドリバエ科 sp
94		アカムシユスリカ?
95	ユスリカ科	ユスリカ科 sp

ハナアブ科 ハチモドキハナアブの仲間？

図鑑と首っ引きで調べたが、名前が判らない。形態から近そうな仲間だろうと推測したが、誰か調べて教えて欲しい。形は蜂だが、お尻に針を持たないアブだ。



アブ類 sp

ハナアブ科 オオハナアブ

花に来るアブの仲間、比較的大型の種である。蜂のようにも見えるが羽は前翅が左右の2枚だけ。それにお尻には針は無いので刺すことは無い。また口吻は蜜等を舐めるもので、いたって優しい種である。



オオハナアブ

ムシヒキ科 シオヤムシヒキ

ムシヒキアブの仲間は他の昆虫を捕食する。獲物は抱え込み口吻を突き刺して体液を吸う。雄はお尻に白い毛があるが、雌には無い。



シオヤムシヒキ

ツリアブ科 ビロードツリアブ

早春の林に出現する。道端の陽だまりでのんびり飛んでいる。長い口吻と身体全体を毛で覆っている姿は独特。



ビロードツリアブ

ヤセバエ科 ホシアシナガヤセバエ

ヤナギやクヌギ、コナラなど樹液の出る場所で見られる 15mm 前後の細長いハエ。クワガタ獲りに行く子供には馴染み深いはずだが、目的物でないで見過ごされる。よく見ると顔つきは宇宙人で脚が長く、魅力的な格好だ。



ホシアシナガヤセバエ

アシナガバエ科 マダラアシナガバエの仲間

葉の上に見られる 5mm 前後の小さなハエで、素早く動く。



マダラアシナガバエ

クロバエ科 トウキョウキンバエ

青緑に輝く身体は美しいが、この姿に美しいと賛辞を送る人は少ないかも。ハエは衛生昆虫であるがために審美的には見づらいが、その生命力と活動力は驚嘆に値する。



トウキョウキンバエ

クロバエ科 クロバエ科 sp

このハエも金色に輝く身体を持っている。やはり美しいと賛辞を送りづらいが、世の中にはこのハエに魅了される人もいるのだろう。



クロバエ科 sp

昆虫類 鱗翅目・ガ類

この調査では表のように 25 科 88 種 (sp 含む) を確認した。国内に生息するガ類は 5500 種あまりあるが、ガ類の活動は夜間である種がほとんどである。今回の調査では捕虫網による捕獲や、夜間の灯火採集などは行っていないことや、昼間、ガ類は葉の裏側に隠れていて、撮影しようとする、素早く逃げてしまう。そのため撮影は困難で、確認作業ができない。また撮影できたものの未同定になっているものも多く、一部の種しか分類できていない。

ガ類と蝶類は同じ鱗翅目に分類される近縁種のグループで、蝶類は触覚が線状で、昼間に活動する。ガ類の触覚は房状あるいは櫛状など太い種が多く、夜間に活動する種が多い。調査では以下の種の確認ができただけである。

調査での出現種		
No	科名	種名
1	イカリモンガ科	イカリモンガ
2	イボタガ科	イボタガ
3	イラガ科	イラガ
4		ヒロヘリアオイラガ
5	カイコガ科	クワコ
6	カギバガ科	カギバガ科 sp
7	カノコガ科	カノコガ
8		キハダカノコ
9	カレハガ科	カレハガ科 sp
10	シャクガ科	ウスオビヒメエダシャク
11		ウスキオエダシャク
12		ウスバフユシャク
13		ウスベニスジヒメジャク
14		オオシロエダシャク
15		キリバエエダシャク
16		ゴツマウスグロエダシャク
17		シャクガ科 sp
18		チャバネフユエダシャク
19		ヒトスジマダラエダシャク
20		ピロードナミシャク
21		フタナミトビヒメシャク
22		ベニスジヒメエダシャク
23		ユウマダラエダシャク
24		ヨツメアオシャク
25		ヨモギエダシャク
26	シャチホコガ科	オオトビモンシャチホコ

調査での出現種		
No	科名	種名
27	シャチホコガ科	オオモクメシャチホコ
28		ヒメシャチホコ
29	スカシバガ科	モンクロシャチホコ
30		ヒメアトスカシバ
31	スカシバガ科 sp	
32	スズメガ科	オオスカシバ
33		スズメガ科 sp
34		セスジスズメ
35		ホシヒメホウジャク
36	セミヤドリガ科	ハゴロモヤドリガ
37	ツバメガ科	ギンツバメ
38	トガリホンガ科	トガリホンガ科 sp
39	ドクガ科	ドクガ科 sp
40		マイマイガ
41	ドクガ科	モンシロドクガ
42		マメドクガ
43		オオヤママイマイ
44		タイワンキドクガ
45	トリバガ科	シロフクトリバ?
46	ヒゲナガガ科	ヒゲナガガ科 sp
47		キオビクロヒゲナガ
48		クロハネシロヒゲナガ
49	ヒトリガ科	アメリカシロヒトリ
50		アカハラゴマダラヒトリ
51		ウンナンヨツボシホソバ
52		オオシロヒトリ

調査での出現種		
No	科名	種名
53		キハラゴマダラヒトリ
54		シロヒトリ
55	ヒトリガ科	ヒトリガ科 sp
56		ムジホソバ
57		ゴマダラベニコケガ
58	マイコガ科	セグロベニトゲアシガ
59		キシジホソマダラ
60	マダラガ科	ブドウスカシクロバ
61		ホタルガ
62		ルリハダホソクロバ
63	マドガ科	マドガ
64		ミノガ科 sp
65	ミノガ科	オオミノガ
66		クロツヤミノガ
67		チャミノガ
68		シロオビノメイガ
69	メイガ科	ミツシロモンノメイガ
70		モモノゴマダラメイガ

調査での出現種		
No	科名	種名
71		イチジクキンウワバ
72		ウストガリキリガ
73		オオモンクチバ
74		オオベニシタバ
75		キシタバ
76		コシロシタバ
77		シロシタバ
78		ツマグロクチバ
79	ヤガ科	ツメクサガ
80		ナカグロクチバ
81		ハスモンヨトウ
82		ヒメエグリバ
83		ホソオビアシプトクチバ
84		ホソバセダカモクメ
85		リンゴケンモン
86		ヤガ科 sp
87		フクラスズメ
88	ヤママユガ科	オオミズアオ



イカリモンガ

イカリモンガ科 イカリモンガ

昼間に活動する種で、触覚も線状で、蝶類に見える。初めて見たときには、蝶類の図鑑を調べ、見つからないので、新しい種を発見したと思ってびっくりした記憶がある。



ギンツバメ

ツバメガ科 ギンツバメ

5月頃に成虫は出現する。植物の葉の表面に静止していることが多いので、見かけることは多い。夜行性だが、昼間も飛ぶことがある。

ヒトリガ科 ゴマダラベニコケガ

翅を開くと3cmくらいで、5月から6月に出現し、後、数回さらに発生する。ヒトリガ科の幼虫は長い体毛を持つものが多く、活発に動く。コケガ亜科のこの蛾の幼虫は地衣類を食べるといふ。成虫は夜間に活動し、昼間は飛ばない。



ゴマダラベニコケガ

ヒゲナガガ科 クロハネシロヒゲナガ

イネ科の草のある林縁部で初夏の頃に現れ昼間に活動する。白く長い触角（ヒゲ）をなびかせて飛翔するが、やはり長いヒゲは邪魔なように見える。幼虫は落ち葉の中、藁を作り生活する。



クロハネシロヒゲナガガ

スカシバガ科 ヒメアトスカシバ

スカシバガの仲間は蜂によく似ている。鱗翅目の昆虫は鳥に捕食されることが多く、針を持つ蜂に擬態して生存率を高めている。



ヒメアトスカシバ

スズメガ科 ホシホウジャク

秋に出現して停空飛翔をしながら長い口吻を伸ばし花の蜜を吸う。



ホシホウジャク

ヤガ科 フクラスズメ

カラムシの葉や茎に多くの幼虫がついて、摂食しているのをよく見かける。幼虫は派手で大きく目立つので、見覚えのある人も多いのではないか。幼虫は目立つのだが、成虫になると地味でどうにも繋がらない。



フクラスズメ成虫（左）と幼虫（右）

モンシロドクガ幼虫

いかにも、「僕は毒のある毛虫です」と主張しているような派手なケムシである。バラ科やブナ科の植物についていて、うっかり触ってしまい、辛く痛いような痒み^{かゆ}のドクガに刺された経験のある人は多いでしょう。成虫は幼虫とは違って白一色で地味。



モンシロドクガ

カイコガ科 クワコ幼虫

クワにつくイモムシで蚕の原種と考えられている。この幼虫はまだ中齢で、大きくなるとカイコに近いような形態になる。



クワコ幼虫

シャチホコガ科 ヒメシャチホコ幼虫

シャシホコの名前の由来は幼虫の姿なのか？なんと魅力的な姿だろうか。ハギ類やバラ科の葉を食害する。このときはサクラの枝で見つかった。尾を立てて威嚇するような姿勢で動かずにいた。成虫は淡褐色で茶色の斑点があるが、それほど目立たない。蛾の仲間には幼虫に魅力のある種も多い。



ヒメシャチホコ幼虫

昆虫類 鱗翅目・蝶類

市内で見られる鱗翅目の蝶類は、平地から丘陵地に生息する一般的な種の多くが出現する。この調査で確認したのは5科64種であり、その中には最近になって分布をするようになったツマグロヒョウモン、アカボシゴマダラ、ホソオチョウの3種も含まれる。この3種のうちツマグロヒョウモンは関西系の種であるが、2007年頃から出現が顕著になった。アカボシゴマダラは2011年に大谷瓦窯跡で出現を確認後、市内各地で見られるようになってきている。この種は南西諸島から南に産するが、出現している種は大陸産の種で外来種であることが分かっている。ホソオチョウも朝鮮半島や大陸に分布する外来種であり、最近は目撃場所が増加している。以下は調査で出現した種で、写真で代表的な各科の種を紹介する。

アゲハチョウ科

調査では、この仲間は10種類を目撃した。ほとんどが平地で見られる種であったが、ナガサキアゲハなど分布が関西方面に限られているような種も見られている。最近では以前の分布情報から外れるような例外的な種が突然のように出現し、後、その種が定着して見られるような事例が多くなっている。

調査での出現種		
No	科名	種名
1	アゲハチョウ科	アオスジアゲハ
2		アゲハ
3		オナガアゲハ
4		カラスアゲハ
5		キアゲハ
6		クロアゲハ
7		ジャコウアゲハ
8		ナガサキアゲハ
9		モンキアゲハ
10		ホソオチョウ
11	シジミチョウ科	アカシジミ
12		ウラギンシジミ
13		ウラナミシジミ
14		ゴイシシジミ
15		タイワンツバメシジミ
16		ベニシジミ
17		ミズイロオナガシジミ
18		ムラサキシジミ
19		ムラサキツバメ

調査での出現種		
No	科名	種名
20	シジミチョウ科	ヤマトシジミ
21		ルリシジミ
22	シロチョウ科	ウスバシロチョウ
23		キチョウ
24		スジグロシロチョウ
25		ツマキチョウ
26		モンキチョウ
27		モンシロチョウ
28		セセリチョウ科
29	オオチャバネセセリ	
30	キマダラセセリ	
31	ギンイチモンジセセリ	
32	コチャバネセセリ	
33	ダイミョウセセリ	
34	チャバネセセリ	
35	ヒメキマダラセセリ	
36	ヒメチャバネセセリ	
37	ミヤマセセリ	
38	ミヤマチャバネセセリ	

調査での出現種		
No	科名	種名
39		アカタテハ
40		アカボシゴマダラ
41		アサギマダラ
42		アサマイチモンジ
43		イチモンジチョウ
44		オオムラサキ
45	タテハチョウ科	オオウラギンスジ ヒョウモン
46		キタテハ
47		キマダラヒカゲ
48		クロヒカゲ
49		コジャノメ
50		ゴマダラチョウ
51		コミスジ

調査での出現種		
No	科名	種名
52		コムラサキ
53		サトキマダラヒカゲ
54		ジャノメチョウ
55		ツマグロヒョウモン
56		テングチョウ
57		ヒオドシチョウ
58	タテハチョウ科	ヒカゲチョウ
59	タテハチョウ科	ヒメアカタテハ
60		ヒメウラナミジャノメ
61		ヒメジャノメ
62		ミスジチョウ
63		ミドリヒョウモン
64		ルリタテハ
65		ウラギンヒョウモン



アオスジアゲハ

アゲハチョウ科 アオスジアゲハ

素早い飛行をしながら移動する。いろいろな花に吸蜜に来るが、のんびりせずに、忙しい。幼虫はクスノキやタブノキなどを食べる。



アゲハチョウ

アゲハチョウ科 アゲハ

成虫は年2回の発生で、春型は小さくと夏型は少し大きい。この個体は夏型であるが、少し色がくすんでいる。幼虫はミカン類の葉を食べる。

アゲハチョウ科 ジャコウアゲハ

5月から9月に成虫は発生する。幼虫はウマノスズクサを食べる。黒いアゲハチョウ科のものは数種がいるが、胸や腹が赤く、特徴的で、雌は羽が鈍い金色の色彩で、この写真の個体は雄である。最近では幼虫の食草が同じ外来種のホソオチョウが市内で見られている。新たな競合種の出現で、影響が懸念される。



ジャコウアゲハ

アゲハチョウ科 ホソオチョウ

最近に出現した外来種で、分布域が拡大中である。堤防などの草むらの低空をひらひらとゆっくり飛翔する。細い尾が特徴的で、雄は白いが、雌は複雑な模様がある。幼虫はウマノスズクサを食べ、在来種のジャコウアゲハと競合することが懸念されている。



ホソオチョウ♂



ホソオチョウ♀

シジミチョウ科

今回の調査では11種を確認した。小型の蝶で、森林から草むらまで多様な場所に出現している。色鮮やかな美しい種も多い。

シジミチョウ科 アカシジミ

5月から7月に成虫は出現する。幼虫はブナ科のコナラなどを食べる。調査では都幾川の河畔林で見られた。多くはないが、林縁に時々現れた。



アカシジミ



ウラギンシジミ♀

シジミチョウ科 ウラギンシジミ

初夏から秋まで成虫は出現する。羽の裏側は全面銀色をしていて、シジミチョウにはこのような羽をもつ種はいない。写真は雄で、雌はオレンジ色部分が水色をしている。幼虫の食草はマメ科の植物である。



タイワンツバメシジミ

シジミチョウ科 タイワンツバメシジミ

年に数回、成虫は発生し、道端の草の上に出現する。幼虫はマメ科の葉を食べる。ツバメシジミによく似るが、下翅の上部の体に近い黒点が大きく、オレンジ色の部分が発達している。



ベニシジミ

シジミチョウ科 ベニシジミ

春から秋まで長い期間成虫は見られる。きれいな姿で個体数も多く、市内のシジミチョウの仲間では、一番目につく。幼虫はタデ科のスイバ、ギシギシなどを食べる。



ミズイロオナガシジミ

シジミチョウ科 ミズイロオナガシジミ

成虫は6月頃に出現する。雑木林などで見られるが、市内では多くはない。幼虫はブナ科のコナラ、クヌギなどの若葉を食べる。

シジミチョウ科 ムラサキシジミ

成虫は夏から秋に見られ、晩秋の樹林内

の陽だまりに居ることもある。羽の裏側は黒褐色で地味であるが、羽を開くと鮮やかな青色が出現する。幼虫はブナ科のアラカシ、アカガシなどを好む。

シジミチョウ科 ヤマトシジミ

路傍にいる最もよく見られるシジミチョウで、春から秋まで出現する。幼虫はカタバミを食草にしている。



ムラサキシジミ

シロチョウ科

蝶の代名詞のようなモンシロチョウを含む仲間で、この調査では6種が確認できた。ウスバシロチョウを除けば、市内では他の5種は普通に見られる。



ヤマトシジミ

シロチョウ科 ウスバシロチョウ

4月下旬から5月にかけて成虫が羽化する。林縁の草むらの上をゆっくりと飛翔する。幼虫はムラサキケマン、エンゴサク類が食草。栗の花が咲いた頃によく飛んでいる記憶。都幾川の河畔林で見られたが、他の場所での記録はなかった。



ウスバシロチョウ

シロチョウ科 モンシロチョウ

最もポピュラーな種で、シロチョウ類の代表。アブラナ科の植物を食草としている。キャベツや白菜などの作物に産卵するが、幼虫の弱齢期は黒く、大きくなると緑色になる。キャベツでそこまで観察すると、もう葉はボロボロの芯だけ。



モンシロチョウ



モンキチョウ

シロチョウ科 モンキチョウ

成虫は春から秋まで長い期間に発生し、個体数も多い。成虫の黄色の羽は雄、白い羽は雌。幼虫はマメ科の植物を食草とする。



ツマキチョウ

シロチョウ科 ツマキチョウ

早春だけに現れ、陽だまりのなかをゆっくりと飛ぶ。羽の先端が黄色で、裏側には黒い模様があり、モンシロチョウより少し小さい。幼虫はタネツケバなどアブラナ科の草を食べる。



イチモンジセセリ

セセリチョウ科

小さい蝶類で草の上の低い場所で見られ、今回の調査では11種を確認している。地味な羽色で同じような色彩をしているので、判別が難しい。

セセリチョウ科 イチモンジセセリ

6月頃から出現し10月まで見られる。幼虫はイネ科の草を食べる。個体数も多く、調査場所すべてで目撃した。この種に似たものは多く、市内ではオオイチモンジセセリがよく似た種で、個体数も多い。



キマダラセセリ

セセリチョウ科 キマダラセセリ

6月と9月頃の2回、成虫が出現する。日当たりのよい河原などの草地に多い。幼虫はイネ科の草を食べる。この種に似たものも多く、調査ではセセリチョウの仲間ほどできるだけ写真を撮るなどして確認するのが面倒なくらいであった。

セセリチョウ科 ダイミョウセセリ

セセリチョウの仲間の中では特徴的なので判断し易い。幼虫はヤマイモなどの葉を食べ、成虫は年2回、出現する。



ダイミョウセセリ

セセリチョウ科 ミヤマセセリ

4月に現れ、樹林地の陽だまりの中によく見かける。幼虫はコナラなどのブナ科の葉を食べる。早春にいるセセリチョウの仲間はこの種だけ。



ミヤマセセリ

タテハチョウ科

いろいろな模様や形態をもつ分類群で、この調査では27種を確認した。日向の明るい場所を好むものから、暗い林内の日影を好むものもいて、生態的にも多様である。

タテハチョウ科 キタテハ

タテハチョウの代表種と言っていいほど、市内のいたるところで、よく見かける種で、成虫で越冬もするので、一年を通して見られる。幼虫はクワ科のカナムグラを食べる。



キタテハ

タテハチョウ科 ヒオドシチョウ

成虫は夏に出現し、樹液のでる木にも来る。市内では少ない。幼虫はニレ科のエノキ^{ひおどし}などを食べる。昔の武者の緋緞のように鮮やかな色彩をしている。



ヒオドシチョウ



ヒメアカタテハ

タテハチョウ科 ヒメアカタテハ

成虫は5月から11月まで出現する。路傍の草の上などよく飛んでいる。アカタテハに比べ少し小さく、色も淡い。幼虫はイラクサ科のカラムシ、ヤブマオ、ニレ科のケヤキなどを食草にしている。



ルリタテハ

タテハチョウ科 ルリタテハ

春から晩秋まで見られ、成虫で越冬している。羽の裏側は褐色で地味な色彩だが、羽を開くと鮮やかな青と、水色の縞模様が美しい。樹液などにも来る。幼虫はユリ科のサルトリイバラを食草としている。



ゴマダラチョウ

タテハチョウ科 ゴマダラチョウ

成虫は年2回発生する。5月頃にはエゴノキの周りを軽快に飛び回るのを見たことがある。幼虫はニレ科のエノキなどを食べる。



アカボシゴマダラ夏型(上)と春型(下)

タテハチョウ科 アカボシゴマダラ

最近になって市内でも目撃するようになった。国内では奄美諸島に分布するが、埼玉県で見られている個体は、中国大陸に分布する種が人為的に侵入したと言われている。幼虫はニレ科の植物を食べる。春型(下)は後翅の端にある赤い模様が無く、黒い線模様で、沖縄以南に分布するオオゴマダラのように見える。

タテハチョウ科 イチモンジチョウ

イチモンジチョウにはこの種の他に、アサマイチモンジという種がいる。野外では一見ただけでは種の判断は難しい。表の羽は前翅から後翅にかけて1本の白い帯が一文字に見える。成虫は5月から10月に出現し、幼虫の食草はスイカズラなど。



イチモンジチョウ

タテハチョウ科 コミスジ

4月から10月にかけて出現する。ミスジチョウの仲間では一番小さいが、一番普通に見られる。幼虫はマメ科の植物を食べる。翅の表側は三本の白い帯が見え、翅の裏側は複雑な模様で美しい。



コミスジ

タテハチョウ科 ツマグロヒョウモン

もう10数年も前になるが見慣れないヒョウモンチョウの仲間が現れた。雌が色彩に富み、美しい。それからはあちこちで見られるようになり、今は普通種。庭にもやってきて、赤と黒のけげげしいとげとげの幼虫も見られる。幼虫はスミレ科の草を食べる。三重県以西に分布すると図鑑にはあるが、どんなことで分布が広がったのだろうか。



ツマグロヒョウモン♀



ツマグロヒョウモン♂



サトキマダラヒカゲ

タテハチョウ科 サトキマダラヒカゲ

夏、樹液の出る木に集まっている。暗い林内の日陰に多いが、ちょっと蛾を連想させる。幼虫はイネ科のアズマネザサ（地元ではシノと称される）を食草にしている。



クロヒカゲ

タテハチョウ科 クロヒカゲ

夏、暗い林内に出現して地上近くを飛び回る。樹液や、汗の滲んだ腕にまで、やって来る個体もいる。幼虫はイネ科の笹類を食草としている。



ヒカゲチョウ

タテハチョウ科 ヒカゲチョウ

林内の地上近くの日陰など暗い場所を好む。クロヒカゲと比べ体色は明るい。日本の固有種で、幼虫はアズマネザサを食べる。



ヒメウラナミジャノメ

タテハチョウ科 ヒメウラナミジャノメ

5月から9月に成虫は出現する。草むらなどに普通に見られ、ひらひらと草の上を飛ぶ。幼虫はイネ科のカヤツリグサ類を食べる。

クモ類

クモ類は国内には数千種いると言われ、まだ未分類のものもあり、新種のでる可能性がある。この調査では初めの 2003 年からの数年間はクモ類の調査はおおまかに行っただけで、確認種数は少ない。クモ類はその習性、形態や網など、気持ち悪いとか、網がベトベトするためか、嫌いだとか無関心の人が多い。しかし、クモに興味を向けてみると、様々な形態と生態、生息場所による特性、独特な狩りの方法、それと、身近な隣人なので、非常に魅力的である。またクモ類は農業被害を与える小昆虫を捕食する、生態系の大事な構成種である。

クモ類は雌雄で大きく形態が異なり、雄より雌のほうが大きく、別種のように見えることが普通である。今回の調査では市内で 23 科 140 種を確認した。小さい種が多いので、見逃すことも多いが、庭や、野原、山林、畑などに沢山生息し、興味をもって観察すれば魅力的な生態を見せてくれるだろう。

調査での出現種			調査での出現種		
No	科名	種名	No	科名	種名
1		アシナガグモ	27		アズマカニグモ
2		アシナガグモ科 sp	28		オオヤミイロカニグモ
3		ウロコアシナガグモ	29		カニグモ科 sp
4		エゾアシナガグモ	30		コハナグモ
5		オオシロカネグモ	31	カニグモ科	セマルトラフカニグモ
6		キララシロカネグモ	32		トラフカニグモ
7	アシナガグモ科	トガリアシナガグモ	33		ハナグモ
8		シコクアシナガグモ	34		ヤミイロカニグモ
9		ハラビロアシナガグモ	35		ヨコフカニグモ
10		ヒカリアシナガグモ	36		アカスジハシリグモ
11		メガネドヨウグモ	37	キシダグモ科	アズマキシダグモ
12		ヤサガタアシナガグモ	38		イオウイロハシリグモ
13		ヨツボシヒメアシナガグモ	39		キシダグモ科 sp
14		ウズグモ	40		イエオニグモ
15	ウズグモ科	カタハリウズグモ	41		イシサワオニグモ
16		マネキグモ	42		オニグモ
17		アサヒエビグモ	43		カラオニグモ?
18		エビグモ科 sp	44		カラスゴミグモ
19		キエビグモ	45		カラフトオニグモ
20		キハダエビグモ	46	コガネグモ科	キザハシオニグモ
21	エビグモ科	クマダハナグモ?	47		ギンメッキゴミグモ
22		シャコグモ	48		コガタコガネグモ
23		ヤマトヤドカリグモ	49		コガネグモ
24		ワカバグモ	50		コガネグモ科 sp
25		キンイロエビグモ	51		コガネグモダマシ
26	カニグモ科	アズチグモ	52		コゲチャオニグモ

調査での出現種		
No	科名	種名
53		ゴマジロオニグモ
54		ゴミグモ
55		サツマミノダマシ
56		ドヨウオニグモ
57		ナガコガネグモ
58		ナカムラオニグモ
59	コガネグモ科	ヌサオニグモ
60		ビジョオニグモ
61		ホシスジオニグモ
62		マルズメオニグモ
63		ヤマシロオニグモ
64		ヤマトゴミグモ?
65		ヨツデゴミグモ
66		ワキグロサツマミノダマシ
67		イナダハリゲコモリグモ
68		アオグロハシリグモ?
69		イモコモリグモ
70		ウツキコモリグモ
71		キクツキコモリグモ
72		キシベコモリグモ
73		キバラコモリグモ
74		コモリグモ科 sp
75	コモリグモ科	シッチコモリグモ
76		スジプトコモリグモ
77		チビコモリグモ
78		ナミコモリグモ?
79		ハマキコモリグモ?
80		ハリゲコモリグモ
81		ヒノマルコモリグモ
82		フジイコモリグモ
83		ヤマハリゲコモリグモ
84	ササグモ科	ササグモ
85		アシナガサラグモ
86	サラグモ科	クロケシグモ?
87		コサラグモ
88		ヒロテゴマガモ?
89	ジグモ科	ジグモ
90	ジボグモ科	ジボグモ
91	ジョロウグモ科	ジョロウグモ
92	センショウグモ科	センショウグモ
93	タナグモ科	クサグモ
94		コクサグモ
95	ナゲナワグモ科	オオトリノフンダマシ
96		シロオビトリノフンダマシ

調査での出現種		
No	科名	種名
97	ナゲナワグモ科	トリノフンダマシ
98		ウラシマグモ
99	ネコグモ科	ナガイツツグモ
100		アオオビハエトリ
101		アメイロハエトリ
102		アリグモ
103		イナズマハエトリ
104		エクスハエトリ
105		オスクロハエトリ
106		キレワハエトリ
107		タイリクアリグモ
108		ジャバラハエトリ
109		シッチハエトリ
110	ハエトリグモ科	シラホシコゲチャハエトリ
111		チャイロアサヒハエトリ
112		デーニッシュハエトリ
113		ネコハエトリ
114		マミクロハエトリ
115		マミジロハエトリ
116		ヤサアリグモ
117		ヤガタアリグモ
118		ヤハズハエトリ
119		ヨダンハエトリ
120		クワガタアリグモ
121	ハグモ科	ネコハグモ
122		オオヒメグモ
123		オナガグモ
124		カグヤヒメグモ
125		クロマルイソウロウグモ
126	ヒメグモ科	オオツリガネヒメグモ
127		コアカクロミジグモ?
128		チリイソウロウグモ
129		ヒメグモ
130		ヒメグモ科 sp
131		アシナガコマチグモ
132	フクログモ科	カバキコマチグモ
133		トビイロフクログモ
134		ヤマトコマチグモ
135	ヤチグモ科	ヤチグモ科 sp
136	ユウレイグモ科	ユウレイグモ
137		ユウレイグモ科 sp?
138		ワシグモ科 sp
139	ワシグモ科	シノノメトンビグモ
140		クロチャケムリグモ



ジグモ

ジグモ科 ジグモ

木の根元や塀の土台に網を作る。地中 10cm くらいの深さがあり、この中に隠れて、近くにきた虫を捕える。以前には家の周辺にも多くの個体があったが、最近では市街地内では見かけなくなった。市民の森にはまだ個体数が多く、木の根元に多くの住居が作られている。地上部を持って引き上げて捕えるのが遊びだったが、なかなか難しく獲れない。童歌もあったのを、文章を書いていたら急に思い出した。「チチグモ、チチグモ、ミズクミアーガレ。」



ジグモの巣

ハグモ科 ネコハグモ

1 cm 以下の小さなクモで、庭先や道端の広葉樹の葉の表面の中央部に網を張り、住居をつくる。こんなところで獲物が捕れるのかと疑問に思ったが、11 月、この巣に沢山のユスリカの仲間などが捕食されていたのが意外であった。



ネコハグモ



マネキグモ

ウズグモ科 マネキグモ

山林内の低木の枝や草の間に条網を張る。脚を伸ばした姿勢で静止していて、枯れ枝があるように見える。



カタハリウズグモ

ウズグモ科 カタハリウズグモ

網の形が渦を巻くような形態を持っている。その真ん中に潜み、獲物を待つ。林の中に見つかるが、個体数はそれほど多くはない。



カタハリウズグモの網



コクサグモ

タナグモ科 コクサグモ

生垣や森の林縁などに住み、水平のハンモック状の網と、奥には住居用のトンネル状の網を作り、その中に潜む。ごく普通に見られる種であるが、捕えようとする、住居の下にある別の穴から逃げ出してしまう。



ヤマハリゲコモリグモ

コモリグモ科 ヤマハリゲコモリグモ

コモリグモ類はまだ寒い頃からも畑や田圃の地上を走り回る姿を見かける。春になればさらに個体数が多くなり走る。しばらくすると、卵囊らんのおうをお尻の下につけた個体が見られるようになり、さらに進むと孵化した仔クモがお腹の上に乗っている。いろいろな種がいて、見つけ易いが、同じような模様で種判定は難しい。



キクズキコモリグモ

コモリグモ科 キクズキコモリグモ

田圃でも湿った場所において水の上でも平気で素早く歩いて行く。脚先に水を弾く機能を持っているようだ。忍者の水蜘蛛もこんな機能を真似したものだろうが、クモは8本の脚があって、体重を分散させるので、人間より水に浮くのがたやすいのだろう。



キシベコモリグモ

コモリグモ科 キシベコモリグモ

初夏の頃、河原の礫のある場所で見られる。青黒いクモで、都幾川では個体数も多く、普通に見ることができる。

キシダグモ科 アズマキシダグモ

畑などの地上や草の上を徘徊する。秋から冬にかけて見かけることが多い。一見するとコモリグモに見えるが、体はスマート。



アズマキシダグモ

キシダグモ科 イオウイロハシリグモ

草の上によく見られる。網は張らずに、草の間を移動して獲物を探すが、静止していることが多い。体長は2 cm を超える個体もいて、広げた脚を含めると5 cm を超える。



イオウイロハシリグモ

ササグモ科 ササグモ

道端の葉の表面で獲物を狙い、静止している姿をよく見かける。近づいてもあまり動かないが、手を伸ばすと葉の裏側に回って逃げる。



ササグモ

ヒメグモ科 オオヒメグモ

ガードレールなどの人工物や、樹の又になった部分に不規則な網を張っている。ヒメグモの仲間は他のクモも獲物にして食べる。強そうには見えないのだが、見掛けとは違うようだ。



オオヒメグモ



オナガグモ♀

ヒメグモ科 オナガグモ

この緑の草片のゴミのようなものがクモである。体長は2から3cmになる。秋になると大きくなった個体が多く、よく目撃できる。出す糸には粘性が無く、その糸を伝わってくる他のクモを捕食する。



クロマルイソウロウグモ♀

ヒメグモ科 クロマルイソウロウグモ

ヒメグモ類の他のクモの巣に侵入して巣の主を捕食する。卵囊^{らんのう}の近くで待っていて、孵化して出てくる仔グモも食べるといふ。



チリイソウロウグモ♀

ヒメグモ科 チリイソウロウグモ

クサグモ類やヒメグモ類の網の上部に不規則網をつくり、網の主が捕えた獲物を横取りする。ちゃっかり寄生する種だ。



アシナガサラグモ♀

サラグモ科 アシナガサラグモ

網の下側についているので、背中を写す写真は難しい。市内では林に生息するが、サラグモの仲間はこの1種だけが良く見つかる。

ナゲナワグモ科 オオトリノフンダマシ

鳥の糞に似た形をしていて、昼間は葉の裏側に脚をたたんだ写真のような姿勢で動かずにいる。夜になると網を張り、接近した獲物に対して粘球のついた糸を投げて捕える。ただし、夜の生態を自分は見たことがない。



オオトリノフンダマシ♀

ナゲナワグモ科 シロオビトリノフンダマシ

農耕地脇の草むらなどに生息する。トリノフンダマシの仲間は市内では3種が見られる。写真の2種と、トリノフンダマシという種で、上記2種より、褐色に白い液で塗ったような丸い身体で、鶏の糞にさらに似ている。山地にはもっとカラフルな種もいて、人気の高い分類群である。



シロオビトリノフンダマシ♀

アシナガグモ科 アシナガグモ

水田やまわりの水路の中に水平の丸い網を張っている。昼間は網の支柱の草の先端付近に脚を伸ばして隠れている。



アシナガグモ♀

アシナガグモ科 オオシロカネグモ

市民の森や、林のある場所で見られた。網の中心で獲物を待つ。夏になると出現し、個体数も多かった。



オオシロカネグモ♀



キララシロカネグモ♀

アシナガグモ科 キララシロカネグモ

林内に生息し、夏になると出現する。腹部全体が金色で細い黒い紋様があり、美しい。水平円網を張り、網の支える葉裏に潜んでいる。



ジョロウグモ♀

ジョロウグモ科 ジョロウグモ

市内ではクモ類の中で、一番ポピュラーな種で山林や庭先まで広く分布する。雌は大きく体長は4 cm くらいになり、脚を含めると8 cm くらいまでなる。網には雄も同居しているが、別種に見えるほど小さく、色彩も地味である。繁殖をするために雌と交尾するが、雌に捕えられてよく食べられてしまうという。繁殖は命がけのようだ。



トヨウオニグモ♀

コガネグモ科 トヨウオニグモ

道端の草の間に網を張っていて個体数も多く、よく見かける。1 cm 程度の体長で網の中央に陣取り、獲物を待っている。



ビジョオニグモ♀

コガネグモ科 ビジョオニグモ

名前の由来は知らないが、連想する姿は、女性の背に彫られた刺青の絵柄。ただし、腹部の模様と姿勢好は美女なのか？ 平地の山林に近い道端の灌木にいるのを数回見た。個体数は少ないようだが、稀なようでもない。

コガネグモ科 イシサワオニグモ

美しい種で体長も2cmくらいになり大型である。山林内や河畔林で数回見たことがある。この調査でも比丘尼山の人家近くの灌木、都幾川の河畔林の草むらで記録した。



イシサワオニグモ♀

コガネグモ科 オニグモ

大型の種で人家の屋根と電線などをわたる大きな網を張る。以前は普通の種であったが、最近はあまり見かけない。子供頃、この種の網を針金の輪にからませ、セミなどを捕えようとした。首尾はどうだったか忘れてしまったが、網にアブラコオモリやアブラゼミが架かっていたのを見たことがある。



オニグモ♀

コガネグモ科 コガネグモ

コガネグモ科の名前を冠されている種で、腹部の横縞は美しい。大型であるが、市内では個体数は少ない。横浜の友人の話では棒の上で互いを戦わせるクモ合戦に使うという。市内ではそんな遊びは聞かない。この種の生息数が少ないことなのか。



コガネグモ♀

コガネグモ科 コガタコガネグモ

森林内に生息する小型のコガネグモで、木の間に網を張っている。驚かすと網から飛び降り隠れてしまう。市民の森などでは多くの個体が見られる。



コガタコガネグモ♀



ナガコガネグモ♀

コガネグモ科 ナガコガネグモ

市内では一番身近なコガネグモで、日当たりの良い野原や道端などでも見られる。少し太いギザギザになった隠れ網の中心に陣取り、網を指で触ると、網全体を大きく揺らす。子供の頃は地震蜘蛛と呼ばれていた覚えがある。



サツミノダマシ♀

コガネグモ科 サツミノダマシ

草の間に垂直の正常円網を張り、昼間は網の支柱の葉裏で潜むことも多い。腹部は緑色、下面も緑色、腹面に黄色の線をもつ。個体数も多く、緑色の体は美しい。



ワキグロサツミノダマシ♀

コガネグモ科 ワキグロサツミノダマシ

サツミノダマシに似ているが、出現は少し遅い。腹部は背面は緑だが、腹面は褐色。網の中心部に陣取っている。



ゴミグモ

コガネグモ科 ゴミグモ

垂直の網を張り、網の中央にゴミを集め、その上に居るが、クモ自体もゴミに似ている。クモ類にはこのように擬態をするような格好で、ひたすら獲物が網に掛かるのを待っている。

エビゲモ科 キハダエビゲモ

太い樹木の木肌に付いている。樹皮面を歩き回り昆虫などの獲物を捕食する。卵囊の上に親グモは乗って保護する。



キハダエビゲモ

エビゲモ科 シャコグモ

林縁の低木の葉の上に静止して獲物を待っている。1 cm 程度の大きさで、6月から8月に見られる。



シャコグモ

エビゲモ科 ヤマトヤドカリグモ

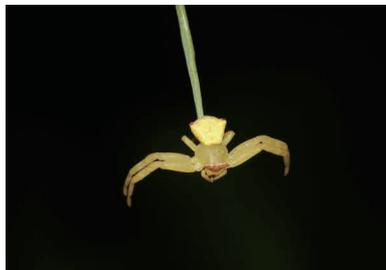
林縁の草や低木の葉上に見られる。葉の間を歩き回り、小昆虫を捕食する。4月頃には出現し、8月まで見られる。



ヤマトヤドカリグモ

カニゲモ科 アズチグモ

草むらや林縁の葉の上など、あちこちで見られる。花の中に潜み、訪れる飛翔昆虫を捕える。色彩、斑紋は変異が多い。顔にはサングラスをかけているような三角形の褐色斑があり、ちょっと悪者風。



アズチグモ



ハナグモ

カニグモ科 ハナグモ

どこにでもいる普通種で、花の側面や中に潜み、飛来する小昆虫を捕食する。腹部の斑紋には変異が多い。4月から秋まで見られる。



カバキコマチグモ♀

カバキコマチグモの巣

フクログモ科 カバキコマチグモ

草原のススキなどの多い場所に住む。ススキの葉を巻いて、昼間はそこに潜み、夜間には出て昆虫などを捕食する。ススキを巻いた中に産卵し、卵を守るが、孵化した仔グモは親を食べて巣立っていく。このクモは咬まれると痛いので、取り扱いには注意が必要。



ウラシマグモ

ネコグモ科 ウラシマグモ

地表面や樹皮上を徘徊する、体長3mmくらいの小さなクモである。和名は京都の無人島で最初に発見されたことから、浦島伝説に因む。



アオオビハエトリ♀

ハエトリグモ科 アオオビハエトリ

平地に住み、道端や庭などで見ることが多い。地表を歩き回り、アリを捕える。

ハエトリグモ科 アリグモ

里山から庭まで広く分布している。アリによく似ていて、樹木や葉の上を歩きまわり、獲物を探している。アリだと思っていると、糸を引いて枝から降りるのでクモだと気づく。



アリグモ♀

ハエトリグモ科 ヤサアリグモ

平地から山地まで広く分布していて、草や葉の上を徘徊する。アリグモより少し小さく細く 5 mm 前後の体長で小型。



ヤサアリグモ♂

ハエトリグモ科 デーニッシュハエトリ

樹木の幹の上を歩いていて獲物を探す。樹皮の下などに袋状の住居を作る。写真は雌で、雄は褐色で地味な色をしている。



デーニッシュハエトリ♀

ハエトリグモ科 マミジロハエトリ

林縁などに普通に見られる。体長 7 mm はくらいで、雄の顔前面の毛が白く、他は黒い。写真は雄で、雌のお腹は灰色。



マミジロハエトリ♂



ヤハズハエトリ♂

ハエトリグモ科 ヤハズハエトリ

河原の草の上、特にススキ類などのイネ科の植物の葉の上を動き回る。雄は黒色の体に白い矢筈模様がよく目立つ。雌はまったく別な模様をしている。クモ類は性的二型の差が大きい。



ヤハズハエトリ♀



ネコハエトリ♂

ハエトリグモ科 ネコハエトリ

林縁の草の上や樹木の枝や葉などの上を徘徊する。7 mm くらいのクモで、春から夏までの間見られる。



ヨダンハエトリ♂

ハエトリグモ科 ヨダンハエトリ

林内の木の樹皮上でよく見られる。頭部前面に赤い横帯と、お腹の白と赤の横帯が目立つ。前脚を上げて雌の周りを動き、求愛する。体長は6~7 mm くらいで、6月から7月に出現する。

ザトウムシ類

ザトウムシの仲間は森林の地上を徘徊している。東秩父の山地では数種を見ることができる。身体は5 mm 程度から1 cm くらいだが、総じて歩脚は長く、脚を含めると15cm もあるような大きな種も見られる。身体前方の中央に眼丘がある。

調査での出現種		
No	科名	種名
1	マザトウムシ科	モエギザトウムシ

カワザトウムシ科 モエギザトウムシ

調査では市民の森、比丘尼山などで1種のみを確認した。薄暗い林内に生息し、長い脚を巧みに動かして、ゆっくりと移動する。身体は5 mm 程度の大きさだが、すべての脚を含めると5 cm 以上の大きさになる。図鑑には雑食とあるが、まだ捕食しているところは見えていない。歩行するときに、この長い脚が絡むことはないのだろうか。



モエギザトウムシ胴体



モエギザトウムシ身体

(参考)

ザトウムシ目 sp

調査地外であるが、都幾川の稲荷橋付近の草原で見つけた個体は、脚が短く、ザトウムシのイメージから遠かった。ザトウムシ目にはいろいろなタイプがいる。



ザトウムシ sp

甲殻類

今回の調査では下表の9科10種を確認している。

甲殻類のエビの仲間は水生であるが、オカダンゴムシやフナムシ類は陸生の甲殻類である。

水生甲殻類の仲間は、一番ポピュラーなのがアメリカザリガニで、食用あるいはウシガエルの餌として移入された外来種である。1970年代には非常に沢山の個体が、川や沼などに生息していた。しかし最近では沼や川には少数がいるものの、市内では案外見つけるのが難しくなった。アメリカザリガニの減少理由はよくわからないが、農薬や、オオクチバスやブルーギルなどの新捕食者の出現があるのかもしれない。また、サワガニは今回の調査では出現記録が無いが、湧水のあった田圃脇の斜面や、小さな水路などにも生息している。たぶん、よく探せば見つけることも可能だろう。

調査での出現種			
群No	分類群	科名	種名
1	甲殻類	カブトエビ科	カブトエビ
2		ザリガニ科	アメリカザリガニ
3		テナガエビ科	スジエビ
4			テナガエビ
5		ヌマエビ科	ミナミノヌマエビ属 sp
6		ハウネンエビ科	ハウネンエビ
7		ヨコエビ科	ヨコエビ科 sp
8		オカダンゴムシ科	オカダンゴムシ
9		ワラジムシ科	ワラジムシ
10		フナムシ科	ニホンヒメフナムシ



スジエビ

テナガエビ科 スジエビ

川よりも沼などに多く生息する。溜池では多数の個体が生息していたが、最近ではバスなどに捕食されたのか、少なくなった。写真の個体は都幾川で捕えたが、1匹しか獲れなかった。

ヌマエビ科 ミナミヌマエビ属 sp

3 cm くらいの小さなエビで、2000 年頃には市内の川に出現したと友人から教えられた。以前の川にはヌカエビが生息していた。ミナミヌマエビは観賞魚の水槽の掃除役として飼われていたのが、自然の川などへの放流によって爆発的に増えたようだ。今では川や池、小さな堀などどこにも見られる。



ミナミヌマエビ属 sp ♂

ホウネンエビ科 ホウネンエビ

田植えの終わった直後の水田にいきなり出現する 2 cm 程度のエビで、脚を水面に向けて、逆さ向きで泳ぐ。



ホウネンエビ

カブトエビ科 カブトエビ

この種も田植えの終わった水田に突如、出現する。田んぼの泥を掻き混ぜるので、雑草の防除になるという話を聞いた。瀬戸内海などに棲むカブトガニは本種と同じような形態をしているが別種、本種は 3 cm くらい、カブトガニは 30cm もある。



カブトエビ

アメリカザリガニ科 アメリカザリガニ

アメリカ原産の外来種で、河川、小水路や溜池などに生息する。以前には非常に個体数も多く、ザリガニ釣りは子供でもできる遊びの対象であった。水田などの畦に穴を開けて潜み、植物や小動物なども食するが、最近では個体数が減っている。



アメリカザリガニ

ワラジムシ目

陸生の甲殻類の中には、ダンゴムシやワラジムシなどの種がいて、庭や道端の石の下などでよく見つかる身近な生物でもある。



オカダンゴムシ

オカダンゴムシ科 オカダンゴムシ

庭や路傍の落ち葉の中に生息する。触ると丸くなる。ごく普通の種で個体数も多い。歩脚は7対14本で、外骨格は硬く、艶がある。



ワラジムシ

ワラジムシ科 ワラジムシ

ダンゴムシと同じように庭などの落ち葉の中に住む。触れても丸くならない。歩脚は7対14本でダンゴムシに良く似る。



ニホンヒメフナムシ

フナムシ科 ニホンヒメフナムシ

山林の落ち葉のある湿った地上で見られる。この種もダンゴムシと同じ仲間7対の脚をもつ。

多足類

節足動物門でヤスデの仲間、ムカデの仲間など多数の歩脚がある分類群である。石や倒木の下、落ち葉の中など地表面に接した湿った場所で見つかることが多い。土壌動物と総称されている。ムカデの仲間は肉食で咬むが、ヤスデの仲間はこのんびりで意外と魅力的に見える。

調査での出現種			
群No	分類群	科名	種名
1	多足類	オオムカデ科	アオズムカデ
2		アカムカデ科	アカムカデ
3		シロハラヤスデ科	マクラギヤスデ
4		ババヤスデ科	ババヤスデ科 sp
5			キシヤスデ
6		ヤケヤスデ科	ヤケヤスデ

シロハラヤスデ科 マクラギヤスデ

庭や山林内の道端にある倒木、大きな石の下や落ち葉の下に見られる。3 cm くらいの大きさで、1 体節に 2 対の脚があり、背中はやや平たく、体節間に隙間がある。腐った葉などを食べる。



マクラギヤスデ

ヤケヤスデ科 ヤケヤスデ

庭や畑などの落ち葉や石や板切れの下にいる。腐った落ち葉などを食べる。ムカデによく似るが刺すことはない。各体節に 2 対の脚があるが、歩行の際の足の運びは一見の価値がある。



ヤケヤスデ

アカムカデ科 アカムカデ

冬の 2 月、倒木の下に隠れていた 3 cm くらいの小さい個体で、すぐに暗いところに隠れてしまった。肉食で眼は無い。このくらい小さいものだと、のんびり眺められる。夏、ウメの木の木陰で涼んでいたときに、帽子の上からなにかゴソゴソと動く気配がして、首筋に触れたので、払ったら、10cm もあるアオズムカデだった。咬まれると酷く痛いようだが、幸い何事も無く、退散して行った。大きいムカデはやっぱり苦手。



アカムカデ

軟体動物

水生貝類

水生の貝類には巻貝と二枚貝などがある。市内では巻貝のカワニナは多くの水路に生息し、ヒメタニシもさらに汚れた水路などにも生息して個体数も多い。昔の水田に生息していたタニシはマルタニシで、農薬などの影響で市内では絶滅しているようだ。二枚貝はこの調査ではマシジミしか観察できなかったが、市内の野田地区にある西明寺沼ではイシガイやドブガイを観察したことがある。以前には市野川や滑川の旧川跡の沼ではタナゴ類が見られ、そのような池では大型の二枚貝も生息していた。たぶん、今でもタナゴ類などがある池や沼では大型の二枚貝も生息している。池を干すようなときに立ち会えたら、貴重な大型の二枚貝も見られるかもしれない。

調査での出現種			
群No	分類群	科名	種名
1	水生貝類	カワニナ科	カワニナ
2		サカマキガイ科	サカマキガイ
3		シジミガイ科	マシジミ
4		タニシ科	ヒメタニシ

カワニナ科 カワニナ・タニシ科 ヒメタニシ

カワニナは水路などに多く棲む。ホタルの餌動物として知られる。ヒメタニシは水路や水田にも棲むが、昔のタニシとは別種。昔のタニシはマルタニシで少し大きく、最近ほとんど見えない。子供の頃、田圃でタニシを捕って味噌で味を着け食べたこともあるが、ヒメタニシは食べたいとは思わない。



カワニナ・ヒメタニシ



ヒメタニシ

カマキガイ科 サカマキガイ

水田や緩い流の川などに生息する5mm程度の小型の巻貝で、他のタニシやカワニナなどの巻貝と違い、殻が左（反時計回り）に巻いている。



サカマキガイ

シジミ科 マシジミ

内陸の淡水に棲むシジミで、市内ではきれいな水の流れる砂泥のある水路に生息する。数十年も前だが、市野川や滑川の河川内でも沢山生息していて、魚獲りに行ったときに、子供でも手に入るこの貝を沢山採って家に持ち帰り、味噌汁にしてよく食べた記憶がある。きれいな水に生息するのであるが、都幾川の本流ではほとんど生息していない。少し泥が混じらないと生息できないようだ。



マシジミ

陸生貝類

この分類群はカタツムリ類である。どこにでも居そうな生物だが、調査での出現個体数は多くなかった。

調査での出現種			
群No	分類群	科名	種名
1	陸生貝類	オカモノアラガイ科	オカモノアラガイ
2		キセルガイ科	ナミギセル
3		ナメクジ科	ナメクジ
4			ヤマナメクジ
5		ナンバンマイマイ科	ウスカワマイマイ
6			オナジマイマイ
7			コハクオナジマイマイ
8			ナンバンマイマイ科 sp
9			ニッポンマイマイ
10			ヒダリマキマイマイ
11			ミスジマイマイ



オオケマイマイ

ナンバンマイマイ科 オオケマイマイ

石灰岩のある地層に多く生息していると言われる。今回の調査中には確認できなかったが、都幾川の調査地で1頭を目撃した。独特な殻に毛の生えた形をしている。数年後の同じ場所、台風の増水で倒木の下に流れ着いた殻を大量に発見した。ただし、生きているのは1回の確認だけで、それからは見かけない。



オナジマイマイ

ナンバンマイマイ科 オナジマイマイ

小さなカタツムリでよく見かける。こんなものが昔からいたのかなどと考えても、記憶にない。小さいカタツムリは子供の頃の採集の対象にならず、覚えていないのかも。



ミスジマイマイ

ナンバンマイマイ科 ミスジマイマイ

市内では一番普通に出現する種で、殻に3本の模様が走る。ただし、1本の縞模様しかない個体もいて、バリエーションに富んでいる。殻の直径は2cmくらいである。



ヒダリマキマイマイ

ナンバンマイマイ科 ヒダリマキマイマイ

殻の中央に1本の縞模様がある。名前のように他のカタツムリと違って、左巻きになっている。殻の直径は大きいものでは4cmくらいになる。最近では個体数が少なく、あまり見られない。

キセルガイ科 ナミギセル

朽木などに生息し、苔などを食べているが、市内では個体数は少ないようだ。今回の調査では市野川の旧川脇の林で1回しか確認できていない。



ナミギセル

オカモノアラガイ科 オカモノアラガイ

畑わきの荒地に多数発生することもある。草の葉に沢山付いている光景は、ちょっと気持ち悪い。



オカモノアラガイ

ナメクジ科 ナメクジ

殻は無いが、カタツムリの仲間である。伸びると6cmくらいにまでなり、調査地の各地点で出現し、庭などでも見られる。最近は住宅地にはほとんど居なくなっている。



ナメクジ

ナメクジ科 ヤマナメクジ

山林内に出現するナメクジで太く8cmくらいの個体も見たことがある。調査では市民の森で確認しただけであった。



ヤマナメクジ



チャコウラナメクジ

(参考)

コウラナメクジ科 チャコウラナメクジ

外来種で、住宅地に侵入した。畑や自宅の庭でも多数の個体が発生して、イチゴなどの農作物を食害するのでやっかいなものだ。

扁形動物類 ウズムシ目

調査では扁形動物は下表の1種を確認しただけである。

調査での出現種			
群No	分類群	科	種名
1	扁形動物	サンカクアタマウズムシ科	ナミウズムシ



ナミウズムシ

サンカクアタマウズムシ科 ナミウズムシ

水のきれいな川や小さな流に生息する。ヨーロッパ産のプラナリアとは別属だが、近縁。

画面の上が頭、よく見ると小さい目がある。口は腹面中央。半分になっても身体が元通りになるという、再生の実験動物として有名。腹面中央に咽頭があり、小さな水生昆虫類を食べる。

東松山市の資料は50年くらい前に植物誌（岩田三男次（編）1972）の刊行があり、岩田は蘚苔類を除いた被子植物、裸子植物など117科737種を報告している。その後の調査報告は、市民の森を対象に行われた調査報告（東松山自然倶楽部編 2015）では、2004年から2014年に確認された動植物などを対象にし、植物は木本・草本類355種、シダ植物30種を報告している。他には文献収集ができていないので、どのようなものがあるのか分からない。

今回の調査での結果は調査方法や場所が相違するが、110科588種（蘚苔類5科6種を含む）を記録した。この調査（蘚苔類を除く105科582種）では岩田の報告していた種数より、少ない種数しか確認できなかった。岩田が報告していた種では、現在は埼玉県でのレッドリストに載っている種が多くあり、今回の調査ではレッドリストにある、ほとんどの種が見られなくなっていた。さらに、以前には普通に見られた種も、個体数が減少していて、稀に見られるだけになっているものもある。今回の調査では海外からの移入種が多く出現している。このような3つの特色があった。ただし、東松山自然倶楽部編の報告には、今回の記録から洩れている種も多くあり、調査方法によっては、さらに多くの種の確認ができるであろうと示唆されている。

調査での出現種				
群No	分類	科名	種名	原産地
1	シダ植物	イノモトソウ科	ワラビ	在来種
2		ゼンマイ科	ゼンマイ	在来種
3		トクサ科	スギナ	在来種
4			トクサ	在来種
5		オシダ科	ヤブソテツ	在来種
6		ウラボシ科	ノキシノブ	在来種
7	草本	アカネ科	アカネ	在来種
8			ツルアリドオシ	在来種
9			ヘクソカズラ	在来種
10			ヤエムグラ	在来種
11			ヨツバムグラ	在来種
12		イワタバコ科	イワタバコ	在来種
13		ウリ科	アマチャヅル	在来種
14			アレチウリ	北アメリカ
15			カラスウリ	在来種
16			スズメウリ	在来種
17	オオバコ科	オオバコ	在来種	
18		ツボミオオバコ	北アメリカ	
19		ヘラオオバコ	ヨーロッパ	
20	オシロイバナ科	オシロイバナ	園芸種	

調査での出現種					
群	分類	科名	種名	原産地	
21	草本	双子葉合弁花植物	オトギリソウ科	オトギリソウ	在来種
22			オミナエシ科	オミナエシ (確認は園芸種)	園芸種
23			ガガイモ科	ガガイモ	在来種
24				コバノカモメヅル	在来種
25			キキョウ科	キキョウソウ	北アメリカ
26				ツリガネニンジン	在来種
27				ミゾカクシ (アゼムシロ)	在来種
28			キク科	アキノキリンソウ	在来種
29				アキノゲシ	在来種
30				アメリカセンダングサ	北アメリカ
31				イナカギク (ヤマシロギク)	在来種
32				イヌクイモ	北アメリカ
33				オオアレチノギク	南アメリカ
34				オオアワダチソウ	北アメリカ
35				オオオナモミ	北アメリカ
36				オオキンケイギク	北アメリカ
37				オオジシバリ	在来種
38				オオブタクサ	北アメリカ
39				オグルマ	在来種
40				オケラ	在来種
41				オニタビラコ	在来種
42				オノゲシ	ヨーロッパ
43				ガンクビソウ	在来種
44				カントウタンポポ	在来種
45				カントウヨメナ	在来種
46				ククイモ	北アメリカ
47				キダチコンギク	北アメリカ
48				キッコウハグマ	在来種
49				キツネアザミ	在来種
50				コウゾリナ	在来種
51				コオニタビラコ	在来種
52				コセンダングサ	熱帯から暖帯
53				サジガンクビソウ	在来種
54				サウヒヨドリ	在来種
55				ジシバリ	在来種
56				シラヤマギク	在来種
57				シロバナタンポポ	在来種
58				セイタカアワダチソウ	北アメリカ
59				セイヨウタンポポ	ヨーロッパ
60				タウコギ	在来種
61				タカアザミ	在来種
62				タカサブロウ	在来種
63				タチチチコグサ	アメリカ大陸
64				ダンドボロギク	北アメリカ
65				チチコグサ	在来種
66				ニガナ	在来種
67				ノアザミ	在来種
68				ノゲシ	在来種

調査での出現種				
群No	分類	科名	種名	原産地
69		キク科	ノコンギク	在来種
70			ノハラアザミ	在来種
71			ノボロギク	ヨーロッパ
72			ハキダメギク	北アメリカ
73			ハハコグサ (ホオコグサ)	在来種
74			ハルジオン	北アメリカ
75			ヒメジョオン	北アメリカ
76			ヒメムカシヨモギ	北アメリカ
77			ヒロハホウキギク	北アメリカ
78			フキ	在来種
79			ブタクサ	北アメリカ
80			ブタナ	北アメリカ
81			ベニバナボロギク	アフリカ
82			ホウキギク	北アメリカ
83			メナモミ	在来種
84			ヤクシソウ	在来種
85			ヤグルマギク	園芸種
86			ヤブタバコ	在来種
87			ユウガギク	在来種
88			ヨモギ	在来種
89	チチコグサモドキ	熱帯アメリカ		
90	シロノセンダングサ	熱帯から暖帯		
91	キツネノマゴ科	キツネノマゴ	在来種	
92	クマツヅラ科	イワダレソウに似る外来種 sp	外来種	
93	ゴマ科	ゴマ	作物	
94	ゴマノハグサ科	アゼトウガラシ	在来種	
95		アゼナ	在来種	
96		アメリカアゼナ	北アメリカ	
97		ウリクサ	在来種	
98		オオイヌノフグリ	ユーラシア・アフリカ	
99		カワヂシャ	在来種	
100		キクモ	在来種	
101		タチイヌノフグリ	ユーラシア・アフリカ	
102		トキワハゼ	在来種	
103		ハダロソウ	在来種	
104	ムラサキサギゴケ	在来種		
105	サクラソウ科	オカトラノオ	在来種	
106		コナスビ	在来種	
107	シソ科	アキノタムラソウ	在来種	
108		イヌコウジュ	在来種	
109		イヌゴマ (チョロギダマシ)	在来種	
110		オカタツナミソウ	在来種	
111		カキドオシ	在来種	
112		キバナアキギリ	在来種	
113		キランソウ	在来種	
114		シソ	作物	
115		ジュウニヒトエ	在来種	
116	タツナミソウ	在来種		

草本

双子葉合弁花植物

植物

調査での出現種				
群No	分類	科名	種名	原産地
117	草本	双子葉合弁花植物	トウバナ	在来種
118			ニガクサ	在来種
119			ハッカ	在来種
120			ヒメオドリコソウ	ヨーロッパ
121			ヒメジソ	在来種
122			ホトケノザ	在来種
123			マルバハッカ	ヨーロッパ
124			ミゾコウジュ	在来種
125			メハジキ	在来種
126			ヤマハッカ?	在来種
127		ナス科	アメリカイヌホオズキ	北アメリカ
128			イヌホオズキ	在来種
129			ヒヨドリジョウゴ	在来種
130			マルバノホロシ	在来種
131			ヤマホロシ	在来種
132			ワルナスビ	北アメリカ
133		ハエドクソウ科	ハエドクソウ	在来種
134		ハマウツボ科	ナンバンギセル ヤセウツボ	在来種 ヨーロッパ・北アフリカ
135		ヒルガオ科	アサガオ	園芸種
137			コヒルガオ	在来種
138	ヒルガオ		在来種	
139	ヒルガオ科 sp (青花)		外来種	
140	ヒルガオ科 sp (白花)		外来種	
141	マルバアサガオ		熱帯アメリカ	
142	マルバルコウ	熱帯アメリカ		
143	ムラサキ科	キュウリグサ	在来種	
144	リンドウ科	フデリンドウ	在来種	
145	双子葉離弁花植物	アオイ科	イチビ	インド
146			ゼニアオイ	ヨーロッパ
147		アカザ科	アカザ	外来種
148			ケアリタソウ	南アメリカ
149			シロザ	ユーラシア
150		アカバナ科	アカバナユウゲショウ	南アメリカ
151			オオバナコマツヨイグサ	北アメリカ
152			オオマツヨイグサ	北アメリカ
153			チョウジタデ	在来種
154			ヒルザキツキミソウ	北アメリカ
155			ヒレタゴボウ	北アメリカ
156		メマツヨイグサ	北アメリカ	
157	アブラナ科	イヌガラシ	在来種	
158		イヌナズナ	在来種	
159		オオアラセイトウ (ハナダイコン)	中国	
160		オランダガラシ (クレソン)	ヨーロッパ	
161		カキネガラシ	ヨーロッパ	
162		グンバイナズナ	在来種	
163		スカシタゴボウ	在来種	
164		セイヨウアブラナ	ヨーロッパ	

調査での出現種					
群No	分類	科名	種名	原産地	
165	草本	アブラナ科	セイヨウカラシナ	ユーラシア	
166			ダイコン	作物	
167			タネツケバナ	在来種	
168			ナズナ	在来種	
169			マメグンバイナズナ	北アメリカ	
170		ミチバタガラシ	在来種		
171		イラクサ科	アカソ	在来種	
172			カテンソウ	在来種	
173		イラクサ科	カラムシ	在来種	
174			メヤブマオ	在来種	
175			ヤブマオ	在来種	
176		ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ	在来種	
177			タマノカンアオイ	在来種	
178		カタバミ科	イモカタバミ	南アメリカ	
179			カタバミ	在来種	
180			ムラサキカタバミ	南アメリカ	
181		双子葉離弁花植物	キンポウゲ科	アキカラマツ	在来種
182				イチリンソウ	在来種
183				ウマノアシガタ (キンポウゲ)	在来種
184				キツネノボタン	在来種
185				ケキツネノボタン	在来種
186				セリバヒエンソウ	中国
187				センニンソウ	在来種
188				タガラシ	在来種
189				ニリンソウ	在来種
190				ヤマキツネノボタン	在来種
191	クワ科	カナムグラ	在来種		
192		カラハナソウ	在来種		
193		クワクサ	在来種		
194	ケシ科	クサノオウ	在来種		
195		ジロボウエンゴサク	在来種		
196		タケニグサ	インドシナ (在来種?)		
197		ヒナゲシ	ヨーロッパ南部・西アジア		
198		ムラサキケマン	在来種		
199	スベリヒユ科	スベリヒユ	在来種		
200	スミレ科	コスミレ	在来種		
201		スミレ	在来種		
202		タチツボスミレ	在来種		
203		ツボスミレ	在来種		
204		ニオイタチツボスミレ	在来種		
205		ノジスミレ	在来種		
206		パピリオナケア	北アメリカ		
207	セリ科	カノツメソウ?	在来種		
208		セリ	在来種		
209		セントウソウ	在来種		
210		ノダケ?	在来種		
211		ノチドメ	在来種		
212		ハナウド	在来種		

調査での出現種				
群No	分類	科名	種名	原産地
213	草本	セリ科	ミツバ	在来種
214			ヤブジラミ	在来種
215			ヤブニンジン	在来種
216			ヤマゼリ	在来種
217			タデ科	アキノウナギツカミ
218		アレチギシギシ		ヨーロッパ
219		イシミカワ		在来種
220		イタドリ		在来種
221		イヌタデ		在来種
222		エゾノギシギシ		ヨーロッパ
223		オオイヌタデ		在来種
224		ギシギシ		在来種
225		サクラタデ		在来種
226		サナエタデ		在来種
227		スイバ		在来種
228		ニオイタデ		在来種
229		ハナタデ		在来種
230		ハルタデ		在来種
231		ヒメスイバ		ユーラシア
232		ママコノシリヌグイ	在来種	
233		ミズヒキ	在来種	
234		ミツソバ	在来種	
235		ヤナギタデ	在来種	
236		ヤノネグサ	在来種	
237		ツルナ科	ザクロソウ	在来種
238		トウダイグサ科	エノキグサ	在来種
239			オオニシキソウ	北アメリカ
240			コニシキソウ	北アメリカ
241			トウダイグサ	在来種
242		ドクダミ科	ドクダミ	在来種
243	ナデシコ科	ウシハコベ	在来種	
244		オランダミミナグサ	ヨーロッパ	
245		コハコベ	在来種	
246		ツメクサ	在来種	
247		ノミノツヅリ	在来種	
248		ノミノフスマ	在来種	
249		ハコベ	在来種	
250	ミミナグサ	在来種		
251		ムシトリナデシコ	ヨーロッパ	
252	バラ科	オビヘビイチゴ	在来種	
253		キジムシロ	在来種	
254		キンミズヒキ	在来種	
255		ヘビイチゴ	在来種	
256		ミツバツチグリ	在来種	
257		ヤブヘビイチゴ	在来種	
258		ワレモコウ	在来種	
259	ヒシ科	ヒシ	在来種	
260	ビャクダン科	カナビキソウ	在来種	

調査での出現種					
群No	分類	科名	種名	原産地	
261	草本	ヒユ科	アオビユ (ホナガイヌビユ)	原産地不明	
262			ヒカゲイノコズチ	在来種	
263			ヒナタイノコズチ	在来種	
264			ホソアオゲイトウ	南アメリカ	
265			ヤナギイノコズチ	在来種	
266			フウロウソウ科	アメリカフウロ	北アメリカ
267			ブドウ科	ヤブガラシ	在来種
268			ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	在来種
269				タコノアシ	在来種
270		双子葉離弁花植物	マメ科	アズキ	作物
271				アレチヌスビトハギ	北アメリカ
272				イタチハギ	北アメリカ
273				カスマグサ	在来種
274				カラスノエンドウ	在来種
275				カワラケツメイ	在来種
276				クサネム	在来種
277				クサフジ	在来種
278				クズ	在来種
279				ゲンゲ	中国
280				コマツナギ	在来種
281				コメツブウマゴヤシ	ヨーロッパ
282				コメツブツメクサ	ヨーロッパ・西アジア
283				シロツメクサ	ヨーロッパ
284				スズメノエンドウ	在来種
285				ツルマメ	在来種
286				トキリマメ	在来種
287				ナンテンハギ	在来種
288				ヌスビトハギ	在来種
289				ノアズキ	在来種
290		ムラサキツメクサ	ヨーロッパ		
291		メドハギ	在来種		
292		ヤハズソウ	在来種		
293		ヤブツルアズキ	在来種		
294		ヤブマメ	在来種		
295		ミソハギ科	ホソバヒメミソハギ	南北アメリカ	
296		ユキノシタ科	チダケサシ	在来種	
297		単子葉植物	アヤメ科	カキツバタ	在来種
298				キショウブ	ヨーロッパ
299	シャガ			中国	
300	ニワゼキショウ			北アメリカ	
301	イグサ科		イ	在来種	
302			クサイ	在来種	
303			コウガイゼキショウ	在来種	
304	イネ科		アオカモジグサ	在来種	
305			アキノエノコログサ	在来種	
306			アキメヒシバ	在来種	
307		アズマガヤ	在来種		
308		アゼガヤ	在来種		

調査での出現種				
群No	分類	科名	種名	原産地
309			アブラスキ	在来種
310			イチゴツナギ	在来種
311			イヌビエ	在来種
312			イヌムギ	南アメリカ
313			イネ	作物
314			イブキヌカボ	在来種
315			エノコログサ	在来種
316			オオアブラスキ	在来種
317			オオアワガエリ (チモシー)	ユーラシア
318			オオイチゴツナギ	在来種
319			オオエノコログサ	在来種
320			オオクサキビ	北アメリカ
321			オギ	在来種
322			オニウシノケグサ	ヨーロッパ
323			オヒシバ	在来種
324			カズノコグサ (ミノゴメ)	在来種
325			カゼグサ	在来種
326			カニツリグサ	在来種
327			カモガヤ	ヨーロッパ・西アジア
328			カモジグサ	在来種
329			カラスムギ	ヨーロッパ・西アジア
330			キツネガヤ	在来種
331			キシウススメノヒエ	熱帯アジア・アメリカ大陸
332			ギョウギシバ	在来種
333			キンエノコロ	在来種
334			クサヨシ	在来種
335			ケイヌビエ	在来種
336			コスズメガヤ	在来種
337			コツブキンエノコロ	在来種
338			コブナグサ	在来種
339			コヌカグサ	在来種
340			シナダレスズメガヤ	南アメリカ
341			シバ	在来種
342			シバムギ	ヨーロッパ
343			シマスズメノヒエ	北アメリカ
344			ジュズダマ	熱帯アジア
345			ススキ	在来種
346			スズメノカタビラ	在来種
347			スズメノチャヒキ	在来種
348			スズメノテッポウ	在来種
349			スズメノヒエ	在来種
350			セイバンモロコシ	地中海沿岸
351			セトガヤ	在来種
352			タイヌビエ	在来種
353			チガヤ	在来種
354			チカラシバ	在来種
355			チゴザサ	在来種
356			チヂミザサ	在来種

草本

単子葉植物

イネ科

調査での出現種					
群No	分類	科名	種名	原産地	
357	草本	単子葉植物	ツルヨシ	在来種	
358			ドジョウツナギ	在来種	
359			トダシバ	在来種	
360			トボシガラ	在来種	
361			ナガハグサ	ヨーロッパ	
362			ナギナタガヤ	地中海沿岸	
363			ヌカキビ	在来種	
364			ネズミノオ	在来種	
365			ネズミムギ	ユーラシア	
366			ノガリヤス	在来種	
367			ノゲイヌムギ	南アメリカ	
368			ハイコヌカグサ	北半球の温帯	
369			ヒゲナガスズメノチャヒキ	ヨーロッパ	
370			ヒロハノドジョウツナギ	在来種	
371			ホガエリガヤ?	在来種	
372			ホソネズミムギ	ホソムギとズミムギの雑種	
373			ホソムギ	ヨーロッパ	
374			マコモ	在来種	
375			ミズタカモジグサ	在来種	
376			ミゾイチゴツナギ	在来種	
377			ムラサキエノコログサ	エノコログサの品種	
378			ムラサキネズミノオ	在来種	
379			メヒシバ	在来種	
380			ヨシ	在来種	
381			ウキクサ科	アオウキクサ	在来種
382				ウキクサ	在来種
383				ミジンコウキクサ	外来種
384			オモダカ科	ウリカワ	在来種
385				オモダカ (ハナグワイ)	在来種
386			ガマ科	ガマ	在来種
387				コガマ	在来種
388				ヒメガマ	在来種
389			カヤツリグサ科	アゼガヤツリ	在来種
390				アゼスゲ	在来種
391				アゼナルコ (アゼナルコズゲ)	在来種
392				イヌホタルイ	在来種
393				ウシクグ	在来種
394				オオヌマハリイ	在来種
395				オニスゲ (ミクリスゲ)	在来種
396				カヤツリグサ (マスクサ)	在来種
397				カワラスゲ (タニスゲ)	在来種
398				キンガヤツリ	熱帯
399				クサスゲ	在来種
400	ゴウソ	在来種			
401	コゴメガヤツリ	在来種			
402	コジュズスゲ	在来種			
403	シカクイ	在来種			

植物

調査での出現種				
群No	分類	科名	種名	原産地
404	草本	カヤツリグサ科	ジュズスゲ?	在来種
405			シラスゲ (ムシャナルコスゲ)	在来種
406			タマガヤツリ	在来種
407			テンツキ	在来種
408			ヌマガヤツリ	在来種
409			ハマスゲ	在来種
410			ヒデリコ	在来種
411			ヒメカンスゲ	在来種
412			ヒメクゲ	在来種
413			フトイ	在来種
414			ホタルイ	在来種
415			ミコシガヤ	在来種
416			メアゼテンツキ	在来種
417			ヤブスゲ	在来種
418			ヤマイ	在来種
419			ヤワラスゲ	在来種
420			サトイモ科	カラスビシャク
421		ショウガ科	ミョウガ	作物
422		ツユクサ科	イボクサ	在来種
423			ツユクサ	在来種
424			ムラサキツユクサ	園芸種
425			ヤブミョウガ	在来種
426		トチカガミ科	オオカナダモ	アルゼンチン
427		ヒガンバナ科	キツネノカミソリ	在来種
428			ヒガンバナ	中国
429		ミズアオイ科	コナギ	在来種
430			ホテイアオイ	熱帯アメリカ
431		ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	北アメリカ
432		ヤマノイモ科	オニドコロ	在来種
433			ヒメドコロ	在来種
434			ヤマノイモ	在来種
435		ユリ科	アマナ	在来種
436			オオバギボウシ	在来種
437			オオバジャノヒゲ	在来種
438			オニユリ	在来種
439			オモト	園芸種
440			カタクリ	在来種
441			ジャノヒゲ (リュウノヒゲ)	在来種
442			タチシオデ	在来種
443			チゴユリ	在来種
444			ツルボ	在来種
445			ニラ	作物
446			ノカンゾウ	在来種
447			ノビル	在来種
448			ヒメヤブラン	在来種
449	ハウチャクソウ		在来種	
450	ヤブカンゾウ		在来種	
451	ヤブラン	在来種		

調査での出現種					
群No	分類	科名	種名	原産地	
452	草本	単子葉植物	ヤマジノホトトギス	在来種	
453			ヤマユリ	在来種	
454			キンラン	在来種	
455			ギンラン	在来種	
456			シュンラン	在来種	
457			ネジバナ (モジズリ)	在来種	
458	木本	双子葉合弁花植物	エゴノキ科	エゴノキ	在来種
459			カキノキ科	カキノキ	在来種
460			キク科	コウヤボウキ	在来種
461			キョウチクトウ科	テイカカズラ	在来種
462			クマツヅラ科	クサギ	在来種
463				オオムラサキシキブ	在来種
464				ムラサキシキブ	在来種
465				ヤブムラサキ	在来種
466			ゴマノハグサ科	キリ	外来種
467			スイカズラ科	ウグイスカグラ	在来種
468				ガmazミ	在来種
469				スイカズラ	在来種
470				ソクス	在来種
471				ニワトコ (クサニワトコ)	在来種
472			ツツジ科	アセビ	在来種
473				ネジキ	在来種
474				ヤマツツジ	在来種
475			ナス科	クコ	在来種
476			ノウセンカズラ科	キササゲ	中国
477			モクセイ科	イボタノキ	在来種
478				マルバアオダモ	在来種
479			ヤブコウジ科	ヤブコウジ	在来種
480			リョウブ科	リョウブ	在来種
481			アオイ科	ムクゲ	中国?
482			アケビ科	アケビ	在来種
483				ミツバアケビ	在来種
484			イラクサ科	ユアカソ	在来種
485			ウコギ科	ウコギ	在来種
486				キツタ (フユツタ)	在来種
487				タラノキ	在来種
488	ハリギリ	在来種			
489	ヤツデ	在来種			
490	ウルシ科	ヌルデ	在来種		
491		ハゼノキ	在来種		
492		ヤマウルシ	在来種		
493	カエデ科	イロハモミジ	在来種		
494		ウリカエデ	在来種		
495	カツラ科	カツラ	在来種		
496	カバノキ科	アカシデ	在来種		
497		イヌシデ	在来種		
498		ハンノキ	在来種		
499	クスノキ科	イヌガシ	在来種		

調査での出現種					
群No	分類	科名	種名	原産地	
500	木 本	双子葉離弁花植物	クロモジ	在来種	
501			クスノキ科	シロダモ	在来種
502				タブノキ	在来種
503				ヤマコウバシ	在来種
504				ナツグミ	在来種
505			クルミ科	オニグルミ	在来種
506			クロウメモドキ科	オオクマヤナギ	在来種
507			クワ科	イタビカズラ	在来種
508				カジノキ	在来種
509				ヒメコウゾ	在来種
510				マグワ	作物
511			センダン科	センダン	暖地系・伊豆半島以西
512			ツゲ科	ツゲ	園芸種
513			ツツラフジ科	アオツツラフジ	在来種
514			ツバキ科	チャノキ	作物
515				ヒサカキ	在来種
516				ヤブツバキ	在来種
517			トウダイグサ科	アカメガシワ	在来種
518				ナンキンハゼ	園芸種
519			ニガキ科	ニワウルシ (シンジュ)	園芸種
520			ニシキギ科	ツルウメモドキ	在来種
521				ニシキギ	在来種
522				コマユミ	在来種
523				マユミ	在来種
524			ニレ科	エノキ	在来種
525				ケヤキ	在来種
526				ムクノキ	在来種
527			バラ科	ウメ	作物
528				ウミズザクラ	在来種
529				カジイチゴ	在来種
530				クサイチゴ	在来種
531	クサボケ	在来種			
532	クマイチゴ	在来種			
533	コゴメウツギ	在来種			
534	サクラ・ソメイヨシノ	園芸種			
535	シモツケ	在来種			
536	テリハノイバラ	在来種			
537	ナワシロイチゴ	在来種			
538	ノイバラ	在来種			
539	ハチジョウクサイチゴ	在来種			
540	ビワ	在来種			
541	モミジイチゴ	在来種			
542	ヤマザクラ	在来種			
543	ヤマブキ	在来種			
544	ユキヤナギ	園芸種			
545	ブドウ科	エビヅル	在来種		
546		ツタ (ナツツタ)	在来種		
547		ノブドウ	在来種		

調査での出現種					
群No	分類	科名	種名	原産地	
548	木 本	ブナ科	アラカン	在来種	
549			クヌギ	在来種	
550			クリ	在来種	
551			コナラ	在来種	
552		マメ科	シラカシ	在来種	
553			ニセアカシア (ハリエンジュ)	北アメリカ	
554			ネムノキ	在来種	
555			フジ	在来種	
556			ヤマハギ	在来種	
557		マンサク科	マンサク	在来種	
558		ミズキ科	アオキ	在来種	
559			ミスギ	在来種	
560		ミツバウツギ科	ゴンズイ	在来種	
561		メギ科	ナンテン	在来種	
562		モクレン科	ハクモクレン	園芸種	
563		モチノキ科	アオハダ	在来種	
564			イヌツゲ	在来種	
565			アカメヤナギ	在来種	
566			カワヤナギ	在来種	
567		ヤナギ科	コゴメヤナギ	在来種	
568			ネコヤナギ	在来種	
569			セイヨウハコヤナギ	外来種	
570		ユキノシタ科	ウツギ	在来種	
571			コアジサイ	在来種	
572		単子葉植物	イネ科	マダケ	在来種
573				メダケ	在来種
574				モウソウチク	中国
575	アズマネザサ			在来種	
576	クマザサ			在来種	
577	スズタケ		在来種		
578	ヤシ科		シュロ	園芸種	
579	ユリ科	サルトリイバラ	在来種		
580	裸子植物	イチョウ科	イチョウ	中国	
581		スギ科	スギ	在来種	
582			メタセコイア	外来種	
583		ヒノキ科	ヒノキ	在来種	
584		マツ科	アカマツ	在来種	
585			クロマツ	在来種	
586	テーダマツ		北アメリカ		
587		モミ	在来種		

キク科

多くの種のある分類群で、馴染みのある花の形をしている。厳冬期を除けば一年を通して多くの花が咲いている。野生の花は小さいものが多いが、よく見れば機能的で無駄が無く非常に美しい。



ユウガギク

キク科 ユウガギク

夏から秋にかけて道端に咲く。2 cm くらいの白い沢山の花をつけよく目立つ。草丈は 50 ~ 150cm。



カントウヨメナ

キク科 カントウヨメナ

秋、道端に咲く。30cm くらいの草丈で、1 ~ 数輪の花をつける。都幾川の河川敷内の林縁でよく見られた。



シラヤマギク

キク科 シラヤマギク

暗い林内や林縁に咲く。花期は夏から秋で高さ 1 m 以上になる。比丘尼山や市民の森で見られた。



ハルジオン

キク科 ハルジオン

春から初夏まで咲くが、庭や日当たりの好い道端など、あちこちで見られる。北アメリカからの外来種であるが、馴染みのある花になっている。茎は中空で、よく似た外来種で 6 月から花期を迎えるヒメジョオンがあるが、ヒメジョオンは茎が中空ではない。

キク科 セイタカアワダチソウ

北アメリカ原産の多年草で、観賞用に栽培されていたが、野生化した。他の植物の成長を押さえるような化学物質を出して、場所を独占する。花粉症の元凶と言われたが、虫媒花なので濡れ衣。最近では分布が縮小しているように感じる。



セイタカアワダチソウ

キク科 オグルマ

水田や田のあぜなどで見られる。直径3cmくらいの舌状花は放射状に並び美しく、野生の花のようには見えない。夏から秋にかけて咲く。



オグルマ

キク科 アキノキリンソウ

日当たりのよい林縁や林内に見られる。花期は夏から秋で、比丘尼山や市民の森で見られたが、あまり多くはない。



アキノキリンソウ

キク科 サジガンクビソウ

市民の森の暗い道端に多く見られた。花は下を向いて咲き、高さは30cmくらい。ガンクビとは煙草花を吸うキセルの金属部の形。



サジガンクビソウ



タカサブロウ

キク科 タカサブロウ

湿気のある道端や、水田の端に多く生えている。20～70cm くらいの背丈で、白色舌状花が並ぶ。夏から秋に咲くが、地味で見逃してしまう。



コセンダングサ (左) と実 (右)

キク科 コセンダングサ

総苞片は放射状で見事だが厄介。

原産地はよく分かっていないが、熱帯から温帯にかけて世界中に分布している。日当たりの良い場所を好み、とても多く見られる。花期が終り、種ができると、とても厄介で服に着いた尖った総苞片はチクチクする。



キクイモ

キク科 キクイモ

北アメリカ原産、多年草で地中に大きな塊茎を作る。戦時中に飼料などで栽培されたが、現在は野生化している。1.5～3m くらいの丈になり、9～10月に花が咲く。



オオブタクサ

キク科 オオブタクサ

河川敷や堤防、荒地な大群落で生えている。高さ3m、茎も直径3cm くらいにもなる。8～9月に花が咲き、黄色の花粉が多量に飛散する。北アメリカの原産で一年草。種はシメヤカワラヒワ(鳥)が好物でよく食べている。

キク科 ノアザミ

春から初夏にかけて咲き、野原や林縁で見られる。春から咲くのはアザミ類ではこの種だけで、50～100cmの草丈になる。市内でも普通に見られるが、最近は少し減っているように感じる。



ノアザミ

キク科 ノハラアザミ

8～10月が花期で、乾いた草地に生える。ノアザミに似ていて、秋に見られるのはこの種で、1mくらいの草丈になる。



ノハラアザミ

キク科 タカアザミ

少し湿った場所に生え、休耕地や河原などで見られる。花期は8～10月で、下向きに多くの花をつける。草丈は1～2mで荒地内ではよく目立つ。



タカアザミ

キク科 カントウタンポポ

野原や道端に生える。都幾川の堤防や比丘尼山などの農道にも多く見られる。市街地内の道端に多い、外来種のセイヨウタンポポの花の下側の総苞片は反り返るが、カントウタンポポは直立している。



カントウタンポポ



シロバナタンポポ

キク科 シロバナタンポポ

人家近くの道端でよく見られた。白い花のタンポポで、少し茎が立っている。4～5月が花期。関西方面に多く見られるという。



コウゾリナ

キク科 コウゾリナ

野原や林の脇など日当たりのよい場所に生える。普通に見られ、茎や葉には剛毛があり、触るとザラザラする。花期は5～10月で長い。「髪剃こうぞり」はカミソリのこと、触ると傷を負いそうなところから由来する。



オオジョシバリ



キク科 オオジョシバリ

畑や水田にごく普通に生え、4～5月に畦道などを彩る。花は直径3cmくらいで大きく、花柱の先はくると巻く。草丈は20cmくらいで、地上を這って長くのびる。同じような場所には花が小さめなでよく似たジシバリもある。



ニガナ

キク科 ニガナ

林縁などの日当たりの良い場所によく見られる多年草で、茎や葉を切ると苦味のある乳液がでる。草丈は40cm前後で、直立する。初夏5～7月に咲く。

キク科 オニタビラコ

道端などに生え、とてもよく目につく。秋まで茎の先に沢山の花をつけ、茎は折ると白い乳液がでる。花は小さいがよく見ると美しい。



オニタビラコ

キク科 オニノゲシ

道端や荒地に多く見られるヨーロッパ原産の種。葉に鋭い大きな棘をもち、茎は中空で草丈は1m未満になる。昔からある、よく似たノゲシは葉に棘を持つが小さい。



オニノゲシ

キキョウ科 ミゾカクシ

別名アゼムシロ。湿地に多く密生して生える。草丈は10～15cm、葉腋から花柄を伸ばして淡紫色の花をつける。花冠は5裂する、変わった花の形をしている。実物を見ればこの奇妙な花の形を気に入るだろう。



ミゾカクシ

キキョウ科 ツリガネニンジン

日当たりの好い野原に見られるが、市内ではあまり見かけない。茎は直立して葉は輪生する。秋に上部に花が数輪ずつ付く。



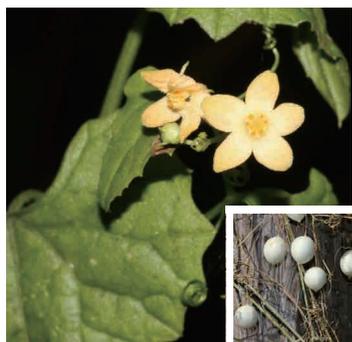
ツリガネニンジン

ウリ科 カラスウリ

林縁ややぶに生える、つる性で花は夜間に咲き、夜明け頃にはしぼんでしまう。8～9月が花期で、結実後は6cmくらいの実が熟すと朱赤色になる。



カラスウリ



スズメウリの花（左）と実（右）

ウリ科 スズメウリ

林縁に生えるつる性のウリで、果実はカラスウリより小さく熟しても白い。花期は8～9月で、小さな花をつける。



アレチウリ

ウリ科 アレチウリ

荒地に生える北アメリカ原産のつる性の一年草で、8～9月にかけて小さな白い花をつける。茎には軟毛と棘が密生している。夏には勢いよく繁茂して堤防などを覆う。乾燥してからの棘は鋭く、ズボンなどを通して刺さり痛い。



スイカズラ

スイカズラ科 スイカズラ

5～6月にかけて花期、つる性で、枝先の^{ようえき}葉腋に花を2個ずつつける。甘い香りが強く、夜間のほうが強く香り、夜行性の蛾類を呼ぶものと思われる。



ウグイスカグラ

スイカズラ科 ウグイスカグラ

日当たりの好い林地に生える。落葉低木で、4～5月に^{ようえき}葉腋から長い花柄をだし、下向きの淡紅色の花1個つける。注意して見ないと見落としてしまうくらい可憐だ。

ゴマノハグサ科 トキワハゼ

路傍に普通に見られ、10cm くらいの草丈の一年草。花期は4～11月まで、長い期間にわたって花が咲いている。忘れられそうな地味な草だが、春には多数の株に花が付き、賑やかに春の野を彩る。



トキワハゼ

ゴマノハグサ科 オオイヌノフグリ

今や身近で春を代表するような花だが、ユーラシア、アフリカ原産の外来種である。明治の中頃に日本に入ったとされている。小さいがルリ色の花は美しく、沢山の花が付くので、青い絨毯じゆうたんのようになることもある。フグリとは陰囊いんのうのこと。植物の和名の命名者の感覚は？



オオイヌノフグリ

ゴマノハグサ科 タチイヌノフグリ

オオイヌノフグリと同じように道端や畑に群生する。10～30cmの草丈であるが、葉の間につける花は小さく目立たない。ユーラシア、アフリカ原産の外来種である。



タチイヌノフグリ

ハマウツボ科 ヤセウツボ

ヨーロッパ、北アフリカ原産の外来種で、マメ科、キク科、セリ科などの植物に寄生して生える。花期は5～6月で、調査では2014年に都幾川の堤防、2017年に滑川の堤防上で目撃した。



ヤセウツボ



ワルナスビ

ナス科 ワルナスビ

北アメリカ原産の外来種で、棘があるのでやっかいな種である。花期は6～10月で、道端や畑脇で咲いていた。昭和初期に関東地方に入ってきた。



カキドウシ

シソ科 カキドウシ

道端や野原、庭などに生える。20cmくらいの草丈で、2cmくらいの赤紫の花を1～3個くらいつける。茎がつる状になり、垣根を越えて広がる。シソ科の花は唇形をしているのが特徴。



キランソウ

シソ科 キランソウ

道端、庭、林縁など日当たりの好い場所に生えている。この種の別名はじごくのかまのふたで、地面に張り付くように根生葉を広げ、3～5月にかけて紫色の花をつける。



キバナアキギリ

シソ科 キバナアキギリ

丘陵地などのすこし暗い林床で見られる。花期は秋でキリの花に似た黄色の花をつける。草丈は20～40cmくらいある。



アキノタムラソウ

シソ科 アキノタムラソウ

道端や林縁から林内まで、日の当る場所から、すこし暗いような場所にまで生えている。7月から晩秋まで花が見られ、50cmくらいの草丈がある。

ミソハギ科 ホソバヒメミソハギ

南北アメリカ原産の湿地に生える一年草で、50cm前後の草丈がある。6～10月にかけて花期で、^{ようえき}葉腋から小さな花をつける。宮鼻地区の休耕地では見られた。



ホソバヒメミソハギ

クマツヅラ科 ヤブムラサキ

高さ2～3mの落葉低木で、林地の林縁などに生息する。葉は対生で、6～7月に葉腋に小さなピンク色の花をつける。秋には紫色の小さな果実をつける。



ヤブムラサキ

クマツヅラ科 クサギ

林縁など日当たりの好い場所に生える落葉小高木で、4～8mになる。7月下旬～9月にかけて枝先や、^{がく}上部の葉腋に花を多数つける。花の後、萼は赤紫色の星状になり、中央に青い果実を乗せる。枝を折ると強い臭気がある。



クサギ

ムラサキ科 キュウリグサ

道端や畑、畦道など日当たりのよい場所に見られる。15～30cmの草丈で、2mmくらいの可愛い小さい花をつける。



キュウリグサ

ヒルガオ科 ヒルガオ

日当たりの好い道端や野原に生えている。5cmくらいの大きな花で6～8月にかけて咲く。同じ時期に咲くよく似た花でコヒルガオがあるが、花は3～4cmで小さく、淡紅色をしている。コヒルガオは畑にも生えるが、根を細断しても、細かい根から新しい芽をだし根絶がやっかいだ。



ヒルガオ



コバノカモメズル

ガガイモ科 コバノカモメズル

林縁に見られるつる性の多年草である。葉は対生し、葉腋から花序を出して7～8月に紫色の10mm未満の小さい花をまばらにつける。



フデリンドウ

リンドウ科 フデリンドウ

日当たりの好い林内に4～5月にかけて花をつける、小さなリンドウで、淡青色の花は美しい。以前には春の林内での普通種であったが、市内では、最近、ほとんど姿を消した。今回の調査では市野川と滑川に挟まれた丘陵地で見られたただけであった。



ヤブコウジ

ヤブコウジ科 ヤブコウジ

林内の地上に生える10～20cmの小さな常緑の種で、白い花は7～8月に咲き、果実は熟すと赤い。市民の森では道端近くに見られる。



ヤマツツジ

ツツジ科 ヤマツツジ

丘陵地に晩春から初夏に赤い花が咲き誇る。普通に見られるツツジだが、最近では少なくなっているように感じる。半常緑の低木で1～2mくらいに育つ。

セリ科 ハナウド

川沿いや林縁などの湿った日当たりの
好い場所に群生する。草丈は2mほどに
伸び、頂部に20cmくらいの放射状の花
序を出して多数の白い小さな花をつける。
市野川の堤防の脇に多く見られた。



ハナウド



セリ科 セリ

湿った場所に群生する。早春のやわらか
い若菜は春の七草として親しまれ、強い独
特の香りは清しい。7～8月に白い小
さな花をつける。



セリ

セリ科 ヤブニンジン

林縁や竹やぶなどの日陰に生える多年
草。葉はニンジンに似るが、ひょろっとし
ていて目立たない。4～5月に白い小
さな花をまばらにつける。



ヤブニンジン

セリ科 ヤブジラミ

日影の林縁や道端に多く生えている。草
丈は70cmにもなり、5～7月に白い小
さな花を咲かす。後、結実した果実はかぎ
状に曲がった刺毛があり、衣服に付きやす
いのがやっかいだ。



長靴の紐に付いた果実



ヤブジラミ



ノチドメ

セリ科 ノチドメ

すこし湿った畦や野原、林縁などの地上に群生する。花期は6～10月であるが、緑色の花柄を出して、帯緑色の小さい花を付けるのだが、目立たないので、記憶に残らない。



ニワウルシ

ニガキ科 ニワウルシ

クルミあるいはウルシのような葉の高木で河川敷や農耕地に残る林などでよく見かける。中国原産で、明治時代に移入してきた。6月に枝先に緑白色の小さな花をつける。果実は翼果で熟すと褐色になる。



アカバナユウゲシヨウ

アカバナ科 アカバナユウゲシヨウ

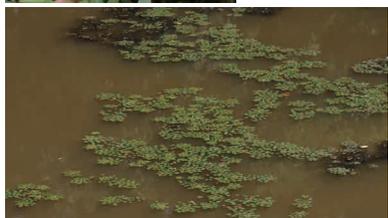
南アメリカ原産の外来種で、60cmくらいの草丈になる。花は1cmくらいで赤紫色の花弁、白いおしべが目立つ。最近では庭、道端、野原など生態系のギャップの生じた場所から分布を広げている。



ヒレタゴボウ

アカバナ科 ヒレタゴボウ

北アメリカ原産の外来種、8～10月に黄色の花が咲く。水田跡の湿性荒地に群落をつくっていた。草丈は60cmくらい。



ヒシ

ヒシ科 ヒシ

沼や池の水面に群生する。写真は市民の森の谷下にあった池で撮ったが、数年後は無くなっていた。果実は潰れて弾けたような形で、突起は尖る。夏に小さな白い花を咲かせる。菱形はこの実の形から来ている。

スマレ科

野生種 6、園芸種 1 の計 7 種をこの調査では確認した。いずれも道端や野原、林内で見られる平地に自生する普通種であった。専門家によればこれらの多くの種では交雑が起き、純粋種であるものは少ないような言であった。下記に挙げたものは交雑種かどうか判らないが、種本来の特徴を持っているものを示してある。

スマレ科 ノジスマレ

早春、他の花に先駆けて道端や野原など日当たりの好い場所に咲く。牧野博士の学生版の植物図鑑に大きな絵が出ていた。寒い冬を越えて初めに咲き始めるスマレに愛着を感じたのだろうか。



ノジスマレ



ニオイタチツボスマレ

スマレ科 ニオイタチツボスマレ

市民の森の道端の日当たりの好い場所に咲いていたが、他の場所では見られなかった。4～5月が花期で、日本全土に分布している。



タチツボスマレ

スマレ科 タチツボスマレ

人家付近の道端や林縁、林内に4～5月に咲く。とても馴染み深いスマレで何処にでも見られる。花はとても美しいのだが、あまりに普通種なので、珍重はされないみたいだ。

スマレ科 ツボスマレ

林縁の少し湿った草地によく見られる。白い唇弁に紫の筋が入る花は、4～5月に咲く。



ツボスマレ



アオハダ

モチノキ科 アオハダ

丘陵地内などの林地でよく見かける高木で12mくらいに育つ。葉は互生、果実は丸く、9～11月に熟して赤くなる。見るからに甘く旨そうなのだが、鳥がついばんでいるのをあまり見ない。美味しくないのかもしれない。



オオニシキソウ

トウダイグサ科 オオニシキソウ

北アメリカ原産の一年草の外来種。道端や畦道などに多く見られる。直立または地上を這うように生える。花は小さく、6～10月に咲いている。



アカメガシラ

トウダイグサ科 アカメガシラ

伐採の跡地などの日当たりの良い場所に生える。落葉高木で15mにも育つ。新芽は赤く、葉はかしわと同じように食物をのせるのに使った。



カラスノエンドウ

マメ科 カラスノエンドウ

日当たりの好い道端や野原に普通に見られる、つる性の二年草。花は1cmより少し大きい紅紫色で、3～6月に咲いている。豆果は黒く熟すのでカラスに見立てたといわれる。



スズメノエンドウ

マメ科 スズメノエンドウ

日当たりの好い道端や野原に普通に見られる。カラスノエンドウに比べ、葉も花も小さいのでスズメをあてたもの。4～6月に小さな白紫の花を付ける。



クサフジ

マメ科 クサフジ

日当たりのよい道端や野原に普通に見られる。大きな群落をつくり華やかに初夏を彩る。調査ではすべての場所で確認できた。



ナンテンハギ

マメ科 ナンテンハギ

林縁などに見られ、草丈 60cm になる。花は紅紫色で葉がナンテンに似ている。6月から秋にかけて咲く。



ノアズキ

マメ科 ノアズキ

日当たりの好い林縁で見られた。つる性の多年草で、黄色の変わった形の花を8～9月に咲かせる。



ヤマハギ

マメ科 ヤマハギ

国内のハギの仲間の中で一番ふつうに見られる。1～2mの落葉低木で、7～9月にかけて紅紫色の花をつける。

カタバミ科 イモカタバミ

南アメリカ原産の外来種で、同じ南アメリカ原産のムラサキカタバミによく似ているが、花の色は濃い。イモのような塊茎によって増え、4～9月に咲く。



イモカタバミ



キンミズヒキ



ヘビイチゴ



ナワシロイチゴ



クサボケ



ヤマブキ

バラ科 キンミズヒキ

道端や林縁、林内などで夏から秋に黄色の花をつける。細長い花序がタデ科のミズヒキに似ている。

バラ科 ヘビイチゴ

田圃や道端など湿った場所に生える多年草で、4～6月に黄色の花を沢山つける。花の後に赤い果実をつける。毒はないが、美味しくはないようだ。

バラ科 ナワシロイチゴ

日当たりの良い場所に生える。5～6月にかけてが花期で、6月には実が熟す。食べられるが、味見はしなかったので判らないが、見た目は甘そうである。草丈は低いがキイチゴの仲間。

バラ科 クサボケ

以前は、春の雑木林の林縁、堤防など道端の草の中に咲いているのをよく見かけた。3～4 cmの果実は少し歪んだ球形で、噛むとすごく渋く酸っぱい。実で果実酒もできるが、最近は見つけるのも難しく、採取が困難かも。

バラ科 ヤマブキ

ヤマブキには、この写真のように一重で咲く種と、八重で咲くヤエヤマブキがあるが、八重のものは園芸種、太田道灌の有名な故事はヤエヤマブキ。このヤマブキには4 mm くらいの実がつく。

バラ科 ウワミズザクラ

4～5月、葉が展開した後に、沢山の花が10cmくらい密集したブラシのような形で開花する。こんな形でもサクラの仲間、8～9月には赤から黒く実が熟し、小さい実だが食べられる。



ウワミズザクラ

ユキノシタ科 チダケサシ

山林の少し湿ったところに生える、草丈60cmくらいの多年草。6～8月に花をつける。茸のチタケ（あるいはチチタケ）を刺して持って帰ったとも言われる。市民の森で見られた。



チダケサシ

ベンケイソウ科 タコノアシ

花序に花や実がびっしりと並ぶのたこを蛸の脚に見立てている。確かに秋にできる実の形は吸盤に似ているので納得できる。休耕している水田などの湿地で見られる。花は夏に咲く。



タコノアシ

アブラナ科 セイヨウカラシナ

春の都幾川や市野川などの堤防を黄色く彩る。栽培種だったようだが、ヨーロッパやアメリカなどから侵入したといわれる。同じ時期に咲くセイヨウアブラナも黄色で見分けづらいが、後者のほうが先に咲く。カラシナ類は辛みのある葉を食用にする。



セイヨウカラシナ



ナズナ

アブラナ科 ナズナ

道端に普通に見られる馴染みのある草でペンペン草と呼ばれている。実生に時期に茎を持って振ると、音がペンペンと鳴ったので子供の頃はそう思っていた。図鑑では果実を三味線のバチにたとえたとも言われている。



ムラサキケマン

ケシ科 ムラサキケマン

林縁などのやや湿った場所に生える。30cm くらいの草丈で5月頃に花が咲く。華鬘けまんは、仏殿の欄間を飾る仏具からきている。



ジロボウエンゴサク

ケシ科 ジロボウエンゴサク

川岸の山林内に見られる。春に紫から青紫の花をつける。草丈は15cm程度で日当たりのよい林内の地上にひっそりと咲く。群生をするので美しく見つけるとうれしくなる。



クサノオウ

ケシ科 クサノオウ

日当たりの好い道端の草原に生えている。春から夏に黄色の2cm くらいの花をつける。茎や葉を切ると、有毒の黄色の乳液が出るが、鎮痛作用を持っているといわれる。

キンボウゲ科 センニンソウ

道端や林縁の日当たりの好い場所に生えるつる性の多年草。夏から秋にかけて白い3cm くらいの花を沢山つける。茎や葉は有毒であるが、花は繊細で美しい。



センニンソウ

キンボウゲ科 セリバヒエンソウ

近年、河原や野原などに多数が見られるようになった。スマレを思わせるような花は美しく、葉はセリによく似ている。中国産の外来種であり、都幾川や越辺川周辺でよく見られた。



セリバヒエンソウ

ナデシコ科

ナデシコ科の仲間の多くは春から夏にかけて花を咲かせる。その多くはハコベ、ノミノフスマ、ミミナグサなど小さく白い可憐な花をつける。また、カワラナデシコやムシトリナデシコなど赤系の花をつける。市内では白い可憐な花をつける種が沢山見られるが、どの種も道端や野原、庭などで普通に見られる。大和撫子とはどんな花に喩^{たと}えているのだろうか？

ナデシコ科 ノミノツヅリ

日当たりの好い畦道、畑などに群生する20cm 程度の草で3～6月に5mm くらいの5弁の白い小さな花をつける。



ノミノツヅリ

ナデシコ科 オランダミミナグサ

春、日当たりの好い場所に生えているヨーロッパ原産の外来種で、明治末には日本に入っている。在来種には茎が褐色のミミナグサがあるが、本種は茎に線毛が多数生えている。花卉は5枚で、先端に切れ込みがある。



オランダミミナグサ



ハコベ



ノミノフスマ



ウシハコベ



ザクロソウ



ウマノスズクサ

ナデシコ科 ハコベ

道端に普通に生え、春から夏にかけて白い小さな花をつける。花弁は5枚であるが、基部が分かれるので10枚あるように見える。花の青中央にある雌しべは3本。柔らかい草であるが、たくましく茂る。

ナデシコ科 ノミノフスマ

畑の脇や、荒地に生える小さな草で、春から秋まで7mmの小さな白い花をつける。ハコベと同じように花弁は5枚だが基部で裂けるので10枚あるように見える。

ナデシコ科 ウシハコベ

ハコベの仲間なので、白い花弁は5枚で、基部で裂け10枚に見える。ハコベよりも大きく、草丈は30cmくらいになる。ハコベとの違いは雌しべが5本ある。

ツルナ科 ザクロソウ

道端や畑で見られる20cmくらいの草で、夏から秋にかけて3mm程度の白い小さな花をつける。

ウマノスズクサ科 ウマノスズクサ

川の堤や林縁などに生えるつる性の草である。名前の由来は果実が熟すと果柄が糸状に6裂して垂れ下がる。この形が馬につける鈴に似ているというところからきている。7～9月にサキソフンの形をした花をつける。ジャコウアゲハやホソオチョウの食草になっている。



タマノカンアオイ



タマノカンアオイの花

ウマノスズクサ科 タマノカンアオイ

林内の地上に生え、市民の森には株数も多い。花期は晩秋から冬で、2 cm くらいの暗紫色の花をつける。ギフチョウの食草であるが、市内にはギフチョウはいない。

タデ科 ギシギシ

少し湿った場所に生え、1 m 近くまで伸びる。6～8月に茎の上部に総状花序を沢山出して淡緑色の小さな花をつける。



ギシギシ

タデ科 サクラタデ

湿った水田や川べりに生えている。70cm くらいの草丈で、夏から秋にかけて、淡紅色の花をつける。高坂の北の農耕地の休耕地で見られた。



サクラタデ

タデ科 ミゾソバ

湿った水田や水田脇の林縁などで見られた。草丈は 60cm 前後で、7～10月にかけて淡紅色の花をつける。葉は三角で蕎麦に似ていて、溝などで多く見られる。小さい花だが美しい。



ミゾソバ



カテンソウ

イラクサ科 カテンソウ

林の少し日陰になった場所に群生して見られる、20cm程度の草丈で、春に小さな花をつける。



カジノキ

クワ科 カジノキ

和紙の原材料用に栽培されていたが、野生化している。道路脇や林縁などの日当たりの好い場所に生え、高さ4～10mになる落葉高木。7～8月には果実が熟して橙赤色になり、食べられるとある。ただ、まだ食していないので味はどうだろう？



ヒメコウゾ

クワ科 ヒメコウゾ

林縁や道端の荒地に生える落葉低木で、和紙や織物原料に利用された。雌雄同株の花は目立たないが、熟した果実は目立つ。食べられるが食味は悪いとある。



ギンラン

ラン科 ギンラン

雑木林の地上に生える20～40cm程度の多年草で、白色の花を5月につける。葉の長いササバギンランや、花の黄色いキンランなどが市内の林で見られたが、最近では会うことがほとんどなくなってしまった。



ニワゼキショウ

アヤメ科 ニワゼキショウ

北アメリカ原産の多年草で草丈は20cm程度、日当たりの好い道端や野原で見られる。5～6月にかけて1cmより大き目の花を沢山つける。

ヤマノイモ科 オニドコロ

林縁にあるつる性の草で普通に見られる。夏に小さな花をつける。根茎があるが、苦味が強く食べられない。よく似たヤマイモの花は花序が小さく、下に垂れ下がる。



オニドコロ

ヒガンバナ科 ヒガンバナ

秋、9月の彼岸の頃に咲く。土手や林に、畦道に群生する。鱗茎はアルカロイドを含み有毒。昔は飢饉のときに、水にさらして毒を抜き、食用にしたという。



ヒガンバナ

ヒガンバナ科 キツネノカミソリ (オオキツネノカミソリ)

川の堤や林縁など少し日陰になった場所に生えるが、アズマネザサなどに覆われると消えてしまう。しかし、環境が改善すると再び回復する。この花は雄しべが花から大きくつき出るオオキツネノカミソリで、関東に分布する。



キツネノカミソリ



ユリ科 オニユリ

昔から栽培されていたが、野生化している。夏にオレンジ色に黒い斑点を散らした花をつける。都幾川の堤で見られたが、他所ではなかった。



オニユリ



アマナ

ユリ科 アマナ

日当たりの好い場所に生え、早春に2cm くらいの淡紫色の花をつける。都幾川の堤ではよく目撃できた。地中の鱗茎は甘く食べられるが、花を見ると、食べるのはしのびない。



ノビル

ユリ科 ノビル

道端や野原など日当たりの好い場所に普通に生える。5～6月には花茎の先に花をつける。花は繊細で美しい。漢字では野蒜と書き、ネギやニンニクの仲間で鱗茎や若葉は食べられる。



ツルボ

ユリ科 ツルボ

日当たりの好い山野に生える多年草。別名はサンダイガサ(参内傘)で公家が参内するときさしかけた長い柄の傘が似ていることによる。秋に花をつけ、草刈後の堤などではよく見かける。



ノカンゾウ

ユリ科 ノカンゾウ

田の畦や林縁などの少し湿ったところに生え、7～8月に花をつける。同じ時期に花をつけるヤブカンゾウは林縁に多く、花は八重咲きになる。

ユリ科 ホウチャクソウ

丘陵地の林内に生える。草丈は50cm前後で、5月初旬頃に2.5cm くらいの上部分が薄緑色の白い下向きの花をつける。



ホウチャクソウ

ユリ科 ヤブラン

庭や公園などの下草として植えられている。秋に草丈 40cm 前後で、淡紫色の小さな花を沢山つける。種は 6mm くらいの黒色で球形。



ヤブラン



ユリ科 ヒメヤブラン

日当たりの好い場所に生える。匍枝を出して繁殖する。花茎は 15cm くらいで、薄紫色の小さな花をまばらにつける。種は黒く 5mm くらい。



ヒメヤブラン

ユリ科 タチシオデ

山林に生える多年草で茎が立ち上がり、上部の茎が後につる状になる。花期は 5月で、線香花火のような花をつける。果実は黒色。この草の見た目はユリ科とは思えない。



タチシオデ

ツユクサ科 ツユクサ

道端や草地に生える一年草で、茎下部から分枝して、節から根を出し茂る。鮮やかな青色の花を 6～9月にかけてつける。花は 1 個づつ ^{ほう} 苞から出て咲き、半日ではぼむ。



ツユクサ



ヤブミョウガ

ツククサ科 ヤブミョウガ

林内の薄暗い場所に生え、草丈は1mくらいまで伸びる。8～9月に花茎の先に白い小さな花をつける。都幾川の河畔林のスギ林内に多く見られた。



イボクサ

ツククサ科 イボクサ

湿地に生える20～30cmの一年草で、8～10月に淡紅紫色の花を1個つける。1日ではぼむが、花のあと花柄は曲がって実がつく。田圃の休耕地に多く咲いているので、1度はこの花を見ることをお勧めしたい。



コナギ

ミズアオイ科 コナギ

水田や沼など湿った水の少し有るような場所に生える一年草。8～9月に青紫色の花をつける。



オモダカ

オモダカ科 オモダカ

水田や湿地などに生える多年草で、8～10月に白い花をつける。草丈は20～80cmになり田圃では嫌われる。写真の花の左脇にいるのはオンブバッタ。



ヒメガマ

ガマ科 ヒメガマ

6～8月に花が咲き、花茎上部の雄花穂と下部の雌花穂の間が離れ、軸が露出しているのが特徴。市内ではヒメガマの他にガマ、コガマの3種が湿地で見られる。

カヤツリグサ科

湿地に生える单子葉類で沢山の種を含む大きな科である。水田では雑草で嫌われるが、花序はおもしろい形をしているので、見ていて飽きない。茎が3稜形でイネ科の草とは違いがある。

カヤツリグサ科 タマガヤツリ

田圃の畦や溝に生える草丈 30cm 程度の一年草で、秋に丸い花序をつける。



タマガヤツリ

カヤツリグサ科 ヒメクグ

日当たりの好い湿った場所に生え、7～10月に花をつける。草丈 20cm 程度の多年草。茎の先に緑色の小穂が丸くなっている。



ヒメクグ

カヤツリグサ科 ヒデリコ

日当たりの好い湿地や田圃に生える 10～60cm の草丈のある一年草。7～10月に花をつける。小穂は 3 mm 程度の球形。夏の日照りの頃でも繁茂するからと言われる。



ヒデリコ

カヤツリグサ科 マスクサ

湿った林縁や道端などに生える。60cm 前後の多年草で、5～6月に花をつける。茎は 3 稜形で、緑色の小穂は 1 cm 程度である。



マスクサ

イネ科

多くの種を含む科で、世界には約 700 属、10,000 種があるという。日本ではイネは主食として、無くてはならないものである。食用にされている種も多く、麦類もイネ科であるが、雑草とされている種も道端や庭、水田、林など至るところに生えている。茎はふつう中空である。



ヒゲナガスズメノチャヒキ

イネ科 ヒゲナガスズメノチャヒキ

ヨーロッパ原産の外来種、草丈は 60cm 前後、6～7 月に花をつける。スズメノチャヒキは在来種であるが、ヒゲナガスズメノチャヒキはヨーロッパ原産で外来種が多い。



カズノコグサ

イネ科 カズノコグサ

田圃の畦などの湿った場所に生える 60cm 前後のやわらかい草で、6～7 月に花が咲く。成熟した花序はカズノコに似ている。



キンエノコロ

イネ科 キンエノコロ

日当たりの好い道端に多く生える。花期は 8～10 月。花序は 3～10cm で、小穂の剛毛が黄金色。エノコログサの仲間は何種類もあり、市内でも 6 種を確認している。



タイヌビエ

イネ科 タイヌビエ

やっかいな水田の雑草で嫌われる。イネと同じ時期に育ち 8～9 月に花をつけ、稲より大きくなって実をつける。市内ではイヌビエと花穂の長いケイヌビエが見られる。

マツ科 テーダマツ

北アメリカ原産の外来種で、市民の森で見られる樹木。木は30mくらいにまでなり、アカマツと比べると葉は長く、子実体のマツカサは大きいものと10cmを超える。市民の森はかつては国有林で、実験的にこの種が植えられていた。



テーダマツの実

アカマツ（下）とテーダマツ（上）の樹皮

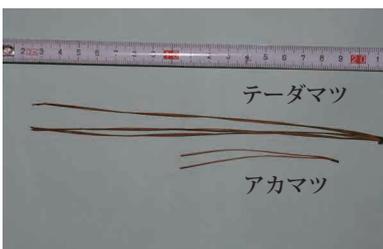
東松山の地名もこの木が由来しているのだろう。以前には林に行けば何処にでも生えていた、ごく普通の高木で、赤褐色の木肌と、めくれてはがれ易い樹皮が特徴である。1980年頃からマツ枯れ病で大規模に枯れてしまい、現在では林内にポツン、ポツンと残るだけであり、その残った木も枯れが進行している。市民の森ではテーダマツと混生していて、少ないが生存している。理由は分からないが、混生が生存に好都合だったようだ。アカマツの葉は2葉性（下）で、テーダマツは3葉性（上）、大きさも半分以下である。



テーダマツの樹皮



アカマツの樹皮



松葉の比較

1972年刊行の東松山市植物誌との比較

下の写真は、1972年に刊行された「東松山市文化財調査報告第9集 東松山市植物誌（岩田三男次編）」では確認されているものの、市内で現在はほとんど見られなくなった植物の一部である。



ジュウニヒトエ



ウツボグサ



ホタルブクロ



エビネ



ゲンノショウイコ



ハナイカダ

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種
1	裸子植物	イチイ科	1	カヤ			
2		イチョウ科	1		イチョウ		
3		イヌガヤ科	1	イヌガヤ			
4		スギ科	1		スギ		
5			2			メタセコイア	外来種
6		ヒノキ科	1		ヒノキ		
7			2	サワラ			
8			3	ネズ			
9		マツ科	1	ツガ			
10			2		モミ		
11			3		アカマツ		
12			4		クロマツ		
13			5				テーダマツ
14	離弁花植物	アオイ科	1			イチビ	外来種
15			2			ゼニアオイ	外来種
16			3			ムクゲ	外来種
17		アカザ科	1	コアカザ			
18			2	カワラアカザ			
19			3	アリタソウ			
20			4		アカザ		
21			5			ケアリタソウ	外来種
22			6			シロザ	外来種
23		アカバナ科	1	アカバナ			
24			2	ミスタマソウ			
25			3	マツヨイグサ			
26			4		チョウジタデ		
27			5		オオマツヨイグサ		
28			6			アカバナユウゲシヨウ	外来種
29			7			オオバナコマツヨイグサ	外来種
30			8			ヒルザキツキミノソウ	園芸種
31			9			ヒレタゴボウ	外来種
32	10				メマツヨイグサ	外来種	
33	アケビ科	1		アケビ			
34		2		ミツバアケビ			
35	アブラナ科	1	ヤマハタザオ				
36		2		マメグンバイナズナ			
37		3		グンバイナズナ			
38		4		イヌガラシ			
39		5		スカシタゴボウ			
40		6		タネツケバナ			
41		7		ナズナ			
42		8		イヌナズナ			
43		9		アブラナ (セイヨウアブラナ)			
44		10				オオアラセイトウ (ハナダイコン)	外来種
45		11				オランダガラシ (クレソン)	外来種

植物

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種
46	離 弁 花 植 物	アブラナ科	12			カキネガラシ	外来種
47			13			セイヨウカラシナ	外来種
48			14			ダイコン	作物
49			15			ミチバタガラシ	在来種
50			アリノトウグ サ科	1	アリノトウグサ		
51			2	フサモ			
52		アワブキ科	1	アワブキ			
53		イラクサ科	1	ムカデイラクサ	カテンソウ ヤブマオ アカソ コアカソ カラムシ		
54			2	ヤマミズ			
55			3	ミズラ			
56			4				
57			5				
58			6				
59			7				
60			8				
61			9				
62		ウコギ科	1	タカノツメ	ヤツデ キズタ ウコギ ハリギリ (センノキ) タラノキ		
63			2	ウド			
64			3				
65			4				
66			5				
67			6				
68			7				
69		ウマノスズ クサ科	1	サイシン	カンアオイ ウマノスズクサ		
70	2						
71	3						
72	ウリノキ科	1	ウリノキ				
73	ウルシ科	1	ヤマハゼ	ヤマウルシ ヌルデ			
74		2	ツタウルシ				
75		3					
76		4					
77		5					ハゼノキ
78	オトギリソウ 科	1	アゼオトギリ	オトギリソウ			
79		2	コケオトギリ				
80		3					
81	カエデ科	1	ヤマモミジ	ウリカエデ タカオモミジ (イロハカエデ)			
82		2	イタヤカエデ				
83		3					
84		4					
85	カタバミ科	1		カタバミ			
86		2		ムラサキカタバミ			
87		3		イモカタバミ			外来種
88	カツラ科	1				カツラ	在来種
89	カバノキ科	1	クマシデ	イヌシデ (ソネ)			
90		2	ヤマハンノキ				
91		3	ヤシャブシ				
92		4					

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種
93	離 弁 花 植 物	カバノキ科	5		アカシデ		
94			6		ハンノキ		
95		キブシ科	1	キブシ			
96		キンポウゲ 科	1	イヌショウマ			
97			2	キケンショウマ			
98			3	サラシナショウマ			
99			4	カラマツソウ			
100			5	シュウメイギク			
101			6	オトコゼリ			
102			7	ボタンズル			
103			8	コボタンズル			
104			9	ハンショウズル			
105			10	クサボタン			
106		11			アキカラマツ		
107		12			イチリンソウ		
108		13			ニリンソウ		
109		14			タガラシ		
110		15			ウマノアシガタ		
111		16			センニンソウ		
112		17				キツネノボタン	在来種
113	18				ケキツネノボタン	在来種	
114	19				セリバヒエンソウ	外来種	
115	20				ヤマキツネノボタン	在来種	
116	クスノキ科	1	ウコンバナ				
117		2	アブラチャン				
118		3			シロダモ		
119		4			クロモジ		
120		5			ヤマコウバシ		
121		6				イヌガシ	在来種
122		7				タブノキ	在来種
123	グミ科	1	アキグミ				
124		2	ナワシログミ				
125		3	ツルグミ				
126		4			ナツグミ		
127	クルミ科	1			クルミ (オニグルミ)		
128	クロウメモドキ 科	1	クマヤナギ				
129		2				オオクマヤナギ	在来種
130	クワ科	1	コウゾ				
131		2			クワクサ		
132		3			クワ (マグワ)		
133		4			イタビカズラ		
134		5			カナムグラ		
135		6			カラハナソウ		
136		7				カジノキ	在来種
137		8				ヒメコウゾ	在来種
138	ケシ科	1			クサノオウ		
139		2			タケニグサ		

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種		
140	離 弁 花 植 物	ケシ科	3		ムラサキケマン				
141			4				ジロボウエンゴサク	在来種	
142			5				ヒナゲシ	外来種	
143		シナノキ科	1	カラスノデマ					
144		ジンチョウゲ科	1	コガンピ					
145		スイレン科	1	ハス					
146			2	コウホネ					
147		スベリヒユ科	1	マツバボタン					
148			2		スベリヒユ				
149		スミレ科	1	エゾノタチツボスミレ	タチツボスミレ スミレ				
150			2	アオイスミレ					
151			3	フモトスミレ					
152			4	エイザンスミレ					
153			5						
154			6						
155			7					コスミレ	在来種
156			8					ツボスミレ	在来種
157			9					ニオイタチツボスミレ	在来種
158			10					ノジスミレ	在来種
159	11			パピリオナケア				外来種	
160	セリ科	1	チドメグサ	ヤブニンジン ヤブジラミ ミツバ セントウソウ セリ ノダケ					
161		2	オオチドメ						
162		3	ウマノミツバ						
163		4	エキサイゼリ						
164		5	ドクゼリ						
165		6	ダケゼリ						
166		7	ムカゴニンジン						
167		8	サワゼリ						
168		9	シシウド						
169		10							
170		11							
171		12							
172		13							
173		14							
174		15							
175		16					カノツメソウ?	在来種	
176		17					ノチドメ	在来種	
177		18					ハナウド	在来種	
178		19					ヤマゼリ	在来種	
179	センダン科	1			センダン	在来種			
180	センリョウ科	1	ヒトリシズカ						
181		2	フタリシズカ						
182	タデ科	1	ギシギシ						
183		2	ノダイオウ						
184		3	ニワヤナギ (ミチヤナギ)						
185		4	ヤブタデ						
186		5	ボントクタデ						

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種				
187	離 井 花 植 物	タデ科	6	タニソバ	スイバ ヒメスイバ オオイヌタデ イヌタデ ミゾソバ ヤノネグサ アキノウナギズル ママコノシリヌグイ イシミカワ ミズヒキ イタドリ						
188			7	ウナギズル							
189			8	オオケタデ							
190			9	ソバ							
191			10								
192			11								
193			12								
194			13								
195			14								
196			15								
197			16								
198			17								
199			18								
200			19								
201			20								
202			21					アレチギシギシ	外来種		
203			22					エゾノギシギシ	外来種		
204			23					サクラタデ	在来種		
205			24					サナエタデ	在来種		
206			25					ニオイタデ	在来種		
207			26					ハナタデ	在来種		
208			27					ハルタデ	在来種		
209			28					ヤナギタデ	在来種		
210			ツゲ科	1					ツゲ		
211			ツツラフジ科	1				カミエビ	ツツラフジ (アオツツラフジ)		
212				2							
213			ツバキ科	1				ツバキ	チャ ヒサカキ	ヤブツバキ	在来種
214				2				サカキ			
215	3										
216	4										
217	5										
218	ツルネソウ科	1	ツルネソウ								
219	ツルナ科	1		ザクロソウ							
220	トウダイグ サ科	1	コミカンソウ	エノキグサ トウダイグサ コニシキソウ オオニシキソウ アカメガシワ							
221		2	ヒメミカンソウ								
222		3	シラメ								
223		4	ナツトウダイ								
224		5	タカトウダイ								
225		6	ノウルシ								
226		7	ニシキソウ								
227		8									
228		9									
229		10									
230		11									
231		12									
232		13					ナンキンハゼ	園芸種			
233	ドクダミ科	1	ハンゲショウ								

植物

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種		
234	離 弁 花 植 物	ドクダミ科	2		ドクダミ				
235		ナ デ シ コ 科		1	ツルハコベ	ハコベ ウシハコベ ノミノフスマ ミミナグサ ツメクサ ノミノツヅリ ムシトリナデシコ			
236				2	タチハコベ				
237				3	フシグロセンノウ				
238				4	フシグロ				
239				5	ナデシコ				
240				6					
241				7					
242				8					
243				9					
244				10					
245				11					
246				12					
247				13					オランダミミナグサ
248	14				コハコベ				在来種
249	ニガキ科		1	ニガキ					
250			2			ニワウルシ	園芸種		
251	ニシキギ科		1	ツリバナ	マユミ ニシキギ ツルウメモドキ コマユミ (ニシキギ のシノニム)				
252			2						
253			3						
254			4						
255			5					在来種	
256	ニレ科		1		ケヤキ				
257			2		エノキ				
258			3					ムクノキ	在来種
259	バラ科		1	コゴメウツギ	シモツケ ユキヤナギ クサボケ クサイチゴ ヤマブキ クマイチゴ ナワシロイチゴ キジムシロ ミツバツチグリ オビヘビイチゴ ヤブヘビイチゴ キンミズヒキ ワレモコウ ノイバラ テリハノイバラ ウメ ヤマザクラ				
260			2	ズミ					
261			3	ウシコロシ (アセビ?)					
262			4	ダイコンソウ					
263			5	イヌザクラ					
264			6						
265			7						
266			8						
267			9						
268			10						
269			11						
270			12						
271			13						
272			14						
273	15								
274	16								
275	17								
276	18								
277	19								
278	20								
279	21								
280	22								

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種	
281	離 弁 花 植 物	バラ科	23		ウワミズザクラ			
282			24			カジイチゴ	在来種	
283			25			コゴメウツギ	在来種	
284			26			サクラ・ソメイヨシノ	園芸種	
285			27			ハチジョウクサイチゴ	在来種	
286			28			ビワ	在来種	
287			29			ヘビイチゴ	在来種	
288			30			モミジイチゴ	在来種	
289			ヒシ科	1		ヒシ		
290			ヒメハギ科	1	ヒメハギ			
291		ビャクダン科	1		カナビキソウ			
292		ヒユ科	1	ケイトウ				
293			2	ヒユ				
294			3	イヌビユ				
295			4		イノコズチ (ヒナタイノコズチ)			
296			5		ヤナギイノコズチ			
297			6		アオビユ			
298			7			ヒカゲノイナコズチ	在来種	
299		8			ホソアオゲイトウ	外来種		
300		フウロウソ ウ科	1	ゲンノショウイコ				
301			2	タチフウロウ				
302			3			アメリカフウロ	外来種	
303		ブドウ科	1	ヤマブドウ				
304			2	ギョウジャノミズ				
305			3		エビズル			
306			4		ツタ			
307			5		ヤブカラシ			
308			6		ノブドウ			
309		ブナ科	1	シイ (マテバシイ)				
310			2		クリ			
311	3			コナラ				
312	4			クヌギ				
313	5			シラカシ				
314	6			アラカシ				
315	ベンケイノウ科	1	メノマンネングサ					
316		2	タカノツメ					
317		3	イワレンゲ					
318		4		タコノアシ				
319		5		コモチマンネングサ				
320	マメ科	1	ジャケツイバラ					
321		2	クララ					
322		3	エンジュ					
323		4	ミヤコグサ					
324		5	ケブハギ					
325		6	フジカンソウ					
326		7	マルバハギ					
327		8	キハギ					

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種					
328	離 弁 花 植 物	マメ科	9	マキエハギ								
329			10	ネコハギ								
330			11	ツルフジバカマ								
331			12	ホド								
332			13	タンキリマメ								
333			14	キツネササゲ								
334			15					ネムノキ				
335			16					カワラケツメイ				
336			17					シロツメクサ				
337			18					ムラサキツメクサ				
338			19					コマツナギ				
339			20					フジ (ノダフジ)				
340			21					ゲンゲ (レンゲソウ)				
341			22					クサネム				
342			23					ヌスビトハギ				
343			24					ヤマハギ				
344			25					メドハギ				
345			26					ヤハズソウ				
346			27					スズメノエンドウ				
347			28					カマスグサ				
348			29					カラスノエンドウ				
349			30					ナンテンハギ				
350			31					ツルマメ				
351			32					トキリマメ				
352			33					クズ				
353			34						アズキ	作物		
354			35						アレチヌスビトハギ	外来種		
355			36						イタチハギ	外来種		
356			37						クサフジ	在来種		
357			38						コメツブウマゴヤシ	外来種		
358			39						コメツブツメクサ	外来種		
359			40						ニセアカシア (ハリエンジュ)	外来種		
360			41						ノアズキ	在来種		
361			42						ムラサキツメクサ	外来種		
362			43						ヤブツルアズキ	在来種		
363			44						ヤブマメ	在来種		
364			マンサク科	1							マンサク	在来種
365			ミカン科	1				サンショウ				
366				2				イヌザンショウ				
367				3				コクサギ				
368				4				マツカゼソウ				
369				5				ミヤマシキミ				
370				6				ユズ				
371			ミズキ科	1				ヤマボウシ				
372	2	ハナイカダ										
373	3			ミズキ								
374	4			アオキ								

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種
375	離 弁 花 植 物	ミソハギ科	1	エツミソハギ			
376			2	キカシグサ			
377			3				ホソバヒメミソハギ
378		ミツバウツ ギ科	1	ミツバウツギ			
379			2		ゴンズイ		
380		メギ科	1	メギ			
381			2	イカリソウ			
382			3		ナンテン		
383		モクレン科	1	コブシ			
384			2	ホオノキ			
385			3	シキミ			
386			4	サネカズラ (ピナンカズラ)			
387			5				ハクモクレン
388		モチノキ科	1	ウメモドキ			
389			2		アオハダ		
390			3				イヌツゲ
391		ヤナギ科	1	ヤマナラシ			
392			2	タチヤナギ			
393			3	ナカバカワヤナギ			
394			4	コリヤナギ			
395			5	イヌコリヤナギ			
396	6		ヤマネコヤナギ				
397	7			アカメヤナギ			
398	8			カワヤナギ			
399	9					コゴメヤナギ	在来種
400	10					ネコヤナギ	在来種
401	11					セイヨウハコヤナギ	外来種
402	ヤマゴボウ科	1	マルミノヤマゴボウ				
403		2				ヨウシュヤマゴボウ	外来種
404	ユキノシタ科	1	ユキノシタ				
405		2	ネコノメソウ				
406		3	マルバウツギ				
407		4	ヤマアジサイ				
408		5	ホソバコガク				
409		6	タマアジサイ				
410		7	ノリウツギ				
411		8		チダケサシ			
412		9		ウツギ (ウノハナ)			
413		10				コアジサイ	在来種
414	合 弁 花 植 物	アカネ科	1	ハシカグサ			
415			2	フタバムグラ			
416			3	クチナシ			
417			4	ハクチョウゲ			
418			5	アリドオシ			
419			6	オオバヤエムグラ			
420			7	ヤマムグラ			

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種	
421	合 弁 花 植 物	アカネ科	8	キヌタソウ				
422			9	カワラマツバ				
423			10					ヘクソカズラ (ヤイトバナ)
424			11					ヤエムグラ
425			12					ヨツバムグラ
426			13					アカネ
427			14					
428		イチヤクソウ科	1	イチヤクソウ				
429			2	ウメガサソウ				
430			3	ギンリョウソウ				
431		イワタバコ科	1		イワタバコ			
432		ウリ科	1	ゴキツル				
433			2	ヘチマ				
434			3					スズメウリ
435	4			カラスウリ				
436	5			アマチャヅル				
437	6							アレチウリ
438	エゴノキ科	1	オオバアサガラ					
439		2					エゴノキ	
440	オオバコ科	1		オオバコ				
441		2		ヘラオオバコ				
442		3					ツボミオオバコ	外来種
443	オシロイバナ科	1			オシロイバナ	園芸種		
444	オミナエシ科	1	オトコエシ					
445		2	マツムシソウ					
446		3					オミナエシ	
447	ガガイモ科	1	イケマ					
448		2	コヒケマ					
449		3	タチガシワ					
450		4	スズサイコ					
451		5	カモメヅル					
452		6					コバノカモメヅル	
453		7					ガガイモ	
454	カキノキ科	1		カキ				
455	キキョウ科	1	ホタルブクロ					
456		2	ソバナ					
457		3	ツルニンジン					
458		4	キキョウ					
459		5	サワギキョウ					
460		6					ツリガネニンジン	
461		7					ムゼムシロ(ミゾカクシ)	
462		8						キキョウソウ
463	キク科	1	アズマヤマアザミ					
464		2	アレチノギク					
465		3	アワコガネギク					
466		4	イヌヨモギ					
467		5	オトコヨモギ					

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種
468			6	オナモミ			
469			7	カシワバハグマ			
470			8	カワラニガナ			
471			9	カワラハハコ			
472			10	カワラヨモギ			
473			11	クソニンジン			
474			12	コスモス			
475			13	コヤブタバコ (ガンクビソウ)			
476			14	サワオグルマ			
477			15	シュウブンソウ			
478			16	センダングサ			
479			17	センボンヤリ			
480			18	タカサゴソウ			
481			19	タビラコ			
482			20	タマブキ			
483			21	タムラソウ			
484			22	トキンソウ			
485			23	ナガバノコウヤボウキ			
486			24	ノブキ			
487			25	ヒマワリ			
488			26	ヒメガンクビソウ			
489			27	ヒメヨモギ			
490			28	ヒヨドリバナ			
491			29	フジバカマ			
492			30	モミジガサ			
493			31	モミジハグマ			
494			32	ヤブタバコ			
495			33	ヤブレガサ			
496			34	ヤマヨモギ			
497			35	ヨメナ			
498			36		オオジシバリ		
499			37		タンポポ (カントウタンポポ)		
500			38		サワヒヨドリ		
501			39		アキノキリンソウ		
502			40		ユウガギク		
503			41		シラヤマギク		
504			42		ヤマシロギク		
505			43		ノコンギク		
506			44		ハルジオオン		
507			45		ヒメジョオン		
508			46		ヒメムカシヨモギ		
509			47		ホオコグサ (ハハコグサ)		
510			48		チチコグサ		
511			49		オグルマ		
512			50		サジガンクビソウ		

合弁花植物

キク科

植物

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種	
513	合併花植物	キク科	51		ブタクサ			
514			52		メナモミ			
515			53		タカサブロウ			
516			54		タウコギ			
517			55		ヨモギ			
518			56		フキ			
519			57		ノボロギク			
520			58		オケラ			
521			59		ノアザミ			
522			60		キツネアザミ			
523			61		キッコウハグマ			
524			62		コウヤボウキ			
525			63		ヤブタビラコ			
526			64		コウゾウリナ			
527			65		ニガナ			
528			66		ジシバリ			
529			67		アキノゲシ			
530			68		ヤクシソウ			
531			69		ノゲシ			
532			70		ダンドボロギク			
533			71				アメリカセンダングサ	外来種
534			72				イヌクイモ	外来種
535			73				オオアレチノギク	外来種
536			74				オオアワダチソウ	外来種
537			75				オオオナモミ	外来種
538			76				オオキンケイギク?	外来種
539			77				オオブタクサ	外来種
540			78				オニタビラコ	在来種
541			79				ガンクビソウ	在来種
542			80				カントウヨメナ	在来種
543			81				クイモ	外来種
544			82				キダチコンギク	外来種
545			83				コオニタビラコ	在来種
546			84				コセンダングサ	外来種
547			85				シロバナタンポポ	在来種
548			86				セイタカアワダチソウ	外来種
549			87				セイヨウタンポポ	外来種
550			88				タカアザミ	在来種
551			89				タチアワユキセンダ ングサ	外来種
552			90				タチチコグサ	外来種
553			91				チコグサモドキ	外来種
554			92				ノハラアザミ	在来種
555			93				ハキダメギク	外来種
556			94				ヒロハホウキギク	外来種
557			95				ブタナ	外来種
558			96				ベニバナボロギク	外来種
559			97				ホウキギク	外来種

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種	
560	合 弁 花 植 物	キク科	98			ヤグルマギク	園芸種	
561		キツネノマゴ科	1		ハグロソウ			
562			2		キツネノマゴ			
563		キョウチクトウ科	1		テイカカズラ			
564		クマツヅラ科	1	コムラサキ				
565			2		ムラサキシキブ			
566			3		ヤブムラサキ			
567			4		クサギ			
568			5				イワダレソウに似る 外来種 sp	外来種
569		6				オオムラサキシキブ	在来種	
570		ゴマ科	1		ゴマ			
571		ゴマノハグサ科	1	ヒナノウスツボ				
572			2	ミゾホオズキ				
573			3	オオアブノメ				
574			4	サワトウガラシ				
575			5	マルバサワトウガラシ				
576			6	スズメノトウガラシ				
577			7	サギゴケ				
578			8	シソクサ				
579			9	イヌノフグリ				
580			10	ママコナ				
581			11	コシオカマ				
582			12	ヒキヨモギ				
583			13	クチナシグサ				
584			14	ヤマウツボ				
585	15				ウリクサ			
586	16			アゼナ				
587	17			トキワハゼ				
588	18			オオイヌノフグリ				
589	19			タチイヌフグリ				
590	20			キクモ			在来種	
591	21					アゼトウガラシ	在来種	
592	22					アメリカアゼナ	外来種	
593	23					カワヂシャ	在来種	
594	24					キリ	外来種	
595	25					ムラサキシキブ	在来種	
596	サクランボ科	1	ヌマトランノオ					
597		2	ノジトラノオ					
598		3	サワトラノオ					
599		4	コナス					
600		5			オカトラノオ			
601	6					コナスビ	在来種	
602	シソ科	1	ヤマタツナミソウ					
603		2	シソバタツナミ					
604		3	ウツボグサ					
605		4	ハルノタムラソウ					
606		5	ナツノタムラソウ					

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種					
607	合 弁 花 植 物	シソ科	6	シルネ	キランソウ ジュウニヒトエ ニガクサ カキドオシ ホトケノザ イヌゴマ ミゾコウジュ アキノタムラソウ キバナアキギリ トウバナ ハッカ シソ ヒメジソ イヌコウジュ ヤマハッカ							
608			7	アオチリメンジソ								
609			8	ヤマジソ								
610			9	ナギナタコウジュ								
611			10	ヒキオコシ								
612			11									
613			12									
614			13									
615			14									
616			15									
617			16									
618			17									
619			18									
620			19									
621			20									
622			21									
623			22									
624			23									
625			24									
626			25									
627			26									
628			27									
629			28									
630			29									
631			30									
632			スイカズラ科					1	コバノガマズミ	ニワトコ ソクス ガマズミ ウグイスカグラ スイカズラ		
633								2	ゴマキ			
634								3	ヤブデマリ			
635								4	オトコヨウソメ			
636								5	サンゴジュ			
637	6	ツクバネウツギ										
638	7	ミヤマウグイスカグラ										
639	8											
640	9											
641	10											
642	11											
643	12											
644	ツツジ科		1	レンゲツツジ	ヤマツツジ アセビ ネジキ							
645			2	ミツバツツジ								
646			3	キリシマ								
647			4	ナツハゼ								
648			5									
649			6									
650			7									
651	ナス科		1	ホオズキ								
652			2	センナリホオズキ								
653			3	ナス								
654			4	ジャガイモ								

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種				
655	合弁花植物	ナス科	5	トマト	クコ ヒヨドリジョウゴ	アメリカイヌホオズキ イヌホオズキ マルバノホロシ ヤマホロシ ワルナスビ	外来種 在来種 在来種 在来種 外来種				
656			6	トウガラシ							
657			7	チョウセンアサガオ (キチガイナス)							
658			8								
659			9								
660			10								
661			11								
662			12								
663			13								
664			14								
665			ノウセンカズラ科	1					キササゲ		園芸種
666			ハインキ科	1				サウフタギ			
667			ハエドクソウ科	1					ハエドクソウ		
668			ハマウツボ科	1					ナンバンギセル		
669	2				ヤセウツボ	外来種					
670	ヒルガオ科	1	サツマイモ	ヒルガオ コヒルガオ アサガオ	ヒルガオ科 sp (青花) ヒルガオ科 sp (白花) マルバアサガオ マルババルコウ	外来種 外来種 外来種 外来種					
671		2	ネナシカズラ								
672		3									
673		4									
674		5									
675		6									
676		7									
677		8									
678		9									
679	フジウツギ科	1	アイナエ								
680	ムラサキ科	2	ハナイバラ	キュウリグサ							
681		3	ホタルカズラ								
682		4									
683		1	レンギョウ				イボタノキ	マルバアオダモ	在来種		
684	2	ネズミモチ									
685	3	モクセイ (ギンモクセイ)									
686	4	キンモクセイ									
687	5	ヒイラギ									
688	6										
689	7										
690	ヤブコウジ科	1	マンリョウ	ヤブコウジ							
691		2									
692	リョウブ科	1		リョウブ							
693	リンドウ科	1	リンドウ	フデリンドウ							
694		2	ハルリンドウ								
695		3	センブリ								
696		4									
697	単子葉植物	アヤメ科	1	ノハナショウブ	シャガ ニワゼキショウ						
698			2	ヒメヒオオギスイセン							
699			3								
700			4								

植物

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種	
701	単子葉植物	アヤメ科	5			カキツバタ	在来種	
702			6			キショウブ	外来種	
703		イグサ科	1	スズメノヤリ				
704			2		イキ			
705			3		コウガイゼキショウ			
706			4			クサイ	在来種	
707		イネ科	1	アシカキ				
708			2	アシボン				
709			3	アワ				
710			4	アワガエリ				
711			5	ウシクサ				
712			6	ウシノシッペイ				
713			7	ウラハグサ				
714			8	オカメザサ				
715			9	オガルカヤ				
716			10	カラマタガヤ				
717			11	コチヂミザサ				
718			12	コメヒシバ				
719			13	サヤヌカグサ				
720			14	チョウセンガリヤス				
721			15	ナルコヒエ				
722			16	ニワホコリ				
723			17	ヌカボ				
724			18	ヌメリグサ				
725			19	ネズミガヤ				
726			20	ハイヌメイ				
727			21	ヒエガエリ				
728			22	ヒゲシバ				
729			23	ホッスガヤ				
730			24	ムツオレグサ(ミノコメ)				
731			25	メガルカヤ				
732			26	ヤダケ				
733			27			マダケ		
734			28			モウソウチク		
735			29			アズマネザサ		
736			30			クマザサ		
737			31			マコモ		
738			32			カモジグサ		
739			33			アオカモジグサ		
740			34			キツネガヤ		
741			35			トボシガラ		
742			36			ドジョウツナギ		
743	37				スズメノカタビラ			
744	38				イチゴツナギ			
745	39				ナガハグサ			
746	40				カゼクサ(ミチシバ)			
747	41				アシ			
748	42				ツルヨシ			

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種
749			43		カニツリグサ		
750			44		カラスムギ		
751			45		オヒシバ		
752			46		カズノコグサ		
753			47		ギョウギシバ		
754			48		ノガリヤス		
755			49		ネズミノオ		
756			50		スズメノテッポウ		
757			51		クサヨシ		
758			52		チカラシバ		
759			53		エノコログサ		
760			54		ムラサキエノコロ		
761			55		アキノエノコログサ		
762			56		メヒシバ		
763			57		ヌカキビ		
764			58		イヌビエ		
765			59		ケイヌビエ		
766			60		チヂミザサ		
767			61		チゴザサ		
768			62		スズメノヒエ		
769			63		トダシバ		
770			64		シバ		
771	単子葉植物	イネ科	65		コブナグサ		
772			66		チガヤ		
773			67		ススキ		
774			68		オオアブラススキ		
775			69		アブラススキ		
776			70		ジュズダマ		
777			71		アズマガヤ		在来種
778			72			アキメヒシバ	在来種
779			73			アゼガヤ	在来種
780			74			イヌムギ	外来種
781			75			イネ	作物
782			76			イブキヌカボ	在来種
783			77			オオアワガエリ	外来種
784			78			オオイチゴツナギ	在来種
785			79			オオエノコログサ	在来種
786			80			オオクサキビ	外来種
787			81			オギ	在来種
788			82			オニウシノケグサ	在来種
789			83			カモガヤ	外来種
790			84			キシウスズメノヒエ	外来種
791		85			キンエノコロ	在来種	
792		86			コスズメガヤ	在来種	
793		87			コツブキンエノコロ	在来種	
794		88			コヌカグサ	在来種	
795		89			シナダレスズメガヤ	外来種	
796		90			シバムギ	外来種	

植物

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種	
797	単子葉植物	イネ科	91			シマスズメノヒエ	外来種	
798			92			スズタケ	在来種	
799			93			スズメノチャヒキ	在来種	
800			94			セイバンモロコシ	外来種	
801			95			セトガヤ	在来種	
802			96			タイヌビエ	在来種	
803			97			ナギナタガヤ	外来種	
804			98			ネズミムギ	外来種	
805			99			ノゲイヌムギ	外来種	
806			100			ハイコヌカグサ	外来種	
807			101			ヒゲナガスズメノ チャヒキ	外来種	
808			102			ヒロハドジョウツナギ	在来種	
809			103			ホガエリガヤ?	在来種	
810			104			ホソネズミムギ	外来種	
811			105			ホソムギ	外来種	
812			106			ミスタカモジグサ	在来種	
813			107			ミゾイチゴツナギ	在来種	
814			108			ムラサキネズミノオ メダケ	在来種	
815			109					在来種
816	ウキクサ科		1		ウキクサ			
817			2			アオウキクサ	在来種	
818			3			ミジンコウキクサ	外来種	
819	オモダカ科		1	アギナシ				
820			2		オモダカ			
821			3				ウリカワ	在来種
822	ガマ科		1		ガマ			
823			2		コガマ			
824			3			ヒメガマ		
825	カヤツリグサ科		1	アオガヤツリ				
826			2	アゼテンツキ				
827			3	ウキヤガラ				
828			4	カンガレイ				
829			5	カンスゲ				
830			6	クグガヤツリ				
831			7	クログワイ				
832			8	コアゼガヤツリ				
833			9	コカンスゲ				
834			10	サンカクイ				
835			11	ショウジョウスゲ				
836			12	タガネソウ				
837			13	チャガヤツリ				
838			14	ハリイ				
839			15	ヒカゲスゲ				
840			16	ヒナガヤツリ				
841			17	ヒンジガヤツリ				
842			18	マツカサススキ				
843			19	マツバイ				

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種	
844	単子葉植物	カヤツリグサ科	20	ミズハナビ				
845			21		カヤツリグサ			
846			22		コゴメガヤツリ			
847			23		ウシクグ			
848			24		アゼガヤツリ			
849			25		タマガヤツリ			
850			26		ヒメクグ			
851			27		ホタルイ			
852			28		ヒデリコ			
853			29		ヤマイ			在来種
854			30		ヤブスゲ			
855			31		マスクサスゲ			
856			32		アゼスゲ			
857			33		カワラスゲ			
858			34		ゴウソ			
859			35		アゼナルコスゲ			
860			36		テンツキ			
861			37				イヌホタルイ	在来種
862			38				オオヌマハリイ	在来種
863			39				オニスゲ (ミクリスゲ)	在来種
864			40				キンガヤツリ	外来種
865			41				クサスゲ	在来種
866			42				コジュズスゲ	在来種
867			43				シカクイ	在来種
868			44				ジュズスゲ?	在来種
869			45				シラスゲ (ムシャナルコスゲ)	在来種
870			46				ヌマガヤツリ	在来種
871			47				ハマスゲ	在来種
872			48				ヒメカンスゲ	在来種
873			49				フトイ	在来種
874			50				ミコシガヤ	在来種
875			51				メアゼテンツキ	在来種
876	52				ヤワラスゲ	在来種		
877	サトイモ科		1	セキショウ				
878			2	コンニャク				
879			3	サトイモ				
880			4	マムシグサ				
881			5	アオマムシグサ				
882			6			カラスビシャク		
883	シヨウガ科		1		ミヨウガ			
884	ツユクサ科		1		ヤブミヨウガ			
885			2		ツユクサ			
886			3		イボクサ			
887	トチカガミ科		1	スブタ				
888			2	セキショウモ				
889			3				オオカナダモ	外来種
890	ヒガンバナ科		1		ヒガンバナ			

植物

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種
891	単子葉植物	ヒガンバナ科	2		キツネノカミソリ		
892		ヒルムシロ科	1	ヒルムシロ			
893			2	ミズヒキモ			
894			3	エビモ			
895			4	ヤナギモ			
896		ホシクサ科	1	イヌノヒゲ			
897		ミズアオイ科	1	ミズアオイ			
898			2		コナギ		
899			3			ホテイアオイ	外来種
900		ヤシ科	1		シュロ		
901		ヤマノイモ科	1	ナガイモ			
902			2	トコロ			
903			3	カシュウイモ			
904			4		ヤマノイモ		
905			5			オンドコロ	在来種
906			6			ヒメドコロ	在来種
907	ユリ科	1	ノギラン				
908		2	ヤマホトトギス				
909		3	ミズギボウシ				
910		4	ヤマラッキョウ				
911		5	コオニユリ				
912		6	ウバユリ				
913		7	ヒロハアマナ				
914		8	アマドコロ				
915		9	ナルコユリ				
916		10	シオデ				
917		11		ヤマジノホトトギス			
918		12		オオバギボウシ			
919		13		ノカンゾウ			
920		14		ワスレナグサ (ヤブカンゾウ)			
921		15		アマナ			
922		16		ノビル			
923		17		オニユリ			
924		18		ヤマユリ			
925		19		カタクリ			
926		20		ツルボ (スルボ)			
927		21		チゴユリ			
928		22		ホウチャクソウ			
929		23		ヤブラン			
930		24		ヒメヤブラン			
931		25		ジャノヒゲ			
932		26		サルトリイバラ (サンキライ)			
933		27		タチシオデ			
934		28			オオバジャノヒゲ	在来種	
935		29			オモト	園芸種	
936		30			ニラ	作物	

No	分類群	科名	種No	岩田記載種名 (1970年代)	岩田と今回の重複確 認種名	今回の記載種名 (2000年代)	在・外来種	
937	単子葉植物	ラン科	1	クマガイソウ				
938			2	オオバノトンボソウ (ノヤマドンボソウ)				
939			3	カキラン				
940			4	オニノヤガラ				
941			5	オオフタバラン				
942			6	ジガバチソウ				
943			7	エビネ				
944			8					キンラン
945			9					ギンラン
946			10					ネジバナ (モジズリ)
947			11					ホクロ (シュンラン)

菌類

菌類は国内で 5000 を越える種があると考えられていて、多くの種名の付けられていないものがある。菌類は庭、畑、山林などいたるところに発生する。地中に植物と共生する菌根菌や、木などの有機質を分解しながら発生する腐朽菌などがある。発生は天候に左右され、時期や発生量に大きく影響する。調査では市民の森での確認種が多く、8～10月にかけて多く見られた。キノコには美味で食用になる種や、非常に危険な毒をもつものがあり、食する場合は細心の注意が必要である。自分も図鑑を片手にキノコを採って判断するが、多くの種が判断できずに残る。種判定は自分にはとても難しい。しかし、キノコ類は、食用にするだけでなく、スケッチや写真を撮るような楽しみ方もある。キノコは形や色が多様で、美しい種も多い。市民の森などでは遊歩道が完備されているので、発生時期にはとても楽しめる。なお、ここでの分類は 1994 年の旧分類に従っていて、最新のものではない。

調査での出現種				調査での出現種			
群No	分類	科名	種名	群No	分類	科名	種名
1			アイゾメクロイグチ	27			ミドリニガイグチ
2			アシナガイグチ	28	イグチ科		ムラサキヤマドリタケ
3			アシベニイグチ	29			ヤマイグチ
4			アミイグチ	30			ヤマドリタケモドキ
5			アヤマイグチ?	31	イッポンシメジ科		イッポンシメジ科 sp
6			イグチ科 sp	32			ウラベニホテイシメジ
7			イロガワリ	33			キイボカサタケ
8			ウラクロニガイグチ	34			クサウラベニタケ
9			オオヤシャイグチ?	35			ミノモミウラモドキ
10			オクヤマニガイグチ	36	イボタケ科		イボタケ
11			オニイグチ	37			イボラシャタケ
12	ハラタケ類	イグチ科	キアミアシイグチ	38	ハラタケ類	オキナタケ科	コガサタケ
13			キイロイグチ	39			ツチナメコ
14			キクバナイグチ	40			フミツキタケ
15			キッコウアワタケ	41			ヤナギマツタケ
16			クロアザアワタケ	42	キシメジ科	アカチシオタケ?	
17			クロニガイグチ	43		アシナガタケ	
18			コゲチャイロガワリ	44		ウスキモミウラモドキ	
19			コビチャニガイグチ	45		オオホウライタケ	
20			チチアワタケ	46		オチバタケの仲間	
21			ニガイグチ	47		カレバキツネタケ	
22	ニガイグチモドキ	48	キシメジ科 sp				
23	ヌメリイグチ	49	キツネタケ				
24	ブドウイロニガイグチ	50	クヌギタケ属 sp				
25			ベニイグチ	51			コムラサキシメジ
26			ホオベニシロアシイグチ	52			サカズキホウライタケ

調査での出現種				
群No	分類	科名	種名	
53	キシメジ科		サクラタケ	
54			シロホウライタケ	
55			ダイダイガサ	
56			ツエタケ	
57			ツエタケの仲間?	
58			ナラタケモドキ	
59			ハナオチバタケ	
60			ヒナノカサ	
61			ヒメムキタケ	
62			ヒロヒダタケ	
63			ムラサキシメジ	
64			モリノカレバタケ	
65			スエヒロタケ科	スエヒロタケ
66			テングタケ科	
67	キリンタケ			
68	コガネテングタケ			
69	コテングタケモドキ			
70	コトヒラテングタケ			
71	ササクレシロオニタケ			
72	シロオニタケの仲間			
73	タマゴタケ			
74	タマゴテングタケの仲間			
75	タマゴテングタケモドキ			
76	ツルタケダマシ			
77	テングタケ			
78	テングタケ科 sp			
79	ドウシントケ			
80	ドクツルタケ			
81	フクロツルタケ			
82	ヘビキノコモドキ sp			
83	ヌメリガサ科	アカヤマタケ		
84	トガリベニヤマタケ			
85	ハラタケ科		オオシロカラカサタケ	
86			オニタケ	
87			キツネノハナガサ	
88			シロヒメカラカサタケ	
89			ツクリタケ	
90			ナカグロモリノカサ	
91			ハラタケ	
92			ハラタケ科 sp	
93			マントカラカサタケ	
94			イタチタケ	
95	イヌセンボンタケ			
96	コツブヒメヒガサヒトヨタケ			
97	ザラエノヒトヨタケ			
98	ヒトヨタケ科 sp			
99	ヒラタケ科	アラゲカワキタケ		
100	フウセンタケ科	キヌハダトマヤタケ		

調査での出現種					
群No	分類	科名	種名		
101	ハラタケ類		コツブチャツムタケ		
102			フウセンタケ科	ササクレキヌハダトマヤタケ	
103				ササタケの仲間	
104			ベニタケ科		ウコンハツ
105					オキナクサハツの仲間
106					カワリハツ
107					クサハツ
108					クロチチダマシ
109					クロハツ?
110					クロハツモドキ
111					シロハツ
112			シロハツモドキ		
113	チョウジタケ				
114	ツギハギハツ				
115	ドクベニタケ				
116	ヒビワレシロハツ				
117	ベニタケ科 sp				
118	ムラサキハツ				
119	ヤブレベニタケ				
120	ミミナミハタケ科	イタチナミハタケの仲間			
121	モエギタケ科		サケツバタケの仲間		
122			シロナメツムタケ		
123			ツチスギタケの仲間		
124			ヌメリスギタケ		
125			ヒメカバイロタケ		
126			モエギタケ		
1	アンズタケ科		アンズタケ		
2			ヒナアンズタケの仲間		
3			ベニウスタケ		
4			ウロコタケ科	カミウロコタケ?	
5			カレエダタケ科	カレエダタケモドキ	
6			コウヤクタケ科		オオシワタケ
7					ミナミコメバタケ
8			ヒダナンタケ類		アオゾメタケ
9					アミスギタケ
10					アラゲカワラタケ
11	ウチワタケ				
12	ウチワタケモドキ				
13	オオミノコフキタケ				
14	エゴノキタケ				
15	サルノコシカケ科	カイガラタケ			
16	カイメンタケ				
17	カワラタケ				
18	クジラタケ				
19	サルノコシカケ科 sp				
20	シロカイメンタケ				
21	スルメタケ				
22	タマチヨレイタケ				

調査での出現種					
群No	分類	科名	種名		
23	ヒダナシタケ類	サルノコシカケ科	チャカイガラタケ		
24			ツヤウチワタケ		
25			トンビマイタケ		
26			ハカワラタケ		
27			ヒイロタケ		
28			ベッコウタケ		
29			ホウネンタケ		
30			ホウロクタケ		
31			ヤキフタケ		
32			シロウメンタケ科	シロヒメホウキタケ?	
33			タバウロコタケ科	キヌハダタケ?	
34			ラッパタケ科	ウスタケ	
35				ラッパタケ科 sp	
1			腹菌類	ホコリタケ科	オニフスベ
2					ノウタケ

調査での出現種				
群No	分類	科名	種名	
3	腹菌類	ホコリタケ科	ホコリタケ	
4			ホコリタケ科 sp	
5		アカカゴタケ科	ツマミタケの仲間	
6		ヒメツチグリ科	エリマキツチガキ	
7			コフクロツチガキ	
8			ヒメツチグリ科 sp	
1		変形菌	ハシラホコリ科	マメホコリ
2			ムラサキホコリタケ科	サビホコリ
3	ムラサキホコリ			
1	キクラゲ類	キクラゲ科	アラゲキクラゲ	
2			キクラゲ	
3		シロキクラゲ科	ニカワツノタケ	
1	子囊菌類	クロサイワタケ科	クロコブタケ	



ナラタケモドキ

キシメジ科 ナラタケモドキ

広葉樹の切り株などの枯れ木や生木に発生する。多くのキノコが叢生して20cm くらいの株になる。ナラタケと共に食用にされる。



ハナオチバタケ

キシメジ科 ハナオチバタケ

広葉樹林の地上に発生する。取り上げてみると枯れた落ち葉などの植物に根を張っている。6 cm 程度の小型のキノコでつい見過ごしてしまうが、美しい。

テングタケ科

テングタケ科のキノコは猛毒を持っている種が多い。キノコは大型で林内ではよく目立ち立派な姿をしている。丸い笠と、笠の裏側にはひだがあり、柄にはつばあり、地上部には袋状のつぼがあるのが特徴である。

テングタケ科 コテングタケモドキ

市内の林地には普通に見られる。毒のあるキノコで、見るからに美味しそうではない。笠は10cm以上になり、見事であり、この付近の丘陵地では代表的な種である。



コテングタケモドキ（左）と断面（右）

テングタケ科 コトヒラテングタケ

猛毒のドクツルタケによく似ている。キノコの先生にコトヒラテングタケと教えていただいた。図鑑ではドクツルタケは中型から大型とあるが、市内で発生しているこのキノコは小型から中型までの大きさである。真っ白いキノコで林内では目立ち、数も多く、群生する。



コトヒラテングタケ

テングタケ科 ササクレシロオニタケ

笠の上に、いぼ状のとげがあり、大きいものは15cmくらいに開く。林内でよく目立ち、見事である。図鑑によれば食毒不明であるが、近縁で良く似た種では毒があり、本種も怪しい。間違えても毒味はしないほうがいだろう。



ササクレシロオニタケ

テングタケ科 シロタマゴテングタケ？

大型で白いキノコで、秋に林内ではよく目立ち、よく見かける。きれいだが、猛毒がある。



シロタマゴテングタケ



タマゴタケ



タマゴタケ幼菌



オオシロカラカサタケ



キツネノハナガサ

テングタケ科 タマゴタケ

テングタケの仲間の中で安心して食べることのできるキノコである。笠は赤く、柄は黄色、つばは白色、見るからに毒々しいが、ヨーロッパでは皇帝のキノコと呼ばれ、美味とされている。食べてみたが、とりたてて美味しいとは感じなかった。くせのないキノコではある。しかし、林内でこのキノコに出会うのはうれしい。発生は8～9月ころが多く、暑い盛りなので林地に入るのがためらわれ、林縁にあるのを見つけるとつい写真を撮りたくなる。

ハラタケ科 オオシロカラカサタケ

カラカサタケ類のうち、カラカサタケは食用だが、カラカサタケによく似た他の種は毒がある。このオオシロカラカサタケも毒キノコで、食することはできない。テレビ番組でカラカサタケを採集して食用とする放送をしていた。正しい放送であり、プロが指南していた。間違いはないのだが、あまり知識のない一般の人が食するのは危険である。

ハラタケ科 キツネノハナガサ

林内に発生する小さなキノコで、笠は3cmくらい、丈は10cmくらいになる。笠の表面は黄色で中央が写真のように色が濃い。単独で発生して地上の花のようである。

ハラタケ科 ナカグロモリノカサ

笠が10cmくらいになる中型のキノコで、雑木林の地上に単独あるいは群生する。ちょっと旨そうなのだが、これは有毒。



ナカグロモリノカサ

ハラタケ科 オニタケ

夏から秋にかけて林内に発生する中型のキノコで食用とされる。



オニタケ

ヒトヨタケ科 コキラタケ?

落葉樹の倒木に発生していた。3cmくらいの小さなキノコであった。図鑑と首っ引きで見てみたが、本当に名前は合っているのだろうか?こんなに可憐なのに!



コキラタケ

フウセンタケ科 チャツムタケ

倒木に叢生していたが、小さなキノコで、傘の裏はひだがある。あまり旨そうにも見えない。種名が当たっていれば、食毒不明。苦味があるという。キノコの研究者は味見をしたようだ。



チャツムタケ

イッポンシメジ科 キイボカサタケ

10cm程度の丈で、全体が黄色、傘は円錐形で頂端に突起があり、折れやすい。図鑑では毒キノコとなっている。その後に毒?とあったが、図鑑の執筆者も食べるのを躊躇ったのだろう。キノコの毒は致命的となる場合もある。



キイボカサタケ



クサウラベニタケ



ウラベニホテイシメジ

イッボンシメジ科 クサウラベニタケ(上)
ウラベニホテイシメジ(下)

ウラベニホテイシメジはイッボンと呼ばれる、少し苦味のあるキノコで美味である。クサウラベニタケは食用のウラベニホテイシメジと間違われて食される、地元で一番中毒の多いキノコである。両者は同じ場所に発生して、クサウラベニタケは個体数も多く、よく見かける。クサウラベニタケの中毒は、死亡することはないが、食後1時間程度で嘔吐と下痢が始まり、数日は苦しむ。自分は食べたことはないが、中毒する人が多いので、食べている時は美味しいのかもしれない。

イグチ科

この科のキノコは丸い笠の下面はひだではなく、管孔になっている。多くの種が8～9月の頃に発生する。図鑑によれば有毒な種もあるが、食べられる種も多くある。小型のものから大型のキノコまで、色も多様で、群生することも多く、見事である。



オクヤマニガイグチ



イグチ科 オクヤマニガイグチ

夏から秋にコナラ林などの地上に発生する。傘の径は10cm以上にもなる。肉は苦いとあり、食毒不明。

イグチ科 キアマアシイグチ

夏から秋に広葉樹のある地上に発生する。柄には網目があり、キノコは苦味があるという。食毒不明。



キアマアシイグチ



イグチ科 コオニイグチ

マツや広葉樹などの混交林に発生する。傘の表面はささくれた鱗片を持っている。食用になるともあるが、食べないほうが無難だろう。



コオニイグチ



ベニイグチ



ミドリニガイグチ



ムラサキヤマドリタケ



ベニタケ科

小型から大型まである分類群で、食用のキノコも多い。笠の表面が赤いドクベニタケなど林内では目立つ種から地味な種、乳液のような液を分泌する種もあり、馴染みがある。



ドクベニタケ



ツギハギハツ



カワリハツ



ハツタケ

ベニタケ科 ドクベニタケ

秋に林内の地上に発生する。傘の表面は赤く目立つ。柄は白色で、肉は柔らかく、強い辛味があるという。ベニタケの仲間は同定が難しく、この写真、同じ科のチシオハツにも見える。ドクベニタケは有毒、チシオハツであれば食毒不明。

ベニタケ科 ツギハギハツ・カワリハツ

このベニタケの仲間、ツギハギハツは食毒不明、カワリハツは食べられると図鑑にはある。しかし、これらのキノコを採集しても食欲が湧かない。キノコが好きで、よく知っているものであれば、食べてもいいが、用心深く対応するのも、中毒をしないコツ。自分はまだ一度も野生のキノコで中毒したことがない。

ベニタケ科 ハツタケ

アカマツの若い樹齢の樹のある、日当たりの好いススキなどがある樹林の地上に、10月の初旬に発生する。以前は市内でアカマツの林地が多くあり、上唐子の飛行場跡の平地林には多数発生した。アカマツは1980年代に大規

模に枯れ始め、今では松山の名前が霞むくらい、アカマツの樹が減り、同時にこのキノコも姿を消してしまった。うまみのある美味しいキノコであるが、キノコ自体はボソボソしていて食感はあまりよくない。傷つくと青変（緑青色）する。

ヒダナシタケ類 シロソウメンタケ科 sp

この写真のキノコのように枝分かれしている種は、シロソウメンタケ科やフサヒメホウキタケ科、ホウキタケ科などに分かれている。このキノコ小さく貧弱だが、ホウキタケ科にはホウキタケ（通称ネズミキノコ）という美味しい食菌がある。しかし、20年以上市内の山林で見たことは無い。



シロソウメンタケ科 sp

サルノコシカケ科 ツヤウチワタケ

これらのサルノコシカケ科の菌はコルク質で硬い。ほとんどキノコが倒木や枯木から発生している。よく見かけるのだが、食用にならないので、すぐに見過ごされる。しかし、よく見ると、どれも艶やかで美しい。



ツヤウチワタケ



カワラタケ



ヒイロタケ



ツチグリ科 エリマキツチグリ？

ツチグリ、ツチガキ、ホコリタケなどを含む仲間、秋、地上に発生する。この腹筋類には個性的なキノコが多く、キヌガサタケやスッポンタケ、キツネノロウソクなど魅力的な面々が揃っている。まずは探して鑑賞してみよう。



ホコリタケ科 ノウタケ・ホコリタケ

このホコリタケの仲間は、ノウタケは直径10cmくらいまで大きくなり、ホコリタケは3cmくらいで小さい。幼菌の内部は白いスポンジ状で食べられるが、小さいホコリタケの仲間は食毒不明のものもあり、注意が必要。成熟すると内部は茶褐色になり、胞子が飛散する。



キクラゲ科 アラゲキクラゲ

枯木に発生する。群生し大きいものでは5cmくらいになる。普通に見られる種で、庭の枯木にも出てくることもある。食べてみたが、結構いける。



ムラサキホコリ科 ムラサキホコリ

変形菌の粘菌アメーバは、植物を腐らせる細菌やカビを食べ、大きなアメーバ、変形体になる。暗く湿った場所で餌を探し這い回る。子実体を作るときには時速数cmも動くという。そして枯木などの表面に写真の如く現れる。恐ろしい得体の知れない動物を連想してしまう。だが、意外に見栄えがいい。



資 料

生物調査全体確認種	256
調査地別出現種リスト	260
各調査地の鳥類センサス	332

凡例

各調査地点の略称は下記の通りである。

名称	略称	年度
大谷瓦窯跡調査地（2003年）	大谷窯跡	03年
比丘尼山調査地（2004年）	比丘尼山	04年
東松山市市民の森調査地（2005年）	市民の森	05年
都幾川・神戸大橋～鞍掛橋間調査地（2006年）	都幾川	06年
都幾川・唐子橋～東松山橋間調査地（2007年）	高坂	07年
市野川・市松橋～境橋間調査地（2008年）	市野川	08年
滑川・野田、中橋～東平、松平橋間調査地（2009年）	滑川	09年
高坂地区宮鼻調査地（2010年）	宮鼻	10年
大谷瓦窯跡調査地（2011年）	大谷窯跡	11年
比丘尼山調査地（2012年）	比丘尼山	12年
東松山市市民の森調査地（2013年）	市民の森	13年
都幾川・神戸大橋～鞍掛橋間調査地（2014年）	都幾川	14年
都幾川・唐子橋～東松山橋間調査地（2015年）	高坂	15年
市野川・市松橋～境橋間調査地（2016年）	市野川	16年
滑川・野田、中橋～東平、松平橋間調査地（2017年）	滑川	17年
高坂地区宮鼻調査地（2018年）	宮鼻	18年

各調査地の鳥類センサスは、センサスルート距離が場所によって異なるため、12km当たりの個体数（指数）となっている。

生物調査全体確認種

No	項目	分類群 / 年度	科数と種数	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年
1	哺乳類		科数	1	2	2	4	2	0	2	2
2			種数	1	2	2	4	2	0	2	2
3	鳥類		科数	28	24	20	32	30	28	30	27
4			種数	44	43	40	64	64	53	51	41
5	爬虫類		科数	1	2	3	1	1	2	2	2
6			種数	2	2	5	1	1	2	2	2
7	両生類		科数	3	3	5	3	3	3	3	3
8			種数	3	5	6	4	5	5	5	4
9	魚類		科数	3	4	4	4	7	5	3	7
10			種数	4	9	4	9	17	11	7	12
11	甲殻類		科数	2	3	2	3	5	2	2	4
12			種数	2	3	2	3	6	2	2	4
13	軟体動物	水生貝類	科数	2	4	1	3	3	1	3	4
14			種数	2	4	1	3	3	1	3	4
15		陸生貝類	科数	1	2	1	1	2	2	2	2
16			種数	2	4	1	2	4	3	3	4
17	環形動物		科数	0	1	1	0	1	0	0	0
18			種数	0	1	1	0	1	0	0	0
19	多足類		科数	0	0	0	0	0	0	1	0
20			種数	0	0	0	0	0	0	1	0
21	等脚類		科数	0	0	0	0	0	0	0	1
22			種数	0	0	0	0	0	0	0	1
23	トビムシ類		科数	0	0	0	0	0	0	0	0
24			種数	0	0	0	0	0	0	0	0
25	扁形動物		科数	0	0	0	1	0	0	0	1
26			種数	0	0	0	1	0	0	0	1
27	クモ類		科数	7	6	7	8	7	12	12	10
28			種数	19	9	9	14	14	20	26	24
29	節足動物	ザトウムシ目	科数	1	0	0	0	0	0	0	0
30			種数	1	0	0	0	0	0	0	0
31	昆虫類	トンボ目	科数	3	5	4	5	5	6	3	4
32			種数	9	14	10	16	15	11	11	8
33		シリアゲムシ目	科数	1	0	1	1	0	1	1	1
34			種数	1	0	2	2	0	1	2	1
35		網翅目	科数	1	1	1	1	1	1	1	1
36			種数	1	2	3	2	2	2	3	1
37		ゴキブリ亜目	科数	0	0	0	1	0	0	1	0
38			種数	0	0	0	1	0	0	1	0
39		鞘翅目	科数	11	17	8	14	12	9	13	14
40			種数	22	51	24	30	20	36	48	41
41		膜翅目	科数	6	5	4	7	5	9	10	6
42			種数	10	7	6	12	12	18	25	9
43		鱗翅目・ガ類	科数	7	7	5	6	2	12	14	8
44			種数	11	7	8	7	3	15	25	12
45		鱗翅目・蝶類	科数	5	5	5	5	5	5	5	5
46			種数	28	24	23	23	25	28	33	21
47		直翅目	科数	5	7	6	6	8	7	9	6
48			種数	13	17	17	17	21	28	28	16
49		双翅目	科数	7	5	3	6	5	7	7	16
50			種数	15	5	5	11	9	14	17	31

No	項目	分類群 / 年度	科数と種数	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	全体
1	哺乳類		科数	2	2	1	4	5	4	3	4	9
2			種数	2	2	1	5	5	4	3	4	11
3	鳥類		科数	29	24	20	29	31	26	26	27	34
4			種数	47	31	41	55	61	46	44	43	93
5	爬虫類		科数	4	4	4	2	2	2	2	3	5
6			種数	4	4	5	2	3	3	3	3	9
7	両生類		科数	3	3	4	3	3	3	3	3	5
8			種数	5	6	4	5	4	5	5	5	9
9	魚類		科数	4	4	3	4	6	6	5	5	9
10			種数	8	8	3	9	14	14	8	9	24
11	甲殻類		科数	3	5	5	2	5	3	4	6	9
12			種数	3	5	5	2	5	3	4	6	10
13	軟体動物	水生貝類	科数	3	4	3	2	4	2	3	4	4
14			種数	3	4	3	2	4	2	3	4	4
15		陸生貝類	科数	3	3	3	4	3	4	3	2	4
16			種数	4	5	4	8	5	6	5	5	11
17	環形動物		科数	1	1	3	0	1	1	1	0	5
18			種数	2	2	4	0	2	1	1	0	6
19	多足類		科数	0	3	2	1	0	1	0	0	4
20			種数	0	3	2	1	0	1	0	0	5
21	等脚類		科数	0	0	0	0	0	0	0	0	1
22			種数	0	0	0	0	0	0	0	0	1
23	トビムシ類		科数	0	0	1	1	0	0	0	0	2
24			種数	0	0	1	1	0	0	0	0	2
25	扁形動物		科数	0	0	0	1	0	0	0	0	1
26			種数	0	0	0	1	0	0	0	0	1
27	クモ類		科数	16	15	17	20	15	12	16	12	23
28			種数	36+	65	59	77	35	27	44+	28	140
29	節足動物	ザトウムシ目	科数	1	1	1	0	0	0	0	0	1
30			種数	1	1	1	0	0	0	0	0	1
31	昆虫類	トンボ目	科数	5	4	3	5	4	5	5	3	7
32			種数	10	12	9	18	12	12	11	9	35
33		シリアゲムシ目	科数	1	1	1	1	1	1	1	1	1
34			種数	1	2	1	2	2	2	2	2	2
35		網翅目	科数	1	1	1	1	1	1	1	1	1
36			種数	2	4	3	2	2	1	3	1	4
37		ゴキブリ亜目	科数	1	0	0	0	0	0	0	0	1
38			種数	2	0	0	0	0	0	0	0	3
39		鞘翅目	科数	15	19	22	20	17	14	13	13	38
40			種数	36	59	53	74	50	35	48	29	239
41		膜翅目	科数	7	7	9	13	8	9	10	10	18
42			種数	22	36	39	38	24	25	26	31	100
43			科数	8	8	8	8	10	7	14	9	25
44			種数	11	11	12	10	13	12	22	16	88
45		鱗翅目・蝶類	科数	5	5	5	5	5	5	5	5	5
46			種数	29	26	30	38	34	29	35	23	65
47		直翅目	科数	8	7	9	7	6	5	6	7	10
48			種数	26	25	22	25	20	14	22	17	47
49		双翅目	科数	16	13	11	17	9	10	12	5	34
50			種数	31	27	20	27	22	21	22	10	95

No	項目	分類群 / 年度	科数と種数	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年
51	昆虫類	半翅目	科数	5	10	9	11	6	13	19	12
52			種数	13	16	14	17	9	21	41	19
53		ナナフシ目	科数	0	0	1	0	0	0	0	0
54			種数	0	0	1	0	0	0	0	0
55		トビケラ目	科数	0	0	1	3	0	0	1	2
56			種数	0	0	1	6	0	0	1	4
57		カゲロウ目	科数	0	0	0	8	1	0	3	8
58			種数	0	0	0	14	1	0	3	12
59		カワゲラ目	科数	0	0	0	2	0	0	0	0
60			種数	0	0	0	3	0	0	0	0
61		脈翅目	科数	0	1	0	0	0	0	0	0
62			種数	0	1	0	0	0	0	0	0
63		ハサミムシ目	科数	0	0	0	1	0	0	0	0
64			種数	0	0	0	1	0	0	0	0
27		植物	科数	36	54	52	43	56	68	69	55
28			種数	76	145	131	118	157	238	284	206
67	菌類	科数	10	7	14	3	2	2	3	2	
68		種数	24	8	43	3	2	2	10	2	

No	項目	分類群 / 年度	科数と種数	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	全体
51	昆虫類	半翅目	科数	12	17	17	24	15	16	24	11	39
52			種数	18	30	26	37	26	25	43	26	98
53		ナナフシ目	科数	1	1	0	0	0	0	0	0	1
54			種数	1	1	0	0	0	0	0	0	1
55		トビケラ目	科数	1	0	2	4	1	1	1	3	6
56			種数	1	0	2	8	1	1	1	3	15
57		カゲロウ目	科数	0	0	0	9	3	2	1		8
58			種数	0	0	0	18	3	2	1		30
59		カワゲラ目	科数	0	0	0	2	1	0	0	0	3
60			種数	0	0	0	5	1	0	0	0	6
61		脈翅目	科数	0	1	0	1	0	0	0	0	3
62			種数	0	1	0	1	0	0	0	0	3
63		ハサミムシ目	科数	0	0	1	0	1	0	0	0	3
64			種数	0	0	1	0	1	0	0	0	3
27		植物	科数	66	54	70	66	54	68	66	54	110
28			種数	221	212	241	247	237	228	221	201	593
67	菌類	科数	13	13	19	5	1	5	4	4	31	
68		種数	46	22	91	6	2	6	4	4	176	

調査地別出現種リスト

調査での出現種			場所名	大谷竊跡	比丘尼山	市民の森	都幾川	
No	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	
1	クモ類	アシナガグモ科	アシナガグモ	○			○	
2			アシナガグモ科 sp					
3			ウロコアシナガグモ					
4			エゾアシナガグモ					
5			オオシロカネグモ		○		○	
6			キララシロカネグモ					
7			トガリアシナガグモ					
8			シコクアシナガグモ					
9			ハラヒロアシナガグモ					
10			ヒカリアシナガグモ					
11			メガネドヨウグモ					
12			ヤサガタアシナガグモ		○			
13			ヨツボシヒメアシナガグモ					
14			ウズグモ科	ウズグモ				
15	カタハリウズグモ							
16	マネキグモ							
17	エビグモ科	アサヒエビグモ						
18		エビグモ科 sp						
19		キエビグモ						
20		キハダエビグモ						
21		クマダハナグモ?						
22		シャコグモ						
23		ヤマトヤドカリグモ		○				
24	ワカバグモ		○					
25	キンイロエビグモ							
26	カニグモ科	アズチグモ					○	
27		アズマカニグモ						
28		オオヤミイロカニグモ						
29		カニグモ科 sp						
30		コハナグモ						
31		セマルトラフカニグモ						
32		トラフカニグモ						
33		ハナグモ						
34	ヤミイロカニグモ					○		
35	ヨコフカニグモ							
36	キシダグモ科	アカスジハシリグモ						
37		アズマキシダグモ						
38		イオウイロハシリグモ			○	○	○	
39		キシダグモ科 sp						
40	コガネグモ科	イエオニグモ	○					
41		イシサワオニグモ						
42		オニグモ						
43		カラオニグモ?						
44		カラスゴミグモ						
45		カラフトオニグモ						
46		キザハシオニグモ						
47		ギンメッキゴミグモ	○	○				
48		コガタコガネグモ	○		○		○	
49		コガネグモ			○		○	
50		コガネグモ科 sp			○			
51	コガネグモダマシ							
52	コゲチャオニグモ		○					
53	ゴマジロオニグモ							

調査での出現種			場所名	大谷窯跡	比丘尼山	市民の森	都幾川	
No	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	
54	クモ類	コガネグモ科	ゴミグモ				○	
55			サツمامミノダマシ	○				
56			ドヨウオニグモ					
57			ナガコガネグモ	○	○	○	○	
58			ナカムラオニグモ					
59			ヌサオニグモ					
60			ビジョオニグモ					
61			ホシスジオニグモ	○				
62			マルズメオニグモ					
63			ヤマシロオニグモ	○	○			○
64			ヤマトゴミグモ?					
65			ヨツテゴミグモ					
66			ワキグロサツمامミノダマシ	○				○
67			コモリグモ科	イナダハリゲコモリグモ				
68		アオグロハシリグモ?						
69		イモコモリグモ						
70		ウツキコモリグモ		○	○	○		
71		キクツキコモリグモ		○				
72		キシベコモリグモ						
73		キバラコモリグモ						
74		コモリグモ科 sp						
75		シッチコモリグモ						
76		スジフトコモリグモ						
77		チビコモリグモ						
78		ナミコモリグモ?						
79		ハマキコモリグモ?						
80		ハリゲコモリグモ						
81		ヒノマルコモリグモ						
82	フジイコモリグモ							
83	ヤマハリゲコモリグモ							
84	ササグモ科	ササグモ	○	○		○		
85	サラグモ科	アシナガサラグモ						
86		クロケシグモ?						
87		コサラグモ						
88		ヒロテゴマグモ?						
89	ジグモ科	ジグモ						
90	ジボグモ科	ジボグモ						
91	ジョロウグモ科	ジョロウグモ	○	○	○	○		
92	センショウグモ科	センショウグモ						
93	タナグモ科	クサグモ	○					
94		コクサグモ				○		
95	ナゲナワグモ科	オオトリノフンダマシ				○	○	
96		シロオビトリノフンダマシ						
97		トリノフンダマシ				○		
98	ネコグモ科	ウラシマグモ						
99		ナガイツツグモ						
100	ハエトリグモ科	アオオビハエトリ						
101		アメイロハエトリ						
102		アリグモ						
103		イナズマハエトリ						
104		エクスハエトリ						
105		オスクロハエトリ						
106		キレワハエトリ						

調査での出現種			場所名	大谷窯跡	比丘尼山	市民の森	都幾川
No	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年
107		ハエトリグモ科	タイリクアリグモ				
108			ジャバラハエトリ				
109			シッチハエトリ				
110			シラホシコゲチャハエトリ				
111			チャイロアサヒハエトリ				
112			デーニッシュハエトリ				
113			ネコハエトリ				
114			マミクロハエトリ				
115			マミジロハエトリ				
116			ヤサアリグモ				
117			ヤガタアリグモ				
118			ヤハズハエトリ				
119			ヨダンハエトリ				
120			クワガタアリグモ				
121	ハグモ科	ネコハグモ					
122	クモ類	ヒメグモ科	オオヒメグモ				○
123			オナガグモ		○		
124			カグヤヒメグモ				
125			クロマルイソウロウグモ (オオツリガネヒメグモの巣)				
126			オオツリガネヒメグモ				
127			コアカクロミジグモ?				
128			チリイソウロウグモ				
129			ヒメグモ				
130			ヒメグモ科 sp				
131			フクログモ科	アシナガコマチグモ			
132	カバキコマチグモ						
133	トビイロフクログモ						
134	ヤマトコマチグモ						
135	ヤチグモ科	ヤチグモ科 sp					
136	ユウレイグモ科	ユウレイグモ					
137		ユウレイグモ科 sp					
138	ワシグモ科	ワシグモ科 sp					
139		シノノメトンビグモ					
140		クロチャケムリグモ					
1	節足動物	マザトウムシ科	モエギザトウムシ	○			

調査での出現種				場所名	大谷窯跡	比丘尼山	市民の森	都幾川	高坂	
No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年	
1	シダ植物		イノモトソウ科	ワラビ			○			
2			ゼンマイ科	ゼンマイ			○			
3			トクサ科	スギナ			○	○	○	
4			トクサ							
5			オシダ科	ヤブソテツ						
6	草本	双子葉合弁花植物	ウラボシ科	ノキシノブ						
7			アカネ科	アカネ		○		○		
8				ツルアリドオシ						
9				ヘクソカズラ			○		○	○
10				ヤエムグラ		○	○	○	○	○
11				ヨツバムグラ						
12	イワタバコ科	イワタバコ								

調査での出現種				場所名	大谷窯跡	比丘尼山	市民の森	都幾川	高坂	
No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年	
13				アマチャヅル						
14			ウリ科	アレチウリ				○	○	
15				カラスウリ	○	○	○	○	○	
16				スズメウリ						
17			オオバコ科	オオバコ			○	○	○	
18				ツボミオオバコ						
19				ヘラオオバコ						
20			オシロイバナ科	オシロイバナ					○	
21			オトギリソウ科	オトギリソウ						
22			オミナエシ科	オミナエシ (確認は園芸種?)						
23			ガガイモ科	ガガイモ		○			○	
24				コバノカモメヅル						
25			キキョウ科	キキョウソウ					○	
26				ツリガネニンジン		○				
27				ミツカクシ (アゼムシロ)				○		
28			双子葉合弁花種	アキノキリンソウ			○			
29				アキノゲシ	○	○	○		○	
30				アメリカセンダングサ				○	○	
31				イナカギク (ヤマシロギク)			○			
32				イヌキクイモ						
33				オオアレチノギク						
34				オオアワダチソウ	○					
35				オオオナモミ				○	○	
36				オオキンケイギク						
37				オオジシバリ	○	○	○		○	
38				オオブタクサ		○	○	○	○	
39				オグルマ						
40				オケラ		○	○			
41				オニタビラコ	○	○	○	○	○	
42				オニノゲシ		○				
43				ガンクビソウ						
44				カントウタンポポ		○		○	○	
45				カントウヨメナ		○	○	○	○	
46				キクイモ				○	○	
47				キク科	キダチコンギク					
48					キッコウハグマ					
49					キツネアザミ	○	○		○	
50					コウゾリナ		○			○
51					コオニタビラコ		○			
52					コセンダングサ		○		○	○
53					サジガンクビソウ					
54					サワヒヨドリ		○	○		
55					ジシバリ		○			
56			シラヤマギク			○				
57			シロバナタンポポ			○				
58			セイタカアワダチソウ		○	○	○	○	○	
59			セイヨウタンポポ		○	○	○	○	○	
60			タウコギ							
61			タカアザミ							
62			タカサブロウ					○		
63			タチチチコグサ							
64			ダンドボロギク				○			
65			チチコグサ							

市野川 08年	滑川 09年	宮鼻 10年	大谷窯跡 11年	比丘尼山 12年	市民の森 13年	都幾川 14年	高坂 15年	市野川 16年	滑川 17年	宮鼻 18年	原産地
				○	○						在来種
○	○	○									北アメリカ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	在来種
				○	○	○					在来種
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	在来種
	○										北アメリカ
			○	○	○						在来種
	○								○		ヨーロッパ
				○							在来種
○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	在来種
○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	在来種
○											北アメリカ
○											在来種
○											北アメリカ
○											在来種
○											在来種
○											北アメリカ
○											在来種
○											北アメリカ
○											在来種
○											在来種
○											北アメリカ
○											在来種
○											アメリカ大陸
○											北アメリカ
		○									在来種

調査での出現種				場所名	大谷窯跡	比丘尼山	市民の森	都幾川	高坂		
No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年		
66				ニガナ		○	○				
67				ノアザミ		○	○	○	○		
68				ノゲシ	○	○	○	○	○		
69				ノコンギク					○		
70				ノハラアザミ			○				
71				ノボロギク	○	○	○		○		
72				ハキダメギク			○	○			
73				ハハコグサ (ホオコグサ)	○	○	○		○		
74				ハルジオン	○	○	○	○	○		
75				ヒメジョオン	○		○	○	○		
76				ヒメムカシヨモギ							
77				ヒロハホウキギク							
78			キク科	フキ				○			
79				ブタクサ							
80				ブタナ					○		
81				ベニバナボロギク							
82				ホウキギク				○			
83				メナモミ							
84				ヤクシソウ							
85				ヤグルマギク							
86				ヤブタバコ		○	○				
87				ユウガギク			○		○		
88				ヨモギ	○	○	○	○	○		
89				チチコグサモドキ							
90				シロノセンダングサ							
91	草本	双子葉離弁花植物	キツネノマゴ科	キツネノマゴ	○			○	○		
92			クマツヅラ科	イワダレソウに似る外来種 sp							
93			ゴマ科	ゴマ							
94					アゼトウガラシ						
95					アゼナ						
96					アメリカアゼナ						
97					ウリクサ						
98					ゴマノハグサ科	オオイヌノフグリ	○	○	○	○	○
99						カワヂシャ				○	○
100						キクモ					
101				タチイヌノフグリ	○	○					
102			ゴマノハグサ科	トキワハゼ	○	○					
103				ハグロソウ							
104				ムラサキサギゴケ	○	○	○		○		
105			サクラソウ科	オカトラノオ	○	○	○		○		
106				コナスビ							
107			シソ科	アキノタムラソウ		○	○	○	○		
108				イヌコウジュ					○		
109				イヌゴマ (チョロギダマシ)			○				
110				オカタツナミソウ							
111				カキドオシ		○	○	○	○		
112				キバナアキギリ		○					
113				キランソウ		○	○	○			
114				シソ					○		
115					ジュウニヒトエ		○				
116					タツナミソウ		○				

市野川 08年	滑川 09年	宮鼻 10年	大谷窯跡 11年	比丘尼山 12年	市民の森 13年	都幾川 14年	高坂 15年	市野川 16年	滑川 17年	宮鼻 18年	原産地
○			○	○	○			○			在来種
	○			○			○		○		在来種
○	○	○	○					○	○	○	在来種
○	○		○	○	○			○	○		在来種
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ヨーロッパ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	北アメリカ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	在来種
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	北アメリカ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	北アメリカ
	○							○			北アメリカ
○			○								在来種
			○				○				北アメリカ
			○								北アメリカ
○	○	○			○					○	北アメリカ
					○			○			在来種
○	○						○				在来種
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	在来種
○	○		○	○		○	○	○	○	○	在来種
									○		熱帯アメリカ
										○	熱帯から暖帯
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	在来種
									○		外来種
			○								作物
	○						○			○	在来種
	○								○		在来種
					○	○	○		○	○	北アメリカ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	在来種
		○				○	○			○	ユーラシア・ アフリカ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	在来種
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	在来種
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ユーラシア・ アフリカ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	在来種
○		○	○	○	○	○					在来種
	○		○	○	○	○					在来種
○				○	○	○		○			在来種
○				○	○	○		○			在来種
○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	在来種
			○	○	○	○		○		○	在来種
							○				作物
											在来種
											在来種

調査での出現種				場所名	大谷窯跡 比丘尼山 市民の森 都幾川 高坂				
No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年
117				トウバナ					
118				ニガクサ					
119				ハッカ					
120			シソ科	ヒメオドリコンソウ		○	○	○	○
121				ヒメジソ					
122				ホトケノザ	○	○	○	○	○
123				マルバハッカ					
124				ミゾコウジュ					
125				メハジキ					○
126				ヤマハッカ?					
127			ナス科	アメリカイヌホオズキ		○			
128				イヌホオズキ					
129				ヒヨドリジョウゴ					
130				マルバノホロシ					
131				ヤマホロシ					
132			ワルナスビ						
133			ハエドクソウ科	ハエドクソウ					
134			ハマウツボ科	ナンバンギセル			○		
135				ヤセウツボ					
136			ヒルガオ科	アサガオ	○				
137				コヒルガオ		○			
138				ヒルガオ			○		○
139				ヒルガオ科 sp (青花)				○	
140				ヒルガオ科 sp (白花)					
141				マルバアサガオ					
142			マルババルコウ						
143			ムラサキ科	キュウリグサ		○	○	○	○
144			リンドウ科	フデリンドウ					
145			アオイ科	イチビ					
146				ゼニアオイ					
147			アカザ科	アカザ	○				○
148				ケアリタソウ					
149				シロザ	○				○
150			アカバナ科	アカバナユウゲショウ		○		○	○
151				オオバナコマツヨイグサ					
152				オオマツヨイグサ				○	○
153				チョウジタデ					
154				ヒルザキツキミノウ					
155				ヒレタゴボウ					
156			メマツヨイグサ		○		○	○	
157			アブラナ科	イヌガラシ				○	
158				イヌナズナ	○	○	○		○
159				オオアラセイトウ (ハナダイコン)				○	○
160				オランダガラシ (クレソン)					
161				カキネガラシ					
162				ゲンバイナズナ					
163				スカシタゴボウ					
164				セイヨウアブラナ				○	
165				セイヨウカラシナ				○	○
166				ダイコン					
167			タネツケバナ	○	○	○		○	
168			ナズナ	○	○		○	○	

草本

双子葉離弁花植物

市野川 08年	滑川 09年	宮鼻 10年	大谷窯跡 11年	比丘尼山 12年	市民の森 13年	都幾川 14年	高坂 15年	市野川 16年	滑川 17年	宮鼻 18年	原産地
		○		○		○					在来種 在来種 在来種 ヨーロッパ 在来種 在来種 ヨーロッパ 在来種 在来種 在来種
○	○					○				○	北アメリカ 在来種 在来種 在来種 在来種 北アメリカ
				○	○						在来種
						○			○		在来種 ヨーロッパ・ 北アフリカ
○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	園芸種 在来種 在来種 外来種 外来種 熱帯アメリカ 熱帯アメリカ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	在来種
○											在来種
	○	○						○	○	○	インド ヨーロッパ
	○	○	○			○	○	○	○		外来種 南アメリカ ユーラシア
○	○	○	○			○	○	○	○	○	南アメリカ 北アメリカ 北アメリカ 在来種 北アメリカ 北アメリカ 北アメリカ
○	○	○		○		○	○		○	○	在来種 在来種 中国 ヨーロッパ ヨーロッパ 在来種 在来種 ヨーロッパ ユーラシア 作物 在来種 在来種

調査での出現種		場所名	大谷窯跡 比丘尼山 市民の森 都幾川 高坂								
No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年		
169	草本	双子葉離弁花植物	アブラナ科	マメゲンバイナズナ							
170				ミチバタガラシ							
171			イラクサ科	アカソ							
172				カテンソウ							
173				カラムシ						○	
174				メヤブマオ							
175				ヤブマオ							
176			ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ		○		○		○	
177				タマノカンアオイ				○			
178			カタバミ科	イモカタバミ							
179				カタバミ		○	○	○	○	○	
180				ムラサキカタバミ				○			
181			キンボウゲ科	アキカラマツ							
182				イチリンソウ							
183				ウマノアシガタ (キンボウゲ)				○	○		○
184				キツネノボタン				○	○		○
185				ケキツネノボタン							
186				セリバヒエンソウ				○		○	○
187				センニンソウ				○	○	○	○
188				タガラシ						○	○
189			キンボウゲ科	ニリンソウ						○	
190				ヤマキツネノボタン							
191			クワ科	カナムグラ			○		○	○	
192				カラハナソウ							
193				クワクサ							
194			ケシ科	クサノオウ					○		
195				ジロボウエンゴサク							○
196				タケニグサ			○				
197	ヒナゲシ										
198	ムラサキケマン					○	○	○	○		
199	スベリヒユ科	スベリヒユ					○	○			
200	スミレ科	コスミレ			○						
201		スミレ				○	○				
202		タチツボスミレ		○	○	○			○		
203		ツボスミレ		○		○					
204		ニオイタチツボスミレ									
205		ノジスミレ						○	○		
206		バビリオナケア									
207	セリ科	カノツメソウ?									
208		セリ				○	○	○	○		
209		セントウソウ									
210		ノダケ?									
211		ノチドメ									
212		ハナウド									
213		ミツバ						○			
214		ヤブジラミ				○			○		
215		ヤブニンジン									
216		ヤマゼリ									
217	タデ科	アキノウナギツカミ			○			○			
218		アレチギシギシ									
219		イシミカワ				○					

調査での出現種		場所名	大谷窯跡	比丘尼山	市民の森	都幾川	高坂		
No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年
220				イタドリ					○
221				イヌタデ	○	○	○	○	○
222				エゾノギンギシ					
223				オオイヌタデ				○	
224				ギンギシ	○	○	○		○
225				サクラタデ					
226				サナエタデ					
227				スイバ	○	○	○	○	○
228			タデ科	ニオイタデ					
229				ハナタデ					
230				ハルタデ					
231				ヒメスイバ					
232				ママコノシリヌグイ	○	○		○	○
233				ミズヒキ		○	○		
234				ミゾソバ			○	○	
235				ヤナギタデ					
236				ヤノネグサ					
237			ツルナ科	ザクロソウ					
238				エノキグサ					
239			トウダイグサ科	オオニシキソウ					
240				コニシキソウ					
241				トウダイグサ	○	○			○
242			ドクダミ科	ドクダミ	○	○	○	○	
243				ウシハコベ	○	○	○	○	
244				オランダミミナグサ					
245				コハコベ					
246				ツメクサ			○		
247			ナデシコ科	ノミノツツリ					
248				ノミノフスマ	○	○	○		
249				ハコベ	○	○	○	○	○
250				ミミナグサ					
251				ムシトリナデシコ					○
252				オビヘビイチゴ					
253				キジムシロ					
254				キンミスヒキ			○	○	○
255			バラ科	ヘビイチゴ	○	○	○	○	○
256				ミツバツチグリ					
257				ヤブヘビイチゴ					
258				ワレモコウ			○		○
259			ヒシ科	ヒシ					
260			ビャクダン科	カナビキソウ					
261				アオビユ (ホナガイヌビユ)					
262				ヒカゲノイノコズチ					
263			ヒユ科	ヒナタイノコズチ		○			○
264				ホソアオゲイトウ					
265				ヤナギイノコズチ					
266			フウロウソウ科	アメリカフウロ	○	○	○	○	○
267			ブドウ科	ヤブカラシ		○		○	○
268			ベンケイソウ科	コモチマンネングサ					
269				タコノアシ					
270				アズキ					
271			マメ科	アレチヌスビトハギ					
272				イタチハギ					

双子葉離弁花植物
草本

調査での出現種				場所名	大谷窯跡	比丘尼山	市民の森	都幾川	高坂					
No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年					
273	草本	双子葉離弁花植物	マメ科	カスマグサ										
274				カラスノエンドウ	○	○	○	○	○					
275				カワラケツメイ										
276				クサネム										
277				クサフジ							○			
278				クズ			○	○	○	○	○			
279				ゲンゲ					○					
280				コマツナギ				○	○	○	○			
281				コメツブウマゴヤシ										
282				コメツブツメクサ										
283				シロツメクサ			○		○	○	○			
284				スズメノエンドウ				○		○	○			
285				ツルマメ							○			
286				トキリマメ										
287				ナンテンハギ				○			○			
288				ヌスビトハギ				○	○					
289				ノアズキ							○			
290				ムラサキツメクサ							○			
291				メドハギ										
292				ヤハズソウ										
293				ヤブツルアズキ							○			
294				ヤブマメ										
295				ミソハギ科			ホソハヒメミソハギ							
296				ヤマゴボウ科			ヨウシュヤマゴボウ		○					
297				ユキノシタ科			チダケサシ			○				
298				草本	単子葉植物	イネ科	カキツバタ				○	○		
299							アヤメ科	キショウブ						
300							シャガ					○		
301							ニワゼキショウ					○		○
302	イグサ科	イ									○			
303	クサイ													
304	コウガイゼキショウ													
305	アオカモジグサ													
306	アキノエノコログサ													
307	アキメヒシバ													
308	アズマガヤ													
309	アゼガヤ													
310	アブラススキ								○					
311	イチゴツナギ													
312	イヌビエ							○						
313	イヌムギ													
314	イネ							○						
315	イブキヌカバ													
316	エノコログサ				○	○	○	○						
317	オオアブラススキ													
318	オオアワガエリ (チモシー)							○						
319	オオイチゴツナギ													
320	オオエノコログサ													
321	オオクサキビ													
322	オギ							○						
323	オニウシノケグサ							○						
324	オヒシバ													

市野川 08年	滑川 09年	宮鼻 10年	大谷窯跡 11年	比丘尼山 12年	市民の森 13年	都幾川 14年	高坂 15年	市野川 16年	滑川 17年	宮鼻 18年	原産地
○											在来種
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	在来種
	○										在来種
		○		○		○	○				在来種
○	○	○				○	○	○	○		在来種
○	○		○	○	○	○	○	○	○		在来種
○	○	○		○	○			○			中国
	○						○	○		○	在来種
○									○		ヨーロッパ
○										○	ヨーロッパ・ 西アジア
○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	ヨーロッパ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		在来種
○	○	○	○				○				在来種
				○							在来種
○	○			○	○	○					在来種
		○						○			在来種
	○	○	○	○	○		○			○	在来種
○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	ヨーロッパ
		○					○	○			在来種
	○										在来種
	○										在来種
	○										在来種
		○									南北アメリカ
○	○		○	○		○	○	○	○	○	北アメリカ
					○						在来種
				○				○			在来種
○				○	○						ヨーロッパ
			○	○	○			○			中国
											北アメリカ
			○	○	○		○	○			在来種
				○			○				在来種
											在来種
○	○										在来種
○		○					○	○			在来種
○	○		○				○			○	在来種
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	在来種
○	○	○	○	○		○	○	○			南アメリカ
○				○						○	作物
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	在来種
○							○				在来種
○							○	○			ユーラシア
○		○		○	○	○	○	○		○	在来種
○							○	○			在来種
○		○					○	○	○	○	北アメリカ
○		○					○	○	○	○	在来種
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ヨーロッパ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	在来種

調査での出現種			場所名	大谷窯跡 比丘尼山 市民の森 都幾川 高坂							
No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年		
325				カズノコグサ (ミノゴメ)							
326				カゼグサ					○		
327				カニツリグサ							
328				カモガヤ							
329				カモジグサ							
330				カラスムギ		○					
331				キツネガヤ							
332				キシウススメノヒエ							
333				ギョウギシバ		○					
334				キンエノコロ					○		
335				クサヨシ							
336				ケイヌビエ							
337				コスズメガヤ							
338				コツブキンエノコロ							
339				コブナグサ							
340				コヌカグサ							
341				シナダレスズメガヤ							
342				シバ							
343				シバムギ							
344				シマスズメノヒエ							
345				ジュズダマ					○		
346				ススキ			○		○		
347				スズメノカタビラ				○			
348	草本	単子葉植物	イネ科	スズメノチャヒキ							
349				スズメノテッポウ	○	○	○				
350				スズメノヒエ							
351				セイバンモロコシ							
352				セトガヤ							
353				タイヌビエ							
354				チガヤ				○	○	○	
355				チカラシバ				○	○	○	
356				チゴザサ				○			
357				チヂミザサ							
358				ツルヨシ						○	○
359				ドジョウツナギ							
360				トダシバ							○
361	トボシガラ										
362	ナガハグサ										
363	ナギナタガヤ										
364	ヌカキビ										
365	ネズミノオ										
366	ネズミムギ										
367	ノガリヤス					○					
368	ノゲイヌムギ										
369	ハイコヌカグサ										
370	ヒゲナガスズメノチャヒキ										
371	ヒロハノドジョウツナギ										
372	ホガエリガヤ?										
373				ホソネズミムギ							

調査での出現種		場所名	大谷窯跡	比丘尼山	市民の森	都幾川	高坂			
No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年	
374	草本	単子葉植物	イネ科	ホソムギ						
375				マコモ					○	
377				ミズタカモジグサ						
378				ミゾイチゴツナギ						
379				ムラサキエノコログサ						
380				ムラサキネズミノオ						
381				メダケ						
382				メヒシバ						
383				モウソウチク						
384				ヨシ				○		○
385			ウキクサ科	アオウキクサ						
386				ウキクサ						
387				ミジンコウキクサ						
388			オモダカ科	ウリカワ						
389				オモダカ (ハナグワイ)						
390			ガマ科	ガマ						
391				コガマ			○	○		○
392				ヒメガマ			○			○
393			カヤツリグサ科	アゼガヤツリ						
394				アゼスゲ						
395				アゼナルコ (アゼナルコズゲ)						
396				イヌホタルイ				○		
397				ウシクグ						○
398				オオヌマハリイ						
399				オニスゲ (ミクリスゲ)						
400				カヤツリグサ (マスクサ)						○
401				カワラスゲ (タニスゲ)			○			
402				キングヤツリ						
403				クサスゲ						
404				ゴウソ						
405				コゴメガヤツリ						
406				コジュズスゲ						
407	シカクイ									
408	ジュズスゲ?									
409	シラスゲ (ムシヤナルコスゲ)									
410	タマガヤツリ				○		○			
411	テンツキ									
412	ヌマガヤツリ							○		
413	ハマスゲ									
414	ヒデリコ									
415	ヒメカンスゲ						○			
416	ヒメクグ									
417	フトイ									
418	ホタルイ									
419	ミコシガヤ									
420	メアゼテンツキ									
421	ヤブスゲ									
422	ヤマイ									
423	ヤワラスゲ									
424	サトイモ科	カラスビシャク		○						
425	ショウガ科	ミョウガ								
426	ツユクサ科	イボクサ				○				

調査での出現種		場所名	大谷窯跡	比丘尼山	市民の森	都幾川	高坂		
No	分類	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年	
427	草本	単子葉植物	ツユクサ科	ツユクサ	○	○	○	○	
428			ムラサキツユクサ						
429			ヤブミョウガ				○	○	
430			トチカガミ科	オオカナダモ					
431			ヒガンバナ科	キツネノカミソリ				○	
432				ヒガンバナ				○	○
433			ミズアオイ科	コナギ			○		
434				ホテイアオイ					
435			ヤマノイモ科	オニドコロ					
436				ヒメドコロ					
437				ヤマノイモ			○	○	
438			ユリ科	アマナ				○	○
439				オオバギボウシ	○		○	○	
440				オオバジャノヒゲ					
441				オニユリ					
442				オモト					
443				カタクリ					○
444				ジャノヒゲ (リュウノヒゲ)					
445				タチシオデ					
446				チゴユリ	○	○	○		
447				ツルボ				○	○
448				ニラ					
449				ノカンゾウ		○			
450				ノビル			○	○	○
451				ヒメヤブラン					
452				ハウチャクソウ					
453				ヤブカンゾウ				○	○
454				ヤブラン		○		○	
455			ヤマジノホトギス		○				
456			ヤマユリ				○		
457	ラン科	キンラン			○				
458		ギンラン							
459		シュンラン							
460		ネジバナ (モジズリ)							
461	木本	双子葉合弁花植物	エゴノキ科	エゴノキ	○	○	○		
462			カキノキ科	カキノキ					
463			キク科	コウヤボウキ					
464			キョウチクトウ科	テイカカズラ					
465			クマツズラ科	クサギ		○			○
466				オオムラサキシキブ					
467				ムラサキシキブ	○				
468				ヤブムラサキ					
469			ゴマノハグサ科	キリ					
470			スイカズラ科	ウグイスカグラ					
471				ガマズミ					
472				スイカズラ				○	
473				ソクズ					
474	ニワトコ (クサニワトコ)						○		
475	ツツジ科	アセビ			○				
476		ネジキ							
477		ヤマツツジ		○	○				
478	ナス科	クコ				○	○		
479	ノウセンカズラ科	キササゲ							

調査での出現種			場所名	大谷窯跡 比丘尼山 市民の森 都幾川 高坂					
No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年
480			モクセイ科	イボタノキ					
481				マルバアオダモ					
482			ヤブコウジ科	ヤブコウジ					
483			リョウブ科	リョウブ			○		
484			アオイ科	ムクゲ					
485			アケビ科	アケビ	○	○			
486				ミツバアケビ	○	○			
487			イラクサ科	コアカソ					
488				ウコギ					
489				キツタ (フユツタ)				○	○
490			ウコギ科	タラノキ					
491				ハリギリ	○				
492				ヤツデ					
493				ヌルデ		○		○	○
494			ウルシ科	ハゼノキ					
495				ヤマウルシ		○	○	○	
496			カエデ科	イロハモミジ					
497				ウリカエデ					
498			カツラ科	カツラ					
499				アカシデ					○
500			カバノキ科	イヌシデ	○	○	○		
501				ハンノキ			○		○
502				イヌガシ					
503				クロモジ					
504			クスノキ科	シロダモ					
505				タブノキ					
506				ヤマコウバシ					
507			グミ科	ナツグミ					
508			クルミ科	オニグルミ				○	○
509			クロウメモドキ科	オオクマヤナギ					
510				イタビカズラ					
511			クワ科	カジノキ		○			
512				ヒメコウゾ			○	○	○
513				マダマ		○	○	○	
514			センダン科	センダン					
515			ツゲ科	ツゲ			○		
516			ツツラフジ科	アオツツラフジ					
517				チャノキ					
518			ツバキ科	ヒサカキ	○	○	○		
519				ヤブツバキ					
520			トウダイグサ科	アカメガシワ	○	○	○		○
521				ナンキンハゼ					○
522			ニガキ科	ニワウルシ (シンジュ)					
523				ツルウメモドキ					○
524			ニシキギ科	ニシキギ		○			
525				コマユミ					
526				マユミ					
527				エノキ	○			○	○
528			ニレ科	ケヤキ		○	○	○	○
529				ムクノキ				○	
530				ウメ					
531			バラ科	ウワミズザクラ	○				

木本
双子葉離弁花植物

市野川 08年	滑川 09年	宮鼻 10年	大谷窯跡 11年	比丘尼山 12年	市民の森 13年	都幾川 14年	高坂 15年	市野川 16年	滑川 17年	宮鼻 18年	原産地
	○	○	○	○	○	○		○	○	○	在来種 在来種
					○						在来種
○					○			○			在来種
○											中国?
○	○		○	○	○	○		○	○	○	在来種 在来種
○				○	○						在来種
	○								○		在来種
○	○		○			○	○	○	○		在来種 在来種
○	○							○			在来種 在来種
	○		○	○		○					在来種 在来種
	○				○				○		在来種 在来種
○			○		○						在来種 在来種
○	○		○		○			○			在来種 在来種
	○										在来種
○			○		○						在来種 在来種
○	○		○		○			○			在来種 在来種
	○										在来種
○	○	○					○	○	○	○	在来種
									○		在来種
	○		○	○		○			○		在来種 在来種
○	○		○	○		○		○	○	○	在来種 在来種
○	○		○	○		○		○	○	○	在来種 在来種
○	○	○					○	○	○	○	在来種 在来種
○	○			○		○					作物 在来種
			○								暖地系・ 伊豆半島以西
											園芸種
○					○			○	○	○	在来種
○					○						作物
○	○		○		○			○			在来種 在来種
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	在来種 園芸種
	○						○				園芸種
	○									○	在来種 在来種
○	○	○			○	○	○	○	○	○	在来種 在来種
○	○		○			○	○	○	○		在来種 在来種
○	○	○	○				○	○	○	○	在来種
○	○			○		○					作物 在来種

調査での出現種		場所名	大谷窯跡 比丘尼山 市民の森 都幾川 高坂								
No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年		
532	木本	単子葉植物	バラ科	カジイチゴ							
533				クサイチゴ							
534				クサボケ							
535				クマイチゴ					○		
536				コゴメウツギ							
537				サクラ・ソメイヨシノ							
538				シモツケ					○		
539				テリハノイバラ							
540				ナワシロイチゴ							
541				ノイバラ			○	○	○	○	○
542				ハチジョウクサイチゴ							
543				ビワ							
544				モミジイチゴ							
545				ヤマザクラ			○	○	○	○	○
546			ヤマブキ								
547			ユキヤナギ								
548			ブドウ科	エビツル							
549				ツタ (ナツツタ)							
550				ノブドウ					○	○	
551			ブナ科	アラカシ		○	○	○			
552				クヌギ		○	○		○	○	
553				クリ				○	○	○	
554				コナラ		○	○		○	○	
555				シラカシ		○	○	○	○		
556			マメ科	ニセアカシア (ハリエンジュ)					○	○	
557				ネムノキ					○	○	
558				フジ		○	○	○			
559				ヤマハギ							
560			マンサク科	マンサク							
561			ミズキ科	アオキ			○	○		○	
562				ミズキ					○	○	
563			ミツバウツギ科	ゴンスイ			○	○			
564			メギ科	ナンテン							
565	モクレン科	ハクモクレン									
566	モチノキ科	アオハダ				○					
567		イヌツゲ				○					
568	ヤナギ科	アカメヤナギ						○			
569		カワヤナギ					○	○			
570		コゴメヤナギ									
571		ネコヤナギ					○				
572		セイヨウハコヤナギ				○					
573	ユキノシタ科	ウツギ			○						
574		コアジサイ									
575	イネ科	アズマネザサ		○	○	○	○	○			
576		クマザサ			○						
577		スズタケ									
376		マダケ					○	○			
578	ヤシ科	シュロ		○	○	○	○				
579	ユリ科	サルトリイバラ		○	○	○					
580	裸子植物	イチヨウ科	イチヨウ			○					
581		スギ科	スギ	○	○		○	○			
582			メタセコイア								
583		ヒノキ科	ヒノキ	○	○		○				

調査での出現種				場所名	大谷窯跡	比丘尼山	市民の森	都幾川	高坂
No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年
584	木本	裸子植物	マツ科	アカマツ	○	○	○		
585				クロマツ					
586				テーダマツ				○	
587				モミ					

調査での出現種				場所名	大谷窯跡	比丘尼山	市民の森	都幾川	高坂
群No	分類群	科名	種名 / 調査年度		03年	04年	05年	06年	07年
1	水生貝類	カワニナ科	カワニナ			○	○	○	○
2		サカマキガイ科	サカマキガイ	○	○				
3		シジミガイ科	マシジミ			○		○	
4		タニシ科	ヒメタニシ	○	○			○	
1	陸生貝類	オカモノアラガイ科	オカモノアラガイ						
2		キセルガイ科	ナミギセル						
3		ナメクジ科	ナメクジ			○			
4			ヤマナメクジ						
5		ナンバンマイマイ科	ウスカワマイマイ	○	○				○
6			オナジマイマイ						○
7			コハウオナジマイマイ						
8			ナンバンマイマイ科 sp						○
9			ニッポンマイマイ				○		○
10			ヒダリマキマイマイ	○	○				
11			ミスジマイマイ			○			○
1	魚類	ギギ科	ギバチ					○	
2		キュウリウオ科	アユ						○
3		コイ科	アブラハヤ					○	
4			ウグイ						○
5			オイカワ						○
6			ヌマムツ				○		○
7			キンブナ						○
8			ギンブナ	○	○			○	
9			ゲンゴロウブナ						○
10			コイ				○		○
11			タイリクバラタナゴ				○		○
12			タモロコ				○		○
13			ニゴイ						○
14			モツゴ	○	○				○
15			タイワンドジョウ科	カムルチー					
16		ドジョウ科	ヒガシシマドジョウ					○	
17			ドジョウ	○	○		○	○	○
18		ナマズ科	ナマズ						
19		バス科	オオクチバス					○	○
20			ブルーギル						○
21		ハゼ科	カマツカ						○
22			ジュズカケハゼ類 sp						○
23		メダカ科	メダカ			○	○		○
24		ヨシノボリ科	ヨシノボリ属 sp	○	○		○		○
1	甲殻類	カブトエビ科	カブトエビ						○
2		ザリガニ科	アメリカザリガニ	○	○	○	○	○	
3		テナガエビ科	スジエビ					○	○
4			テナガエビ						○
5		ヌマエビ科	ミナミヌマエビ属 sp					○	○

調査での出現種			場所名	大谷窪跡	比丘尼山	市民の森	都幾川	高坂	
群No	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年	
6	甲殻類	ホウネンエビ科	ホウネンエビ		○			○	
7		ヨコエビ科	ヨコエビ科 sp						
8		オカダンゴムシ科	オカダンゴムシ	○	○	○			
9		ワラジムシ科	ワラジムシ						
10		フナムシ科	ニホンヒメフナムシ						
1	爬虫類	カナヘビ科	ニホンカナヘビ			○	○	○	
2		クサリヘビ科	ニホンマムシ						
3		スキンク科	ホンドトカゲ			○			
4		ナビヘビ科	アオダイショウ		○		○		
5			ヤマカガシ		○		○		
6			シロマダラ						
7			ヒバカリ			○	○		
8		ヌマガメ科	クサガメ						
9			ミシシッピアカミミガメ						
1	哺乳類	アライグマ科	アライグマ (足跡)						
2		イタチ科	ニホンイタチ (種同定未確認)		○	○		○	
3		イヌ科	ホンドキツネ						
4			ホンドタヌキ				○		
5		イノシシ科	ニホンイノシシ (足跡)						
6		ウサギ科	ノウサギ						
7		シカ科	ニホンジカ						
8		ジャコウネコ科	ハクビシン					○	
9		ネズミ科	アカネズミ					○	
10			カヤネズミ						
11		モグラ科	モグラ科 sp(アズマモグラ未確認)	○	○	○	○	○	
1	両生類	アオガエル科	カジカガエル				○		
2			シュレーケルアオガエル	○	○	○		○	
3		アカガエル科	ウシガエル		○	○	○	○	
4			トウキョウダルマガエル			○	○	○	
5			ニホンアカガエル			○		○	
6			ヌマガエル					○	
7		アマガエル科	ニホンアマガエル	○	○	○	○	○	
8		サンショウウオ科	トウキョウサンショウウオ			○			
9		ヒキガエル科	アズマヒキガエル			○			
1	環形動物類	コウガイビル科	コウガイビル						
2		ヒル科?	イシビル						
3		ハリガネムシ目	ハリガネムシ						
4		ツリミミズ科	カッシュクツリミミズ			○			
5		フトミミズ科	フトミミズ科 sp		○				
6			フキソクミミズ					○	
1	多足類	オオムカデ科	アオズムカデ						
2		アカムカデ科	アカムカデ						
3		シロハラヤスデ科	マクラギヤスデ						
4		ババヤスデ科	ババヤスデ科 sp						
5			キシャヤスデ						
6		ヤケヤスデ科	ヤケヤスデ						
1	等脚目	ミズムシ科	ミズムシ						
1	扁形動物	サンカクアタマウズムシ科	ナミウズムシ				○		

調査での出現種			場所名	大谷窯跡 比丘尼山 市民の森 都幾川 高坂							
群No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年		
1	昆虫類	カゲロウ目	カワカゲロウ科	キイロカワカゲロウ				○			
2			コカゲロウ科	コカゲロウ科 sp				○			
3				フタバコカゲロウ				○			
4			タニガワカゲロウ科	シロタニガワカゲロウ					○		
5				セスジヤマタニガワカゲロウ?					○		
6				タニガワカゲロウ科 sp							
7				タニガワカゲロウ属 sp						○	
8			チラカゲロウ科	チラカゲロウ					○		
9			ヒラタカゲロウ科	ウエノヒラタカゲロウ							
10				エルモンヒラタカゲロウ類 sp						○	
11				タニヒラタカゲロウ類 sp							
12				ナミヒラタカゲロウ							
13				キハダヒラタカゲロウ							
14				キョウキハダヒラタカゲロウ?							
15				サツキヒメヒラタカゲロウ?							
16			ヒメヒラタカゲロウ類 sp?								
17			フタオカゲロウ科	オオフタオカゲロウ						○	○
18				オオフタオカゲロウ属 sp							
19				ヒメフタオカゲロウ属 sp							
20				フタオカゲロウ科 sp							
21			マダラカゲロウ科	アカマダラカゲロウ							
22				イマニシマダラカゲロウ							
23				エラブタマダラカゲロウ							○
24				オオマダラカゲロウ							○
25				クロマダラカゲロウ							○
26				チエルノハマダラカゲロウ							
27			フタマタマダラカゲロウ								
28			マダラカゲロウ属 sp							○	
29			ヨシノマダラカゲロウ								
30			モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ							
31				モンカゲロウ							○
32											
1	カワゲラ目	アミメカワゲラ科	アミメカワゲラ科 sp								
2			コグサヅリカワゲラモドキ属?								
3		ヤマトヒロバネアミメカワゲラ									
4		フタツメカワゲラ科	フタツメカワゲラ属 sp						○		
5	クロカワゲラ科	ヤマトフタツメカワゲラ						○			
6		クロカワゲラ科 sp									
7	ミドリカワゲラモドキ科	ミドリカワゲラモドキ属 sp						○			
1	トビケラ目	エグリトビケラ科	アツバエグリトビケラ属 sp 巢								
2			エグリトビケラ科 sp					○	○		
3			グマガトビケラ属 sp								
4			コエグリトビケラ								
5			ニンギョウトビケラ							○	
16		ホタルトビケラ属 sp									
6		シマトビケラ科	ウルマーシマトビケラ						○		
7			コガタシマトビケラ						○		
8		トビケラ科	トビケラ科 sp								
10		ナガレトビケラ科	ヒロアタマナガレトビケラ								
11	ムナグロナガレトビケラ										
12	ヒゲナガガトビケラ科	チャバネヒゲナガガトビケラ						○			
13		ヒゲナガカトビケラ						○			
14	ヒゲナガトビケラ科	コヤマトビケラ?									
15		セトトビケラ属 sp									

調査での出現種				場所名	大谷窯跡 比丘冠山 市民の森 都幾川 高坂						
群No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年		
1	昆虫類	ナナフシ目	ナナフシ科	ナナフシモドキ			○				
1		ハサミムシ目	オオハサミムシ科	オオハサミムシ				○			
2			クヌギハサミムシ科	クヌギハサミムシ科 sp (エゾハサミムシに似る)							
3			マルムネハサミムシ科	ヒゲジロハサミムシ							
1		脈翅目	ウスバカゲロウ科	ホシウスバカゲロウ (アリジゴク)							
2			ヒロバカゲロウ科	ヒロバカゲロウ科 sp							
3			クサカゲロウ科	クサカゲロウ科 sp			○				
1		トビムシ目	オウギトビムシ科	ヒゲナガトビムシ属 sp							
2			ハマトビムシ科	ハマトビムシ科 sp							
1		トンボ目	アオイトトンボ科	アオイトトンボ							
2				オオアオイトトンボ							
3			イトトンボ科	イトトンボ科 sp			○			○	
4				オオイトトンボ							
5				クロイトトンボ							
6				セスジイトトンボ							
7				アジアイトトンボ				○			
8			ホソミイトトンボ?								
9			オニヤンマ科	オニヤンマ			○	○	○	○	
10			カワトンボ科	アオハダトンボ						○	○
11				ハグロトンボ				○	○	○	○
12				ミヤマカワトンボ							
13			サナエトンボ科	アオサナエ							
14				オナガサナエ						○	
15				コオニヤンマ						○	○
16				サナエトンボ科 sp					○	○	○
17				ダビドサナエ						○	
18				ヒメサナエ						○	
20				ホンサナエ							
21			トンボ科	アキアカネ			○	○	○	○	○
22				ウスバキトンボ			○	○	○	○	○
23				オオシオカラトンボ			○	○			
24				コシアキトンボ			○	○	○		○
25				シオカラトンボ			○	○	○	○	○
26				ショウジョウトンボ				○	○		○
27				チョウトンボ				○	○		
28				ナツアカネ			○	○		○	
29	ノシメトンボ					○	○	○		○	
30	ハラビロトンボ						○		○	○	
31	マユタテアカネ									○	
32	ミヤマアカネ							○	○	○	
33	リスアカネ										
34	ヤンマ科			ウチワヤンマ						○	
35			カトリヤンマ			○	○				
36			ギンヤンマ						○	○	
1	シリアゲムシ目		シリアゲムシ科	ヤマトシリアゲ		○		○	○		
2		ベッコウシリアゲ					○	○			

調査での出現種			場所名	大谷窯跡 比丘厄山 市民の森 都幾川 高坂							
群No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年		
1		網翅目	カマキリ科	オオカマキリ	○	○	○	○	○		
3				コカマキリ		○	○	○	○		
4				ハラビロカマキリ				○	○		
5				チョウセンカマキリ卵囊?							
1		ゴキブリ亜目	ゴキブリ科	ヤマトゴキブリ							
2				ゴキブリ科 sp				○			
3				モリチャバネゴキブリ							
1	昆虫類	直翅目	カネタタキ科	カネタタキ		○			○		
2			カマドウマ科	マダラカマドウマ							
3			キリギリス科	ウスイロササキリ			○	○	○	○	
4				オナガササキリ							
5				ヒガシキリギリス		○		○	○	○	
6				クサキリ			○			○	
7				クビキリギリス			○	○		○	
8				コバネササキリ							
9				ササキリ		○		○			
10				ハタケノウマオイ						○	
11				ヒメギス					○	○	○
12				ホシササキリ							
13			ヤブキリ				○	○	○		
14			コオロギ科	エンマコオロギ		○	○	○	○	○	
15				クマコオロギ			○				
16				クマスズムシ							
17				ツツレサセコオロギ			○		○	○	
18				ハラオカメコオロギ					○		
19				ミツカドコオロギ					○	○	
20			モリオカメコオロギ								
21			ツユムシ科	サトクダマキモドキ							
22				アシグロツユムシ			○	○			
23				セスジツユムシ					○	○	
24				ツユムシ			○			○	
25			ノミバッタ科	ノミバッタ							
26			バッタ科	イボバッタ		○					
27				オンブバッタ		○	○	○	○	○	
28				クルマバッタ		○					
29				クルマバッタモドキ		○					
30				コバネイナゴ		○	○	○	○	○	
31				ショウリョウバッタ		○	○	○	○	○	
32				ツチイナゴ		○		○	○		
33				ツマグロイナゴモドキ						○	
34				トノサマバッタ		○	○	○	○	○	
35				ヤマトフキバッタ					○		
36			フキバッタの仲間 sp					○			
37			ヒシバッタ科	トゲヒシバッタ							
38				ハネナガヒシバッタ							
39				ハラヒシバッタ		○	○	○	○	○	
40			ヒシバッタ科 sp						○		
41			ヒバリモドキ科	ウスグモスズ							
42				クサヒバリ						○	
43				シバズ							
44				マダラスズ		○					

調査での出現種				場所名	大谷窯跡 比丘厄山 市民の森 都幾川 高坂					
群No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年	
45		直翅目	マツムシ科	アオマツムシ		○	○	○		
46				カンタン		○			○	
47				スズムシ						○
1	昆虫類	双翅目	アシナガバエ科	アシナガバエ科 sp						
2				マダラアシナガバエの仲間 sp						
3			アシナガヤセバエ科	ホシアシナガヤセバエ		○				
4			アブ科	ウシアブ?	○	○		○	○	
5				ゴマフアブ?	○					
6				キンイロアブの仲間 sp						
7			イエバエ科	イエバエ科 sp	○					
8				フタスジイエバエ	○					
9			カ科	カ科 sp						
10				ヒトスジシマカ						
11			ガガンボ類	ガガンボ (類) sp	○			○	○	
12				ガガンボ科 sp	○					
13				キリウジガガンボ?						
14				クロキリウジガガンボ?						
15				ハスオビガガンボ?						
16				ベッコウガガンボ?						
17				ミカドガガンボ?						
18				Eriocera sp. EB ?						
19			Tipula sp ?							
21			クロバエ科	キンバエ?						
22				キンバエの仲間 sp				○	○	
23				ケブカクロバエ?						
24				トウキョウキンバエ?				○	○	
25				オオクロバエ?						
26				オビキンバエ?						
27				キンバエ属 sp						
28				クロバエ科 sp					○	
29			シマアブバエ?							
30			ツマグロキンバエ?							
31			ケヨソイカ科	アカケヨソイカ						
32			コシボンガガンボ科	コシボンガガンボ科 sp						
33			シギアブ科	クロシギアブ						
34	シギアブ科 sp									
36		ヤマトシギアブ?								
37	シマバエ科	シモフリシマバエ								
38	ショウジョウバエ科	ショウジョウバエ科 sp								
39	チョウカ科	イシハラクロチョウカ								
40		イシハラチョウカ								
41		チョウカ科 sp								
42	ツヤバエ科?	クロツヤバエ?								
35	ツリアブ科	ビロードツリアブ								
43		コウヤツリアブ								
44		クロバネツリアブ								
45	トゲハネバエ科	トゲハネバエ科 sp								
46	ニクバエ科	シリアカニクバエ?								
48		ニクバエ科 sp	○	○						
49		シリグロニクバエ?								
50		センチニクバエ								
51	ハナアブ科	オオハナアブ	○		○	○	○			
52		ハナアブ	○				○			

調査での出現種				場所名	大谷窯跡 比丘尼山 市民の森 都幾川 高坂				
群No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年
53				ヒメヒラタアの仲間 sp	○			○	
54				ヒラタアの仲間 sp			○		
55				ホソヒラタアの仲間 sp	○	○	○	○	○
56				シマハナアブ					
57				シマアシブトハナアブ					
58			ハナアブ科	エソコヒラタアブ					
59				オオハナアブ					
60				オオヒラタアブ					
61				キンアリスアの仲間 sp					
62				シマアシブトハナアブ?					
63				ハナアブ科 sp	○		○	○	○
64				スジキフタモンハナアブ?					
65			ハネオレバエ科	クロハネオレバエ					
66			ヒゲトコバエ科	クロメマトイ					
67			ブユ科	ブユ科 sp				○	
68			フルカ科	ヒメセアカフルカ					
69			ベッコウバエ科	ベッコウバエ					
70			ホソカ科	ホソカ科 sp					
71				クロツヤホソバエ?					
72				ホソバエ sp					
73			マダラバエ科	マダラバエ科 sp					
74				コガタノミズアブ?					
75			ミズアブ科	コウカアブ					
76				コガタノミズアブ	○				
77				ミズアブ科 sp					
78			ミバエ科	ミバエ科 sp					
79				アオメムシヒキ	○				○
80				オオイシアブ					
81			ムシヒキアブ科	シオヤムシヒキ			○		
82				トラフムシヒキ					
83				マカリケムシヒキの仲間 sp					
84				ムシヒキアブ科 sp				○	
85			ヤチバエ科?	ヒゲナガヤチバエ?					
86				アシナガハリバエ?					
87			ヤドリバエ科	コガネオオハリバエ?	○	○			
88				コンボウハリバエ?					
89				シロオビハリバエ?					
90				ブランコヤドリバエ?					
91				マダラアシナガバエ?					
92				ヨロジマオオハリバエ?					
93				ヤドリバエ科 sp	○				
94			ユスリカ科	アカムシユスリカ?					
95				ユスリカ科 sp					
1			アカハネムシ科	ヒメアカハネムシ		○			
2			エンマムシ科	エンマムシ科 sp		○	○		
3				コエンマムシ			○		
4			オオクスイ科	ヨツボシオオクスイ					
5			オオキノコムシ科	ミヤマオビオオキノコムシ					
6				ウスケゴミムシ	○	○			
7			オサムシ科	コガシラナガゴミムシ	○	○			
8				セアカヒラタゴミムシ	○	○			
9				オオマルガタゴミムシ			○		
10				オオマルナガゴミムシ			○		

昆虫類

双翅目

鞘翅目

調査での出現種				場所名	大谷窯跡	比丘尼山	市民の森	都幾川	高坂
群No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年
11				オサムシ科 sp		○	○	○	
12				キボシアオゴミムシ		○		○	
13				クビアカツヤゴミムシ		○		○	
14				クロナガオサムシ		○			
15				スジアオゴミムシ		○	○		
16				ツヤアオゴモイクムシ		○			
17				ナガクロツヤヒラタゴミムシ		○			
18				ナガヒョウタンゴミムシ		○			
19				ヒメツヤマルガタゴミムシ		○			
20				ミイデラゴミムシ		○	○		
21				マルガタゴミムシ	○		○		
22				アオオサムシ			○		○
23				アカガネオオゴミムシ				○	
24			オサムシ科	アトモンアオゴミムシ					
25				エサキオサムシ			○		○
26				オオホソクビゴミムシ			○		
27				オオヨツボシゴミムシ					
28				キアシマルガタゴミムシ					
29				キンナガゴミムシ					
30				クビボソゴミムシ			○		
31				クロオサムシ			○		
32				セアカゴミムシ				○	
33				ノグチアオゴミムシ				○	
34				ハネアカクビナガゴミムシ					
35				ヒメマイマイカブリ					
36				マルガタナガゴミムシ					
37				マルヒメゴモクムシ					
38				ハイイロチョッキリ				○	
39			オトシブミ科	ヒメクロオトシブミ					
40				ルリオトシブミ?					
41			カツオブシムシ科	ヒメマルカツオブシムシ					
42			カミキリムシ科	アトジロサビカミキリ					
43				オオヨツボシハナカミキリ					
44				カミキリムシ科 sp					
45				キスジトラカミキリ					
46				キボシカミキリ					
47				キマダラカミキリ					
48				クワカミキリ					
49				ゴマダラカミキリ				○	
50				シラホシカミキリ					
51			カミキリムシ科	トラカミキリの仲間 sp					
52				ナガゴマフカミキリ					
53				ノコギリカミキリ			○		
54				ヒメクロトラカミキリ					
55				ヒメトラカミキリ					
56				ホソカミキリ			○		
57				ヤツメカミキリ					
58				ヨスジハナカミキリ					
59				ラミーカミキリ					
60				モモフトカミキリモドキ		○			
61			カミキリモドキ科	アオカミキリモドキ					
62				カミキリモドキ科 sp					
63				クロカミキリモドキ?					

調査での出現種			場所名	大谷窪跡 比丘尼山 市民の森 都幾川 高坂					
群No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年
64			カミキリモドキ科	キアシカミキリモドキ					
65				ルリカミキリモドキ					
66			ガムシ科	コガムシ	○				
67				ヒメガムシ	○				
68			キノコムシ科	キノコムシ科 sp					
69			クチキムシ科	カツオガタクチキムシ					
70			クロヒラタヨコバイ科	クロヒラタヨコバイ					
71			クワガタムシ科	コクワガタ		○			
72				ノゴリクワガタ		○			
73			ケシキスイ科	ヨツボシケシキスイ	○	○			○
74				アカマダラケシキスイ					
75				ケシキスイ科 sp					
76				ツツオニケシキスイ					
77				ヒョウモンケシキスイ					
78			ゲンゴロウ科	コシマゲンゴロウ		○			
79				ハイロゲンゴロウ	○		○		○
80				ケベリマメゲンゴロウ				○	
81				ゲンゴロウ科 sp					
82				クロマメゲンゴロウ					
83			コガネムシ科	コアオハナムグリ	○	○		○	○
84				センチコガネ	○	○	○		
85				マメコガネ	○	○	○	○	○
86				カナブン		○	○		○
87				カブトムシ		○	○		
88				クロカナブン		○		○	
89				マルエンマコガネ		○			
90				アオハナムグリ	○				
91				アオカナブン					○
92				カタモンコガネ				○	
93				クロコガネ					
94				クロハナムグリ					
95				コガネムシ					
96				シロテンハナムグリ					○
97				セマダラコガネ			○		
98			ツヤコガネ						
99			トゲヒラタハナムグリ						
100			ヒメサクラコガネ				○		
101			ヒメトラハナムグリ						
102			ヒメビロードコガネ						
103			ヒラタアオコガネ						
104			ビロードコガネ						
105			ゴミムシダマシ科	コスナゴミムシダマシ		○			
106				キマワリ			○	○	
107				ゴミムシダマシ科 sp					
108			コメツキムシ科	サビキコリ		○		○	
109				ヒメサビキコリ		○			
110				ベニコメツキ		○			
111				アオドウガネ					
112				アカアシオオクシコメツキ					
113				オオクロクシコメツキ					
114				キアシクロムナボノコメツキ					
115				クシコメツキ?					
116				クツツヤハダコメツキ					

調査での出現種				場所名	大谷窯跡 比丘厄山 市民の森 都幾川 高坂				
群No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年
117				クロクシコメツキ?					
118			コメツキムシ科	コメツキムシ科 sp					
119				ヒメクロコメツキ					
120				ホソキコメツキ?					
121				ホソサビキコリ					○
122			シテムシ科	ヒメヒラタシテムシ		○			
123				ヒラタシテムシ		○			
124				ヨツボシモンシテムシ		○			
125				オオヒラタシテムシ	○			○	○
126			ジョウカイボン科	ジョウカイボン	○	○		○	○
127				クビアカジョウカイ		○			
128				マルクビジョウカイ		○			
129				ウスイロクビボンジョウカイ					
130				キンイロジョウカイ					
131				クロジョウカイ					
132				ジョウカイボン科 sp					
133				セボシジョウカイ					
134			ヒメジョウカイ						
135			ジョウカイモドキ科	ツマキアオジョウカイモドキ					
136			ゾウムシ科	コフキゾウムシ	○	○		○	
137				コナラシギゾウムシ		○			
138				マダラアシナガゾウムシ	○				
139				オジロアシナガゾウムシ					
140				カシアクチフトゾウムシ?					
141				カツオゾウムシ					
142				コシジロアシナガゾウムシ					
143				シロコブゾウムシ					
144				ゾウムシ科 sp					
145				トホシオサゾウムシ					
146			ハスジカツオゾウムシ				○		
147			ヒメシロコブゾウムシ						
148			ホソアニアキゾウムシ?						
149			タマムシ科	クズノチビタマムシ					
150				ウグイスナガタマムシ					
151				クリタマムシ					
152				チビタマムシの仲間 sp					
153				トゲフタオタマムシ?					
154				ヒシモンナガタマムシ					
155			ホソアシナガタマムシ						
156			ムネアカナガタマムシ						
157			ツチハンミョウ科	マメハンミョウ	○			○	○
158			テントウダマシ科	ヨツボシテントウダマシ		○			
159			テントウムシ科	ナナホシテントウ	○	○	○	○	○
160				テントウムシ		○	○	○	
161				ウスキホシテントウ					
162				オオニジュウヤホシテントウ					
163				カメノコテントウ					
164				キイロテントウ					
165				コカメノコテントウ					
166				シロジュウゴホシテントウ					
167				ジュウシホシテントウ					
168				テントウムシ科 sp					
169			トホシテントウ				○		

調査での出現種				場所名	大谷窯跡 比丘尼山 市民の森 都幾川 高坂				
群No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年
170				ニジュウヤホシテントウ					○
171				マクガタテントウ					
172			テントウムシ科	ヒメカメノコテントウ			○		
173				ムーアシロホシテントウ					
174			ナガヒラタムシ科	ナガヒラタムシ					
175			ハナノミ科	クロハナノミ					
176				ハネカクシ科 sp		○			
177			ハネカクシ科	アマガタハネカクシ (アオバ)					
178				キンボシハネカクシ					
179				イチモンジカメノコハムシ	○	○			
180				ウリハムシ	○	○		○	○
181				オオヨモギハムシ		○		○	○
182				コガタリリハムシ		○			
183				ジンガサハムシ		○			
184				ハムシ科 sp		○			
185				クロウリハムシ	○			○	○
186				クロバヒゲナガハムシ	○				
187				アトボシハムシ					
188				アカイロマルノミハムシ					
189				イタドリハムシ					
190				オオアカマルノミハムシ					
191				オオルリハムシ					
192				カタビロハムシ?					
193				カミナリハムシ					
194				キバラヒメハムシ					
195				クビボソハムシ					
196				クロボシツツハムシ					
197				クワハムシ					
198				ジュウシホシツツハムシ					
199				スギナハムシ					
200			ハムシ科	ズグロアカハムシ					
201				ダイコンハムシ					
202				チャイロサルハムシ?					
203				チャバネツヤハムシ					
204				ツマキクビボソハムシ					
205				トビサルハムシ					
206				ドウガネサルハムシ					
207				トホシクビボソハムシ					
208				ナガハムシ					
209				ネギオオアラメハムシ					
210				ノミハムシの仲間 sp					
211				ハッカハムシ					
212				バラリリツツハムシ					
213				ヒメジンガサハムシ					
214				ヒゲナガリマルノミハムシ					
215				フジハムシ					
216				ブタクサハムシ				○	
217				フタホシオオノミハムシ					
218				ムナキルリハムシ					
219				ムネビロアカハネムシ					
220				ヤナギルリハムシ					
221				ヤマイモハムシ					
222				ヨモギハムシ					

調査での出現種				場所名	大谷窯跡 比丘尼山 市民の森 都幾川 高坂					
群No	分類	分類群	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	07年	
223	昆虫類	鞘翅目	ハムシ科	ルリクビソハムシ?						
224				ルリバナナガハムシ						
225				ルリハムシ						
226				ルリヒゲナガハムシ?						
227				ルリマルノミハムシ						
228				ルリマルハムシ						
229			ルリミノハムシ							
230			ハムシダマシ科	ハムシダマシ						
231			ハンミョウ科	コハンミョウ						○
232				トウキョウヒメハンミョウ						○
233			ヒゲナガゾウムシ科	ヒゲナガゾウムシ科 sp						
234			ヒメゲンゴロウ科	ヒメゲンゴロウ科 sp						
235			ヒラタドROMシ科	ヒラタドROMシ						○
236			ベニボタル科	ベニボタル科 sp						
237	ホタル科	オバボタル								
238		クロマドボタル								
239		ムネクリイロボタル								

調査での出現種					場所名	大谷窯跡 比丘尼山 市民の森 都幾川						
群No	分類群	目名	類分	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年			
1	昆虫類	半翅目	アブラムシ類	アブラムシ科	アブラムシ科 sp							
2					コウリナヒゲナガアブラムシ							
3					ハリエンジュアブラムシ							
4			アワフキムシ類	アワフキムシ科	アワフキムシ科 sp				○			
5			ウンカ類	グンバイウンカ科	ミドリグンバイウンカ							
6			カメムシ類	オオホシカメムシ科	オオホシカメムシ					○		
7					ヒメホシカメムシ							
8				オオメナガカメムシ科	ヒメオオメナガカメムシ							
9					オオメナガカメムシ							
10				カメムシ科	アオクサカメムシ			○				
11					ウズラカメムシ							
12					クサギカメムシ				○			
13					クチフトカメムシ							
14					シラホシカメムシ						○	
15					シロヘリクチフトカメムシ							
16					チャバネアオカメムシ						○	
17					ナガメ							
18					ヒメナガメ							
19					フチヒゲカメムシ						○	
20				フタテンカメムシ				○			○	
21				クヌギカメムシ科	ヘラクヌギカメムシ						○	
22			グンバイムシ科	アワダチソウグンバイ								
23			ツチカメムシ科	ツチカメムシ						○		
24			ミツボシツチカメムシ								○	
25			ツノカメムシ科	エサキモンキツノカメムシ								

調査での出現種					場所名	大谷窯跡	比丘厄山	市民の森	都幾川
群No	分類群	目名	類分	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年
26	昆虫類	半翅目	カメムシ類	ナガカメムシ科	サビヒョウタンナガカメムシ				
27					ジウウジナガカメムシ		○		
28					チャモンシロナガカメムシ				
29					ヒメジウウジナガカメムシ				
30				ヒメナガカメムシ					
31				ナガカメムシ科	モンクロナガカメムシ		○		
32					メダカナガカメムシ				
33				ノコギリカメムシ科	ノコギリカメムシ				
34				ヒゲナガカメムシ科	クロスジヒゲナガカメムシ				
35					ヒゲナガカメムシ		○		
36					エチゴヒゲナガカメムシ				
37				ヒメヘリカメムシ科	アカヘリヒメカメムシ				
38				ヒョウタンナガカメムシ科	オオモンシロナガカメムシ				
39					ヒョウタンナガカメムシ				
40					モンシロナガカメムシ				
41					ヨツボシヒョウタンナガカメムシ				
42				ヘリカメムシ科	キバラヘリカメムシ		○		
43					ツマキヘリカメムシ				
44					ハラビロヘリカメムシ				
45					ハリカメムシ				
46					ホオズキカメムシ		○		
47	ホシハラビロヘリカメムシ								
48	ホソハリカメムシ								
49	ホソヘリカメムシ								
50	ミナミアオヘリカメムシ				○				
51	ヒメハリカメムシ				○				
52	ホソヘリカメムシ科	クモヘリカメムシ							
53		ホソヘリカメムシ			○				
54	マルカメムシ科	ヒメマルカメムシ		○	○				
55		マルカメムシ	○	○					
56		クズマルカメムシ							
57	カスミカメムシ科	ナガクロカスミカメムシ							
58		フタモンカスミカメムシ			○				
59		モンキカスミカメムシ			○				
60		モンキクロカスミカメムシ		○					
61	メダカナガカメムシ科	メダカナガカメムシ							
62	サシガメ類	サシガメ科	アカサシガメ						
63			オオトビサシガメ						
64			シマサシガメ						
65			ビロウドサシガメ						
66			アカシマサシガメ						
67			ヤニサシガメ						
68		ヨコツナサシガメ							
69		アシボソトビヒロサシガメ							
70	水生昆虫	アメンボ科	アメンボ						
71			コセアカアメンボ						
72			ヒメアメンボ			○			
73	水生昆虫	イトアメンボ科	ヒメイトアメンボ						
74		シマアメンボ科	シマアメンボ						
75		タイコウチ科	タイコウチ		○				
76		マツモムシ科	マツモムシ			○			

調査での出現種					場所名	大谷窯跡	比丘尼山	市民の森	都幾川		
群No	分類群	目名	類分	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年		
77	昆虫類	半翅目	セミ類	セミ科	アブラゼミ	○	○	○	○		
78					クマゼミ						
79					ツクツクホウシ	○	○	○	○		
80					ニイニゼミ	○	○	○	○		
81					ハルゼミ			○			
82					ヒグラシ	○		○			
83			ミンミンゼミ	○	○	○	○				
84			テングスケバ科	ツマグロスケバ						○	
85				テングスケバ							
86			アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ	○	○					
87			ハゴロモ類	ベッコウハゴロモ	○	○	○	○			
88				スケバハゴロモ						○	
89			ヨコバイ類	ウンカ科	タテスジウンカ						
90				オオヨコバイ科	オオヨコバイ						
91	ツマグロオオヨコバイ					○	○	○	○		
92	キジラミ科	キジラミ科 sp									
93	クロヒラタヨコバイ科	クロヒラタヨコバイの仲間 sp									
94	コガシラアワフキ科	コガシラアワフキ									
95	トゲアワフキムシ科	ムネアカアワフキ									
96	ハネナガウンカ科	アカハネナガウンカ									
97	ミミズク科	コミミズク									
98	ヨコバイ科	ツマグロヨコバイの仲間 sp									

調査での出現種					場所名	大谷窯跡	比丘尼山	市民の森	都幾川		
科No	分類群	目名	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年			
1	昆虫類	膜翅目	アナバチ科	アナバチ科 sp							
2				キゴシジガバチ							
3				ジガバチ			○				○
4				サトジガバチ							
5			アリ科	アズマオオズアリ							
6				アシジロヒラフシアリ							
7				アミメアリ							
8				アメイロアリ							
9				アリ科 sp							
10				ウメマツオオアリ							
11				オオハリアリ							
12				カワラケアリ?							
13				クサオオアリ							
14				クロオオアリ							
15				クロクサアリ							
16				クロヒメアリ?							
17				クロヤマアリ					○		
18				クボミシリアゲアリ							
19				ケブカツヤオオアリ							
20				コツノアリ							
21				コヌカアリ?							
22				シベリアアカタアリ							
23				シリアゲアリ sp							
24				テラニシシリアゲアリ							
25				トビイロケアリ							
26				トビイロシワアリ							
27				ナフヨソボシオオアリ (誤同定?)							
28				ハヤシクロヤマアリ							

調査での出現種				場所名	大谷窯跡	比丘冠山	市民の森	都幾川		
科No	分類群	目名	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年		
29	昆虫類	膜翅目	アリ科	ハリナガムネボソアリ						
30				ハヤシケアリ						
31				ヒメアリ						
32				ヒメオオズアリ?						
33				ヒメクロアリ						
34				ヒラフシアリ						
35				ミカドオオアリ						
36				ムネアカオオアリ					○	
37				ムネボソアリ						
38				ヨツボシオオアリ						
39			ルリアリ?							
40			アリバチ科	ヤマトアリバチモドキ						
41			クモバチ科	オオモンクロクモバチ					○	
42				ベッコウクモバチ		○				
43				クモバチ科 sp						○
44				モンクモバチ						
45				ナミヒメクモバチ						
46				フタモンクモバチ						
47				キオビクモバチ			○			
48			ケアシハナバチ科	シロスジフデアシハナバチ						
49				ケアシハナバチ科 sp						
50			コシブトハナバチ科	クマバチ					○	
51			コツチバチ科	ツヤアリバチ						
52			コマユバチ科	スズメヤドリコマユバチ						
53			スズメバチ科	オオスズメバチ		○	○	○	○	
54				キアシナガバチ						
55				キイロスズメバチ		○				
56				キボシアシナガバチ						
57				クロアナバチ						○
58				コアシナガバチ						
59				コガタスズメバチ						
60				コスズメバチ						
61				セグロアシナガバチ		○				
62				チャイロスズメバチ						
63				トックリバチ		○	○			
64				ヒメスズメバチ						
65				フタモンアシナガ						○
66			ムモンボノアシナガバチ				○			
67			モンズズメバチ							
68			セイボウ科	オオセイボウ					○	
69			ツチバチ科	オオハラナガツチバチ						
70	オオモンツチバチ									
71	キオビツチバチ									
72	ツチバチ科 sp							○		
73	ヒメハラナガツチバチ									
74	ドロバチ科	サムライトックリバチ								
75		スズバチ			○		○			
76		ドロバチ科 sp						○		
77		キアシトックリバチ		○						
78		オオフタオビドロバチ								
79	ミカドトックリバチ									
80	ハキリバチ科	オオハキリバチ			○					
81		ヤノトガリハナバチ		○						

調査での出現種				場所名	大谷窯跡	比丘厄山	市民の森	都幾川
科No	分類群	目名	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年
82	昆虫類	膜翅目	ハキリバチ科	マメコバチ				
83				ハキリバチ科 sp				
84			ハバチ科	シロスジヒゲナガハバチ				
85				ニホンカブラハバチ				
86				セグロカブラハバチ				
87				ハグロハバチ				
88			ハバチ科 sp					
89			ヒメバチ科	ヒメバチ科 sp				
90			フシダカバチ科	フシダカバチ科 sp (ツチスガリ?)				
91			ミツバチ科	トラマルハナバチ				
92	セイヨウミツバチ	○		○	○	○		
93	ニホンミツバチ							
94	マルハナバチの仲間 sp				○	○		
95	シロスジヒゲナガハナバチ							
96	ダイミョウキマダラハナバチ							
97	ミツバチ科 sp			○				
98	ミフシハバチ科	アカスジチュウレンジバチ						
99		ルリチュウレンジバチ						
100		ミフシハバチ科 sp						

調査での出現種				調査地	大谷窯跡	比丘厄山	市民の森	都幾川
No	目名	小分類	科名	種名・年度	03年	04年	05年	06年
1	鱗翅目	蝶類	アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	○			
2				アゲハ	○	○	○	○
3				オナガアゲハ				
4				カラスアゲハ				
5				キアゲハ	○		○	
6				クロアゲハ	○			
7				ジャコウアゲハ	○	○	○	
8				ナガサキアゲハ				
9				モンキアゲハ				
10				ホソオチョウ				
11			シジミチョウ科	アカシジミ				
12				ウラギンシジミ	○	○	○	○
13				ウラナミシジミ				
14				ゴイシシジミ	○	○		
15				タイワンツバメシジミ		○		
16				ベニシジミ	○	○	○	○
17				ミズイロオナガシジミ				
18				ムラサキシジミ	○		○	
19				ムラサキツバメ		○		
20				ヤマトシジミ	○	○	○	○
21			ルリシジミ		○	○		
22			シロチョウ科	ウスバシロチョウ				○
23				キチョウ	○	○	○	○
24				スズグロシロチョウ	○	○	○	○
25				ツマキチョウ	○			
26				モンキチョウ	○	○	○	○
27				モンシロチョウ	○	○	○	○
28			セセリチョウ科	イチモンジセセリ	○	○	○	○
29				オオチャバネセセリ	○			○
30				キマダラセセリ	○		○	○
31				ギンイチモンジセセリ				

高坂 07年	市野川 08年	滑川 09年	宮鼻 10年	大谷窯跡 11年	比丘尼山 12年	市民の森 13年	都幾川 14年	高坂 15年	市野川 16年	滑川 17年	宮鼻 18年
		○								○	
○	○ ○	○ ○		○	○ ○	○ ○	○ ○	○	○	○	○ ○ ○ ○
			○		○		○				○
										○	
○ ○	○ ○	○ ○ ○	○	○	○	○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
	○	○	○		○	○		○	○		○
	○			○	○	○					

高坂北 07年	市野川 08年	滑川 09年	宮鼻 10年	大谷窯跡 11年	比丘尼山 12年	市民の森 13年	都幾川 14年	高坂 15年	市野川 16年	滑川 17年	宮鼻 18年
○ ○	○	○ ○	○	○	○	○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○ ○	○
○		○ ○	○	○ ○	○	○	○ ○	○	○ ○	○ ○	○ ○
	○	○	○	○	○	○	○ ○	○	○	○ ○	○ ○
○		○ ○	○	○	○	○	○ ○	○	○	○ ○	○ ○
○ ○											
○ ○ ○ ○ ○											
○	○ ○	○ ○	○	○ ○							
○	○ ○	○ ○		○ ○							

調査での出現種				調査地	大谷窯跡	比丘厄山	市民の森	都幾川		
No	目名	小分類	科名	種名・年度	03年	04年	05年	06年		
32	鱗翅目	蝶類	セセリチョウ科	コチャバネセセリ				○		
33				ダイミョウセセリ	○	○	○	○		
34				チャバネセセリ						
35				ヒメキマダラセセリ						
36				ヒメチャバネセセリ						
37				ミヤマセセリ				○		
38				ミヤマチャバネセセリ						
39				タテハチョウ科	アカタテハ					
40			アカボシゴマダラ							
41			アサギマダラ							
42			アサマイチモンジ							
43			イチモンジチョウ				○			
44			オオムラサキ							○
45			オオウラギンスジヒョウモン							
46			キタテハ				○	○	○	○
47			キマダラヒカゲ							
48			クロヒカゲ				○	○	○	
49			コジャノメ				○			
50			ゴマダラチョウ							
51			コムスジ					○	○	○
52			コムラサキ							
53			サトキマダラヒカゲ				○		○	○
54			ジャノメチョウ					○	○	
55			ツマグロヒョウモン							○
56			テングチョウ							
57			ヒオドシチョウ							
58			ヒカゲチョウ				○	○	○	○
59			ヒメアカタテハ				○			○
60			ヒメウラナミジャノメ				○	○	○	○
61			ヒメジャノメ					○	○	○
62			ミスジチョウ				○			
63			ミドリヒョウモン							
64			ルリタテハ							
65			ウラギンヒョウモン					○		
1			蛾類		イカリモンガ科	イカリモンガ				
2				イボタガ科	イボタガ					
3				イラガ科	イラガ					
4		ヒロヘリアオイラガ								
5		カイコガ科		クワコ		○				
6		カギバガ科		カギバガ科 sp						
7		カノコガ科		カノコガ		○	○			
8				キハダカノコ						
9		カレハガ科		カレハガ科 sp		○				
10		シャクガ科		ウスオビヒメエダシャク		○				
11				ウスキオエダシャク						
12				ウスバフユシャク				○		
13				ウスベニスジヒメジャク						
14				オオシロエダシャク						
15				キリバエエダシャク			○			
16				コツマウスグロエダシャク						
17				シャクガ科 sp			○		○	
18				チャバネフユエダシャク						
19				ヒトスジマダラエダシャク						

調査での出現種				調査地	大谷窯跡	比丘尾山	市民の森	都幾川
No	目名	小分類	科名	種名・年度	03年	04年	05年	06年
20				ビロードナミシャク			○	
21				フタナミトビヒメシャク				
22			シャクガ科	ベニスジヒメエダシャク				
23				ユウマダラエダシャク				
24				ヨツメアオシャク		○		
25				ヨモギエダシャク	○			
26				オオトビモンシャチホコ				
27			シャチホコガ科	オオモクメシャチホコ				
28				ヒメシャチホコ				
29				モンクロシャチホコ				
30			スカシバガ科	ヒメアトスカシバ (蜂に擬態)				
31				スカシバガ科 sp				
32			スズメガ科	オオスカシバ				
33				スズメガ科 sp				
34				セスジスズメ			○	○
35				ホシヒメホウジャク		○		
36			セミヤドリガ科	ハゴロモヤドリガ				
37			ツバメガ科	ギンツバメ				○
38			トガリホソガ科	トガリホソガ科 sp				
39			ドクガ科	ドクガ科 sp				
40				マイマイガ				
41				モンシロドクガ				
42				マメドクガ		○		○
43				オオヤママイマイ	○			
44				タイワンキドクガ				
45			トリバガ科	シロフクトリバ?				
46			ヒゲナガガ科	ヒゲナガガ科 sp				
47				キオビクロヒゲナガ				
48				クロハネシロヒゲナガ				
49			ヒトリガ科	アメリカシロヒトリ				○
50				アカハラゴマダラヒトリ				
51				ウンナンヨツボシホソバ				
52				オオシロヒトリ				
53				キハラゴマダラヒトリ				
54				シロヒトリ				
55				ヒトリガ科 sp		○		
56			ムジホソバ		○			
57			ゴマダラベニコケガ					
58			マイコガ科	セグロベントゲアシガ				
59			マダラガ科	キスジホソマダラ				
60				ブドウスカシクロバ				
61				ホタルガ		○		○
62				ルリハダホソクロバ				
63			マドガ科	マドガ				
64			ミノガ科	ミノガ科 sp		○		○
65				オオミノガ				
66				クロツヤミノガ				
67				チャミノガ				
68			メイガ科	シロオビノメイガ				
69				ミツシロモンノメイガ				
70				モモノゴマダラメイガ				
71			ヤガ科	イチジクキンウワバ				
72				ウストガリキリガ				

鱗翅目

蛾類

高坂北 07年	市野川 08年	滑川 09年	宮鼻 10年	大谷窯跡 11年	比丘尼山 12年	市民の森 13年	都幾川 14年	高坂 15年	市野川 16年	滑川 17年	宮鼻 18年
					○						○ ○
			○					○		○	
	○							○		○	
									○		
	○	○	○				○	○	○	○	
		○									
	○	○			○			○	○	○	○
		○		○				○			○
					○			○			
	○	○	○		○		○			○	○
											○ ○
○ ○		○					○ ○	○		○	○ ○ ○
	○										
		○									
	○	○			○					○ ○	
	○				○				○	○	
			○	○	○			○		○	
		○			○						
		○	○	○					○	○	○ ○
							○				
			○								

調査での出現種				調査地	大谷窯跡	比丘尼山	市民の森	都幾川	
No	目名	小分類	科名	種名・年度	03年	04年	05年	06年	
73	鱗翅目	蛾類	ヤガ科	オオモンクチバ					
74				オオベニシタバ					
75				キシタバ		○		○	
76				コシロシタバ				○	
77				シロシタバ				○	
78				ツマグロクチバ					
79				ツメクサガ					
80				ナカグロクチバ					
81				ハスモンヨトウ					
82				ヒメエグリバ					
83				ホソオビアシブトクチバ					
84				ホソバセダカモクメ			○		
85				リンゴケンモン					
86				ヤガ科 sp					○
87	フクラスズメ						○		
88		ヤママユガ科	オオミズアオ						

調査での出現種				場所名	大谷窯跡	比丘尼山	市民の森	都幾川	
群No	分類群	目名	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	
1	菌類	ハラタケ類	イグチ科	アイソメクロイグチ					
2				アシナガイグチ					
3				アシベニイグチ					
4				アミイグチ					
5				アヤメイグチ?					
6				イグチ科 sp					○
7				イロガワリ					
8				ウラグロニガイグチ					
9				オオヤシャイグチ?					
10				オクヤマニガイグチ					
11				オニイグチ					
12				キアミアシイグチ					○
13				キイロイグチ					○
14				キクバナイグチ					○
15				キッコウアワタケ					
16				クロアザアワタケ					
17				クロニガイグチ					
18				コゲチャイロガワリ					
19				コビチャニガイグチ					
20				チチアワタケ					
21				ニガイグチ					○
22				ニガイグチモドキ					○
23				ヌメリイグチ					○
24				ブドウイロニガイグチ					○
25				ベニイグチ					
26				ホオベニシロアシイグチ					
27				ミドリニガイグチ					
28				ムラサキヤマドリタケ					○
29				ヤマイグチ					
30				ヤマドリタケモドキ					
31					イッポンシメジ科 sp				
32				イッポンシメジ科	ウラベニホテイシメジ			○	
33					キイボカサタケ			○	

調査での出現種				場所名	大谷窯跡	比丘尾山	市民の森	都幾川	
群No	分類群	目名	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年	
34	菌類	ハラタケ類	イッポンシメジ科	クサウラベニタケ			○		
35				ミイノモミウラモドキ			○		
36			イボタケ科	イボタケ					
37				イボラシャタケ					
38			オキナタケ科	コガサタケ					
39				ツチナメコ	○				
40				フミツキタケ					
41				ヤナギマツタケ					
42				キシメジ科	アカチシオタケ?				
43			アシナガタケ						
44			ウスキモミウラモドキ						
45			オオホウライタケ		○				
46			オチバタケの仲間						
47			カレバキツネタケ		○			○	
48			キシメジ科 sp						○
49			キツネタケ						
50			クヌギタケ属 sp						
51			コムラサキシメジ						
52			サカズキホウライタケ						○
53			サクラタケ						
54			シロホウライタケ					○	
55			ダイダイガサ						○
56			ツエタケ						
57			ツエタケの仲間?						
58			ナラタケモドキ	○				○	
59			ハナオチバタケ	○					
60			ヒナノカサ						
61			ヒメムキタケ						
62			ヒロヒダタケ						
63			ムラサキシメジ						
64			モリノカレバタケ						
65			スエヒロタケ科	スエヒロタケ				○	○
66			テングタケ科	カバイロツルタケ					
67				キリンタケ					
68	コガネテングタケ								
69	コテングタケモドキ	○					○		
70	コトヒラテングタケ								
71	ササクレシロオニタケ						○		
72	シロオニタケの仲間						○		
73	タマゴタケ								
74	タマゴテングタケの仲間								
75	タマゴテングタケモドキ						○		
76	ツルタケダマシ	○							
77	テングタケ								
78	テングタケ科 sp	○							
79	ドウシントケ								
80	ドクツルタケ	○				○			
81	フクロツルタケ					○			
82	ヘビキノコモドキ sp					○			
83	ヌメリガサ科	アカヤマタケ							
84		トガリベニヤマタケ					○		
85	ハラタケ科	オオシロカラカサタケ							
86		オニタケ							

調査での出現種				場所名	大谷窯跡	比丘厄山	市民の森	都幾川		
群No	分類群	目名	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年		
87	菌類	ハラタケ類	ハラタケ科	キツネノハナガサ			○			
88				シロヒメカラカサタケ						
89				ツクリタケ						
90				ナカグロモリノカサ						
91			ハラタケ							
92			ハラタケ科 sp							
93			マントカラカサタケ							
94			ヒトヨタケ科	イタチタケ						
95				イヌセンボンタケ					○	
96				コツブヒメヒガサヒトヨタケ						
97				ザラエノヒトヨタケ						
98			ヒトヨタケ科 sp				○			
99			ヒラタケ科	アラゲカワキタケ						
100			フウセンタケ科	キノハダトマヤタケ						
101				コツブチャツムタケ						
102				ササクレキノハダトマヤタケ						
103				ササタケの仲間						
104			ベニタケ科	ウコンハツ						
105				オキナクサハツの仲間						
106				カワリハツ						
107				クサハツ			○			
108				クロチチダマシ						
109				クロハツ?						○
110				クロハツモドキ						
111				シロハツ			○			
112				シロハツモドキ				○		
113	チョウジタケ							○		
114	ツギハギハツ									
115	ドクベニタケ				○					
116	ヒビワレシロハツ									
117	ベニタケ科 sp			○			○			
118	ムラサキハツ									
119	ヤブレベニタケ			○			○			
120	ミミナミハタケ科	イタチナミハタケの仲間								
121	モエギタケ科	サケツバタケの仲間								
122		シロナメツムタケ								
123		ツチスギタケの仲間								
124		ヌメリスギタケ			○					
125		ヒメカバイロタケ						○		
126	モエギタケ				○					
1	ヒタナシタケ類	アンズタケ科	アンズタケ					○		
2			ヒナアンズタケの仲間							
3		ベニウスタケ						○		
4		ウロコタケ科	カミウロコタケ?					○		
5		カレエダタケ科	カレエダタケモドキ							
6		コウヤクタケ科	オオシワタケ							
7			ミナミコメバタケ							
8		サルノコシカケ科	アオソメタケ							
9			アミスギタケ					○		
10			アラゲカワラタケ							
11	ウチワタケ									
12	ウチワタケモドキ									
13		オオミノコフキタケ								

調査での出現種				場所名	大谷窯跡	比丘尼山	市民の森	都幾川				
群No	分類群	目名	科名	種名 / 調査年度	03年	04年	05年	06年				
14	菌類	ヒタナシタケ類	サルノコシカケ科	エゴノキタケ								
15				カイガラタケ								
16				カイメンタケ								
17				カワラタケ					○			
18				クジラタケ								
19				サルノコシカケ科 sp			○		○			
20				シロカイメンタケ								
21				スルメタケ					○			
22				タマチョレイタケ								
23				チャカイガラタケ								
24				ツヤウチワタケ			○					
25				トンビマイタケ								
26				ハカワラタケ			○		○			
27				ヒイロタケ					○			
28				ベッコウタケ								
29				ホウネンタケ					○			
30				ホウロクタケ			○					
31				ヤキフタケ								
32				シロソウメンタケ科			シロヒメホウキタケ?					
33				タバウロコタケ科			キヌハダタケ?					
34				ラッパタケ科			ウスタケ			○		
35					ラッパタケ科 sp							
1				腹菌類	ホコリタケ科		オニフスベ				○	
2						ノウタケ	○					
3						ホコリタケ			○			
4						ホコリタケ科 sp						
5					アカカゴタケ科			ツマミタケの仲間				
6					ヒメツチグリ科			エリマキツチガキ			○	
7						コフクロツチガキ					○	
8						ヒメツチグリ科 sp						
1				変形菌	ハシラホコリ科		マメホコリ	○				
2					ムラサキホコリタケ科		サビホコリ	○				
3						ムラサキホコリ	○					
1				キノコ類	キクラゲ科		アラゲキクラゲ	○				
2	キクラゲ	○										
3	シロキクラゲ科		ニカワツノタケ									
1	子実菌類	クロサイワタケ科		クロコブタケ								

各調査地の鳥類センサス

数値は12km当りの個体数				大谷窪跡	比丘尼山	市民の森	都幾川	高坂	市野川	滑川	
No	目名	科名	種名	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	
1	キジ目	キジ科	キジ		4.41		6.86	3.12	3.72	3.26	
2			コジュケイ	5.71	8.33	2.80	9.71	8.31	8.84	6.98	
3			オシドリ				0.57				
4	カモ目	カモ科	カルガモ		0.49		20.57	11.95	33.02	26.51	
5			コガモ		6.37			3.12	15.35	0.93	
6			マガモ		3.43	1.20	2.29		0.47	3.72	
7	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ		0.98		6.86	0.52		0.47	
8	ハト目	ハト科	キジバト	10.71	4.41	4.00	18.86	21.82	24.19	10.70	
9			ドバト				5.14	62.86	1.40	0.47	
10	カウオドリ目	ウ科	カワウ	0.71	1.47		2.86	6.23	1.86	7.44	
11	ペリカン目	サギ科	アオサギ	1.43	0.49		6.29	2.08	11.63	10.23	
12			アマサギ		0.98						
13			ゴイサギ	1.43					14.88	8.37	
14			コサギ		0.49		1.14	2.08	2.33		
15			ダイサギ	0.71	0.49		5.71	2.60	2.79	2.33	
16			チュウサギ								
17		ヨシゴイ		0.49							
18	ツル目	クイナ科	クイナ								
19			オオバン				1.71				
20		バン						0.47	1.86		
21	カッコウ目	カッコウ科	カッコウ								
22			ツツドリ					0.52			
23			ホトトギス		2.94	0.80	3.43	1.56	0.47	2.33	
24	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ				20.57	5.19	1.86		
25			コチドリ					4.16	0.47	2.79	
26		タゲリ									
27		シギ科	イソシギ				0.57	1.56	1.86	1.40	
28	キアシシギ					2.86					
29	クサシギ		1.43			2.86	0.52	6.51	4.65		
30		タシギ						0.47			
31	タカ目	タカ科	オオタカ			2.40	2.86	1.56		0.47	
32			サシバ		0.98						
33			ツミ							0.47	0.47
34			トビ						0.52		
35			ノスリ					5.14	1.04	0.93	
36		ハイタカ					0.57				
37	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ				4.00	3.12	4.19	4.19	
38	キツツキ目	キツツキ科	アオゲラ	0.71	1.96	0.40			0.93	0.93	
39			アカゲラ	0.71		0.40	2.29	1.04			
40			アリスイ								
41			コゲラ	3.57	5.39	5.60	7.43	1.04	2.79	0.93	
42	ハヤブサ目	ハヤブサ科	コチヨウゲンボウ					0.52			
43			チヨウゲンボウ	0.71							
44		ハヤブサ									

宮鼻 10年	大谷窯跡 11年	比丘尼山 12年	市民の森 13年	都幾川 14年	高坂 15年	市野川 16年	滑川 17年	宮鼻 18年	集計	東松山で のタイプ
7.23		3.43		0.57	6.84	4.65	0.93	9.79	54.81	留鳥
0.43	5.71	7.84	2.00	5.71	5.26	7.91	10.23	2.55	98.34	留鳥
24.26	2.86	1.96		3.43	2.11	22.33	23.26	17.45	0.57	留鳥
12.77						1.86	10.70	1.28	190.18	留鳥
	1.43	0.98				9.77	3.26		52.37	冬鳥
									26.54	冬鳥
				1.14	1.58			0.85	12.40	留鳥
38.72	11.43	19.61	6.00	33.71	29.47	19.07	22.33	34.04	309.07	留鳥
15.32					5.26	4.19			94.63	留鳥
1.70	1.43	3.43		4.00	5.26	3.72	3.72	2.13	45.97	留鳥
3.83		0.98	0.40	5.71	3.16	5.58	7.91	7.66	67.37	留鳥
		0.49							0.98	夏鳥
									25.17	留鳥
									6.04	留鳥
4.26	1.43	2.45		4.57	3.68	5.12	3.26	5.53	44.93	留鳥
0.85					1.05			0.85	2.75	夏鳥
0.85									1.34	夏鳥
								1.28	1.28	冬鳥
									1.71	留鳥
0.43		0.49						1.28	4.52	留鳥
0.85									0.85	夏鳥
	0.71								1.23	夏鳥
	0.71	1.47	0.80	1.71	2.11		3.26	0.85	22.43	夏鳥
4.68				10.29	4.74	1.86		0.85	50.04	留鳥
1.28		0.49					0.93	2.13	12.24	夏鳥
0.85									0.85	冬鳥
					1.05	0.47			6.90	留鳥
									2.86	旅鳥
2.55				1.14	0.53	6.51	2.33		29.03	冬鳥
3.83								1.70	6.00	冬鳥
0.43					0.53	3.72	0.47	0.43	12.84	留鳥
									0.98	夏鳥
		0.49	0.40				0.47		2.29	留鳥
0.43				0.57	0.53			0.85	2.89	留鳥
1.70			0.40	3.43	3.16		0.47	2.55	18.82	留鳥
								0.85	1.42	冬鳥
2.55	0.71	2.94		2.29	1.05	3.72	3.26		32.01	留鳥
	2.14	4.41	2.40	2.86	1.05	4.19	2.79		24.78	留鳥
	0.71	2.45	0.40	1.14				0.43	9.57	冬鳥
0.43									0.43	冬鳥
	3.57	4.41	5.60	1.14	0.53	0.47	1.86		44.33	留鳥
									0.52	冬鳥
					0.53			0.85	2.09	留鳥
								0.43	0.43	冬鳥

数値は 12km当りの個体数			大谷窪跡	比丘尼山	市民の森	都幾川	高坂	市野川	滑川		
No	目名	科名	種名	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	
45	スズメ目	カササギヒタキ科	サンコウチョウ								
46		モズ科	モズ	3.57	9.80	1.20	11.43	28.05	7.91	12.09	
47		カラス科	オナガ	0.71	1.96		1.14	1.04	4.19	0.93	
48			カケス	5.00	6.37	2.00	8.57	1.04	1.40	1.40	
49			ハシブトガラス	19.29	10.29	13.20	21.14	13.51	14.42	20.47	
50			ハシボソガラス	6.43	12.25	2.00	21.71	23.90	5.12	7.44	
51			ミヤマガラス								
52		シジュウカラ科	シジュウカラ	13.57	24.51	35.60	48.57	24.94	19.07	24.65	
53			ヒガラ			0.80					
54			ヤマガラ			0.80	0.57				
55		ヒバリ科	ヒバリ	6.43			2.29	4.16		3.26	
56		ツバメ科	ツバメ	25.71		1.60	16.57	18.70	4.65	11.63	
57		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	50.71	41.67	47.20	88.00	47.79	64.19	114.42	
58		ウグイス科	ウグイス	16.43	25.49	15.60	44.00	31.69	10.70	44.19	
59			ヤブサメ								
60		エナガ科	エナガ	1.43	0.49	7.20	5.71				
61		ムシクイ科	メボソムシクイ								
62		メジロ科	メジロ	11.43	11.27	30.80	22.29	3.12	6.51	11.16	
63		ヨシキリ科	オオヨシキリ					5.19	1.86	0.93	
64		セッカ科	セッカ	2.14				5.19			
65		ムクドリ科	コムクドリ					2.08			
66			ムクドリ	18.57			33.71	15.58	17.67	11.63	
67		ヒタキ科	アカハラ				0.57	2.60			
68			オオルリ			0.40	0.57				
69			キビタキ			0.40		0.52			
70			クロツグミ			0.40					
71	ヒタキ科	ジョウビタキ	2.14	3.43	2.40		3.12	4.65	4.19		
72		シロハラ	1.43	1.47		2.29		0.93	1.40		
73		ツグミ	6.43	10.29	0.80	45.14	22.34	19.07	20.93		
74		トラツグミ					0.52				
76		ルリビタキ			2.80		0.52				
77	スズメ科	スズメ	145.00	31.37	6.00	241.71	116.36	115.35	153.95		
78	セキレイ科	キセキレイ	0.71	1.47		4.00	1.56	6.51	4.19		
79		セグロセキレイ	12.86	5.88	2.40	28.00	20.26	29.30	18.60		
80		タヒバリ	2.86	0.49		1.14	2.60				
81		ハクセキレイ	5.71	0.98	0.40	9.14	8.83	13.49	6.98		
82		ビンズイ									
83	アトリ科	アトリ				0.57					
84		イカル			0.40	4.00			0.93		
85		ウソ				0.57					
86		カワラヒワ	26.43	2.94	5.20	59.43	94.03	16.28	93.49		
87		シメ	1.43	0.49		136.00	51.43	7.44	9.30		
88	ベニマシコ			0.40	4.00	3.12	0.93				
89	ホオジロ科	アオジ	5.00	8.82	3.20	33.71	8.83	5.58	20.00		
90		オオジュリン									
91		カシラダカ	18.57	28.92	0.80	45.71	44.68		30.70		
92		クロジ									
93		ホオアカ									
94	ホオジロ	15.71	20.59	4.00	30.29	57.14	17.67	29.30			
95	チメドリ科	カオグロガビチョウ				1.71					
96		ガビチョウ	2.86	3.92	12.40	28.00	23.38	9.77	21.86		
		合計	456.43	309.31	218	1143.43	834.81	546.51	781.40		

宮鼻 10年	大谷窯跡 11年	比丘尼山 12年	市民の森 13年	都幾川 14年	高坂 15年	市野川 16年	滑川 17年	宮鼻 18年	集計	東松山で のタイプ
			0.40						0.40	夏鳥
28.94	2.86	5.39	2.00	11.43	30.53	13.95	6.05	29.36	204.56	留鳥
1.28	3.57				0.53	4.65		5.53	25.53	留鳥
	5.00	8.82	1.20	14.86	0.53	0.47	4.65		61.30	冬鳥
3.83	27.86	16.18	13.60	25.71	37.37	26.05	27.91	48.09	338.90	留鳥
36.17	10.71	3.92	1.20	5.71	21.58	10.70	14.42	68.09	251.35	留鳥
								11.91	11.91	冬鳥
1.28	9.29	25.00	21.20	29.14	12.11	10.23	11.63		310.78	留鳥
		1.96	1.60						4.36	冬鳥
		1.96	8.00						11.33	留鳥
6.81	5.71				1.58		3.26	2.55	36.04	留鳥
13.19	10.00	8.33		2.86	7.89	7.44	5.58	4.26	138.42	夏鳥
75.74	57.14	56.37	43.60	70.86	68.95	71.16	50.23	37.45	985.48	留鳥
10.64	26.43	21.57	12.00	23.43	26.84	21.40	23.26	10.64	364.29	留鳥
			0.40						0.40	夏鳥
	0.71	8.82	10.40	1.14			2.33		38.24	留鳥
				0.57		7.44			8.01	夏鳥
2.13	17.86	13.73	21.60	10.86	1.05		2.33		166.13	留鳥
43.83	0.71	0.49		2.86	5.26	0.47		17.02	78.63	夏鳥
10.21	0.71				3.68			4.68	26.63	留鳥
3.40					2.63			1.70	9.82	夏鳥
137.87	14.29			1.71	53.68	9.30	27.44	74.89	416.37	留鳥
0.43				0.57					4.17	冬鳥
			0.80						1.77	夏鳥
			3.20						4.12	夏鳥
									0.40	夏鳥
0.85	3.57	1.47	0.80	1.14	1.05	2.33	1.86	0.85	33.85	冬鳥
	2.14	0.49	1.60	1.14	1.58	2.79	0.47		17.72	冬鳥
28.51	3.57	5.39	1.60	17.14	18.95	10.70	7.91	11.91	230.69	冬鳥
									0.52	留鳥
	0.71	1.47	0.80			0.47			6.77	冬鳥
174.04	55.71	56.86		53.71	114.21	70.23	64.65	559.57	1958.76	留鳥
0.40	1.43	0.49				4.19	3.72		28.67	冬鳥
9.36	9.29		1.60	22.86	6.84	27.44	3.26	2.13	200.08	留鳥
2.13				0.57					9.79	冬鳥
15.74	10.00		1.20	2.86	3.68	13.95	1.40	4.68	99.05	留鳥
			2.00				0.47		2.47	冬鳥
				45.14					45.71	冬鳥
		0.98	1.20	21.14	3.16	0.47			32.28	留鳥
		0.98	0.40						1.95	冬鳥
63.40	5.71	13.73	15.20	49.71	39.47	10.23	59.07	94.89	649.22	留鳥
5.53	0.71	0.49		18.29	4.74	2.79	4.65	1.70	244.99	冬鳥
									8.45	冬鳥
4.26	4.29	6.86	5.20	12.00	12.11	5.58	5.58	5.53	146.55	冬鳥
				1.14				0.85	1.99	冬鳥
59.15		83.33	4.00	88.57	82.11	53.02	50.70	67.23	657.49	冬鳥
		0.49		1.71					2.20	冬鳥
4.26					1.58			2.13	7.96	留鳥
35.32	3.57	9.80	2.00	24.57	37.89	19.07	9.30	32.34	348.58	留鳥
				4.57					6.29	留鳥
9.36	13.57	26.47	16.00	26.29	24.74	20.00	23.26	10.64	272.50	留鳥
918.27	340.00	440.20	213.20	677.71	705.79	531.63	516.74	1207.23		

大谷窯跡 (2003年度) センサスルート長 1400m					030426	030512	030627	030720	030822
No	目名	科名	種名/月日						
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	4	2				
2	ハト目	ハト科	キジバト		1	3	2	1	
3	カツオドリ目	ウ科	カワウ		1				
4	ペリカノ目	サギ科	アオサギ		1				
5			ゴイサギ		1		1		
6			ダイサギ	1					
7	チドリ目	シギ科	クサシギ						
8	キツッキ目	キツッキ科	アオゲラ	1					
9			アカゲラ						
10			コゲラ	1	1		2	1	
11	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ						
12		モズ科	モズ						
13			オナガ						
14		カラス科	カケス						
15			ハシブトガラス	1	2	2	1	7	
16			ハシボソガラス	1		1			
17		シジュウカラ科	シジュウカラ	2	2			1	
18			シロハラ						
19		ヒバリ科	ヒバリ	5	1	1			
20		ツバメ科	ツバメ	3	12	1	18	2	
21		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	2	6	4	5	3	
22		ウグイス科	ウグイス	3	4	4	3		
22		エナガ科	エナガ						
23		メジロ科	メジロ	1			2	3	
24		セッカ科	セッカ		1			2	
25		ムクドリ科	ムクドリ	2	10	1	5		
26	スズメ目	ヒタキ科	ジョウビタキ						
27			ツグミ	1					
28		スズメ科	スズメ	22	25	23	27	12	
29			キセキレイ						
30		セキレイ科	セグロセキレイ		3	1		3	
31			タヒバリ						
32			ハクセキレイ		1			1	
33		アトリ科	カワラヒワ	1	1		1		
34			シメ						
35		ホオジロ科	アオジ	1					
36			カシラダカ						
37			ホオジロ	3	1	2	2	1	
38		チメドリ科	ガビチョウ	1		1		2	
			合計	56	76	44	69	39	

030910	031018	031115	031209	040112	040206	040309	合計	個体数 /12km	割合 %
		1		1			8	5.7	1.1%
1		1	1	1	4		15	10.7	2.1%
						1	2	1.4	0.3%
					1		2	1.4	0.3%
							2	1.4	0.3%
							1	0.7	0.1%
				1			1	0.7	0.1%
						1	6	4.3	0.8%
		1					1	0.7	0.1%
	1		1	2	1	3	8	5.7	1.1%
				1			1	0.7	0.1%
	3	1	1	1	1	2	9	6.4	1.2%
	4	5		4	1	2	29	20.7	4.0%
1	3		1	1	1		9	6.4	1.2%
	4	2	3	4	1	2	21	15.0	2.9%
				1	1		2	1.4	0.3%
			1		1	1	10	7.1	1.4%
							36	25.7	4.9%
1	14	12	18	5	1	3	74	52.9	10.1%
	1	1	3	3	1		23	16.4	3.2%
				2		2	4	2.9	0.5%
	2		7	1		1	17	12.1	2.3%
							3	2.1	0.4%
			1		7	7	33	23.6	4.5%
			2		1		3	2.1	0.4%
			4	2	2	5	14	10.0	1.9%
6	17	11	34	15	11	39	242	172.9	33.2%
	1						1	0.7	0.1%
2		3	3		3	1	19	13.6	2.6%
			3		1		4	2.9	0.5%
	1	2	2	1		1	9	6.4	1.2%
		10	9	5	10	2	39	27.9	5.3%
				2			2	1.4	0.3%
			2	1	3		7	5.0	1.0%
				25	1	13	39	27.9	5.3%
2	2	2			7	5	27	19.3	3.7%
							4	2.9	0.5%
13	53	52	96	79	62	91	730	521.4	100.0%

比丘尼山 (2004年度) センサスルート長 2040m				040414	040515	040612	040712	040820
No	目名	科名	種名/月日					
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	5	3		1	
2			キジ	2	1			
3	カモ目	ガンカモ科	マガモ					
4			カルガモ			1		
5			コガモ					
6	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	1		1		
7	ハト目	ハト科	キジバト	2	2	1		2
8	カワネドリ目	ウ科	カワウ					
9	ペリカン目		ヨシゴイ			2		
10		サギ科	アマサギ					
11			ダイサギ					
12			コサギ			1		
13			アオサギ			1		
14	カウゴウ目	ホトトギス科	ホトトギス			2	1	3
15	タカ目	ワシタカ科	サシバ	2				
16	キツキ目	キツツキ科	アオゲラ		1			1
17			コゲラ	1	1	1	1	
18		モズ科	モズ	4		1		1
19			カケス	2				
20		カラス科	オナガ					
21			ハシボソカラス	1	1	3		1
22			ハシブトカラス	5	2	1		2
23		シジュウカラ科	ヒガラ					
24		シジュウカラ科	シジュウカラ	4	4	7	5	
25		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	7	9	6	5	4
26		ウグイス科	ウグイス	9	8	7	8	2
27		エナガ科	エナガ					
28		メジロ科	メジロ		1	2	1	1
29	スズメ目		ジョウビタキ					
30			ルリビタキ					
31		ヒタキ科	シロハラ					
32			ツグミ	9				
33		スズメ科	スズメ	9	9	4	2	6
34			キセキレイ					
35			ハクセキレイ					
36		セキレイ科	セグロセキレイ	1	3	1	1	
37			タヒバリ					
38			アトリ科	カワラヒワ	1		3	
39			シメ					
40		ホオジロ科	ホオジロ	5	2	2	4	
41			カシラダカ					
42			アオジ	5				
43		チメドリ科	ガビチョウ			1	1	
			合計	75	47	48	30	23

040911	041017	041123	041211	050109	050218	050319	合計	個体数 /12km	割合%
1	2			3	2	1	18	8.8	2.7%
1	5						9	4.4	1.3%
					7		7	3.4	1.0%
							1	0.5	0.1%
	13						13	6.4	1.9%
							2	1.0	0.3%
2							9	4.4	1.3%
1	1			1			3	1.5	0.4%
	1						1	0.5	0.1%
							2	1.0	0.3%
1							1	0.5	0.1%
							1	0.5	0.1%
							1	0.5	0.1%
							6	2.9	0.9%
							2	1.0	0.3%
1	1						4	2.0	0.6%
	1		1	3	2	1	12	5.9	1.8%
1	6	1	1	2	3	2	22	10.8	3.2%
	7			2	2	1	14	6.9	2.1%
	4						4	2.0	0.6%
5	1	1	1	5	6	5	30	14.7	4.4%
2	1	2	2	2	2	2	23	11.3	3.4%
						1	1	0.5	0.1%
	4	9	1	8	8	6	56	27.5	8.2%
5	12	8	10	16	3		85	41.7	12.5%
	7	7	1	3		1	53	26.0	7.8%
				1		2	3	1.5	0.4%
	3	6	1	8		2	25	12.3	3.7%
	1	2	3	1			7	3.4	1.0%
						1	1	0.5	0.1%
				3			3	1.5	0.4%
				5	7	3	24	11.8	3.5%
3	5	5		3	18	6	70	34.3	10.3%
	3						3	1.5	0.4%
1		1					2	1.0	0.3%
1	3	2					12	5.9	1.8%
		1					1	0.5	0.1%
		1			1		6	2.9	0.9%
				1		1	2	1.0	0.3%
	2	4	2	13	8	6	48	23.5	7.1%
		3	1	25	30	5	64	31.4	9.4%
		4	1	4	4	2	20	9.8	2.9%
1	1			2	2		8	3.9	1.2%
26	84	57	25	111	105	48	679	332.8	100.0%

東松山市民の森 (2005 年度) センサスルート長 2500m				
No	目名	科名	種名 / 月日	050407 050508 050617 050710 050807
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	1 1 1
2	カモ目	カモ科	マガモ	
3	ハト目	ハト科	キジバト	1 2 1 1 3
4	カウモ目	カッコウ科	ホトトギス	1
5	タカ目	タカ科	オオタカ	1 2 1
6	キツキ目	キツツキ科	コゲラ	3
7			アオゲラ	
8			アカゲラ	
9	スズメ目	モズ科	モズ	1
10			カケス	
11		カラス科	ハシブトガラス	2 1 3 5
12			ハシボソガラス	1 2 2
13		シジュウカラ科	シジュウカラ	6 8 8 7 3
14			ヒガラ	2
15			ヤマガラ	
16		ツバメ科	ツバメ	4
17		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	10 8 10 5
18		ウグイス科	ウグイス	3 4 4 2
19		エナガ科	エナガ	2
20		メジロ科	メジロ	2 6 9 4 10
21		ヒタキ科	ジョウビタキ	1
22			ツグミ	1
23			シロハラ	
24			クロツグミ	1
25			ツグミ sp	
26			ルリビタキ	1
27	オオルリ		1	
28	キビタキ	1		
29	スズメ科	スズメ	1 1 4 6 3	
30	セキレイ科	セグロセキレイ	1	
31		ハクセキレイ		
32	アトリ科	カワラヒワ	1 1 4 1 1	
33		イカル	1	
34		ベニマシコ		
35	ホオジロ科	アオジ	2	
36		カシラダカ		
37		ホオジロ	1 1 1 2	
38	チメドリ科	ガビチョウ	4 3 1 4	
		合計	26 45 53 39 40	

都幾川 (2006 年度) センサスルート長 1750m				
No	目名	科名	種名 / 月日	060408 060512 060612 060715 060814
1	キジ目	キジ科	キジ	2 3 1 5
2			コジュケイ	6 2 2 1
3	カモ目	カモ科	オシドリ	1
4			カルガモ	12 11 2
5			マガモ	2 1 1

050910	051007	051110	051208	060107	060208	060324	合計	個体数 /12km	割合 %
			1	1	2	1	8	3.2	1.3%
			3				3	1.2	0.5%
1		1				4	14	5.6	2.3%
			1				2	0.8	0.3%
				1	1		6	2.4	1.0%
	2	1	3	3	2	1	15	6	2.5%
	1					1	2	0.8	0.3%
				1			1	0.4	0.2%
1	1					1	4	1.6	0.7%
		1	3		1	2	7	2.8	1.2%
5	2	1	4	3	7	4	37	14.8	6.2%
							5	2	0.8%
4	6	8	17	10	12	7	96	38.4	16.0%
							2	0.8	0.3%
			2			1	3	1.2	0.5%
							4	1.6	0.7%
4	5	16	24	16	20	8	126	50.4	21.0%
		5	12	2	7	8	47	18.8	7.8%
		4	6	4	2	2	20	8	3.3%
5	2	6	12	9	12	5	82	32.8	13.6%
		1	2	1	1		6	2.4	1.0%
					1	1	3	1.2	0.5%
						1	1	0.4	0.2%
						1	1	0.4	0.2%
						1	1	0.4	0.2%
			5	2			7	2.8	1.2%
							1	0.4	0.2%
							1	0.4	0.2%
							15	6	2.5%
			2		3		6	2.4	1.0%
		1					1	0.4	0.2%
					5		13	5.2	2.2%
							1	0.4	0.2%
		1					1	0.4	0.2%
		1		4	1	5	13	5.2	2.2%
			2				2	0.8	0.3%
		2		3			10	4	1.7%
2	2	5	3	2	5	3	34	13.6	5.7%
22	21	54	102	62	82	55	601	240.4	100.0%

060910	061010	061113	061204	070111	070208	070321	合計	個体数 /12km	割合 %
1							12	6.9	0.5%
	3		1		2	2	19	10.9	0.8%
							1	0.6	0.0%
9			2			6	42	24.0	1.8%
							4	2.3	0.2%

都幾川 (2006年度) センサスルート長 1750m								
No	目名	科名	種名/月日	060408	060512	060612	060715	060814
6	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	1	1	1	1	
7	ハト目	ハト科	キジバト ドバト	1	3		1	2
9	カウオドリ目	ウ科	カワウ	1	1	1		
10	ベリカ目	サギ科	ダイサギ アオサギ コサギ	1	2		1	1
12	ツル目	クイナ科	オオバン		2			
14	カウゴ目	ホトトギス科	ホトトギス			2	3	1
15	チドリ目	シギ科	イソシギ キアシシギ クサシギ	1	5		1	
17				2	1			
18		チドリ科	イカルチドリ	4	4	5	3	3
19	タカ目	タカ科	ノスリ オオタカ ハイタカ					
20								
21								
22	ブホソウ目	カワセミ科	カワセミ		1		1	1
23	キツキ目	キツキ科	コゲラ アカゲラ アオゲラ	2	2			3
24								
25								
26		モズ科	モズ	3	1		1	
27		カラス科	カケス ハシブトガラス ハシボソガラス オナガ		2	10	1	3
28				2	6	1	4	
29		シジュウカラ科	シジュウカラ ヤマガラ	11	1	12	7	5
30								
31		ヒバリ科	ヒバリ	1		3		
32		ツバメ科	ツバメ	17	4	5	2	1
33		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	8	5	11	7	8
34		ウグイス科	ウグイス	13	16	16	9	6
35		エナガ科	エナガ					
36		メジロ科	メジロ		1	8	4	3
37		ムクドリ科	ムクドリ	2			31	
38		ヒタキ科	ツグミ シロハラ アカハラ オオルリ	24 1			1	
39								
40		スズメ科	スズメ	5	18	29	37	3
41								
42		セキレイ科	タヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ キセキレイ	1 1 3 4	3	1 4	3	1
43								
44								
45								
46								
47								
48								

060910	061010	061113	061204	070111	070208	070321	合計	個体数 /12km	割合 %
3	1	1	2		1		12	6.9	0.5%
3	1	3	7	5	7	8	41	23.4	1.8%
					9		9	5.1	0.4%
	2						5	2.9	0.2%
3		1	1		1		10	5.7	0.4%
3	2	2	1	1	1	1	12	6.9	0.5%
							2	1.1	0.1%
			1		2	2	5	2.9	0.2%
							6	3.4	0.3%
							1	0.6	0.0%
							5	2.9	0.2%
				1		1	6	3.4	0.3%
	6	5		2	4	5	41	23.4	1.8%
	1	1		4	3		9	5.1	0.4%
	1	2		2			5	2.9	0.2%
					1	1	2	1.1	0.1%
	1	2		1		1	8	4.6	0.3%
2	2		1		1		13	7.4	0.6%
				2	2		4	2.3	0.2%
						1	1	0.6	0.0%
1	5	2	3	1	3	7	27	15.4	1.2%
2	7	1	2	1	2	2	17	9.7	0.7%
5	3	1	2	4	6	2	39	22.3	1.7%
7	7	3		6	2	3	41	23.4	1.8%
1			1				2	1.1	0.1%
4	2	12	10	1	20	2	87	49.7	3.7%
1						1	2	1.1	0.1%
						1	5	2.9	0.2%
							29	16.6	1.2%
18	42	22	23	7	3	2	156	89.1	6.7%
3	2	2	4	5	1	12	89	50.9	3.8%
				10		1	11	6.3	0.5%
7	2	10	1	3			39	22.3	1.7%
					26		59	33.7	2.5%
		33	4	11	7	3	82	46.9	3.5%
			2	1		1	5	2.9	0.2%
					1		1	0.6	0.0%
							1	0.6	0.0%
128	62	34	22	57	28	6	429	245.1	18.5%
		1				2	4	2.3	0.2%
	7	1		3	3	1	17	9.7	0.7%
6	12	6	3	6	2	5	54	30.9	2.3%
	3						7	4.0	0.3%

都幾川 (2006 年度) センサスルート長 1750m								
No	目名	科名	種名 / 月日	060408	060512	060612	060715	060814
49	スズメ目	アトリ科	シメ	1				
50			カワラヒワ		1	1	25	
51			イカル					
52			ベニマシコ	1				
53		アトリ						
54		ウソ						
55		ホオジロ科	カシラダカ	3				
56			ホオジロ	5	6	7	7	3
57		アオジ	6					
58	チメドリ科	ガビチョウ	6	11	5	8	3	
59		カオグロガビチョウ	1	1			1	
		合計		154	115	125	166	50

都幾川唐子橋下流 (2007 年度) センサスルート長 1925m								
No	目名	科名	種名 / 月日	070411	070514	070606	070707	070810
1	キジ目	キジ科	キジ	2	2		1	
2			コジュケイ	5	5	2		1
3	カモ目	カモ科	カルガモ	2	3	1		
4			コガモ					
5	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ					
6	ハト目	ハト科	キジバト	2	2	1	1	2
7			ドバト	6	7	2	8	11
8	カウオドリ目	ウ科	カワウ	3	1		1	1
9	ベリカ目	サギ科	アオサギ				1	1
10			コサギ		2		1	
11			ダイサギ				2	
12	カウモ目	カッコウ科	ツツドリ					
13			ホトトギス				2	1
14	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ			2	4	1
15			コチドリ		2	4	2	
16	シギ目	シギ科	イソシギ					
17			クサシギ					
18	タカ目	タカ科	オオタカ					
19			トビ	1				
20			ノスリ	1				
21	フボウソウ目	カワセミ科	カワセミ	1		1	2	1
22	キツキ目	キツキ科	アカゲラ	1				
23			コゲラ				2	
24	ハヤブサ目	ハヤブサ科	コチョウゲンボウ					
25	スズメ目	モズ科	モズ	2	3	3	1	2
26			カラス科	オナガ				

060910	061010	061113	061204	070111	070208	070321	合計	個体数 /12km	割合 %
		1	8	14	214	211	449	256.6	19.3%
	2	13	9	47	6	7	111	63.4	4.8%
6	1						7	4.0	0.3%
			1	1	4		7	4.0	0.3%
				1			1	0.6	0.0%
			1				1	0.6	0.0%
		1	45	17	14	3	83	47.4	3.6%
3	3	2	5	5	7	4	57	32.6	2.5%
		6	6	15	26	17	76	43.4	3.3%
1	2	5	3	3	2	1	50	28.6	2.2%
							3	1.7	0.1%
217	182	173	171	237	411	322	2323	1327.4	100.0%

070914	071006	071107	071205	080109	080212	080319	合計	個体数 /12km	割合 %
1							6	3.1	0.3%
3							16	8.3	0.9%
17						2	25	13.0	1.4%
		6					6	3.1	0.3%
		1					1	0.5	0.1%
2		1	21	2	8	8	50	26.0	2.9%
26	26		26	7	2		121	62.9	6.9%
			1	3	2		12	6.2	0.7%
1	1						4	2.1	0.2%
				1			4	2.1	0.2%
2	1					2	7	3.6	0.4%
	1						1	0.5	0.1%
							3	1.6	0.2%
					3	2	12	6.2	0.7%
						4	12	6.2	0.7%
1				1	1	1	4	2.1	0.2%
				1		1	2	1.0	0.1%
1		1	1			1	4	2.1	0.2%
							1	0.5	0.1%
	1						2	1.0	0.1%
1						1	7	3.6	0.4%
			1				2	1.0	0.1%
						2	4	2.1	0.2%
					1		1	0.5	0.1%
4	22	7	7	2	1		54	28.1	3.1%
1				1			2	1.0	0.1%

都幾川唐子橋下流 (2007 年度) センサスルート長 1925m								
No	目名	科名	種名/月日	070411	070514	070606	070707	070810
27	スズメ目	カラス科	カケス	1				
28			ハシブトガラス	1	4	4	6	3
29		ハシボソガラス	4	3	4	6	2	
30		シジュウカラ科	シジュウカラ	4	1	4	13	
31		ヒバリ科	ヒバリ	3	3	1		
32		ツバメ科	ツバメ	4	8	4	20	
33		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	6	5	3	3	4
34		ウグイス科	ウグイス	10	11	8	10	13
35		メジロ科	メジロ	2	2			
36		ヨシキリ科	オオヨシキリ		3	2	2	2
37		セッカ科	セッカ		4	1	3	2
38		ムクドリ科	ムクドリ	2			14	
39		ヒタキ科	アカハラ		2			
40			ジョウビタキ					
41			ツグミ	6				
42			トラツグミ					
43		ルリビタキ	1					
44		キビタキ						
45		スズメ科	スズメ	23	33	48	21	8
46	セキレイ科	キセキレイ					1	
47	セキレイ科	セグロセキレイ		2	6	3	5	
48		タヒバリ						
49	ハクセキレイ				1	1		
50	アトリ科	カワラヒワ	7	4		2	3	
51		シメ	4					
52	ベニマシコ							
53	ホオジロ科	アオジ	4					
54		カシラダカ						
55	ホオジロ	12	7	9	9	5		
56	ムクドリ科	コムクドリ	4					
57	チメドリ科	ガビチョウ	4	8	6	4	9	
		合計	128	127	116	145	79	

市野川 (2008 年度) センサスルート長 2150 m								
No	目名	科名	種名/月日	080423	080515	080611	080710	080807
1	キジ目	キジ科	キジ	5	2			
2			コジュケイ	1	5		1	1
3	カモ目	カモ科	カルガモ	6	8	4	20	14
4			コガモ	16				
5	マガモ							
6	ハト目	ハト科	キジバト	2	3	3	1	7
7			ドバト			1		1
8	カツオドリ目	ウ科	カワウ		1	1	1	1
9	ベリカン目	サギ科	アオサギ	2	2	5	6	
10			ゴイサギ	2		7	23	
11			コサギ				1	
12			ダイサギ			1		4
13	ツル目	クイナ科	バン					

070914	071006	071107	071205	080109	080212	080319	合計	個体数 /12km	割合 %
				1			2	1.0	0.1%
1	2		2	3		2	28	14.5	1.6%
		4	2	20	1	3	49	25.5	2.8%
9		2	2	7	6	8	56	29.1	3.2%
	1						8	4.2	0.5%
							36	18.7	2.1%
	27	13	11	17	3	3	95	49.4	5.4%
2	1	1	2	3		12	73	37.9	4.2%
	1			1			6	3.1	0.3%
1							10	5.2	0.6%
							10	5.2	0.6%
				14			30	15.6	1.7%
				1	2		5	2.6	0.3%
		4	1	1			6	3.1	0.3%
			19	5	13	10	53	27.5	3.0%
			1				1	0.5	0.1%
							1	0.5	0.1%
	1						1	0.5	0.1%
5	26	16	12	24	8	11	235	122.1	13.5%
				1	1		3	1.6	0.2%
3	1	1	3	6	9	1	40	20.8	2.3%
			1		4	2	7	3.6	0.4%
	1	5	3	4	2	3	20	10.4	1.1%
4		35	39	32	55	10	191	99.2	10.9%
		1	9	49	36	12	111	57.7	6.4%
		1	1	4			6	3.1	0.3%
			3	8	2	14	31	16.1	1.8%
			39	41	6	8	94	48.8	5.4%
2	1	9	27	17	12	15	125	64.9	7.2%
							4	2.1	0.2%
7	3	2	2			1	46	23.9	2.6%
94	117	110	236	277	178	139	1746	907.0	100.0%

080905	081005	081109	081208	090104	090207	090304	合計	個体数 /12km	割合 %
			1				8	3.7	0.6%
	2		2	1	6	1	20	9.3	1.5%
2	8	9				4	75	34.9	5.6%
	1	6	10			10	43	20.0	3.2%
	1						1	0.5	0.1%
1	7	11	7	9	1	1	53	24.7	4.0%
				1			3	1.4	0.2%
						1	5	2.3	0.4%
2	3	1	1	1	2		25	11.6	1.9%
							32	14.9	2.4%
							5	2.3	0.4%
2				1			6	2.8	0.5%
			1				1	0.5	0.1%

市野川 (2008年度) センサスルート長 2150 m									
No	目名	科名	種名/月日	080423	080515	080611	080710	080807	
14	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ						
15			コチドリ				1		
16		シギ科	イソシギ						
17	クサシギ		2	1					
18		タシギ							
19	タカ目	タカ科	ツミ				1		
20			ノスリ						
21	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	1	1		1	1	
22	キツツキ目	キツツキ科	アオゲラ	1					
23			コゲラ	2					
24	スズメ目	モズ科	モズ						
25		カラス科	オナガ	5				4	
26			カケス						
27			ハシブトガラス	5	3	2	2	3	
28		カラス科	ハシボソガラス		2			2	
29		シジュウカラ科	シジュウカラ	3	2	3	2	5	
30		ツバメ科	ツバメ	4		5		1	
31		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	11	13	14	11	4	
32		ウグイス科	ウグイス	6	2	3	6	5	
33		メジロ科	メジロ	3		2	1	2	
34		ヨシキリ科	オオヨシキリ		1	1		2	
35		ミソサザイ科	ミソサザイ						
36			ムクドリ科	ムクドリ	7	1			21
37			ヒタキ科	ジョウビタキ					
38				シロハラ					
39		ツグミ							
40		スズメ科	スズメ	15	18	33	12	8	
41		セキレイ科	キセキレイ						
42			セグロセキレイ	8	9	4	1	4	
43		ハクセキレイ		4	2	2			
44		カワラヒワ		3	1				
45		アトリ科	シメ						
46		ベニマシコ							
47		アオジ							
48		ホオジロ	3	5	5	5	3		
49		カシラダカ							
50		ホトトギス科	ホトトギス					1	
51		チメドリ科	ガビチョウ	5	3	4	1	2	
			合計	115	89	101	99	98	

滑川 (2009年度) センサスルート長 2150 m								
No	目名	科名	種名/月日	090407	090504	090603	090705	090804
1	キジ目	キジ科	キジ	1	2	3	1	
2			コジュケイ	1	3	1	1	3
3	カモ目	カモ科	カルガモ	14	14		7	
4			コガモ					
5		マガモ	2	2				

080905	081005	081109	081208	090104	090207	090304	合計	個体数 /12km	割合 %
			3	1			4	1.9	0.3%
							1	0.5	0.1%
1			1	1	1		4	1.9	0.3%
		1	3	3	4	1	15	7.0	1.1%
				1			1	0.5	0.1%
							1	0.5	0.1%
		1	1			1	3	1.4	0.2%
	1		1	1	2		9	4.2	0.7%
					1		2	0.9	0.2%
	1	1			2	1	7	3.3	0.5%
8	5	1	1	2	2		19	8.8	1.4%
							9	4.2	0.7%
	3						3	1.4	0.2%
2	1	2	5	1	5	7	38	17.7	2.9%
			2	1	4	3	14	6.5	1.1%
4	4	3	5	1	9	4	45	20.9	3.4%
							10	4.7	0.8%
1	9	16	27	25	7	6	144	67.0	10.8%
		1				2	25	11.6	1.9%
2	1	1	1	1	1		14	6.5	1.1%
							4	1.9	0.3%
						1	1	0.5	0.1%
3	4			1	1	13	51	23.7	3.8%
		3	4	3		2	12	5.6	0.9%
				1	1		2	0.9	0.2%
			11	11	19	19	60	27.9	4.5%
2	21	82	4	23	30	30	278	129.3	20.9%
1	2	4	4	2	1	1	15	7.0	1.1%
2	7	7	10	6	5	6	69	32.1	5.2%
	5	6	3	4	3	2	31	14.4	2.3%
		5	14	8	4	16	51	23.7	3.8%
		5		6	5	3	19	8.8	1.4%
					2	2	4	1.9	0.3%
				9	3	1	13	6.0	1.0%
	3		7	3	4	15	53	24.7	4.0%
						1	1	0.5	0.1%
							1	0.5	0.1%
2	3			1		1	22	10.2	1.7%
22	95	174	129	128	125	157	1332	619.5	100.0%

090905	091004	091107	091202	100104	100205	100306	合計	個体数 /12km	割合 %
					3	4	7	3.3	0.4%
1	2						19	8.8	1.0%
		3	9		10	23	80	37.2	4.2%
					2		2	0.9	0.1%
	4					9	17	7.9	0.9%

滑川 (2009年度) センサスルート長 2150 m					090407	090504	090603	090705	090804
No	目名	科名	種名/月日						
6	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ			1			
7	ハト目	ハト科	キジバト ドバト		3	1	2	3	
9	カウオドリ目	ウ科	カワウ		3		1		
10	ベリカ目	サギ科	アオサギ ゴイサギ ダイサギ	3	3	2	2	1	
11						2	2	14	
12						1		1	
13	ツル目	クイナ科	バン						
14	カッコウ目	カッコウ科	ホトトギス			2	2	1	
15	チドリ目	チドリ科	コチドリ	2	3		1		
16							1		
17	シギ目	シギ科	イソシギ クサシギ		2				
18	タヌ目	ワシタカ科	オオタカ ツミ						
19									
20	フツボウソウ目	カワセミ科	カワセミ	2	1		1		
21	キツツキ目	キツツキ科	アカゲラ アオゲラ コゲラ	1			1		
22				1		1			
23									
24		モズ科	モズ	3	1				
25							2		
26		カラス科	オナガ カケス ハシブトガラス ハシボソガラス	6	3	2	8	7	
27				1	2	1	1	3	
28		シジュウカラ科	シジュウカラ	5	6	3		4	
29		ヒバリ科	ヒバリ		2	2	1		
30		ツバメ科	ツバメ	1	7	10	4	3	
31		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	26	11	7	19	7	
32		ウグイス科	ウグイス	14	10	15	12	5	
33		メジロ科	メジロ	2	2	1			
34		ヨシキリ科	オオヨシキリ		1		1		
35	スズメ目	ムクドリ科	ムクドリ	3		3	17		
36									
37		ヒタキ科	ジョウビタキ シロハラ ツグミ	1					
38				15					
39		スズメ科	スズメ	15	13	24	16	159	
40				1					
41		セキレイ科	キセキレイ セグロセキレイ ハクセキレイ	4	2	2	2	1	
42				4	3	1			
43		アトリ科	イカル カワラヒワ シメ	5	2	2	1		
44				4					

090905	091004	091107	091202	100104	100205	100306	合計	個体数/12km	割合 %
						1	2	0.9	0.1%
4	2	1	2	2	3	5	28	13.0	1.5%
		1					1	0.5	0.1%
6	2		1		3		16	7.4	0.8%
3	1	3	2	2		2	24	11.2	1.3%
							18	8.4	0.9%
1	2						5	2.3	0.3%
			1	2	1	2	6	2.8	0.3%
							5	2.3	0.3%
							6	2.8	0.3%
	1		1				3	1.4	0.2%
1	1	1	1	2	2	1	11	5.1	0.6%
			1				1	0.5	0.1%
			1				1	0.5	0.1%
	1		2		2	4	13	6.0	0.7%
						1	1	0.5	0.1%
							2	0.9	0.1%
							2	0.9	0.1%
3	10	1	4	2	2	3	29	13.5	1.5%
							2	0.9	0.1%
		2		1		4	7	3.3	0.4%
	3	8	5		2	4	48	22.3	2.5%
1		5	1		1		16	7.4	0.8%
4	5	14	3	6	3	5	58	27.0	3.0%
					2		7	3.3	0.4%
							25	11.6	1.3%
4	89	24	41	8	10	5	251	116.7	13.2%
1	3	8	14	4	9	9	104	48.4	5.5%
		2	10	3	4		24	11.2	1.3%
							2	0.9	0.1%
				2		6	31	14.4	1.6%
		5	1	1	2	1	10	4.7	0.5%
				1	1	1	4	1.9	0.2%
			6	8	16	12	57	26.5	3.0%
1	46	15	35	3	4	34	365	169.8	19.2%
	2	2	1	3		1	10	4.7	0.5%
2	8	9	9	3	2	2	42	19.5	2.2%
	2	2	1		2	1	16	7.4	0.8%
		2					2	0.9	0.1%
	1	55	30	55	50	57	258	120.0	13.5%
		4	1	7	4	4	24	11.2	1.3%

滑川 (2009年度) センサスルート長 2150 m								
No	目名	科名	種名/月日	090407	090504	090603	090705	090804
47	スズメ目	ホオジロ科	アオジ	8				
48			カシラダカ	4				
49		ホオジロ	10	1	5	1	3	
50		チメドリ科	ガビチョウ	4	5	4	5	3
			合計	159	107	96	112	218

宮鼻 (2010年度) センサスルート長 2350m								
No	目名	科名	種名/月日	100409	100504	100605	100706	100810
1	キジ目	キジ科	キジ		6	7	1	1
2			コジュケイ			1		
3	カモ目	ガンカモ科	カルガモ	25	3	6		
4			コガモ	18	7			
5	ハト目	ハト科	キジバト	11	10	5	2	4
6			ドバト					23
7	カヤドリ目	ウ科	カワウ		1			1
8	ペリカン目	サギ科	アオサギ					
9			ダイサギ	2	2		1	1
10			チュウサギ				2	
11			ヨシゴイ				2	
12	ツル目	クイナ科	バン		1			
13	カッコウ目	カッコウ科	カッコウ			1	1	
14	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ				5	
15			コチドリ	2	1			
16	チドリ目	シギ科	タゲリ					
17			クサシギ					
18			タシギ					
19	タカ目	タカ科	オオタカ					
20			トビ	1				
21			ノスリ					
22	フボウソウ目	カワセミ科	カワセミ	1				1
23	キツツキ目	キツツキ科	アリスイ					
24	スズメ目	モズ科	モズ	4	10	1	1	2
25			オナガ			1		
26		カラス科	ハシブトガラス	1	4			
27			ハシボソガラス	4	4	6	6	4
28		シジュウカラ科	シジュウカラ					
29		ヒバリ科	ヒバリ	2	1	1	1	
30		ツバメ科	ツバメ	2	4	4	13	6
31		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	9	24			
32		ウグイス科	ウグイス	4	4	4	5	4
33		メジロ科	メジロ					
34		ヨシキリ科	オオヨシキリ		27	30	33	12
35	セッカ科	セッカ	1	6	3	5	3	

090905	091004	091107	091202	100104	100205	100306	合計	個体数 /12km	割合 %
		8	6	11	10	4	47	21.9	2.5%
		3	12	30	17	8	74	34.4	3.9%
	5	7	8	12	11	9	72	33.5	3.8%
6	4	6	3	2	5	4	51	23.7	2.7%
38	194	191	212	170	183	226	1906	886.5	100.0%

100904	101005	101105	101204	110103	110202	110302	合計	個体数 /12km	割合 %
	1		1				17	7.2	0.8%
							1	0.4	0.0%
1	3	4	13		2		57	24.3	2.6%
	2		3				30	12.8	1.4%
4	3	2	4	19	19	8	91	38.7	4.2%
12		1					36	15.3	1.7%
	1			1			4	1.7	0.2%
1		2	2	2	1	1	9	3.8	0.4%
1				1	2		10	4.3	0.5%
							2	0.9	0.1%
							2	0.9	0.1%
							1	0.4	0.0%
							2	0.9	0.1%
				2	4		11	4.7	0.5%
							3	1.3	0.1%
					2		2	0.9	0.1%
		1	2	2	1		6	2.6	0.3%
					7	2	9	3.8	0.4%
		1					1	0.4	0.0%
							1	0.4	0.0%
	1	1			1	1	4	1.7	0.2%
		1		2	1		6	2.6	0.3%
			1				1	0.4	0.0%
5	17	6	4	4	8	6	68	28.9	3.2%
	2						3	1.3	0.1%
			4				9	3.8	0.4%
2	9	9	6	4	4	27	85	36.2	3.9%
					2	1	3	1.3	0.1%
3	3	5					16	6.8	0.7%
1	1						31	13.2	1.4%
	94	20	6	11	12	2	178	75.7	8.3%
	1	1		1		1	25	10.6	1.2%
		5					5	2.1	0.2%
1							103	43.8	4.8%
2		2		2			24	10.2	1.1%

宮鼻 (2010年度) センサスルート長 2350m								
No	目名	科名	種名/月日	100409	100504	100605	100706	100810
36	スズメ目	ムクドリ科	コムクドリ		2			3
37			ムクドリ	15	6	4	3	41
38		ヒタキ科	アカハラ					
39			ジョウビタキ					
40			ツグミ	11				
41		スズメ科	スズメ	14	9	12	15	21
42		セキレイ科	セグロセキレイ		5		1	
43			タヒバリ					
44			ハクセキレイ	3	2	5		1
45		アトリ科	カワラヒワ	8	1		2	25
46	シメ		1	5				
47	ホオジロ科	アオジ						
48		カシラダカ	1					
49		ホオアカ			1	1	3	
50		ホオジロ	6	7	5	3	5	
51	チメドリ科	ガビチョウ	1	5	1	3	2	
		合計	147	157	98	106	163	

大谷窯跡 (2011年度) センサスルート長 1400m								
No	目名	科名	種名/月日	110406	110506	110606	110705	110807
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	1	2	1	2	
2	カモ目	カモ科	カルガモ	2	2			
3			マガモ					
4	ハト目	ハト科	キジバト		2	3	2	1
5	カウオドリ目	ウ科	カワウ		2			
6	ベリカ目	サギ科	ダイサギ			1		
7	カッコウ目	カッコウ科	ツツドリ					
8			ホトトギス			1		
9	フボソウ目	カワセミ科	カワセミ			1		
10	キツキ目	キツキ科	アオゲラ		1			
11			アカゲラ					
12			コゲラ		2			
13	スズメ目	モズ科						
14		カラス科	オナガ			5		
15			カケス					
16			ハシブトガラス	6	1	5	3	3
17			ハシボソガラス		2	2	2	1
18		シジュウカラ科	シジュウカラ	2		1	2	
19		ヒバリ科	ヒバリ		4	1	1	
20		ツバメ科	ツバメ		3	2		1
21	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	5	6	4	5	4	
22	ウグイス科	ウグイス	6	4	5	6	4	
23		エナガ科	エナガ				1	

100904	101005	101105	101204	110103	110202	110302	合計	個体数/12km	割合%	
3							8	3.4	0.4%	
30	1	6		6	141	71	324	137.9	15.0%	
				1			1	0.4	0.0%	
		1	1				2	0.9	0.1%	
		1	4	17	12	22	67	28.5	3.1%	
96	26	65	43	30	57	21	409	174.0	19.0%	
1		8	1	2	2	2	22	9.4	1.0%	
				5			5	2.1	0.2%	
		9	3	6	4	4	37	15.7	1.7%	
4	2	7	10	12	31	47	149	63.4	6.9%	
			1	1	1	4	13	5.5	0.6%	
		1			2	7	10	4.3	0.5%	
		2	4	6	105	21	139	59.1	6.4%	
2		1		2			10	4.3	0.5%	
	1	2	11	11	13	19	83	35.3	3.8%	
3	3	3					1	22	9.4	1.0%
172	171	167	124	150	434	268	2157	917.9		

110908	111004	111104	111205	120104	120202	120304	合計	個体数/12km	割合%
		1				1	8	5.7	1.7%
							4	2.9	0.8%
					2		2	1.4	0.4%
2	1			2	1	2	16	11.4	3.4%
							2	1.4	0.4%
						1	2	1.4	0.4%
	1						1	0.7	0.2%
							1	0.7	0.2%
							1	0.7	0.2%
1	1						3	2.1	0.6%
			1				1	0.7	0.2%
				3			5	3.6	1.1%
	1	2				1	4	2.9	0.8%
							5	3.6	1.1%
		1	1	1	2	2	7	5.0	1.5%
3	1	3	4	3	3	4	39	27.9	8.2%
		4	2	2			15	10.7	3.2%
	1	2	1		1	3	13	9.3	2.7%
		1				1	8	5.7	1.7%
						8	14	10.0	2.9%
1	3	11	12	13	11	5	80	57.1	16.8%
1	1	5	1	2	1	1	37	26.4	7.8%
							1	0.7	0.2%

大谷窯跡 (2011年度) センサスルート長 1400m								
No	目名	科名	種名/月日	110406	110506	110606	110705	110807
24	スズメ目	メジロ科	メジロ	1	2		2	2
25		ヨシキリ科	オオヨシキリ				1	
26		セッカ科	セッカ					1
27		ムクドリ科	ムクドリ		2	6		
28		ヒタキ科	ジョウビタキ	1				
29			シロハラ					
30			ツグミ	1				
31			ルリビタキ					
32		スズメ科	スズメ	3	10	5	12	4
33		セキレイ科	キセキレイ					
34			セグロセキレイ	1			2	
35			ハクセキレイ				2	
36	アトリ科	カワラヒワ	1	1		2	1	
37		シメ	1					
38	ホオジロ科	アオジ	1					
39		ホオジロ			2	1	1	
40	チメドリ科	ガビチョウ	2	4	2		3	
		合計	34	50	47	46	26	

比丘尼山 (2012年度) センサスルート長 2040m								
No	目名	科名	種名/月日	120409	120507	120604	120704	120805
1	キジ目	キジ科	キジ		3	1	1	1
2			コジュケイ	2	1			1
3	カモ目	カモ科	カルガモ		1	3		
4			マガモ					
5	ハト目	ハト科	キジバト	2	1	3	1	6
6	カウボウ目	ウ科	カワウ		2	1		
7	ベリカ目	サギ科	アオサギ		1	1		
8			ゴイサギ					
9			ダイサギ		2	2		
10	ツル目	クイナ科	バン					
11	カッコウ目	カッコウ科	ホトトギス				2	1
12	チドリ目	チドリ科	コチドリ					1
13	タカ目	タカ科	ツミ					
14	フッポウ目	カワセミ科	カワセミ		2	1	1	
15	キツキ目	キツキ科	アオゲラ	1	2		1	3
16			アカゲラ					
17			コゲラ		1	1		1
18	スズメ目	モズ科	モズ	1	1			
19	カラス目	カラス科	カケス	2				
20			ハシブトガラス	2	3	4	2	2

110908	111004	111104	111205	120104	120202	120304	合計	個体数/12km	割合%
	1		2	9	3	3	25	17.9	5.3%
							1	0.7	0.2%
							1	0.7	0.2%
						12	20	14.3	4.2%
		1	1			2	5	3.6	1.1%
				1	1	1	3	2.1	0.6%
				4			5	3.6	1.1%
					1		1	0.7	0.2%
	8	8	7	10	1	10	78	55.7	16.4%
			1	1			2	1.4	0.4%
2	1				4	3	13	9.3	2.7%
	2	3		2		5	14	10.0	2.9%
			1			2	8	5.7	1.7%
							1	0.7	0.2%
		1			1	3	6	4.3	1.3%
		1					5	3.6	1.1%
		3		1	1	3	19	13.6	4.0%
10	22	48	34	53	31	75	476	340.0	100.0%

120905	121008	121104	121205	130104	130204	130306	合計	個体数/12km	割合%
1							7	3.4	0.8%
1	4	1	1	4		1	16	7.8	1.8%
							4	2.0	0.4%
					2		2	1.0	0.2%
5	3		5	4	4	6	40	19.6	4.4%
1				1		2	7	3.4	0.8%
							2	1.0	0.2%
	1						1	0.5	0.1%
						1	5	2.5	0.6%
			1				1	0.5	0.1%
							3	1.5	0.3%
							1	0.5	0.1%
1							1	0.5	0.1%
				1		1	6	2.9	0.7%
			2				9	4.4	1.0%
		1	1		1	2	5	2.5	0.6%
1	1	1		2	1		9	4.4	1.0%
	5	2	1		1		11	5.4	1.2%
	4	5	3	1	1	2	18	8.8	2.0%
3	3	1	6	2	2	3	33	16.2	3.7%

比丘尼山 (2012年度) センサスルート長 2040m									
No	目名	科名	種名/月日	120409	120507	120604	120704	120805	
21	スズメ目	カラス科	ハシボソガラス				2		
22		シジュウカラ	6	5	4	2	4		
23		シジュウカラ科	ヒガラ						
24		ヤマガラ							
25		ツバメ科	ツバメ					17	
26		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	5	7	7	10	7	
27		ウグイス科	ウグイス	7	7	7	7	6	
28		エナガ科	エナガ						
29		メジロ科	メジロ	1	1	4	4	5	
30		ヨシキリ科	オオヨシキリ					1	
31		ヒタキ科	ジョウビタキ						
32			シロハラ						
33			ツグミ	5					
34			ヒタキ類 sp						
35	ルリビタキ								
36	スズメ	5	4	22	11	4			
37	セキレイ科	キセキレイ							
38	アトリ科	イカル							
39		ウソ							
40		カワラヒワ	1	5	6	6			
41	シメ								
42	ホオジロ科	アオジ	5						
43		カシラダカ							
44		クロジ							
45		ホオジロ		1	2		1		
46	チメドリ科	ガビチョウ	2	3	7	10	7		
		合計	47	53	76	60	68		

市民の森 (2013年度) センサスルート長 2500m								
No	目名	科名	種名/月日	130408	130505	130608	130708	130807
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	1	2		1	
2	ハト目	ハト科	キジバト	1			2	1
3	ペリカン目	サギ科	アオサギ					1
4	カウコウ目	カッコウ科	ホトトギス			1	1	
5	タカ目	タカ科	ツミ				1	
6			ノスリ					
7	キツツキ目	キツツキ科	アオゲラ	1		2		1
8			アカゲラ					
9			コゲラ	4	2	1		2
10	スズメ目	カササギヒタキ科	サンコウチョウ			1		
11		モズ科	モズ				1	
12		カラス科	カケス	1				
13			ハシブトガラス	4	2		4	2
14		ハシボソガラス			1			
15	シジュウカラ科	シジュウカラ	5	4	3	7	2	
16		ヒガラ						
17		ヤマガラ	1	1		1	5	

120905	121008	121104	121205	130104	130204	130306	合計	個体数/12km	割合%	
3					2	1	8	3.9	0.9%	
3		8	5	11	1	2	51	25.0	5.7%	
				3		1	4	2.0	0.4%	
			1	3			4	2.0	0.4%	
							17	8.3	1.9%	
4	8	14	30	13	5	5	115	56.4	12.8%	
			1	5	3	1	44	21.6	4.9%	
			8		8		2	18	8.8	2.0%
	2	8		3			28	13.7	3.1%	
							1	0.5	0.1%	
			1	1	1		3	1.5	0.3%	
			1				1	0.5	0.1%	
					3	3	11	5.4	1.2%	
	3						3	1.5	0.3%	
			2		1		3	1.5	0.3%	
18	2	8		3	14	25	116	56.9	12.9%	
1							1	0.5	0.1%	
	2						2	1.0	0.2%	
				2			2	1.0	0.2%	
		4				6	28	13.7	3.1%	
					1		1	0.5	0.1%	
				2	4	3	14	6.9	1.6%	
			15	10	141	4	170	83.3	18.9%	
				1			1	0.5	0.1%	
			7	1	4	4	20	9.8	2.2%	
9	3	7	2	1	2	1	54	26.5	6.0%	
51	41	69	89	80	191	76	901	441.7	100.0%	

130909	131006	131108	131208	140107	140207	140306	合計	個体数/12km	割合%
1							5	2	0.9%
1	1			1	6	2	15	6	2.8%
							1	0.4	0.2%
							2	0.8	0.4%
							1	0.4	0.2%
			1				1	0.4	0.2%
	1			1			6	2.4	1.1%
				1			1	0.4	0.2%
		2	1	1	1		14	5.6	2.6%
							1	0.4	0.2%
	1	1		1	1		5	2	0.9%
		1		1			3	1.2	0.6%
3	4	2	4	3		6	34	13.6	6.4%
		1			1		3	1.2	0.6%
	1	6	7	12	6		53	21.2	9.9%
				4			4	1.6	0.7%
		1	3	6	2		20	8	3.7%

市民の森 (2013 年度) センサスルート長 2500m				130408	130505	130608	130708	130807
No	目名	科名	種名 / 月日					
18	スズメ目	ウグイス科	ウグイス	4	5	5	6	5
19			ヤブサメ		1			
20		エナガ科	エナガ		1		4	1
21		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	10	5	6	8	15
22		メジロ科	メジロ	7	4	5	11	6
23		セキレイ科	キセキレイ					
24			セグロセキレイ		1			
25			ハクセキレイ					
26			ビンズイ					
27		ヒタキ科	オオルリ		1	1		
28			キビタキ		1	3	3	1
29			ジョウビタキ					
30			シロハラ					
31			ツグミ					
32		ルリビタキ						
33	アトリ科	イカル		3				
34		ウソ						
35		カワラヒワ	2	2			1	
36	ホオジロ科	アオジ						
37		カシラダカ						
38		ホオジロ		1		1	1	
39	チメドリ科	ガビチョウ	3	4	5	8	4	
		合計	44	40	34	59	48	

都幾川 (2014 年度) センサスルート長 1750m				140412	140509	140617	140712	140805
No	目名	科名	種名 / 調査日					
1	キジ目	キジ科	キジ	1				
2			コジュケイ	2	1	3	1	
3	カモ目	カモ科	カルガモ	3	1	2		
4	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ					
5	ハト目	ハト科	キジバト	2	2	3	1	1
6	カッネリ目	ウ科	カワウ			1		
7	ベリカ目	サギ科	アオサギ	1			1	
8			ダイサギ					
9	カッコウ目	カッコウ科	ホトトギス			1	1	1
10	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ		1	3	1	
11			クサシギ					
12	タカ目	タカ科	トビ					
13			ノスリ					
14	ブッポウ目	カワセミ科	カワセミ					1

130909	131006	131108	131208	140107	140207	140306	合計	個体数/12km	割合%
1		1	3				30	12	5.6%
							1	0.4	0.2%
			12		8		26	10.4	4.9%
6	10	18	14	11	5	1	109	43.6	20.4%
	1	2	12		4	2	54	21.6	10.1%
					1		1	0.4	0.2%
		2	1				4	1.6	0.7%
1		1			1		3	1.2	0.6%
		1	2		2		5	2	0.9%
							2	0.8	0.4%
							8	3.2	1.5%
			1			1	2	0.8	0.4%
			3	1			4	1.6	0.7%
				1		3	4	1.6	0.7%
			2				2	0.8	0.4%
							3	1.2	0.6%
			1				1	0.4	0.2%
		1			16	16	38	15.2	7.1%
			6	5	2		13	5.2	2.4%
					3	7	10	4	1.9%
						2	5	2	0.9%
1	3	6	1	3	1	1	40	16	7.5%
14	22	46	74	52	60	41	534	213.6	100.0%

140909	141010	141107	141209	150109	150206	150306	合計	個体数/12km	割合%
							1	0.6	0.1%
				1		2	10	5.7	0.8%
							6	3.4	0.5%
			1	1			2	1.1	0.2%
3	2	1	21	6	17		59	33.7	5.0%
		2		1	2	1	7	4.0	0.6%
	2	2		1	1	2	10	5.7	0.8%
1	1		1	2		3	8	4.6	0.7%
							3	1.7	0.3%
1			3	3	1	5	18	10.3	1.5%
				1	1		2	1.1	0.2%
			1				1	0.6	0.1%
			1	3	2		6	3.4	0.5%
1			1		1		4	2.3	0.3%

都幾川 (2014年度) センサスルート長 1750m									
No	目名	科名	種名 / 調査日	140412	140509	140617	140712	140805	
15	キツキ目	キツツキ科	アオゲラ			1		2	
16			アカゲラ						
17			コゲラ			1			
18	スズメ目	モズ科	モズ	2	1	1	1		
19		カラス科	カケス						
20			ハシボトガラス	7	1	12	2	4	
21		カラス科	ハシボソガラス			1		3	
22		シジュウカラ科	シジュウカラ	5	4	4	7	5	
23		ツバメ科	ツバメ		1			4	
24		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	11	12	2	8	8	
25		ウグイス科	ウグイス	6	7	6	5	4	
26		エナガ科	エナガ			1		1	
27		ムシクイ科	メボソムシクイ						
28		メジロ科	メジロ	2	1	4	3	3	
29		ムクドリ科	ムクドリ			2		1	
30		ヨシキリ科	オオヨシキリ		2	1		2	
31		ヒタキ科	アカハラ						
32			ジョウビタキ						
33			シロハラ						
34			ツグミ	3					
35	スズメ科	スズメ	9	11	30	8	1		
36	セキレイ科	セグロセキレイ	1	1	4	1	2		
37		タヒバリ							
38		ハクセキレイ	1		2				
39	アトリ科	アトリ							
40		イカル							
41		カワラヒワ	1	2	1		2		
42		シメ							
43	ホオジロ科	アオジ	1						
44		オオジュリン							
45		カシラダカ	2						
46		クロジ							
47		ホオジロ		2	2	5	2		
48	チメドリ科	カオグロガビチョウ							
49		ガビチョウ	4	11	5	6	4		
		合計	64	62	92	64	38		

都幾川唐子橋下流 (2015年度) センサスルート長 1900m								
No	目名	科名	種名 / 調査日	150416	150515	150608	150711	150809
1	キジ目	キジ科	キジ	3	4	2		1
2			コジュケイ		1			1
3	カモ目	カモ科	カルガモ		2	1		1
4	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ					
5	ハト目	ハト科	キジバト	2	1	1	1	3
6			ドバト	1				2
7	カオドリ目	ウ科	カワウ					2

140909	141010	141107	141209	150109	150206	150306	合計	個体数 /12km	割合 %	
	1			2	1		5	2.9	0.4%	
							2	1.1	0.2%	
						1	2	1.1	0.2%	
1	6	3	2		1	2	20	11.4	1.7%	
	1	3	7	3	10	2	26	14.9	2.2%	
3	2	1	4	5	2	2	45	25.7	3.8%	
					2	4	10	5.7	0.8%	
3	2	5	1	4	4	7	51	29.1	4.3%	
							5	2.9	0.4%	
3	21	25	22	7	4	1	124	70.9	10.5%	
4		1	3				5	41	23.4	3.5%
							2	1.1	0.2%	
1							1	0.6	0.1%	
2		1	2		1		19	10.9	1.6%	
							3	1.7	0.3%	
							5	2.9	0.4%	
					1		1	0.6	0.1%	
		1			1		2	1.1	0.2%	
			1		1		2	1.1	0.2%	
		2	13	6	3	3	30	17.1	2.5%	
2	4	4	13	8	4		94	53.7	7.9%	
1	4	8	6	3	7	2	40	22.9	3.4%	
				1			1	0.6	0.1%	
	1				1		5	2.9	0.4%	
				14	20	45	79	45.1	6.7%	
6	13				12	6	37	21.1	3.1%	
		13	35		6	27	87	49.7	7.3%	
		1	8	7	13	3	32	18.3	2.7%	
		4	1	6	8	1	21	12.0	1.8%	
			2				2	1.1	0.2%	
		5	43	25	42	38	155	88.6	13.1%	
				1	2		3	1.7	0.3%	
		4	1	3	19	5	43	24.6	3.6%	
	4		2	1	1		8	4.6	0.7%	
3	2	1	1	3	3	3	46	26.3	3.9%	
35	66	88	195	118	194	170	1186	677.7	100.0%	

150905	151004	151105	151204	160108	160205	160305	合計	個体数 /12km	割合 %
			1	1		1	13	6.8	1.0%
3		1				4	10	5.3	0.7%
							4	2.1	0.3%
			3				3	1.6	0.2%
1		5	10	11	11	10	56	29.5	4.2%
1	1			1	2	2	10	5.3	0.7%
		3	2		3		10	5.3	0.7%

都幾川唐子橋下流 (2015 年度) センサスルート長 1900m

No	目名	科名	種名 / 調査日	150416	150515	150608	150711	150809
8	ベリカ目	サギ科	アオサギ				1	
9			ダイサギ		1		3	
10			チュウサギ					
11	カコウ目	カッコウ科	ホトトギス				3	1
12	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ		1			
13		シギ科	イソシギ					
14			クサシギ					
15	タカ目	タカ科	オオタカ					
16			トビ		1			
17		ノスリ	2	1				
18		ハヤブサ科	チョウゲンボウ					
19	フウボウ目	カワセミ科	カワセミ					
20	キツキ目	キツキ科	アオゲラ	1				1
21			コゲラ				1	
22	スズメ目	モズ科	モズ	4	3	6	5	1
23		カラス科	オナガ					
24			カケス					
25			ハシブトガラス	5	1	12	3	4
26		ハシボソガラス	5	3	4	2	3	
27		シジュウカラ科	シジュウカラ	2	4	3		
28		ヒバリ科	ヒバリ	2				1
29		ツバメ科	ツバメ	1	3	3	4	1
30		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	5	12	4	9	6
31		ウグイス科	ウグイス	8	6	10	5	3
32		メジロ科	メジロ	1				
33		ヨシキリ科	オオヨシキリ		2	4	3	1
34		セッカ科	セッカ	1	1	2	2	1
35		ムクドリ科	コムクドリ					5
36			ムクドリ	2	1	41	29	
37			ヒタキ科	ジョウビタキ				
38		シロハラ						
39		ツグミ		4				
40			ヒタキ sp					
41		スズメ科	スズメ	19	10	71	12	18
42		セキレイ科	セグロセキレイ				2	1
43			ハクセキレイ				1	
44		アトリ科	イカル	5				
45	カワラヒワ		3	3	2	1		
46	シメ							
47	ホオジロ科	アオジ	2					
48		カシラダカ						
49		ホオアカ				1	2	
50		ホオジロ	4	4	6	4	2	
51	チメドリ科	ガビチョウ	5	11	9	6	4	
		合計	87	76	181	103	60	

150905	151004	151105	151204	160108	160205	160305	合計	個体数 /12km	割合 %
1			2	1	1		6	3.2	0.4%
1				1	1		7	3.7	0.5%
2							2	1.1	0.1%
							4	2.1	0.3%
			2	3	3		9	4.7	0.7%
				1	1		2	1.1	0.1%
	1						1	0.5	0.1%
				1			1	0.5	0.1%
							1	0.5	0.1%
		1		1		1	6	3.2	0.4%
		1					1	0.5	0.1%
		2					2	1.1	0.1%
							2	1.1	0.1%
							1	0.5	0.1%
8	11	6	3		4	7	58	30.5	4.3%
		1					1	0.5	0.1%
				1			1	0.5	0.1%
22	6	5	1	4	2	6	71	37.4	5.3%
5	1	1		4	11	2	41	21.6	3.1%
	2		4	5		3	23	12.1	1.7%
							3	1.6	0.2%
			3				15	7.9	1.1%
2	32	26	14	14	3	4	131	68.9	9.8%
	3		7	3		6	51	26.8	3.8%
		1					2	1.1	0.1%
							10	5.3	0.7%
							7	3.7	0.5%
							5	2.6	0.4%
16					8	5	102	53.7	7.6%
		1		1			2	1.1	0.1%
			1			2	3	1.6	0.2%
				7	12	13	36	18.9	2.7%
	1						1	0.5	0.1%
10	7	15	10	20	25		217	114.2	16.2%
2	1	1	1	2	2	1	13	6.8	1.0%
1		2	1	1	1		7	3.7	0.5%
						1	6	3.2	0.4%
1		17	2	7	6	33	75	39.5	5.6%
		1		1	1	6	9	4.7	0.7%
		1	2	5	7	6	23	12.1	1.7%
			11	35	52	58	156	82.1	11.6%
							3	1.6	0.2%
		3	9	5	16	19	72	37.9	5.4%
	2	2		2	1	5	47	24.7	3.5%
76	67	97	89	138	173	195	1342	706.3	100.0%

市野川 (2016年度) センサスルート長 2150m								
No	目名	科名	種名/調査日	160410	160512	160610	160710	160814
1	キシ目	キシ科	キシ	2	1	2	1	
2			コジユケイ	5		5	1	1
3	カモ目	カモ科	カルガモ	7	1	14	2	2
4			コガモ					
5			マガモ	2	1			
6	ハト目	ハト科	キジバト			6	3	10
7			ドバト					2
8	カツホドリ目	ウ科	カワウ		1	4	2	
9	ペリカ目	サギ科	アオサギ				1	
10			ダイサギ	1			1	
11	チドリ目	シギ科	イソシギ					
12			クサシギ					
13		チドリ科	イカルチドリ					
14	タカ目	タカ科	オオタカ	2			1	
15	フボウソウ目	カワセミ科	カワセミ	1				2
16	キツキ目	キツキ科	アオゲラ	1	1	1	1	1
17			コゲラ				1	
17	スズメ目	モズ科	モズ	2	1		3	1
18		カラス科	オナガ					
19			カケス					
20			ハシブトガラス	5	3	2	2	10
21			ハシボンガラス	1		4	2	2
22		シジュウカラ科	シジュウカラ	1	1	2	3	
23		ツバメ科	ツバメ		3	11	2	
24		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	8	8	18	18	2
25		ウグイス科	ウグイス	5	6	10	8	4
26		メジロ科	メジロ	3	1			
27		ヨシキリ科	オオヨシキリ		1			
28		ムクドリ科	ムクドリ		5	4	11	
29		ヒタキ科	ジョウビタキ					
30			シロハラ					
31			ツグミ					
32	ルリビタキ		2					
33	スズメ科	スズメ	10	4	52	17	3	
34	セキレイ科	キセキレイ	1					
35		セグロセキレイ	3		2	5	4	
36		ハクセキレイ	1	1	2		6	
37	アトリ科	イカル					1	
38		カワラヒワ		1		1		
39		シメ						
40	ホオジロ科	アオジ						
41		カシラダカ						
42		ホオジロ	1	3	4	7	3	
43	チメドリ科	ガビチョウ	5	3	7	8	4	
		合計		69	46	150	101	58

160910	161006	161107	161206	170105	170204	170309	合計	個体数/12km	割合 %
	1			3			10	4.7	0.9%
2			3				17	7.9	1.5%
	10	5				7	48	22.3	4.2%
						4	4	1.9	0.3%
		8				10	21	9.8	1.8%
6	1		6	3	1	5	41	19.1	3.6%
5			2				9	4.2	0.8%
					1		8	3.7	0.7%
2	1	3	3	1		1	12	5.6	1.0%
1	1	4	2			1	11	5.1	1.0%
		3	2	3	4	1	1	0.5	0.1%
					4	2	14	6.5	1.2%
					4		4	1.9	0.3%
		1	1		1	2	8	3.7	0.7%
1	1			2	1		8	3.7	0.7%
1						3	9	4.2	0.8%
							1	0.5	0.1%
5	8	3		2	4	1	30	14.0	2.6%
			2			8	10	4.7	0.9%
		1					1	0.5	0.1%
4	4	3	9		4	10	56	26.0	4.9%
	2	3	2	2	5		23	10.7	2.0%
2		2		1	3	7	22	10.2	1.9%
							16	7.4	1.4%
4	16	39	25	6	4	5	153	71.2	13.4%
		1	2		4	6	46	21.4	4.0%
1		2	1	6		2	16	7.4	1.4%
							1	0.5	0.1%
							20	9.3	1.7%
		1		2	1	1	5	2.3	0.4%
				1	2	3	6	2.8	0.5%
			8	4	7	2	23	10.7	2.0%
				1			1	0.5	0.1%
	2	20	1	9	30	3	151	70.2	13.2%
1	1	2	1	3			9	4.2	0.8%
1	5	8	9	9	7	6	59	27.4	5.2%
1		1	7	6	3	2	30	14.0	2.6%
							1	0.5	0.1%
		1	19				22	10.2	1.9%
		2		1	2	1	6	2.8	0.5%
			1	1	5	5	12	5.6	1.0%
				3	11	100	114	53.0	10.0%
		2	2	8	5	6	41	19.1	3.6%
3	2	2	3		2	4	43	20.0	3.8%
40	55	117	111	77	111	208	1143	531.6	100.0%

滑川 (2017年度) センサスルート長 2150m					170413	170505	170605	170703	170812
No	目名	科名	種名 / 調査日						
1	キジ目	キジ科	キジ				1	1	
2			コジュケイ	4	1	3	1	1	
3	カモ目	カモ科	カルガモ	2	3	4	6		
4			コガモ	10	2				
5			マガモ				1		
6	ハト目	ハト科	キジバト		2	4	7	3	
7	カウ目	カウ科	ホトトギス			4	2		
8	カウ目	ウ科	カワウ	1		1			
9	ベ目	サギ科	アオサギ	1	1	1		1	
10	ベ目		ダイサギ					1	
11	チ目	チドリ科	コチドリ		1	1			
12	チ目	シギ科	クサシギ						
13	タ目	タカ科	オオタカ				1		
14			ツミ						
15			ノスリ						
16	フ目	カワセミ科	カワセミ				1	1	
17	キ目	キツキ科	アオゲラ	2	2	1			
18			コゲラ		1		1		
19		モズ科	モズ	1					
20		カラス科	カケス						
21			ハシブトガラス	2	27	2	1	5	
22			ハシボソガラス	1		3		4	
23		シジュウカラ科	シジュウカラ	4	2	1	1		
24		ヒバリ科	ヒバリ		1	1	1		
25		ツバメ科	ツバメ	2		6	2	2	
26		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	20	4	4	6	1	
27		ウグイス科	ウグイス	9	11	8	10	4	
28		エナガ科	エナガ		2	3			
29		メジロ科	メジロ			1	1		
30		ムクドリ科	ムクドリ	5	7	3	4		
31	ス目	ヒタキ科	ジョウビタキ						
32			シロハラ						
33			ツグミ						
34			スズメ	3	15	28	16	5	
35		セキレイ科	キセキレイ			3	2		
36			セグロセキレイ				1		
37			ハクセキレイ						
38			ピンズイ						
39		アトリ科	カワラヒワ		1	3			
40			シメ	1					
41		ホオジロ科	アオジ	1					
42			カシラダカ						
43			ホオジロ	2		1	4	1	
44		チメドリ科	ガビチョウ	4	7	8	6	5	
			合計	75	90	96	75	33	

170904	171003	171106	171203	180104	180205	180310	合計	個体数 /12km	割合 %
							2	0.9	0.2%
1	2	1	3	4		2	22	10.2	2.0%
		11	6		9	9	50	23.3	4.5%
				3	6	2	23	10.7	2.1%
		2	2	2			7	3.3	0.6%
4	2	5	4	5	6	6	48	22.3	4.3%
1							7	3.3	0.6%
1	1		4				8	3.7	0.7%
3	3	3	3			1	17	7.9	1.5%
3	1	1	1				7	3.3	0.6%
							2	0.9	0.2%
	1		2	2			5	2.3	0.5%
		1					1	0.5	0.1%
							1	0.5	0.1%
						1	1	0.5	0.1%
1	1	2	1				7	3.3	0.6%
	1						6	2.8	0.5%
				1	1		4	1.9	0.4%
	4	2	1	3	2		13	6.0	1.2%
	3	5		1	1		10	4.7	0.9%
2	4	4	7	3	3		60	27.9	5.4%
7	1		3	3	4	5	31	14.4	2.8%
		7		5	4	1	25	11.6	2.3%
						4	7	3.3	0.6%
							12	5.6	1.1%
1	8	24	25	9	6		108	50.2	9.7%
		1	4	1		2	50	23.3	4.5%
							5	2.3	0.5%
	1		2				5	2.3	0.5%
		2		2			4	1.9	0.4%
				1			1	0.5	0.1%
			2	4	6	5	17	7.9	1.5%
	8	8	3	16	31	6	139	64.7	12.5%
1	3	3	1				8	3.7	0.7%
1				1			7	3.3	0.6%
				2			3	1.4	0.3%
			1				1	0.5	0.1%
			82	34	6	1	127	59.1	11.4%
			1	5	2	1	10	4.7	0.9%
		1	6	3		1	12	5.6	1.1%
			42	24	43		109	50.7	9.8%
		2		3	4	3	20	9.3	1.8%
2	2	7	5	3	1		50	23.3	4.5%
28	46	92	212	140	141	83	1111	516.7	100.0%

宮鼻 (2018年度) センサスルート長 2350m					180404	180502	180613	180710	180806
No	目名	科名	種名/調査日						
1	キジ目	キジ科	コジュケイ		2				
2			キジ	4	6	3	2		
3	カモ目	カモ科	カルガモ	5	2	8			
4			コガモ						
5	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ		2				
6	ハト目	ハト科	キジバト	2	12	4	5	1	
7	カウコウ目	カウコウ科	ホトトギス			2			
8	カウオドリ目	ウ科	カワウ						
9	ベリカ目	サギ科	アオサギ	1	1	2	4	1	
10			ダイサギ	1			1	7	
11			チュウサギ					2	
12	ツル目	クイナ科	クイナ						
13			バン	1					
14	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ		1	1			
15			コチドリ	1		1	3		
16		シギ科	タシギ						
17	タカ目	タカ科	トビ						1
18			ノスリ	1	1				
19			オオタカ						
20			ハイタカ	2					
21	キツキ目	キツキ科	アカゲラ						
22	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ						
23			ハヤブサ						
24		モズ科	モズ	3	2		5	13	
25			ハシボソカラス	32	8	7	3	4	
26		カラス科	ハシブトカラス	20	2	2		2	
27			オナガ		8			3	
28		カラス科	ミヤマガラス						
29		ヒバリ科	ヒバリ	1		2	2		
30		ツバメ科	ツバメ		5	3			
31		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	34	4	2	1	2	
32	スズメ目	ウグイス科	ウグイス	4	5	3	5	3	
33		セッカ科	セッカ		1	3	2	2	
34		ヨシキリ科	オオヨシキリ		9	14	13	3	
35			ムクドリ	3	1	10	16		
36			コムクドリ					4	
37		ヒタキ科	ツグミ	7					
38			ジョウビタキ						
39		スズメ科	スズメ	7	13	35	10	20	
40			セグロセキレイ				3		
41		セキレイ科	ハクセキレイ			1	2		

180906	181006	181104	181202	190104	190202	190306	合計	個体数 /12km	割合 %
				1	1	2	6	2.6	0.2%
1	2	2	2	1			23	9.8	0.8%
	1	2	2			21	41	17.4	1.4%
				3			3	1.3	0.1%
							2	0.9	0.1%
	4	3	6	26	7	10	80	34.0	2.8%
							2	0.9	0.1%
				3		2	5	2.1	0.2%
1	2		1	2	2	1	18	7.7	0.6%
2	2						13	5.5	0.5%
							2	0.9	0.1%
		2		1			3	1.3	0.1%
			2				3	1.3	0.1%
							2	0.9	0.1%
							5	2.1	0.2%
	4						4	1.7	0.1%
						1	2	0.9	0.1%
	1		1		1	1	6	2.6	0.2%
			1				1	0.4	0.0%
							2	0.9	0.1%
		1					1	0.4	0.0%
2							2	0.9	0.1%
		1					1	0.4	0.0%
9	14	2	5	6	4	6	69	29.4	2.4%
8	4	13	53	10	9	9	160	68.1	5.6%
8	3	29	22	6	1	18	113	48.1	4.0%
2							13	5.5	0.5%
		8	20				28	11.9	1.0%
1							6	2.6	0.2%
				2			10	4.3	0.4%
	8	8	7	11	7	4	88	37.4	3.1%
				1		4	25	10.6	0.9%
2					1		11	4.7	0.4%
1							40	17.0	1.4%
112		8		9	6	11	176	74.9	6.2%
							4	1.7	0.1%
						21	28	11.9	1.0%
					2		2	0.9	0.1%
68	320	158	225	198	224	37	1315	559.6	46.4%
					2		5	2.1	0.2%
	2	3	2	1			11	4.7	0.4%

宮鼻（2018年度） センサスルート長 2350m								
No	目名	科名	種名 / 調査日	180404	180502	180613	180710	180806
42	ス ズ メ 目	アトリ科	カワラヒワ	4	2	3		72
43			シメ					
44		ホオジロ科	アオジ					
45			オオジュリン					
46			ホオジロ	3	3	3	3	4
47	カシラダカ							
48	ホオアカ					1	4	
49	チメドリ科	ガビチョウ		4	2	2	5	
	合計	28科	49種	136	94	111	83	153

180906	181006	181104	181202	190104	190202	190306	合計	個体数 /12km	割合 %
	1	14	76	4	3	44	223	94.9	7.9%
				2	2		4	1.7	0.1%
		7	1	4		1	13	5.5	0.5%
						2	2	0.9	0.1%
	1	3	9	14	19	14	76	32.3	2.7%
			19	84	22	33	158	67.2	5.6%
							5	2.1	0.2%
3	4	1			2	2	25	10.6	0.9%
220	373	265	454	389	315	244	2837	1207.2	100.0%

参考文献

- 江崎梯三・一色周知・大浦晃・井上寛・岡垣弘・緒方正美・黒子浩 1999 原色日本蛾類図鑑(改訂上下) 保育社 東大阪.
- 藤丸篤夫 2014 ハチ ハンドブック 文一総合出版 東京
- 本郷次男・上田俊穂・伊沢正名 1994 山溪フィールドブックス10 きこのこ 山と溪谷社 東京
- 林弥栄監修・平野隆久写真 1989 山溪ハンディ図鑑野に咲く花 山と溪谷社 東京.
- 林匡夫・森本桂・木元新作 1984 原色日本甲虫図鑑(IV) 保育社 大阪.
- 東松山自然倶楽部編 2015 東松山市「市民の森」の動植物リスト2004～2014の記録 東松山自然倶楽部.
- 檜山義夫(監修)1994 野外観察図鑑6 貝と水の生物 旺文社 東京
- 平嶋義宏・森本桂 新監修 2008 新訂原色昆虫大図鑑第Ⅲ巻 北隆館 東京.
- 茨木透写真・石井英美・崎尾均・吉山寛ほか解説 2008 山溪ハンディ図鑑3 樹に咲く花 離弁花1 山と溪谷社 東京.
- 茨木透写真・太田和夫・勝山輝男・高橋秀男ほか 2008 山溪ハンディ図鑑4 樹に咲く花 離弁花2 山と溪谷社 東京.
- 茨木透写真・城川四郎・高橋秀男・中川重年ほか解説 2008 山溪ハンディ図鑑5 樹に咲く花 合弁花・単子葉・裸子植物 山と溪谷社 東京.
- 今泉忠明 2006 アニマルトラック&バードトラック ハンドブック 自由国民社 東京.
- 今森光彦 2000 ヤマケイポケットガイド18 水辺の昆虫 山と溪谷社 東京.
- 猪俣敏夫編解説・松本克臣写真 1995 山溪フィールドブックス11 蝶 山と溪谷社 東京
- 石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊 1996 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説 東海大出版会 東京
- 伊藤修四郎・奥谷禎一・日浦勇(編)昭和60年 全改訂版原色日本昆虫図鑑(下) 保育社 大阪
- 岩田三男次(編)1972 東松山市植物誌 東松山市教育委員会.
- 川合禎次(編)1985 日本産水棲昆虫検索図説 東海大学出版会 東京.
- 木場英久・茨木靖・勝山輝男 2011 イネ科ハンドブック 文一総合出版 東京
- 北川禮澄 1994 川と湖の博物館11 ユスリカ 山海堂 東京.
- 小宮輝之 2004 フィールドベスト図鑑12 日本の哺乳類 社会学習研究社 東京
- 黒沢良彦・久松定成・佐々谷寛之 1985 原色日本甲虫図鑑(Ⅲ) 保育社 大阪.
- 黒沢良彦・渡辺泰明解説・栗林慧写真 1997 山溪フィールドブックス13 甲虫 山と溪谷社 東京
- 小杉昭光・碓井 徹・内田正吉・金澤 光・桑原幸夫・斉藤 貴・須永治郎・高橋 守・南部敏明・野澤雅美・萩原 昇・原 勝司・町田和彦・松本充夫・市川和夫 2000 小川町の自然 動物編 小川町史編纂 小川町.
- 子安和弘・生川典子 1994 フィールドガイド足跡図鑑 日経サイエンス 東京.
- 前園泰徳 2003 日本のいきもの図鑑 都会編 メイツ出版 東京

- 前園泰徳 2003 日本のいきもの図鑑 郊外編 メイツ出版 東京
- 松田喬 2016 ハチのくらし大研究 PHP 研究所 東京.
- 牧野富太郎 1974 新改訂学生版 牧野日本植物図鑑 図鑑の北隆館 東京
- 松井孝爾 1985 日本の両生類・爬虫類 小学館 東京
- 皆越ようせい・渡辺弘之 2005 土の中の小さな生き物 文一総合出版 東京
- 皆越ようせい 2017 落ち葉の下の小さな生き物 ハンドブック 文一総合出版 東京
- 森文俊・内山りゅう 1997 山溪フィールドブックス 15 淡水魚 山と溪谷社 東京
- 永田芳男写真・畔上能力編・解説 2000 山溪ハンディ図鑑 2 山に咲く花 山と溪谷社
東京
- 日本鳥学会 21012 日本鳥類目録改訂第7版 日本鳥学会 三田.
- 奥山風太郎 2016 鳴く虫ハンドブック 文一総合出版 東京
- 小野展嗣編著 2009 日本産クモ類 東海大出版会 東海大学.
- 尾崎暁 2014 ハムシ ハンドブック 文一総合出版 東京
- 嵐山町博物誌専門部会 2003 RANZAN アニマリア 嵐山町博物誌編纂委員会 嵐山町.
- 埼玉県動物誌編集委員会 1978 埼玉県動物誌 埼玉県教育委員会 浦和
- 佐野明・福井大監修 コウモリの会編 2011 コウモリ識別ハンドブック改訂版 文一総合出版 東京
- 関慎太郎 2012 田んぼの生物 400 文一総合出版 東京.
- 新海栄一 2006 ネーチャーガイド 日本のクモ 文一総合出版 東京
- 鈴木智之 2012 虫の卵 ハンドブック 文一総合出版 東京
- 菅野徹 1978 自然観察と生態シリーズ9 川・池の生物 水の生物Ⅱ 小学館 東京
- 須黒達巳 2017 ハエトリグモ ハンドブック 文一総合出版 東京
- 高野伸二 1982 フィールドガイド日本の野鳥 日本野鳥の会 東京
- 武田晋一・西浩孝 2015 カタツムリハンドブック 文一総合出版 東京
- 寺山守・久保田敏 2009 アリハンドブック 文一総合出版 東京
- 寺山 守・久保田 敏・江口克之 2014 日本産アリ類図鑑 朝倉書店 東京
- 安永智秀・高井幹夫・山下泉・川村満・川澤哲夫 1993 友国雅章 監修 日本原色カメ
ムシ図鑑 全国農村教育協会 東京
- 安田守・高橋真弓・中嶋秀雄・四方圭一郎 2010 イモムシ ハンドブック 文一総合出版 東京
- 安田守・高橋真弓・中嶋秀雄・四方圭一郎 2012 イモムシ ハンドブック 2 文一総合出版 東京
- 安田守・高橋真弓・中嶋秀雄・四方圭一郎 2014 イモムシ ハンドブック 3 文一総合出版 東京
- 山崎浩二 2008 淡水産エビ・カニハンドブック 文一総合出版 東京

東松山市の生き物 散歩道で出会える動植物

2020年3月発行

執筆：内田 博（東松山市文化財保護委員）

発行：東松山市教育委員会

〒 355-8601

埼玉県東松山市松葉町 1-1-58